

建学の精神



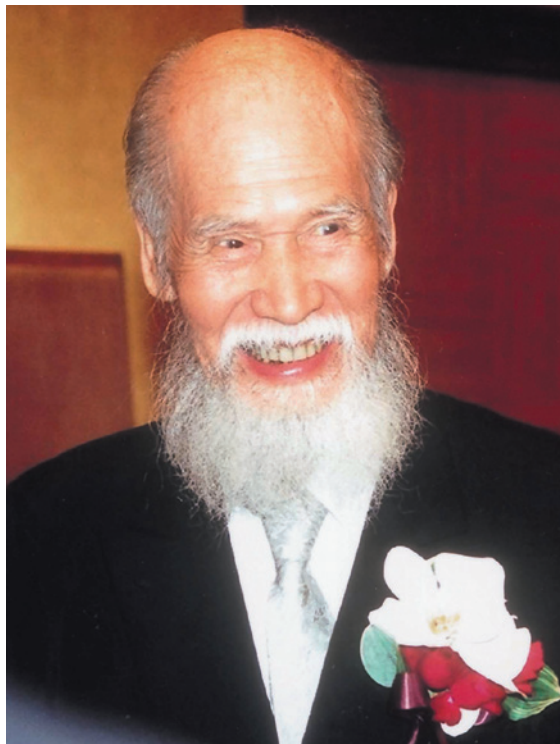
校祖 鶴 虎太郎先生

私学教育に尽くすこと60余年「教育は愛なり」の信念に徹し、
烈烈たる気魄と限りない愛情をもって終生私学教育に精魂を傾け尽くした
校祖 鶴 虎太郎先生のこの遺訓こそ本学園建学精神の根幹をなすものである。



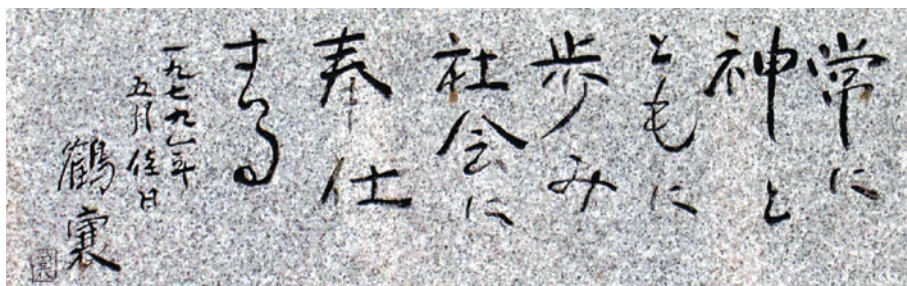
Education is Love

教育方針



学園創立者 鶴 襄先生

教育基本法及び学校教育法の趣旨にのっとり、
創立者 鶴 襄先生の示した人格の完成を目指し、心身ともに健全にして己を制御し、
「常に神と共に歩み社会に奉仕する」人間育成が本学園の教育方針である。



Always walk together with God and serve humanity

パーパス・ステートメント

未来の、その先をつくる。

誰かがつくる未来と、自分がつくる未来。

どちらか選ぶなら、自分がつくる未来を選びたい。

失敗はつきもの。悩みは尽きない。

汗も、涙も、時間も流れてゆく。

それでも自分がつくったもので、人が笑い、地域が喜ぶ。

まるで生活をそばで支えているような感覚。

それは、つくってきた人にしかわからない最上の幸せだと思うのです。

私たち広島工業大学は、最先端の技術の学びと実践機会を提供し、
これまで多くの「つくる人」を育ててきました。

これからも社会の創造の拠点を目指し

未開の領域に挑みながら、未来のさらなる進化に貢献してまいります。

パーパス・ステートメントに込めた想い

広島工業大学には、技術の力で自分で未来をつくりたいと願う学生や教職員のみなさんが集っています。自分が何をしなくても未来はくるわけですが、それでも自分が創造力を発揮することでもっとより良い未来をつくれるかもしれない。そんな挑戦心と創造性をもった組織として一丸となり、運営していく際の共通の起点となる言葉になります。

パーパスとは

広島工業大学らしさやストーリーをもとに、「この社会に、自分たちは何のために存在するのか」について規定した言葉です。機能より共感、経済成長性より持続可能性に重心が移りつつある社会の変化を受け、目指すべき方向性(ビジョン)や日々果たすべき使命(ミッション)を掲げるだけでなく、パーパスを軸にインナーの行動規範からアウトターへの事業活動まで統一していくことが求められます。



広島工業大学

ロゴに込めた思い

鶴学園のロゴの中にあるパーツと色を用いて、広島工業大学の頭文字であるアルファベットの「H」をモチーフに構成することで、より一層の学園内連携を意識しました。また、グレーのスクエアと中心にある赤い羽の関係性には、真面目で堅実に見えるその中に熱い信念を持っている姿や、倫理観を持った技術者という意味を込めています。

大学と地域が手を取り合い、社会をつなぐ橋渡しのような存在であることをイメージさせ、未来への相乗効果をもたらす期待感も表現しました。



学校法人
鶴学園

学長メッセージ



学長 長坂 康史

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、大学あるいは大学院への進学という目標を達成され、これからの学生生活をどのように過ごすか、それぞれに夢や希望を膨らませていることでしょう。一方、どんな講義があるのか、どんな課外活動やクラブがあるのか、あるいは、奨学金や授業料減免等の大学生活を送る上での制度はどうなっているのかなど聞いてみたいこともたくさんあるでしょう。こうした不安や疑問に答え、皆さんがスムーズに学生生活を送ることができるようサポートするのが、このキャンパスガイドです。

そこで、皆さんにまず読んで理解していただきたい言葉があります。それは巻頭に掲げている二つの教育理念、建学の精神「教育は愛なり」、そして、教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」です。

校祖鶴虎太郎先生の遺訓である建学の精神「教育は愛なり」は、私たち教職員が皆さん一人ひとりときちんと向き合い、それぞれの可能性を信じ、「想い」を持って教育にあたることを表しています。

本学園創立者の鶴裏先生の言葉である教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」には、高い倫理観を持ち、何事にも感謝しながら真面目に努力し、社会に奉仕する人間になってもらいたいという願いが込められています。

本学では、この建学の精神と教育方針に基づき、全ての教育を展開しています。皆さんの学ぶ学科が掲げる教育目標やカリキュラム等もその理念に沿って定めています。大学では、皆さんがリベラルアーツと専門をしっかり学び、さらには、社会で活躍するために必要な人間力や社会実践力の向上にも努め、大きくたくましく成長されることを期待しています。そして、これからの日本を担う倫理観ある技術系人材、また、国際社会を意識することのできるグローバル人材として活躍されることを願っています。

HIT Vision

本学の教育理念である建学の精神『教育は愛なり』と教育方針『常に神と共に歩み社会に奉仕する』の下、どのような大学を目指しているかを具体的に示すVision「HIT Vision」を定めました。

このVisionは、教育、研究、同窓、地域の4つの分野のVisionで構成されています。



Vision 1 教育 **社会に貢献できる倫理観を持った技術系人材を育成する大学**

社会では、予測困難な時代において持続可能な社会を創造できる人材が求められています。

この社会創造には様々な分野の知識を融合させる必要があります。本学では、これまで培った教育力をさらに磨き、刻々と変化し続ける社会を注視しつつ、これからの社会で活躍できる倫理観を持った技術系人材の育成を進めていきます。

Vision 2 研究 **持続可能な社会を創造する研究を推進する大学**

地球温暖化や大規模な自然災害など私たちの生きている環境は大きなダメージを受けています。

2015年、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が発表され、その中で「持続可能な開発目標（SDGs）」が注目されるようになりました。

本学は、このSDGsを意識しつつ、持続可能な社会を創造するための研究を加速していきます。

Vision 3 同窓 **社会を支える同窓生との連携を強化する大学**

5万人を超える本学卒業生が、現在、社会で活躍しています。本学学生が社会で活躍できる人材となるためには、社会の状況を理解するとともに、自らの学びと社会との繋がりを強く意識できるかどうか 중요합니다。

本学では、この学生、大学、社会との接続をより強固なものにするため同窓会及び同窓生との連携を強化していきます。

Vision 4 地域 **地域社会における創造の拠点となる大学**

大学には多くの知が集約されていますが、あまり活用されていないのが現状です。

これからの大学は、学び直しや新しい知を修得できる場所、また、気軽に相談できたり、一緒に研究開発ができたりする場所であるべきだと考えています。

本学は、地域社会における教育や研究の拠点、すなわち、地域社会の創造の拠点となるべく努力していきます。

HIT四つの行動

建学の精神と教育方針に対応し、行動規範をより具体的に行動レベルで表現したものです。学生も含めた全構成員がこれらを日常的に活用します。

一、可能性を信じて一歩前に踏み出す行動

一、仲間に支えられ、仲間を支え、そして仲間となる行動

一、モノ・おこないの終極に思いをめぐらす行動

一、人の道、良心に従った行動

広島工業大学環境憲章

宣言

文明が発達し、私たちが快適で便利な暮らしを確保すればするほど、地球は汚染され、環境は急速に破壊に追い込まれていく。

そのような矛盾の中であって、広島工業大学は、自然と人類の好ましい共存を切に願い、人類が一丸となって環境の保全に邁進することが重要であると認識する。

広島工業大学で学んだ者は、地球を宇宙規模で捉え、自然本来の生態系を守るという原点を忘れず、人間の叡智をもってこの課題に臨む。

基本方針

1. 地球環境と人類の調和・共生・共存を目指し、持続可能な社会の構築に寄与する。
2. あらゆる機会を捉えて環境教育を実施し、いかなる分野であれ、
環境を第一とする考えを身に付けた、環境意識の高い学生を育成する。
3. 環境に関する新しい技術の開発と知見の蓄えに努める。
4. 環境を重視してキャンパスを構築・運用し、優れた環境保全の実験空間とする。
5. 環境保全及び環境負荷低減のための目的・目標を設定し、その実現に努める。

ディプロマ・ポリシー

広島工業大学では「建学の精神」及び「教育方針」に則り、科学と真理に関わる知識と技術を身に付け、豊かな人間性を有する倫理観ある技術系人材の養成を目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める修了要件又は卒業要件を満たすとともに、次に示す「知識・理解」「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲・態度」を備えた者に、博士、修士又は学士の学位を授与します。

I【知識・理解】

科学技術に関する知識を得てそれを応用できる。

II【思考・判断】

持続可能な社会創出への思考に基づいて適切な対応を考えることができる。

III【技能・表現】

幅広い教養と専門知識の汎用的技能を備え、豊かな表現力を身に付けている。

IV【関心・意欲・態度】

主体的で継続的な学びへの関心と奉仕の意欲を有し、技術者としての高い倫理観を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

広島工業大学は、修了認定・学位授与の方針又は卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、開設する授業科目を、カリキュラム・ツリーを用いて系統立て、ナンバリングにより体系化を図り、整合性を確保した教育課程を編成します。また、各授業科目については、シラバスにより目的、教育内容と方法、学修成果の評価基準を明示し、学生が主体的に学ぶことができる内容とします。

さらに、ポートフォリオシステムを用いて、学生自らが、学修計画、人間力を高めるための計画及びキャリアデザインの立案、実行、振り返りを実践します。



広島工業大学

大学院

大学院工学系研究科(博士後期課程)

Graduate School of Science and Technology (Doctoral Program)

知的機能科学専攻

Major in Intelligent Structure and Functional Science

大学院工学系研究科(博士前期課程)

Graduate School of Science and Technology (Master's Program)

電気電子工学専攻

Major in Electrical and Electronic Engineering

機械システム工学専攻

Major in Mechanical Systems Engineering

建設工学専攻

Major in Civil and Architectural Engineering

情報システム科学専攻

Major in Information Systems Science

環境学専攻

Major in Environmental Studies

生命機能工学専攻

Major in Biological and Biomedical Engineering

学部

工学部

Faculty of Engineering

電子情報工学科

Department of Electronics and Computer Engineering

電気システム工学科

Department of Electrical Systems Engineering

機械システム工学科

Department of Mechanical Systems Engineering

知能機械工学科

Department of Intelligent Mechanical Engineering

環境土木工学科

Department of Civil and Environmental Engineering

建築工学科

Department of Architectural Engineering

情報学部

Faculty of Applied Information Science

情報工学科

Department of Computer Science

情報コミュニケーション学科

Department of Information and Communication

環境学部

Faculty of Environmental Studies

建築デザイン学科

Department of Architectural Design

地球環境学科

Department of Global Environment Studies

生命学部

Faculty of Life Sciences

生体医工学科

Department of Clinical Engineering

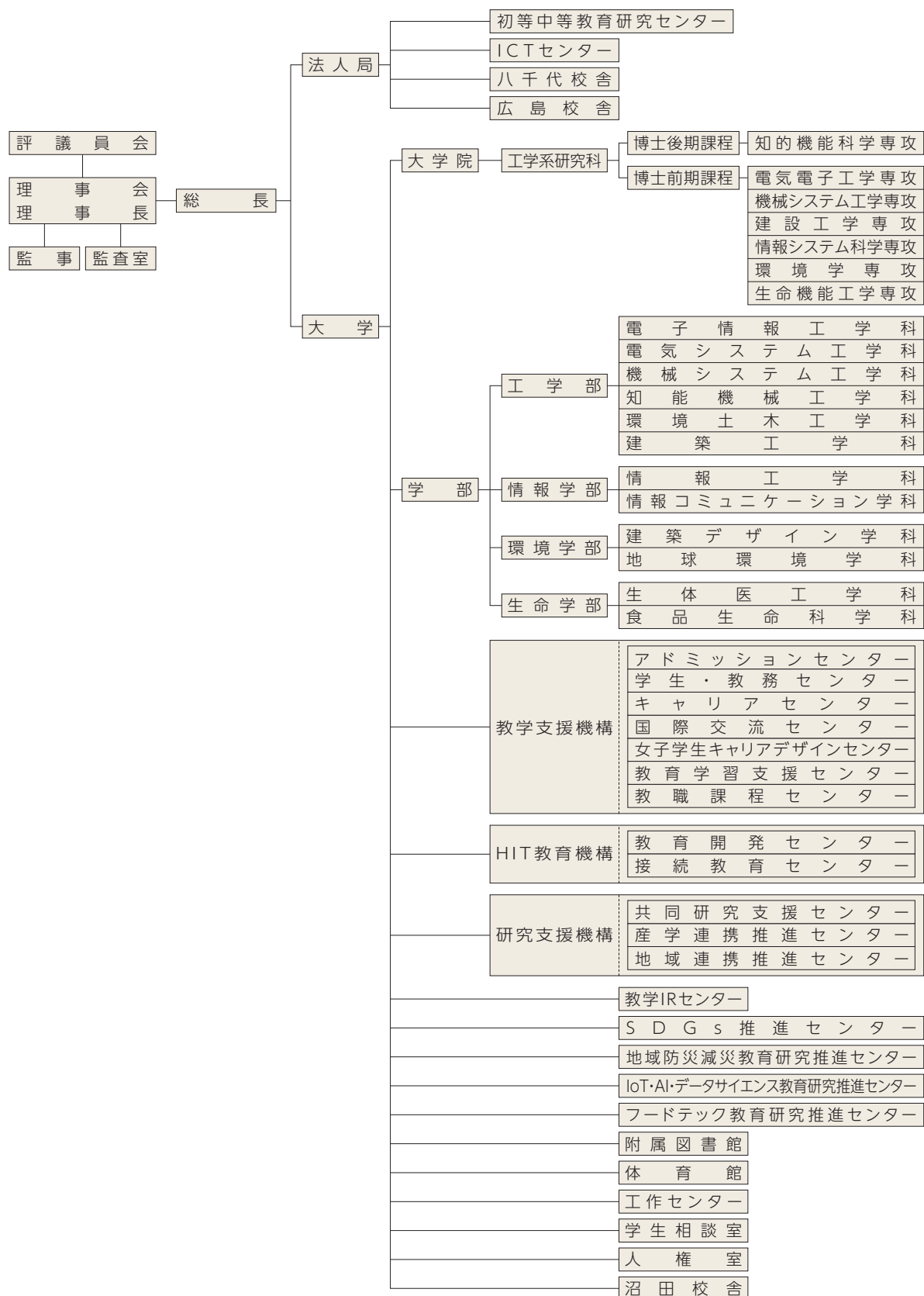
食品生命科学科

Department of Food Sciences and Biotechnology

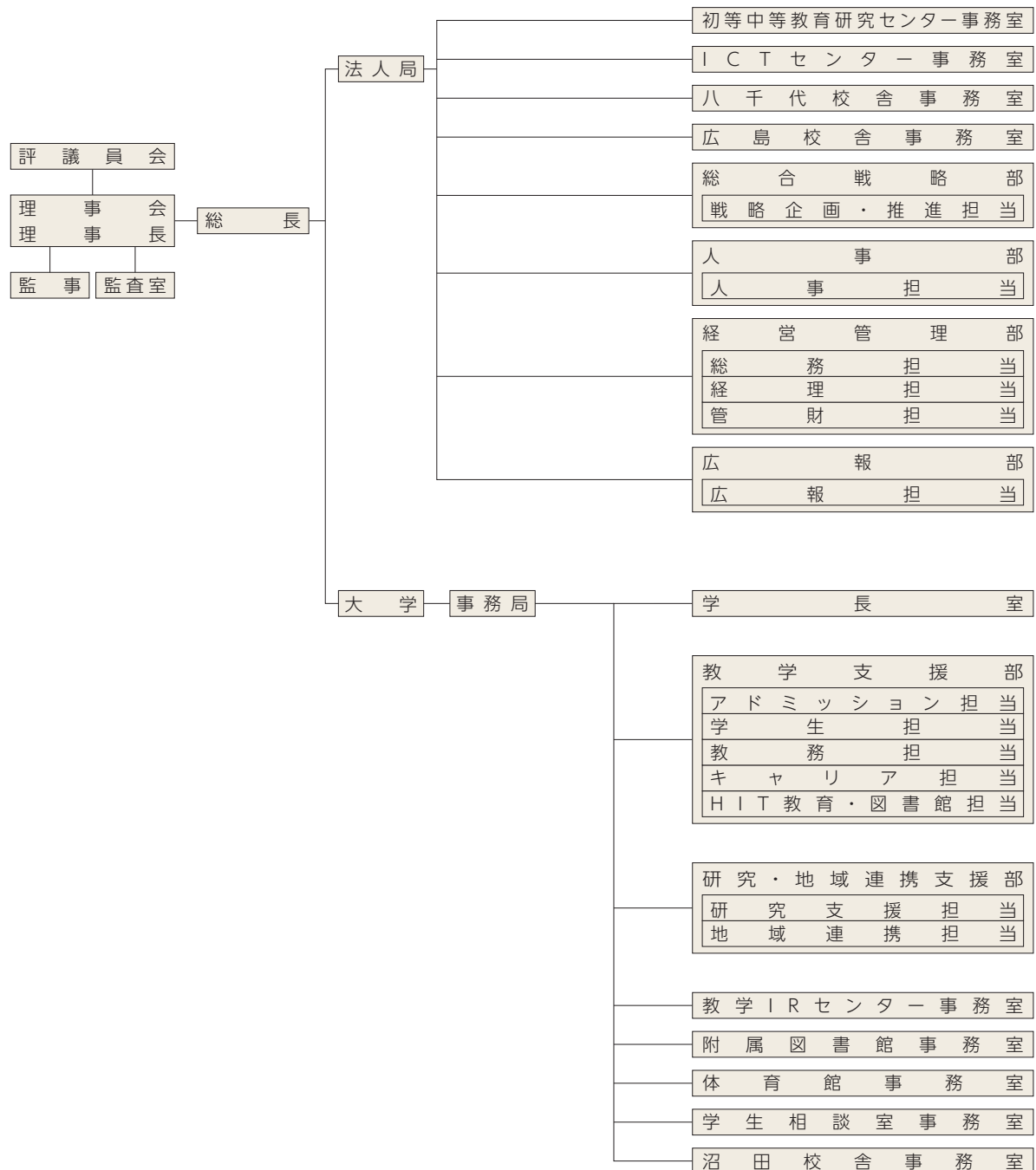
学園の沿革

昭和31年 2月23日	広島高等電波学校 設置認可	平成14年 4月 1日	デネブ高等学校 開校
昭和32年11月27日	創立者 鶴 襄 校長就任	平成15年 3月31日	学校法人鶴学園 鶴 衛 理事長就任
	学校法人鶴学園 設置認可	平成15年 4月 1日	広島工業大学 工学部 土木工学科 廃止
昭和33年 4月 1日	井槌 義明 理事長就任		広島工業大学 茂里 一紘 学長就任
	広島電波工業高等学校 開校		なぎさ公園小学校 開校
昭和36年 4月 1日	(現 広島工業大学高等学校)	平成16年 4月 1日	広島工業大学 大学院工学研究科博士前期課程 情報システム工学専攻増設
	学校法人鶴学園 鶴 襄 総長就任		広島工業大学工学部・環境学部教育課程 改定
	広島工業短期大学開学(電子工学科)	平成17年 3月31日	広島工業大学 工学部 電子工学科及び機械工学科 廃止
	鶴 襄 学長就任	平成18年 3月31日	広島工業大学 工学部 電気工学科及び経営工学科 廃止
昭和37年 4月 1日	広島工業短期大学 電気科 増設	平成18年 4月 1日	広島工業大学2学部8学科を3学部12学科に改組
昭和38年 4月 1日	広島工業大学 工学部 開学		広島工業大学 大学院工学研究科博士前期課程の土木工学専攻を建設工学専攻と改称
	(電子工学科、電気工学科)	平成19年 4月 1日	広島工業大学 工学部の電子・光システム工学科を電子情報工学科と改称
昭和38年 4月19日	鶴 襄 学長就任	平成20年 4月 1日	広島工業大学 大学院工学研究科と環境学研究科を統合し、工学系研究科を設置
昭和39年 4月 1日	広島高等電波学校 廃止	平成21年 3月31日	広島工業大学の大学院工学研究科 知的機能科学専攻、機械システム工学専攻、建設工学専攻、情報システム工学専攻及び環境学研究科を廃止
昭和40年 3月31日	広島工業大学 機械工学科 増設	平成22年 3月31日	広島工業大学の大学院工学研究科を廃止
昭和40年 4月 1日	広島工業短期大学 廃止	平成22年 4月 1日	広島工業大学教育課程 改定
	広島工業大学 土木工学科、建築学科 増設		広島工業大学工学部の電気・デジタルシステム工学科を電気システム工学科に、都市建設工学科を都市デザイン工学科に改称
	高等学校工業科教員免許状資格取得制度 設置		広島工業大学3学部12学科を3学部11学科に改組
	広島高等学校 開校	平成23年 4月 1日	広島工業大学 鶴 衛 学長就任
	(現 広島なぎさ高等学校)	平成23年 5月28日	広島工業大学 工学部の建設工学科を廃止
昭和41年 4月 1日	広島工業大学 経営工学科 増設	平成23年11月30日	デネブ高等学校を廃止
昭和48年 4月 1日	広島工業大学教育課程 改定	平成24年 3月31日	広島工業大学 環境学部の環境情報学科を廃止
昭和48年 4月 2日	広島工業大学 前川 力 学長就任	平成24年 4月 1日	広島工業大学情報学部の健康情報学科を改組し、生命学部(生体医工学科、食品生命科学科)を設置
昭和51年10月24日	学校法人鶴学園 鶴 襄 理事長就任	平成25年 3月31日	広島工業大学工学部の知的情報システム工学科を廃止
昭和55年 4月 1日	広島工業大学教育課程 改定	平成26年 5月24日	広島工業大学環境学部の地域環境学科を廃止
昭和56年 4月 1日	広島工業大学 吉田 亜夫 学長就任	平成28年 3月31日	広島工業大学情報学部の健康情報学科を廃止
昭和59年 4月 1日	広島工業大学附属広島情報専門学校 開校	平成28年 4月 1日	広島工業大学教育課程 改定
	(現 広島工業大学専門学校)		広島工業大学 大学院工学系研究科博士前期課程 生命機能工学専攻増設
昭和61年 4月 1日	広島工業大学教育課程 改定		広島工業大学工学部の都市デザイン工学科を環境土木工学科に、環境学部の環境デザイン学科を建築デザイン学科に改組
昭和62年 4月 1日	広島工業大学 鶴 襄 学長就任	平成31年 4月 1日	広島工業大学 長坂 康史 学長就任
平成 元年 4月 1日	広島工業大学 大学院工学研究科修士課程 電子工学専攻、機械システム工学専攻、土木工学専攻 開設	令和 2年 4月 1日	広島工業大学教育課程 改定
平成 5年 4月 1日	広島工業大学 環境学部 環境デザイン学科 開設		広島工業大学情報学部の知的情報システム工学科を情報コミュニケーション学科に改組
	(工学部建築学科を改組転換)	令和 3年 3月31日	広島工業大学工学部の都市デザイン工学科を廃止
平成 6年 4月 1日	広島工業大学工学部教育課程 改定	令和 4年 3月31日	広島工業大学環境学部の環境デザイン学科を廃止
平成 8年 4月 1日	広島工業大学 川崎 尚 学長就任		
平成 9年 4月 1日	広島工業大学 大学院工学研究科博士後期課程 知的機能科学専攻 増設		
	広島工業大学 大学院環境学研究科修士課程 地域環境科学専攻 増設		
	広島工業大学環境学部教育課程 改定		
	広島工業大学 工学部の土木工学科を建設工学科と改称		
平成11年 4月 1日	広島工業大学 環境学部 環境情報学科 増設		
平成12年 3月31日	広島工業大学 櫻井 春輔 学長就任		
平成12年 4月 1日	広島工業大学 工学部 建築学科 廃止		
	広島工業大学 工学部教育課程 改定		
	広島工業大学工学部4学科(電子工学科、電気工学科、機械工学科及び経営工学科)を5学科(電子・光システム工学科、電気・デジタルシステム工学科、機械システム工学科、知能機械工学科、知的情報システム工学科)に改組転換		

運営組織図



事務組織図



メインキャンパス案内図



本館・新1号館 フロアガイド

利用上のご案内について 下記マークにしたがって、ご利用ください。



館内は全て禁煙です。

全フロア共通



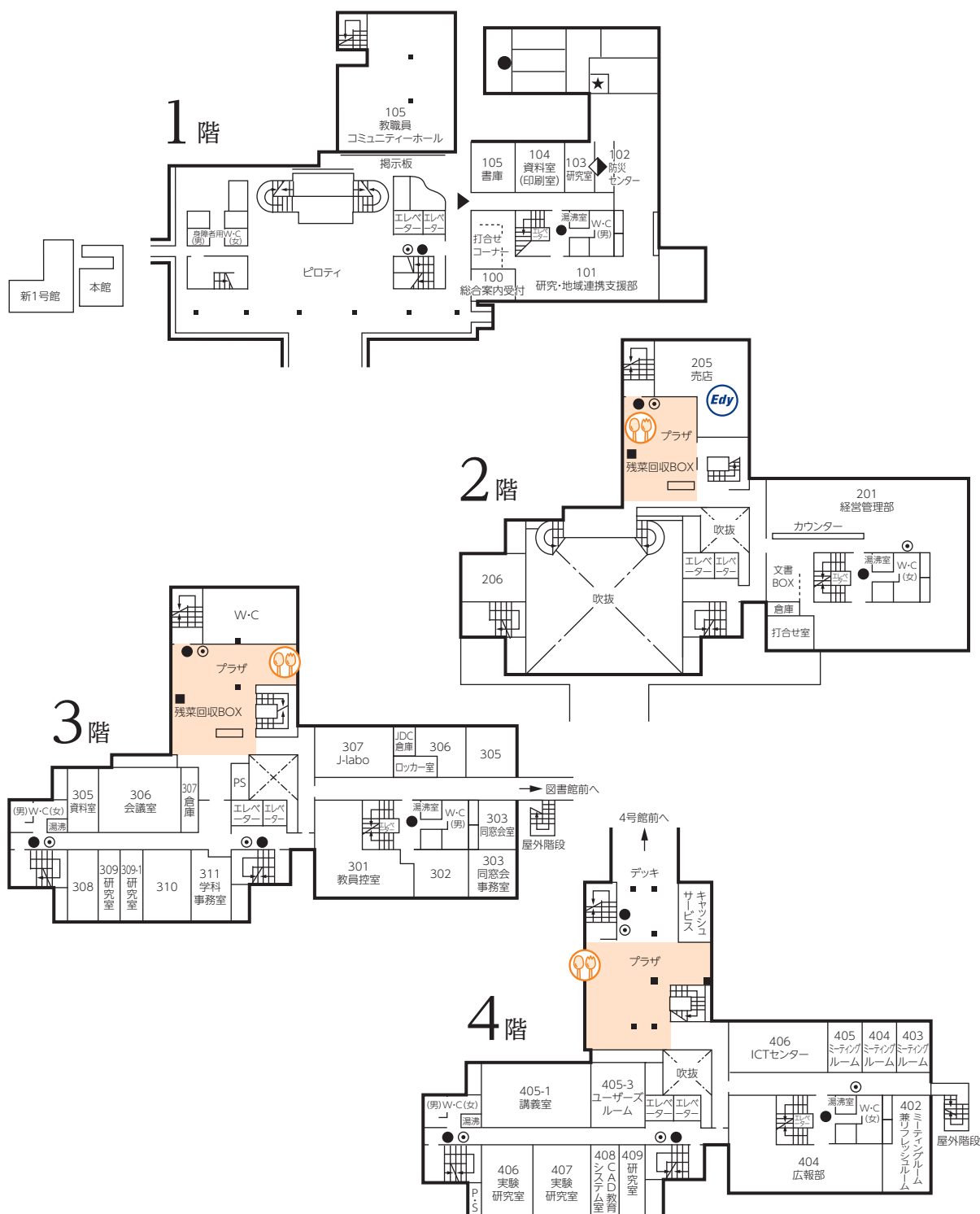
食事ができるスペースです。

カップ麺などのインスタント食品の残菜は指定の場所にて廃棄してください。



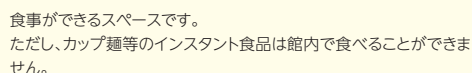
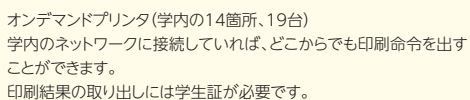
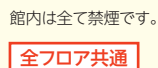
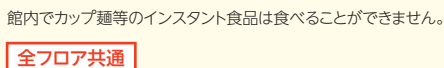
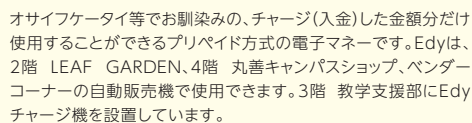
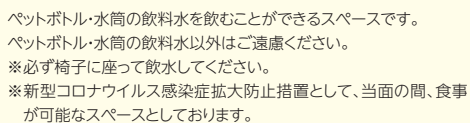
オサイフケータイ等で馴染みの、チャージ(入金)した金額分だけ使用することができるプリペイド方式の電子マネーです。
三宅の森 Nexus21 3F 教学支援部内に、Edyチャージ機を設置しています。

- 消火器 ⊙ 屋内消火設備(放水器) ★ 屋内消火設備(ポンプ) ▲ 建物入口 避難器具 ◆ 自動火災報知器盤

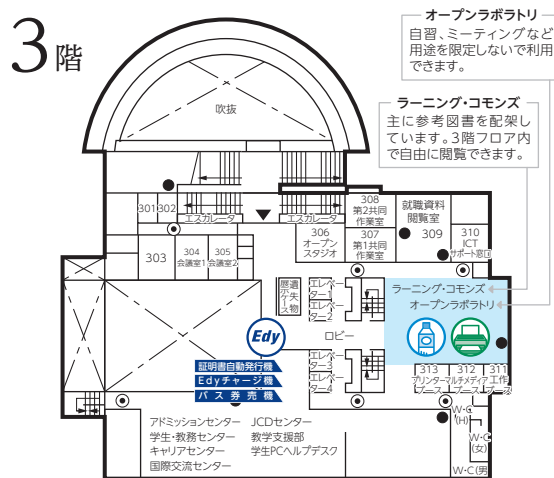


三宅の森 Nexus21 フロアガイド

利用上のご案内について 下記マークにしたがって、ご利用ください。



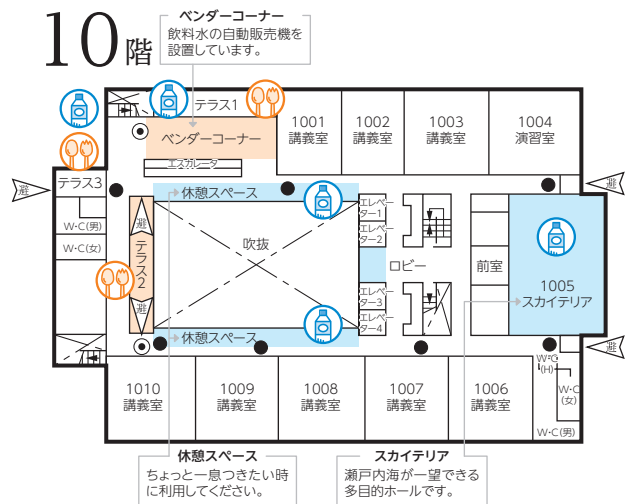
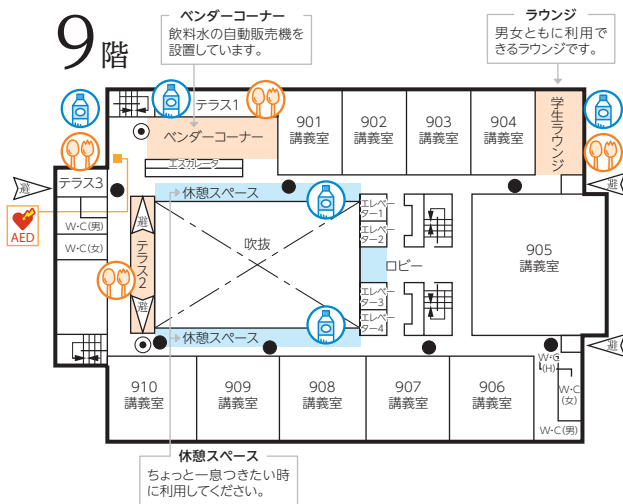
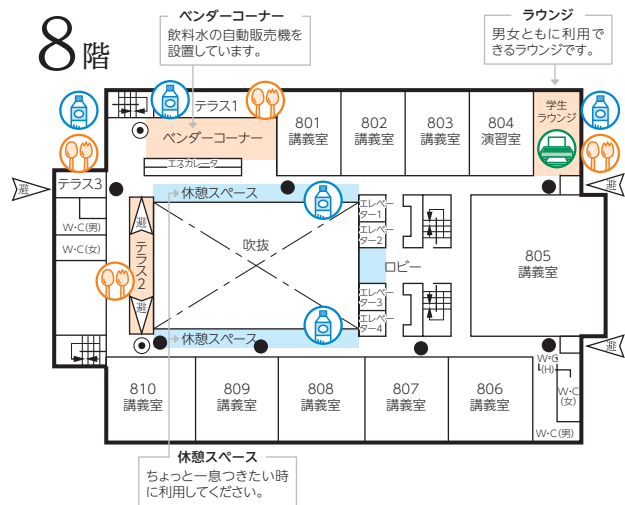
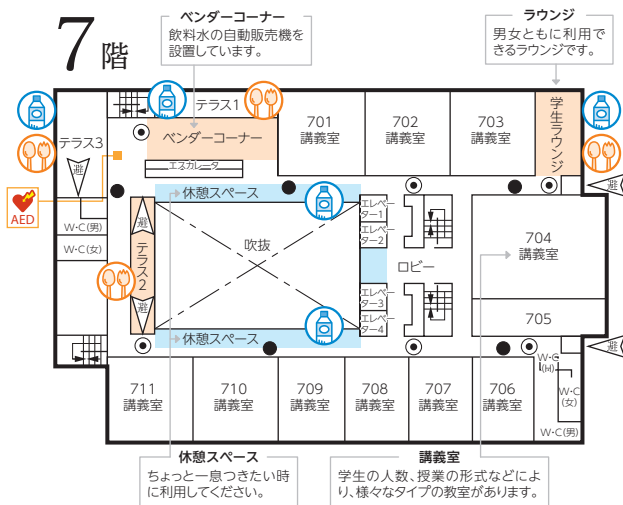
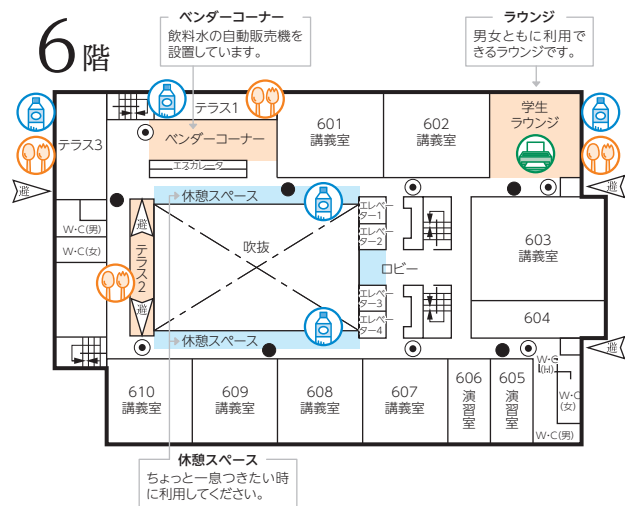
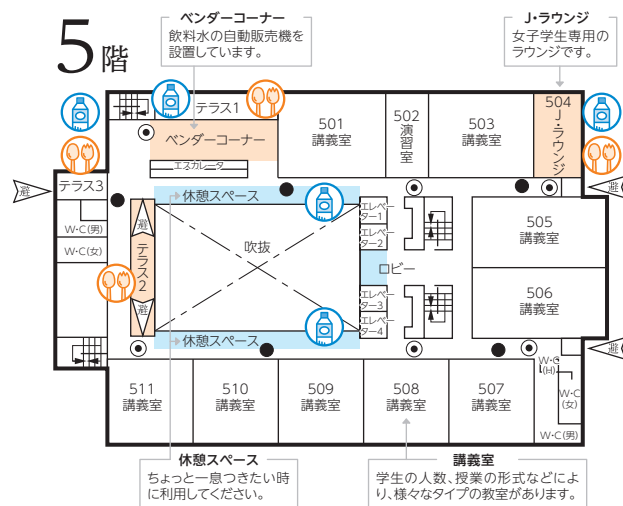
- 消火器 ◎ 屋内消火設備(放水器) ★ 屋内消火設備(ポンプ) ▲ 建物入口 避難器具



教学支援部：授業・試験・奨学金・その他学生生活・進路・就職に関することについてはこちらへ。
学生PCヘルプデスク：大学推奨ノートPCの修理受付などを行なっています。
国際交流センター：海外留学に関する相談、国際交流に関するボランティア活動についてはこちらへ。
JCDセンター：女子学生のための相談窓口です。

Nexus21 の4階が学生・教職員・地域や企業の方をつなぐ交流スペースとして2024年1月に生まれ変わりました。フロアは、「カフェ」「ラウンジ」「スタジオ」「シアター」の4つのエリアで構成され、セブン・イレブンや喫茶の田楽茶舗を出店しています。学生同士が大学に来て学びや語らひを通じて交流を深め、学部・学科を越えた主体的な学びの場として活用することを目的としています。





広島工業大学 主な行事(学部)

4月 April

- 春季休業
- 入学宣誓式
- 新入生ガイダンス
- 新入生歓迎会、健康診断(1・4年次生)
- 在学生ガイダンス
- 前期授業開始、履修申請期間
- 新入生オリエンテーション・ゼミナール



5月 May

- 体育祭
- 学生大会
- 災害振替日
- 健康診断(2・3年次生)



6月 June

- 期末試験(第1フォーター科目)

7月 July

- 災害振替日
- 前期授業終了
- 期末試験(第2フォーター・前期科目)

8月 August

- 期末試験(第2フォーター・前期科目)
- 夏季休業

9月 September

- 在学生ガイダンス
- 後期授業開始
- 履修修正期間
- 教育懇談会(本学、学外会場)
- 就職・進学面談(9月～11月頃)



10月 October

- 教育懇談会(学外会場)
- 学内合同の業界研究会①

11月 November

- 工大祭



- 災害振替日
- 期末試験(第3フォーター科目)

12月 December

- 冬季休業
- 学内合同の業界研究会②

1月 January

- 大学入学共通テストのため休講
- 災害振替日
- 後期授業終了
- 期末試験(第4フォーター・後期科目)

2月 February

- 期末試験(第4フォーター・後期科目)
- 学年末休業
- 卒業研究発表会
- 学園創立記念日(2月23日)
- 学内合同の業界研究会③

3月 March

- 卒業証書・学位記授与式



※授業回数確保のため、時間割の曜日を変更又は祝日に授業を実施することがあります。
※平日及び土曜日に窓口休業日があります。

目次

※本文中に「(規程集)」と表示している規程は、HITPOに掲載しています。

建学の精神	1
教育方針	2
広島工業大学ブランド	3
パーパス・ステートメント	3
ロゴ	4
学長メッセージ	5
HIT Vision	6
HIT四つの行動	7
広島工業大学環境憲章	7
ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	8
大学院の研究科・専攻及び学部・学科	9
学園の沿革	10
運営組織図	11
事務組織図	12
メインキャンパス案内図	13
本館・新1号館フロアガイド	14
三宅の森 Nexus21 フロアガイド	15
広島工業大学 主な行事(学部)	17
目次	18
窓口・各種手続	24
諸証明書と手数料一覧表	28
学生への通知・連絡	29

HIT.E ▶2024

30

HIT.E ▶2024	31
広島工業大学ポートフォリオシステム(HITPO)	32
HITPOの主な機能	32
学生ポートフォリオ	33
コース管理システム	34
My時間割、出席確認システム	34
休講・補講情報	34
人間力向上	35
人間力向上に関する制度	35
HITポイント制度	35
HITポイント獲得までの流れ	37
トラック制度	38
学士修士接続早期修了制度	39
社会実践教育科目	39
数理・AIデータサイエンス教育プログラム	40
リメディアル科目	41
フォローアッププログラム(FP)	42
ピアサポート制度	43
TA・SA制度	43

ICT業務学生補助員	43
図書館学生アドバイザー制度	43
キャリア・ピア・サポーター制度	43
学生支援	44
チューター制度	44
学生支援アドバイザー制度	44
学生相談室	44
キャンパス・ハラスメント相談制度	44
障がい学生支援体制	45
オフィスアワー	45

修学46

教育課程表について	47
教育課程表の見方	47
単位制度	49
ナンバリング	50
履修	51
履修計画	51
年間履修上限単位数	51
履修ルール	51
履修申請	51
単位互換制度(放送大学・教育ネットワーク中国・広島修道大学)	54
授業	55
授業時間	55
学年暦	55
授業時間割表	55
休講・補講	55
出席・欠席	55
自然災害時の授業等の取扱い	56
試験	57
試験の種類	57
試験の受験資格	57
試験受験上の注意	57
学業成績表について	59
科目コード・ナンバリングコード・科目・単位・評価	60
卒業に必要な単位数	60
GPT(Grade Point Total) GPA(Grade Point Average)	60
進級・卒業	61
在学期間と休学期間	61
卒業に必要な単位数	61
進級及び卒業の要件	62
教育課程	64
リベラルアーツ教育科目 全学共通	65
工学部	67
電子情報工学科	69
電気システム工学科	75
機械システム工学科	81
知能機械工学科	87

環境土木工学科	93
建築工学科	99
情報学部	105
情報工学科	107
情報コミュニケーション学科	113
環境学部	119
建築デザイン学科	121
地球環境学科	127
生命学部	133
生体医工学科	135
食品生命科学科	141
各種資格	147
工学部各種資格一覧	147
情報学部各種資格一覧	148
環境学部各種資格一覧	149
生命学部各種資格一覧	151
教育職員免許状	152
免許状の種類と教科	152
免許状取得資格	152
免許状の申請手続き	154
電気主任技術者	154
電気工事士	156
電気通信主任技術者	156
特殊無線技士	158
工事担任者	159
測量士・測量士補	160
建築士	162
インテリアプランナー	163
商業施設士・商業施設士補	163
建築施工管理技士	164
造園施工管理技士	164
土木施工管理技士	165
建築設備士	165
臨床工学技士	166
食品衛生管理者、食品衛生監視員	167
バイオ技術者(中級、上級)	168
第2種ME技術実力検定試験	168
第1種ME技術実力検定試験	168
技術士・技術士補	169
施設等	170
HIT教育機構	170
教学、研究及び地域連携等に係る5つのセンター	170
教育学習支援センター	171
国際交流センター	172
研究支援機構	173
図書館	174
ICT関連施設	176
体育館	181
工作センター	183

学生生活

184

学籍	185
学生番号	185
学生証	187
身上異動	187
学籍異動	188
授業料等の納入	189
授業料・委託徴収金	189
科目等履修生、研究生、委託生に係る諸納入金	190
健康・安全管理	191
保健室	191
健康保険被保険者証(保険証)	193
学生保険	193
学生教育研究災害傷害保険	193
安全会	194
学研災付帯賠償責任保険	194
医学生教育研究賠償責任保険	194
飲酒について	195
館内禁煙について	195
薬物乱用防止について	195
安全な学生生活を送るために	195
下宿、アルバイト	196
下宿	196
アルバイト	196
奨学金	197
日本学生支援機構奨学金	197
高等教育修学支援制度に係る授業料等減免	198
本学独自の育英制度	199
特待生奨学金	199
成績優秀者奨学金	199
入試特待生制度	200
遠隔地学生給付奨学金	200
学園内推薦入学者奨学金制度	200
公益財団法人鶴虎太郎奨学会奨学金	201
広島工業大学同窓会奨学金	201
地方公共団体、その他の奨学金	201
教育ローン利息支援制度	202
学費等減免	202
厚生施設	203
食堂	203
売店	203
学生ラウンジ	204
コインロッカー	204
三宅合宿所	204
その他の厚生施設	204
進路について	205
就職	206
大学院進学	209

女子学生キャリアデザインセンター(JCDセンター)	210
その他	212
通学定期券(通学証明書)	212
割引乗車券(学生・団体)	212
拾得物、遺失物	212
盗難の防止	212
スクールバス	212
自動車、二輪車の使用について	213
学生車両の臨時構内乗入れ	213

課外教育活動 214

課外教育活動	215
学生団体(4団体)紹介	215
学生自治会執行部	215
学生自治会文化局	216
工大祭実行委員会	216
体育会本部	216
学生自主企画プログラム(HITチャレンジ)	217
体育会	219
広島工業大学体育会組織図	219
体育系クラブ紹介	220
学生自治会	225
広島工業大学学生自治会機構図	225
文化系サークル紹介	226
課外教育活動利用施設	229
文化系	229
体育系	229
学内施設使用の手続き方法	230
短期の学内施設使用手続きの流れ図	231

大学院 232

広島工業大学 主な行事(大学院)	233
修学	234
研究指導教員	234
授業時間	234
授業時間割	234
休講・補講	234
履修申請	234
他専攻の授業科目の履修	234
成績の評価	234
単位の認定	234
論文審査及び最終試験	235
論文評価基準	237
修了・学位授与	238
修了要件	238
博士前期課程	238
博士後期課程	238

学位授与	238
学籍	239
学生番号	239
学生証	239
身上異動	240
学籍異動	240
授業料等の納入、奨学金、特待生	241
授業料等の納入	241
奨学金	241
本学独自の育英制度	241
広島工業大学大学院教育課程	243
ディプロマ・ポリシー	243
カリキュラム・ポリシー	243
ナンバリング	244
工学系研究科(博士前期課程)	245
電気電子工学専攻	245
機械システム工学専攻	249
建設工学専攻	253
情報システム科学専攻	257
環境学専攻	261
生命機能工学専攻	265
工学系研究科(博士後期課程)	269
知的機能科学専攻	269
 (施設と場所)	 273
広島工業大学歌	
広島工業大学応援歌	

■ 窓口・各種手続

【窓口受付時間】

月曜～金曜 8時30分～17時15分

土曜日、日曜日及び祝日は窓口休業日です。

※ただし、授業実施日は除きます。

※窓口によって受付時間が異なる場合があります。

HITPO“諸手続き一覧・様式集”でダウンロードできる様式もあります。

HITPO は主にHITPO (■32～34ページ) で手続き等を行うものです。(具体的な方法は、掲示板やHITPOでお知らせするので確認してください。)

〈窓口場所〉

部署・施設名	場所
教学支援部	Nexus21 3階
就職資料室 JCDセンター	
国際交流センター	
学生PCヘルプデスク	
教育学習支援センター(LACナビ)	Nexus21 1階
保健室 学生相談室	
経営管理部	本館2階
広報部	本館4階
教職課程センター	西4号館2階
研究・地域連携支援部	本館1階

〈窓口・手続き一覧〉

	項目・内容	窓口	提出書類、必要なものなど	必要事項など
学生証	仮学生証の発行 学生証を忘れた (試験時のみ)	教学支援部 (学生関係)	—	回数は年間3回までに限定しています。
	学生証を再発行してほしい		学生証再発行申込書	手数料(2,000円)が必要です。
学籍等に関すること	名前、連絡先、保証人が変わった	教学支援部 (学生関係)	改姓名届 保証人変更届 保証人住所等変更届	名前、自宅などの連絡先(住所、電話番号、携帯番号)や保証人等が変わった場合は、必ず届出てください。 なお、学生住所及び携帯番号のみ変更する場合は、HITPOにて変更することが可能です。
	休学したい		休学願 在籍料納付書	病気その他やむを得ない理由で、3か月以上修学を中止するときは、所定の「休学願」を保証人連署、捺印のうえ、提出してください。
	退学したい		退学願	病気その他やむを得ない理由で、退学しようとするときは、所定の「退学願」を保証人連署、捺印のうえ、提出してください。ただし、学費未納のときは除籍となり退学できません。
	転学部・転学科したい	教学支援部 (教務関係)	転学部・転学科願	所属学科から他の学部又は同一学部の他の学科へ転学部又は転学科を希望するときは、所定の「転学部・転学科願」を提出してください。
	再入学したい		再入学願	退学した者又は除籍となった者が、再入学を希望するときは、所定の「再入学願」を提出してください。
	科目等履修生について		科目等履修生許可願	科目等履修生を志願する者は、所定の「科目等履修生許可願」を提出してください。
	研究生について		研究生許可願	研究生を志願する者は、研究指導を希望する教員と事前に承諾を得たうえで、所定の「研究生許可願」を提出してください。
履修・授業に関すること	履修申請をしたい HITPO	教学支援部 (教務関係)	—	前期及び後期初めの申請期間及び修正期間にHITPOからアクセスして入力します。 単位認定の大前提となるものです。疑問があれば、教学支援部に質問してください。
	授業を欠席する、した	教学支援部 (学生関係) (教務関係)	欠席届	課外教育活動、就職試験でやむを得ず欠席するときは様式1(短期欠席)を授業担当教員へ提出してください。父母の忌引や負傷・疾病で2週間以上あるいはその他の理由で1か月以上授業を欠席するときは様式2(長期欠席)を教学支援部に提出しなければなりません。
	休講・補講について HITPO		—	HITPO又は掲示板に掲示します。
	期末試験について	教学支援部 (教務関係)	学生証	試験時間割は、約2週間前にHITPO及びNexus21 1階掲示板に掲示します。
	期末試験科目が重なった		重複受験願	期末試験時間割表上、同じ時間帯に2科目以上の試験科目が重なるときは、所定の「重複受験願」を提出してください。
	成績について 質問したい HITPO	教学支援部 (教務関係)	HITPO成績質問票	学業成績開示後、所定の期間内にHITPOコース管理システムから、手順に従って質問してください。

	項目・内容	窓口	提出書類、必要なものなど	必要事項など
履修・授業に関すること	入学前に本学以外で修得した単位認定について	教学支援部(教務関係)	本学以外で修得した単位取得証明書・講義要項(シラバス)	履修申請期間内に申出てください。
	教職課程を履修したい	教学支援部(教務関係)	—	教員免許、教職課程履修について相談してください。
	資格取得について	教学支援部(教務関係)	—	資格取得に必要な科目の単位を必ず修得してください。
	教員に質問をしたい HITPO	教員または教学支援部(教務関係)	—	オフィシアワ―一覧表をHITPOで確認し、直接教員の研究室を訪問してください。非常勤講師については教学支援部(教務関係)に問わせてください。
	学業について困っている	チューター 学生支援アドバイザー 教育学習支援センター(LACナビ) 学生相談室	—	授業についていけない、苦手科目がある、高校で履修していないなどの困っていることがあれば相談してください。(LACナビの対象は英語、数学、物理です。)
研究等	研究に係るコンプライアンス教育について	研究・地域連携支援部	—	科学研究費助成事業に係るコンプライアンス教育を実施しています。詳しくは窓口まで問い合わせてください。
通学等	通学定期券を購入したい	教学支援部(学生関係)	定期乗車券購入申込書	各会社の窓口で定期乗車券購入申込書を記入し、学生証を提示後、定期券を購入してください。大学の証明が必要な場合は、窓口へ願出してください。
	自転車、バイクで通学したい		二輪車通学登録申込書	ともに登録制です。特に、バイクは大学が開催する交通安全講習会の受講等、一定の条件があります。
	車で通学したい		自動車通学許可願	学長が許可する場合を除き、自動車通学は原則禁止です。
	スクールバスを利用したい		スクールバス回数券 スクールバス定期券 学生証	JR五日市駅南口から本学バス停まで運行しています。事前に教学支援部前の自動券売機で回数券又は定期券を購入してください。定期券は1か月分と3か月分の2種類があります。購入後は、教学支援部窓口で承認を受けてください。現金での乗車はできません。
	学割がほしい		学生証	証明書自動発行機から発行できます。有効期限は発行日から1か月間です。
証明書	在学証明書がほしい 学業成績証明書がほしい 英文による証明書がほしい	教学支援部(教務関係)	学生証、手数料	主な証明書は証明書自動発行機から発行できます。※自動発行できない証明書は、教学支援部(教務関係)へ相談してください。
学生生活に関すること	HITポイントについて質問をしたい HITPO	教学支援部(学生関係)	HITポイント質問票	HITポイント質問票に記入してください。
	奨学金を申込みたい HITPO		各奨学金申請書類	日本学生支援機構奨学金、鶴虎太郎奨学金、同窓会奨学金及びその他の奨学金を希望する場合、HITPO等で案内しますので、随時確認してください。
	忘れ物、落とし物をした		紛失届	学内で金品などを紛失・拾得したときは、直ちに届出てください。
	事件、盗難にあった		盗難届	学内で盗難にあったときは、直ちに届出てください。
	正課中、課外活動中に負傷をした		事故報告書	大学の管理下で負傷した場合、治療費等が支給されます。詳しくは、教学支援部(学生関係)へ問わせてください。
	下宿を探したい	教学支援部(学生関係)	—	教学支援部(学生関係)で下宿情報を提供しています。詳しくは、ホームページに掲載しています。
	アルバイトを探したい HITPO		—	HITPOオンライン掲示板に掲載しています。
	けがをした、急病になった		—	傷の手当てやベッドでの休養ができます。
	HITNETアカウントのパスワードを忘れた		学生証	本人確認を行い、新しいパスワードを設定します。
	在学中利用できるソフトウェアについて		パソコン	利用できるソフトウェアなどを紹介します。
大学院	オンデマンドプリンタポイントについて	教学支援部(学生関係)	学生証 収入証紙	オンデマンドプリンタポイントの追加・残ポイントを確認できます。
	パソコンの故障・貸出について		—	パソコン利用に関して困ったときに相談してください。パソコンの貸出もできます。

	項目・内容	窓口	提出書類、 必要なものなど	必要事項など
学生生活に関すること	学生生活(困りごと)について相談したい	チューター 学生支援アドバイザー 学生相談室 教学支援部(JCDセンター) (女子学生のみ)	—	学業、進路、将来、心身の健康、人間関係、生活などについて困りごとがあれば相談してください。
	体や心の健康のことで相談したい	保健室 学生相談室 (カウンセリングルーム)	—	医師による健康相談、カウンセラーによるカウンセリングを実施しています。
	ハラスメントについて	キャンパス・ハラスメント相談員	—	HITPO「諸手続き一覧」に掲載されている相談員リストを確認の上、相談してください。
学費に関すること	授業料の納入	経営管理部	授業料納入書	前期分は4月末まで、後期分は10月末までに納入してください。納入書は保証人あてに郵送します。
	授業料を期日までに納入できない		授業料等納入猶予許可願	授業料等をやむを得ない事情で期限までに納入できない場合は、左記の書類を納入期限の20日前までに提出してください。
	学費等減免制度	教学支援部 (学生関係)	学費等減免願 (卒業生子女) 戸籍抄本	本学卒業生(大学院修了生を含む)の子女が本学へ入学する場合、入学金が半額減免されます。希望者は入学後の4月末までに左記の書類を提出してください。
			学費等減免願 (兄弟姉妹同時在学) 戸籍謄本	兄弟姉妹が共に本学に在学(大学院生を含む)している場合、授業料及び施設設備資金が半額減免されます。希望者は4月末までに左記の書類を提出してください。毎年、書類の提出が必要です。
課外活動に関すること	クラブ、サークルに入部したい	各クラブ、サークル	—	直接部室を訪ねてください。■220ページ～
	掲示板を利用したい	教学支援部 (学生関係)	—	責任者を明記し、自治会又は体育会本部で印を受領してから掲示してください。(掲示期間は10日以内)
	学内でピラを配付したい		立看板設置、 拡声放送願	特別な場合を除き、配付したい印刷物を1部、ピラ配りを行いたい日の 10日前まで に持参して許可印を受けてください。
	立看板設置、 拡声放送をしたい			諸行事の呼びかけ、宣伝のため、学内に立看板を設置したり、拡声機を使用する場合は、実施 10日前まで に、所定の「立看板設置、拡声放送願」を提出してください。
	物品を借りたい		学内物品借用願	教学支援部にて借用物品、期間を記入して提出してください。
	学内に車を 乗り入れたい		学生臨時構内 乗り入れ・通行許可願	卒業研究の資材運搬、学生行事、歩行困難・病弱等の理由により、学内に車で乗り入れたい場合は乗り入れる 10日前まで に教学支援部(学生関係)に「学生臨時構内乗り入れ・通行許可願」を提出してください。 学内駐車はできません。また、車の通学許可ではありませんので注意してください。
	クラブ、サークルを作りたい		団体結成願	学生が、本学の学生として活動することを目的に、団体を結成しようとするときは、発起人代表は所定の「団体結成願」に会員名簿、団体の規約(会則)案を添付して提出してください。
	HITチャレンジに 申請したい		申請書 参加者名簿 予算案 備品貸出希望届 (希望者のみ)	募集期間は4月から6月の間で、詳細は毎年4月初めに掲示等で周知をします。希望者は、教学支援部(学生関係)窓口へ申出てください。
	自主企画の活動に挑戦 したい(女子学生対象)	JCDセンター (教学支援部内)	—	まずは一度窓口に相談に来てください。
ボランティア等	ボランティアをしたい	教学支援部 (学生関係)	—	HITPO及び掲示板に掲載しています。
	大学広報に協力したい	広報部	—	いつでもお気軽に相談に来てください。

	項目・内容	窓口	提出書類、必要なものなど	必要事項など
施設等の利用に関すること	傘を借りたい	教学支援部(学生関係)	傘貸出申込書	教学支援部にて若干貸出し用を用意しています。
	学内施設を集会、行事で使用したい	教学支援部(学生関係)	集会、行事及び施設使用願	会合や試合等で、大学の施設(教室、グラウンド、その他)を使用した行事を行う場合、教室及びグラウンドは教学支援部で、体育館は体育館事務室で使用できるかどうかを確認した後、使用する 10日前まで に教学支援部へ「集会、行事及び施設使用願」を提出してください。沼田校舎・広島校舎を使用する場合は、更に別の書類が必要です。いずれの場合も、あらかじめ使用施設の予約をして教学支援部に提出してください。
	教室、ラウンジ等を使用したい	教学支援部(学生関係)		
	グラウンドを使用したい	教学支援部(学生関係)		
	体育館を使用したい	鶴記念体育館		
	大型バス・マイクロバスを利用したい	経営管理部	学園バス使用願	サークル及びゼミ等の活動における、移動手段として利用できます。詳しくは経営管理部へ問い合わせてください。
	PC教室を使用したい	教学支援部	学生証(入室時)	授業が行われていない時間はオープン利用として自由に使用できます。PC教室時間割表を確認してください。
	図書館を利用したい	図書館	学生証(図書の貸出用)	詳しくは図書館ホームページを参照してください。
進路に関すること	大学院に進学したい	大学院研究指導教員 教学支援部(アドミッション関係)	—	学内推薦入試・一般入試があります。いつでもお気軽にご相談ください。▶ 209ページ でもご案内しています。
	海外留学したい	国際交流センター(教学支援部内)	—	海外体験研修や語学短期研修、学生交流協定を締結している大学への派遣留学プログラム(10日間～9か月)を実施しています。 また、学生交流協定を締結している大学からの短期留学生との交流活動や、ランゲージパートナーをしたい方は申出てください。
	将来について心配している	チューター 学生支援アドバイザー 学生相談室 教学支援部(キャリア関係) JCDセンター(教学支援部内)	—	就職・進学など、進路について心配なことがあれば相談してください。
就職に関すること	就職について相談したい	教学支援部(キャリア関係)	事前申込制	経験豊かなキャリアアドバイザーやスタッフが相談に応じます。1年次から参加できる行事(職場研究:日帰りの企業・工場見学会)や講座もあります。
	企業について調べたい 		—	就職資料室の資料コーナーを自由に閲覧、HITPO内「就活ナビ」から企業情報や求人情報を検索・閲覧できます。
	「就活ナビ」の操作方法を知りたい 		—	スタッフに気軽に声をかけてください。なお、就職ガイダンスでもお伝えします。
	履歴書添削を受けたい、面接練習をしたい		事前申込制	1年次から利用できます。メールまたは窓口で予約をしてください。利用時間は1回40分です。(個人でも複数人でも可)
	公務員を目指したい		説明会への参加	「公務員試験対策講座」(教養試験への対策講座)や「国家公務員試験制度説明会」を開催しています。詳しくは掲示板やHITPO(お知らせ)やメールで確認してください。
	適性検査[SPI]の対策をしたい		事前申込制	模擬試験の実施、対策講座の開講をしています。開催日時や申込方法は掲示板やHITPO(お知らせ)やメールで確認してください。
	インターンシップに行きたい	教学支援部(キャリア関係)	インターンシップ実習申込票	大学経由や就活サイト経由など、企業・団体によって応募方法が異なります。行きたい実習先を探し、締切までに必要な応募書類を提出してください。
	就職ガイダンス・セミナーに申込みたい		事前申込制	イベントにより申込方法が異なります。開催日時は掲示板やHITPO(お知らせ)やメールで確認してください。
	教職を目指したい	教職課程センター	—	採用試験について相談してください。
講座等	公開講座などに関すること	研究・地域連携支援部	—	一般市民を対象とした公開講座などを実施しています。詳しくは、ホームページに掲載しています。

■ 諸証明書と手数料一覧表

(証明書を窓口で受取るときは、学生証が必要です。)

各種証明書が必要な場合は、教学支援部内の証明書自動発行機により申し込んでください。一部即日発行できないものや、自動発行できないものもありますので、その場合は窓口でご確認ください。

受付時間 月～金 8:30～17:15

土曜日、日曜日及び祝日は窓口休業日(ただし、授業実施日は除く)

種別	料金(円)			取扱窓口	備考
	在学生(学部)	在学生(大学院)	卒業生		
学生証再発行	2,000	2,000	—	教学 支援部	※1 仮学生証の発行は、 年間3回までです。
在学証明書	100	100	—		
在籍期間証明書	—	—	200		
通学証明書	無料	無料	—		
学生旅客運賃割引証(学割)	無料	無料	—		
仮学生証(試験時のみ)※1	無料	無料	—		
健康診断証明書※2	100	100	—		
学業成績証明書	100	100	200		
学業成績・卒業見込証明書※2	200	—	—		
卒業見込証明書※2	100	—	—		
修了見込証明書※2	—	100	—		※2 学部4年次生、大学 院2年次生のみ発行 できます。
卒業証明書	—	—	200		
修了証明書	—	—	200		
学位授与証明書	—	—	200		
教員免許取得見込証明書	100	—	—		
単位修得証明書	—	—	200		
調査書	300	—	300		
英文による証明書	500	500	500		
研究生在籍証明書	—	—	200		
研究生在学証明書	100	—	—		
科目等履修生単位修得証明書	—	—	200		
その他の証明書	100～1,000	100～1,000	—		

証明書自動発行機では、オンデマンドプリンタのポイント追加代、ノートパソコンのレンタル代、TOEIC L&R(IP)の受験料及び就職模擬試験代の支払いが可能です。

※英文による証明書など作成に時間を要するものもあるため、十分に余裕をもって申し込んでください。

■ 学生への通知・連絡

HITPO

本学では、学生の皆さんに対する告知事項、一般的な通知、呼出し、休講・補講・教室変更、期末試験時間割、奨学生募集などの情報はHITPOや掲示板、オンライン掲示板で確認ができます。

確認しなかったために思わぬ不都合が生じないように十分注意し、毎日確認してください。

HITPOアドレス <https://hitpo.it-hiroshima.ac.jp/>
オンライン掲示板 HITPO「コース管理システム」(▶34ページ) からアクセス



掲示板

全学部共通		
全学・全専攻掲示板	Nexus21	1階
休講・補講に関する掲示板(学部)	Nexus21	1階
	新4号館	4階
	5号館	1階東側
	9号館	1階東側

工学部		
電子情報工学科	新1号館	3階
電気システム工学科	新10号館	3階
	9号館	1階
機械システム工学科	5号館	1階東側
知能機械工学科	6号館	1階西側
環境土木工学科	新2号館	1階
建築工学科	新2号館	1階

情報学部		
情報工学科	新4号館	3・4階
情報コミュニケーション学科	新4号館	3・4階

環境学部		
建築デザイン学科	新3号館(実験棟)	5階
地球環境学科	21号館	1階西側

生命学部		
生体医工学科	26号館	1階
食品生命科学科	27号館	1階

博士前期課程		
電気電子工学専攻	新1号館	3階
	9号館	1階
	新10号館	3階
機械システム工学専攻	5号館	1階東側
	6号館	西側
建設工学専攻	新2号館	1階・2階
情報システム科学専攻	新4号館	4階
環境学専攻	新3号館(実験棟)	4階・5階
	21号館	1階西側
生命機能工学専攻	27号館	1階
博士後期課程		
知的機能科学専攻	Nexus21	1階

個人的な用件での呼出し依頼や伝言依頼の電話については、緊急時以外は、お断りしています。

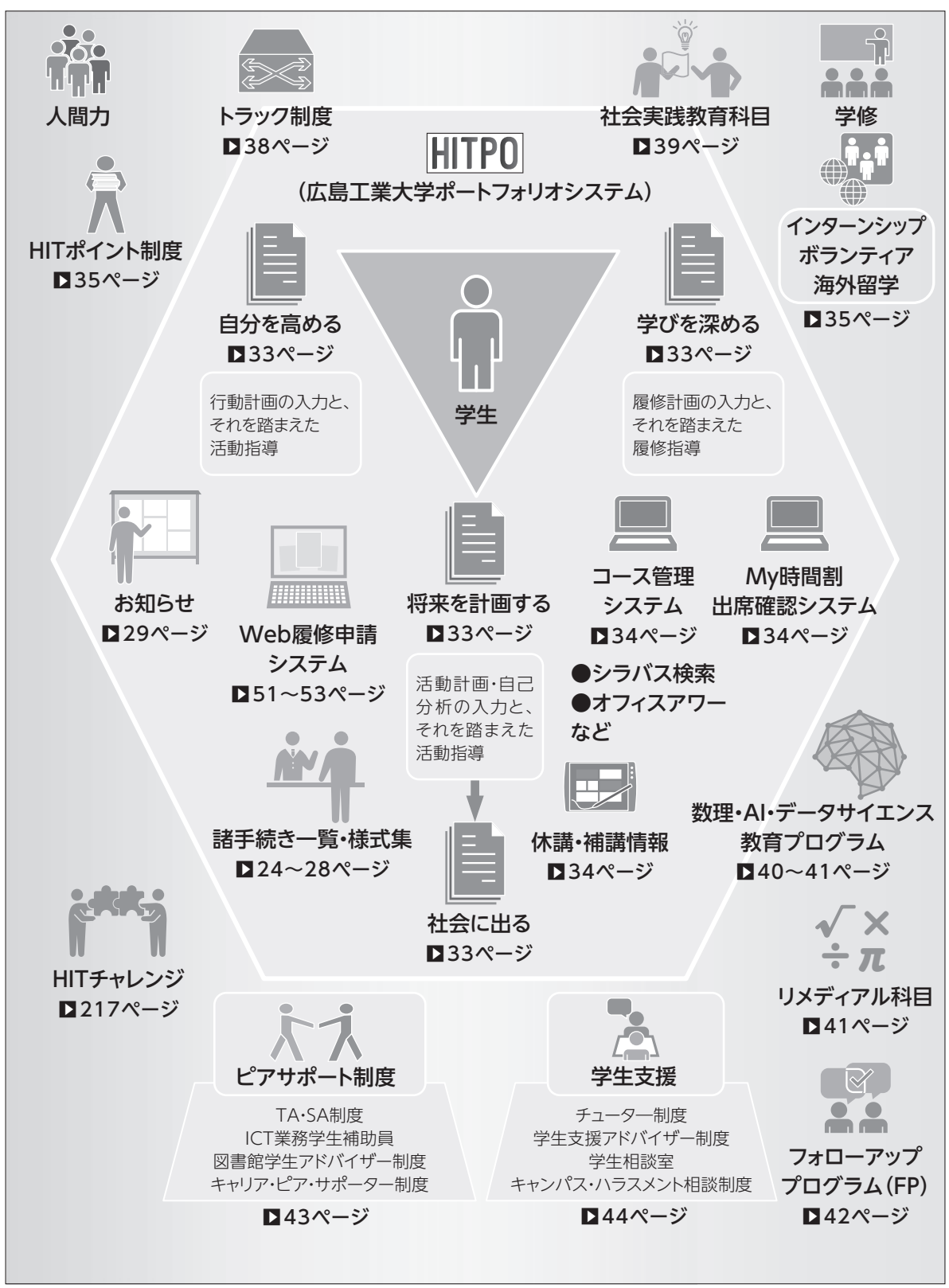
なお、学生個人や教職員の住所、電話番号等は、本学の教育目的以外には使用しません。

HIT.E ▶ 2024

//////////////////// HIT.E ▶2024 //////////////////////

令和2年度から新たな教育プログラムとして導入した「HIT.E ▶2024」では、堅実な学力と豊かな人間力に満ちた「学士力」に加え、社会と繋がる実践的学びの展開により、共に課題を発見し解決する力を有する技術者の養成を行うために、下図に記載している各種支援、学びの仕組み及びそれらを支えるシステムの運用を行っています。

充実した大学生活をおくり、自己の成長を促進するために、利活用してください。



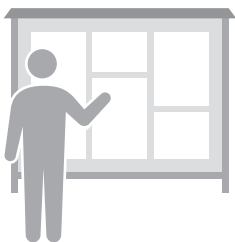
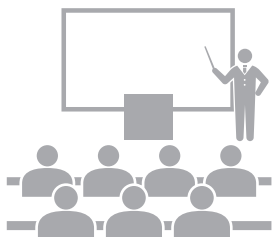
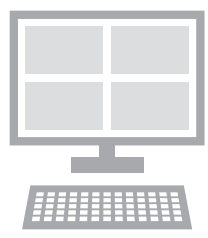
HITPOは皆さんの学生生活を支援するためのシステムです。大学生活を送る上で必要となる様々な機能が入っています。自宅からもHITPOを確認することができます。

HITPOアドレス <https://hitpo.it-hiroshima.ac.jp/>



毎日確認すること!!

HITPOの主な機能

お知らせ 大学からのお知らせや 窓口への呼出しなどが 確認できます。 ■29ページ 	学生ポートフォリオ 大学で経験する様々な 活動を記録することが できます。 ■33ページ 
休講・補講情報 授業の休講、補講、教室 変更の情報が確認でき ます。 ■29、34ページ 	My時間割、出席確認システム 履修申請している授業科目の 時間割と出席情報を確認する ことができます。 ■34ページ 
コース管理システム 授業に必要な電子教材等 の受取りやレポートの提 出をすることができます。 ■34ページ 	諸手続き一覧・様式集 大学の手続き案内です。 各種様式のダウンロード もできます。 ■24～28ページ 
Web履修申請システム 授業科目の履修申請 を行います。 ■51～53ページ 	●シラバス検索(授業内容の検索) 授業の目的、成績評価方法、事前・事後学習の 指示等の各授業科目の概要を確認できます。 ●就活ナビ ■208ページ ●オフィスアワー(教員の研究室情報等) など

その他にも、HITPOでは
いろいろな情報を提供しています。
毎日確認しましょう。



学生ポートフォリオ

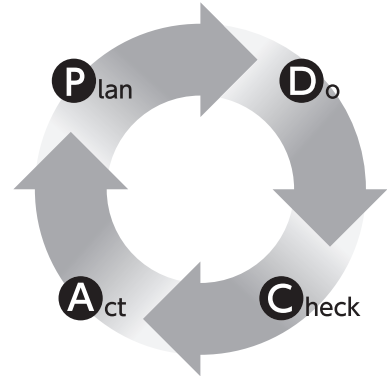
HITPO

1. ポートフォリオ

ポートフォリオとは、みなさんが大学で経験する様々な活動について、時系列で記録することができるシステムのことです。記録された情報はいつでも確認することができ、自身のこれからの方向性を決めていくためのヒントになります。

本学では、このポートフォリオを通して、みなさんが「なりたい自分」になれるよう、チューターを中心に支援していきます。「なりたい自分」になるためには、まず計画(Plan)を立てることからはじまりますが、実際に行動(Do)し、計画通りに実行されたか確認(Check)し、問題点があれば改善(Act)するといった一連のサイクル(PDCAサイクル)を継続する必要があります。

ポートフォリオは、次の4つのコンテンツから構成されています。



PDCAサイクルの概念図

4つのコンテンツ

1 学びを深める 4年次までの履修計画を立てることができるツールです。カリキュラム・ツリーを基に、どのような科目を履修するか、どのような免許・資格の取得を目指すかを入力します。各学期の初めに成績の確認と共に、履修計画を見直していきましょう。 履修 ■51～53ページ 資格 ■147～169ページ	2 自分を高める 課外教育活動やボランティア活動、クラブ活動等についての計画、結果及び気づき等を記録することができるツールです。HITポイント活動の計画登録やポイント数を確認することができます。 HITポイント ■35～36ページ トラック制度 ■38ページ
3 将来を計画する キャリア関連授業科目と連動して、自身の将来像について探求し、計画することができるツールです。「なりたい自分」を実現するために必要な「自己分析」を具体的にこなします。常に書き記すことを心がけましょう。自身の成長を振り返り、自身の理解を深めることができます。	4 社会に出る(就活ナビ) 実践的な就職活動を支援するツールです。企業研究や求人検索のほか、履歴書(下書き)を作成したり、就職活動の状況を志望企業別に記録することができます。 就職・進学 ■205～209ページ

2. 振返り(各期の履歴)

入学後からポートフォリオに入力した内容をPDFで確認することができます。過去の登録内容を確認する際に利用してください。

3. Myプロフィール

・プロフィール

自身のチューター、分割クラス、トラック、所属クラブ、住所、電話番号等の情報を確認することができます。

・修得単位サマリー／成績一覧／成績表(PDF)

現在の単位修得状況や卒業までに不足する単位数、修得済科目及び履修中科目の一覧、最新の学業成績表のPDFを確認することができます。

コース管理システム

HITPO

授業に必要な電子教材等の受取りやレポートの提出は、HITPOからアクセスできる「コース管理システム」で行います。利用については、各授業担当教員の指示に従ってください。

【主な機能】

授業科目の履修者への連絡…授業担当者から重要な連絡を行うことがあります。必ず確認しましょう。

講義資料の受取り…授業で必要な資料を受取ることができます。

課題の提出…履修者がファイルをアップロードして、レポート等の課題を提出することができます。

小テスト…コース管理システム上の問題に解答し、結果を確認することができます。

動画の閲覧…講義ビデオ等の動画を視聴することができます。

My時間割、出席確認システム

HITPO

履修申請している授業科目の時間割が確認できます。科目名をクリックすると「出席確認システム」が表示され、授業への出席状況を確認することができます。

全ての授業の出席情報が表示されるわけではありません。

ICカードリーダーによる出席確認を行わない授業もあります。授業の出席の扱いについては、各授業担当教員の指示に従ってください。

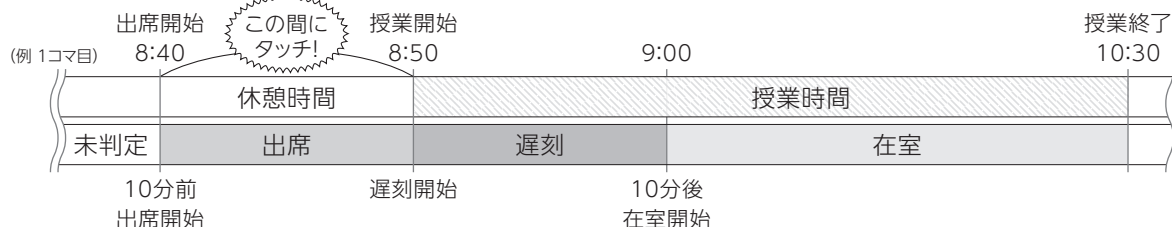
ICカードリーダーによる出席情報の登録方法は、次のとおりです。

- ①授業開始10分前から開始時間までの間に、
教室のICカードリーダーに学生証をかざす。
※学生証を忘れた場合は、授業担当教員に
伝えてください。

- ②自分の出席情報をHITPOで確認する。



「出席確認システム」による出席の扱い



※授業開始10分より前にかざした場合には未判定「-」となりますので、注意してください。

休講・補講情報

HITPO

休講・補講情報は、HITPOと掲示板から確認することができます。毎日必ず確認しましょう。詳しくは■55、56ページ「休講・補講」「自然災害時の授業等の取扱い」

人間力向上

本書の冒頭で本学園の建学の精神及び教育方針、そして人材育成目標を記載しています。その中で目標とする「社会と環境を重視する認識と環境保全や社会奉仕のために行動する力及び高い技術者倫理とそれを実践する力」が、まさに人間力です。心豊かな生活を提案し、形成できる技術者になるためには、学修だけでなくこの人間力を併せた総合的な力を備える必要があります。そのために本学が用意した諸制度を活用し、様々なチャレンジをとおして技術者としての夢を叶えるための力を得てください。

人間力向上に関する制度

インターンシップ

科目を通してキャリア形成を身に付けます。

ボランティア

ボランティアとは？専門の講義を通して学び、それを実践します。

人間力向上

学 生



HITポイント

課外教育活動等をポイント化し、人間力向上を可視化します。

海外留学

本学留学プログラム制度で派遣留学生として採用されれば、費用が一部免除されることがあります。

トラック制度

基本トラック、発展トラックがあり、一定の条件を満たし発展トラック学生になると、さらに人間力を磨くプログラムに参加することができます。

HITポイント制度

HITPO

学びで得られる「専門力」と、社会で活動するために必要な「人間力」とを身に付けることを目的にしています。学生の課外教育活動等を「人間力」向上につながる取組みとして定め、その状況を測る指標としてHITポイント制度を導入しました。

1.HITポイント活動の分類と能力要素

(1) HITポイントの対象となる活動 (HITポイント活動)

- | | | |
|----------|-------------|----------|
| ① 課外教育活動 | ② 社会貢献活動 | ③ 自己啓発活動 |
| ④ 大学協力活動 | ⑤ 語学、全学共通資格 | ⑥ 学科の活動 |

(2) HITポイント活動の能力要素

- | | | | |
|-----------|---------|-----------|------------|
| ① 前に踏み出す力 | ② 考え抜く力 | ③ チームで働く力 | ④ 社会に奉仕する力 |
|-----------|---------|-----------|------------|

2.HITポイント活動表

HITポイントの対象となる活動を表した「HITポイント活動表」は、HITPOトップ画面のアイコン「HITポイント」で公開しています。毎年、内容が異なりますので、注意してください。

3.ポイントの種類

- (1) 基礎ポイント: HITポイント活動への参加や取組みに対して定められたポイント (イベントに参加、資格受験、クラブ活動など)
- (2) 付加ポイント: HITポイント活動における役割、優れた評価に対して定められたポイント (クラブ活動で大会に優勝した、自治会会長になったなど)

(3) 継続ポイント:資格を取得した該当年度から資格保持に対して付与するポイント(ただし、毎年エビデンスの提出が必要)

4.ポイントの対象となる活動期間

1年次生 4月1日～翌年2月末日まで

2年次生以降 3月1日～翌年2月末日まで

5.HITポイントの目標登録

所定の期日までに、HITPOの「自分を高める(人間力・HITポイント)」から「自分の活動目標」と「活動目標コメント」を登録してください。

6.活動に参加した後にすべきこと

所定の期日までに速やかに、担当学科又は担当部署へ活動報告(活動した証明)を提出してください。
(ただし、活動によっては、報告期間が別途定められていることがあります。)

※認定されたHITポイントは「現在までの活動結果」に表示されます。

7.報告のあった活動に対し、教学支援部から「HITポイント獲得確認メール」が届く

担当学科又は担当部署に活動報告をしたのち、数週間後に教学支援部から活動コードと活動名が記載された「HITポイント獲得確認メール」が届きます。

メールの内容を確認し、当メール内容とHITPO上の「現在までの活動結果」が一致していることを必ず確認してください。

8.認定HITポイントの集計の種類

(1)「当該年度HITポイント」:各年次におけるHITポイント活動の対象期間のポイント

(2)「通算HITポイント」:入学時からの通算ポイント

9.獲得したHITポイントの評価

(1)発展トラック認定条件の1つとして、年度末の「当該年度HITポイント」が50ポイント以上必要です。この認定条件に限り、6つの活動大分類において、各々25ポイントを上限とします。

(2)HITポイントベストポイント賞

①1～3年次:学科単位で「当該年度HITポイント」の獲得ポイント上位5位かつ60ポイント以上の者に表彰・副賞を授与します。

②4年次:学科単位で「通算HITポイント」の獲得ポイント上位5位かつ240ポイント以上の者に表彰・副賞を授与します。

(3)「当該年度HITポイント」が10ポイント未満の場合は、チューターから指導があります。

HITポイントについての問合せ先

教学支援部 学生関係窓口(Nexus21 3階)

HITポイント獲得までの流れ

Step.1【計画】

「HITポイント活動表」を確認し、1年間の活動計画を立てる。HITPOの「今年度選択した活動目標」に入力する。

Step.2【活動】

計画したHITポイント活動に参加する。

Step.3【報告】

HITポイント活動の担当学科又は担当部署へ活動を報告する。

※報告の方法については担当学科又は担当部署に確認すること

Step.4【獲得・確認】

報告した活動に対し、HITポイント獲得確認メールが届く。

※獲得したHITポイントはHITPOで確認すること



【重要】

- ・HITポイントは発展トラックの認定条件の1つです。
- ・1～3年次:学科単位で「当該年度HITポイント」の獲得ポイント上位5位かつ60ポイント以上の者にベストポイント賞を授与します。
- ・4年次:学科単位で「通算HITポイント」の獲得ポイント上位5位かつ240ポイント以上の者にベストポイント賞を授与します。
- ・1年間に獲得したポイント数が10ポイント未満の場合は、チューターから指導があります。

【特典】

- ・獲得したHITポイントに対し、100を乗じた数をオンデマンドプリンタのポイントとして付与します。(上限2,000ポイントまで)
- ※オンデマンドプリンタのポイントは翌年4月頃に付与する予定です。
- ※1～3年次生が対象となります。

トラック制度

トラック制度とは、本学の学生がより高い人間力を身に付け、社会に貢献できる優れた人材を目指すために設置された制度です。

1.トラック種類

2種類のトラックで構成され、本学の学生は基本トラック又は発展トラックのいずれかで学修します。

基本トラック：入学学科の専門等を学修し、人間力を身に付ける。

発展トラック：入学学科の専門等を学びの広さと深さをもって学修するとともに、高い人間力を身に付けることを目指す。

※1年次生は全員基本トラック学生となります。

2.発展トラック学生の認定

条件 \ 認定年次	2年次	3年次	4年次	卒業時表彰
当該年次に進級	○	○	○	—
前年度のGPA順位が上位30%以内 ※1	○	○	○	—
前年度のGPT順位が上位30%以内 ※1	○	○	○	—
前年度の算入ポイント50以上 ※2	○	○	○	—
発展トラック育成プログラムに取組む意思表示	○	○	○	—
卒業可	—	—	—	○
2・3・4年次の3年間発展トラック学生	—	—	—	○
4年次に所属学科の高次レベル科目を1科目以上修得	—	—	—	○

※1 前年度のGPA及びGPT順位は各学科の各年次で順位付けする。ただし、以下の表の単位数(自由科目は除く)を満たした者がそうでない者より上位。

※2 算入ポイントは、当該年度に認定されたHITポイントのうち、6つの活動大分類の各分類において25ポイントを上限として積算した値です。

前年度の年次	認定基準単位数	
	工学部、情報学部、環境学部及び生命学部(食品生命科学科)	生命学部(生体医工学科)
1年次	35単位	46単位
2年次	35単位	35単位
3年次	30単位	30単位

3.発展トラックの特長

- ・1年間で履修できる単位数の上限が年間48単位、半期32単位に増えます(生命学部生体医工学科に在籍する者を除く)。
 - ・人間力育成のため特別講座(発展トラック育成プログラム)を受講できます。
 - ・特待生の選考対象になります。
 - ・4年次生の段階で、大学院で開講されている授業科目(コースワーク科目、特別演習・特別研究科目及びインターンシップ科目を除く。)を8単位まで履修することができます。大学院授業科目の先行履修について **■53ページ**参照
 - ・海外留学への各種支援を受けることができます。
 - ・TOEIC対策集中講座の受講料やTOEIC(IP)テストの受験料に対する補助を受けることができます。
 - ・オンデマンドプリンタ3,000ポイントが追加で付与されます。
 - ・大学院進学希望者は、4年次に発展トラック学生であることが、通常2年間かかる博士前期課程を在学年数1年間で修了できる学士修士接続早期修了制度候補者となるための条件の1つとなります。学士修士接続早期修了制度 **■39ページ**参照
- ※その他の特長については、説明会等で別途お知らせします。

学士修士接続早期修了制度

この制度は、通常、2年間かかる大学院博士前期課程を1年間で修了できる制度です。制度の利用を検討する場合は、早めに研究指導担当予定教員に相談し、3年次の9月末までに教学支援部まで意思表示を行ってください。

なお、対象学生となるには、3年次末の時点で以下の要件を満たす必要があります。

【要件】

- ・本学大学院に進学予定であること
- ・学部4年次に発展トラック学生であること
- ・学部3年次末の通算GPAが3.5以上であること
- ・学部3年次末において、卒業に必要な単位数(4年次開講必修科目、プールB科目を除く)を修得していること
- ・所属学科の推薦を受けていること
- ・各専攻が実施する審査会にて認定されていること

※修了要件や詳細なスケジュール等については、教学支援部にお問合せください。

社会実践教育科目

実社会とつながる課題に、グループで取り組む。

1年次の前期から2年次の後期まで、すべてのフォーターで開講される「社会実践科目」では、約20名のグループでの履修を基本とし、協働して課題に取り組みます。テーマとして取り上げるのは、それぞれの学科の学びと社会にかかわる課題。社会とつながる実践的な学びとして、多様な人と目標に向けて協働し、自ら課題解決を進める経験を重ねます。教員全員が担当し、一丸となって学生をサポートします。

協働力を高める、異なる年次の学生同士での学び合い。

1年次・2年次の学生が同一グループで課題に取り組むなど、年次混成での学び合いを導入します。異なる立場の人と連携しながら同じ課題を解決していくことにより、自分の意見をわかりやすく伝える発信力、相手の意見を引き出す傾聴力、意見や立場の違いを理解し尊重する柔軟性、チームの中で自分がどのような役割を果たすべきか理解する状況把握力などを磨きます。

数理・AI・データサイエンス教育プログラム

全学部全学科の1年次に、AIやデータサイエンスの基礎を学ぶことができる「Society5.0時代に向けたAI・データサイエンス入門教育プログラム」を開設しています。AI・データサイエンスが実社会でどのように役立っているかを知り、基礎となる数理的知識を修得するとともに、それらを利活用する際に求められる知識を身につけます。この教育プログラムは文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されています。

また、情報学部では1年次から3年次にかけて、工学部・環境学部・生命学部では3年次に、「Society5.0時代に向けたAI・データサイエンス応用教育プログラム」を開設しています。様々なデータを適切に収集・解析し、AIを活用するためのシステム構築から運用までの流れに関する知識や技術が取得できます。この教育プログラムも文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」に認定されています。工学部・環境学部・生命学部でも授業科目「AI・データサイエンス応用」が受講でき、AI・データサイエンス技術を活用し、社会や企業における課題を解決するための実践的な能力を身につけることができます。



認定有効期限：
令和8年3月31日まで



認定有効期限：
令和9年3月31日まで

「Society5.0時代に向けたAI・データサイエンス入門教育プログラム」の修了要件

下表の授業科目の単位を取得することで、本教育プログラム修了者として認定されます。

学科	授業科目
電子情報工学科	AI・データサイエンス入門
電気システム工学科	
機械システム工学科	
知能機械工学科	
環境土木工学科	
建築工学科	HIT基礎実践B
情報工学科	HIT基礎実践D
情報コミュニケーション学科	AI・データサイエンス入門
建築デザイン学科	
地球環境学科	AI・データサイエンス入門
生体医工学科	
食品生命科学科	

「Society5.0時代に向けたAI・データサイエンス応用教育プログラム」の修了要件

下表の「プログラム必修科目」に分類される全ての授業科目の単位を取得することで、本教育プログラム修了者として認定されます。「プログラムオプション科目」に分類される授業科目は履修を推奨しますが、これらの科目の単位取得は本教育プログラムの修了要件ではありません。

学科	授業科目
情報工学科	【プログラム必修科目】 HIT基礎実践B、HIT基礎実践C、HIT基礎実践D、 HIT応用実践C、HIT応用実践D、情報数理基礎、 信号処理数学基礎、アルゴリズム入門、 アルゴリズム基礎、プログラミング入門、 プログラミング基礎、データ解析、人工知能 【プログラムオプション科目】 データベース、プログラミング応用、情報セキュリティ、 画像音声認識、自然言語処理
情報コミュニケーション学科	【プログラム必修科目】 HIT基礎実践D、データ解析入門、データ解析数学基礎、 アルゴリズム入門、アルゴリズム基礎、 プログラミング入門、プログラミング基礎、データ解析、 機械学習 【プログラムオプション科目】 データベース、プログラミング応用、データマイニング、 データビジュアライゼーション、自然言語処理
工学部、環境学部、生命学部の全学科	AI・データサイエンス入門、AI・データサイエンス応用

リメディアル科目

高校レベルの数学の内容を復習する科目で、単位の配当はありませんが認定試験に不合格の者は履修が義務づけられます。定められた基準をクリアし、この科目に合格しなければ3年次に進級できません。

フォローアッププログラム(FP)

フォローアッププログラム(FP)とは、1・2年次で学ぶ主要科目(主として必修科目)を対象として、履修生が授業内容を正規開講期内に着実に理解し、確実に単位を修得できるように支援するプログラム全体のことです。

このフォローアッププログラムは、カリキュラム・ツリーに基づいた「学修の順次性」を保つために、カリキュラムの基盤となる専門基礎科目の理解を確実なものにすることを目的としています。

また、「FPクラス」での学習を通じて、大学生として習慣付けが必要な「事前事後学習の徹底」を初年次から確実に身に付けることも期待しています。

FPクラスは、1年次前期・後期、2年次前期・後期の各期に一科目以上開講します。

FPクラスは、原則として正規授業と密接に連携しており、正規授業の理解度に応じ、履修者の一部または全部が出席を求められます。

学科教員、TA・SA等の支援を受けながら、eラーニング、互いの学び・教え合い、など、クラスの特性に合わせた形で、個々の習熟度を高めていきます。

フォローアップ対象科目

	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
電子情報工学科	—	プログラミングA	基礎電気回路Ⅱ	基礎電磁気学A
電気システム工学科	電気のための微分積分A	基礎電気回路Ⅰ 電気のための微分積分B 電気のための微分積分C	基礎電磁気学Ⅰ	基礎電磁気学Ⅱ
機械システム工学科	—	線形代数 基礎力学B	材料力学A 熱力学A	流れの力学A 機械力学A
知能機械工学科	—	微積分学A 微積分学B 機械系の物理学実験	材料力学A 熱力学A	流れの力学A 機械力学A
環境土木工学科	—	構造力学Ⅰ	基礎ゼミナールB 情報の科学B	測量学Ⅰ
建築工学科	—	材料力学	建築製図法	建築材料実験
情報工学科	—	プログラミング入門	プログラミング基礎	プログラミング応用
情報コミュニケーション学科	—	データ解析数学基礎 アルゴリズム入門 プログラミング入門	プログラミング基礎	プログラミング応用
建築デザイン学科	建築デザイン数理基礎	建築デザイン数理	構造力学基礎演習	環境工学基礎演習 構造力学B
地球環境学科	環境基礎物理学A	環境基礎解析学Ⅰ 環境基礎線形代数学	地球環境物理学	環境数理基礎
生体医工学科	電気工学	電子工学 情報処理工学	医用システム・制御工学 通信工学 生体物性工学 生体機能代行技術学	医用工学演習A 医用材料工学
食品生命科学科	—	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅱ	生物化学Ⅲ

ピアサポート制度

ピアサポート制度とは、学生による学生支援のためのサポート活動です。学生同士が互いに助け合うことで悩みを共有し、わかりあえる環境を創造することを目的としています。

「TA・SA制度」

学部教育の充実を図るため、学部の科目、フォローアッププログラムにTA(ティーチング・アシスタント:大学院生)が教育支援者として、またSA(スチューデント・アシスタント:学部生)が教育補助者として配置され、学習の支援を行う制度です。

「ICT業務学生補助員」

学生・教務センターが運営している、ICTに係るサポート業務に従事する学生スタッフです。PC教室やユーザーズルームにあるPC等の管理やパスワード変更、オンデマンドプリンタのポイント数の確認、広島工業大学の教職員や学生がIT技術を円滑に利用できるようにするためのサポートを行っています。

サービス内容:印刷(依頼)、機器貸出、オンラインサービス案内、施設案内(PC教室やユーザーズルーム)等



「図書館学生アドバイザー制度」

図書館が主催する学生参加型イベントの企画運営や選書、学修相談など、大学院生が図書館スタッフとして幅広く活動し、学生の皆さんをサポートしています。



「キャリア・ピア・サポーター制度」

就職活動を終えた4年次生や大学院2年次生が、自らの体験をもとに、下級生の相談に応じます。学生がよりスムーズに今後の就職活動を進められるよう、具体的なアドバイスを行いサポートする制度となっており、就職活動にとって重要な冬期の数か月間、就職資料室で相談に応じています。



学生支援

チューター制度

この制度は、学生を一定のグループに分けて、グループごとに教員と学生とがふれあい、交流を行い、大学での有意義な学生生活を実現する制度です。

チューターは、中・高校の学級担任やホーム・ルームの先生に相当するもので、学生としての本分を全うし、より良い大学生活が送れるよう指導するとともに、個人的な問題についても相談に応じています。特定のチューターが継続的に関わりながら、大学での修学上のことや課外教育活動のこと、更には、一身上の問題や職業選択など学生生活全般にわたって指導助言を行っています。

(チューター制度に関する規程は**規程集**に掲載)

学生支援アドバイザー制度

学生支援アドバイザーは、学年やチューターグループを越えてアドバイザーとして学生を支援する専従の教員で、各学科に1人ずつ置かれています。具体的には、チューターを中心とした学生指導を支援し、連携しながら、学修や進路、その他学生生活に関わる相談に応じます。さらに、本学が行うFP(フォローアッププログラム)や他の教職員との連絡等にも対応します。

学生相談室

学生相談室にはカウンセラー(臨床心理士)が常駐し、全学生を対象として、学生生活上の様々な困りごとの相談に応じています。例えば、勉強や履修、不登校や無気力、休学や退学、進路や将来、あるいは一人暮らしや課外活動、対人関係、性格、心と体の健康や障がいなどについて一人で悩むこともあるでしょう。そんな時、学生の立場に立って話を聞き、解決に向けて一緒に話し合い、より充実した学生生活を送れるようにサポートします。また、学生のことについて、ご家族からの相談にも応じています。



Nexus21 1階

個人の秘密は固く守られていますので、安心して相談してください。開室時間は平日の9時から17時です。(女性カウンセラーもいます。)

(詳細はHITPO内の案内や学内の掲示をご覧ください。)

キャンパス・ハラスメント相談制度

ハラスメントのない明るい学生生活が送れるように、キャンパス・ハラスメント相談制度があります。プライバシーは守りますので、一人で悩みを抱え込まず相談員に相談してください。相談の仕方・仕組みについては、パンフレットなどで確認してください。(パンフレットはHITPO「諸手続き一覧」に掲載されています。)

【ハラスメントの例】

- 叱責、暴言などにより人格を傷つける言動を行う。
- 正当な理由もなく、図書や機器類の使用を制限し、学修や研究を妨害する。
- 正当な理由もなく、授業や課題に関する質問に答えなかったり、研究指導やアドバイスを怠ったりする。
- プライベートな用事や送り迎えを強要する。
- 指導に従わない学生に対して意図的に無視をしたり、暴言を浴びせたりする。
- 聞くに堪えない、性的な冗談や悪口を言う。
- 飲酒やお酒のお酌を強要する。
- 「男のくせに」「女のくせに」などと発言する。
- 性的指向や性自認、身体的特徴についてからかう。

障がい学生支援体制

＜基本姿勢＞ 建学の精神、教育方針及び「広島工業大学障がい学生支援規程」に基づき、障がいの有無に関わらず、すべての学生が平等に学びや成長の機会が得られる取組みを行います。

＜支援体制＞ 障がいのある学生が、障がいのない学生と同等の修学環境を得られるように、各学科・研究科及び各部署との連携のもとに学業上必要な支援を行います。

＜お問合せ窓口＞ 教学支援部 (082)921-4179

支援の流れ

- 問合せ相談** 支援を希望する学生は、教学支援部、保健室、学生相談室、チューターに相談することができます。
- 面談(必要な支援の確認)** 本人又は保護者等が、学科及び関係部署担当者と面談し、必要な支援内容を確認します。
- 支援内容の決定**
- 支援開始** 学科、授業担当教員、関係部署による支援を行います。
- 見直し** 状況に応じて支援の見直しを行います。

大学ホームページアドレス

<https://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/disability/>

オフィスアワー

オフィスアワーとは、「前期及び後期の期末試験期間を含む授業期間中、月曜日から金曜日までの間、教員が研究室等で学生からの質問、相談等に対応する時間」のことです。『この時間に研究室等を訪ねたら教員に会える』ことを示します。

オフィスアワーについての情報は、掲示板、HITPO、大学ホームページにより、また、研究室のドア付近へ掲示することで周知します。よく確認して、質問や相談がある人は有効に活用してください。

大学ホームページアドレス

<https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-student/officehour/>



修 学

教育課程表について

本学のカリキュラムは各学部・学科のカリキュラム・ポリシーに基づいて構成されています。学生の皆さんが卒業までに履修できる授業科目は、各学科の教育課程表に示されています。

教育課程表の見方

工学部電子情報工学科 教育課程表

1 区分	2 分野	科目コード ナンバリング コード	3 授業科目	4 単位数				5 開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考	
				必修	選択	自由	計	1年				2年				3年				4年					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
								1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
総合	基礎	ABL	ISP101H	目次教育論				2																	
		ABL	ISP102H	HITリベラルアーツ	1			1	2																
		ABL	ISP101S	アメリカ学 A		1		1	2	2	2	2													プールA
		ABL	ISP102S	ヨーロッパ学 A		1		1	2	2	2	2													プールA
		ABL	ISP103S	アジア学 A		1		1	2	2	2	2													プールA
		ABL	ISP104S	広島学 A		1		1	2	2	2	2													プールA
		ABL	ISP105S	スポーツ科学 A		1		1	2	2	2	2													プールA
		ABL	ISP106S	生涯スポーツ A		2		2		2		2													プールA
		ABL	ISP207S	アメリカ学 B		1		1					2	2	2	2									プールB
		ABL	ISP208S	ヨーロッパ学 B		1		1					2	2	2	2									プールB
		ABL	ISP209S	アジア学 B		1		1					2	2	2	2									プールB
社会実践教育科目	実践基礎	ABJ	FPA101H	社会実践 A	2			2	4																
		ABJ	FPA102H	社会実践 B	2			2		4															
		ABJ	FPA103H	社会実践 C	2			2			4														
		ABJ	FPA104H	社会実践 D	2			2				4													
		ABJ	FPA205H	社会実践 E	2			2					4												
		ABJ	FPA206H	社会実践 F	2			2						4											
		ABJ	FPA207H	社会実践 G	2			2							4										
		ABJ	FPA208H	社会実践 H	2			2								4									
	実践発展	ABJ	DPB401H	専門ゼミナール A	2			2					2												
		ABJ	DPB402H	専門ゼミナール B	2			2						2											
		ABJ	DPB403H	卒業研究 A	2			2									4								
		ABJ	DPB404H	卒業研究 B	2			2											4						
専門教育科目	専門基礎	ABM	FSC101H	技術者倫理	1			1						2											
		ABM	FSC102S	知的所有権		2		2								2									
		ABM	FSC203S	産学連携実習		2		2									4								
		ABM	FSC104S	電気通信法規		2		2												2					
科目	回路・通信	ABM	FSC225S	情報コミュニケーション概論	2			2	2				2												組入(情コミ)
		ABM	CCE101H	基礎電気回路Ⅰ	2			2		2															※1
		ABM	CCE202H	基礎電気回路Ⅱ	2			2			2														先行※1
		ABM	CCE203S	電子回路		2		2				2													
		ABM	CCE204S	通信工学	2			2					2												
		ABM	CCE205S	制御工学	2			2						2											
		ABM	CCE206S	電気回路理論	2			2						2											
		ABM	CCE207S	電子計測	2			2							2										
		ABM	CCE208S	組込みシステム	2			2								2									
		ABM	CCE309S	アナログ電子回路	2			2										2							高次
		ABM	CCE110S	デジタル回路	2			2										2							
		ABM	CCE211S	計測工学	2			2										2							
		ABM	CCE212J	応用電気回路			2	2												2					
教職教育科目	教職教育	ABT	TCK101J	職業指導Ⅰ				2	2					2											※2
		ABT	TCK102J	職業指導Ⅱ				2	2						2									先行※2	
		ABT	TCK103J	工業概論 A				2	2					2											
		ABT	TCK104J	工業概論 B				2	2						2										
単位数及び週時間数合計				60	137	17	214	12	36	36	34	30	4	4	4	26	26	28	26	0	0	0	0		
								10	28	24	20	28	44	22	8										

10 リテラ	ABM	RMZ002H	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B	0				4																	
-----------	-----	---------	-----------	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

卒業に必要な単位数

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目	必修科目	必修科目	選択科目	
9	15	24	27	49	124	11

- ①教育課程の区分と分野
- リベラルアーツ教育科目 …… 総合、人文、社会、外国語
 - 社会実践教育科目 …… 実践基礎、実践発展
 - 専門教育科目 …… 専門基盤、各専門分野、教職教科 ■152ページ参照
- ②科目コードとナンバリングコード …… ■50ページ参照
- ③単位制度と単位数 …… 本学の教育課程は単位制度に基づいて編成され、教育課程を構成する個々の授業科目の単位数は、国が定める期間(45時間)に相当する学修を1単位と計算します。この学修の中には、授業時間内の学習のほか、事前及び事後学習の時間が含まれています。■49ページ参照
- ④履修の区分
- 必修科目 …… 卒業までに修得しなければならない科目です。
 - 選択科目 …… 自分が専攻する分野の中で必要に応じて選択し履修する科目です。
 - 自由科目 …… 教養と知識を得るため、自ら進んで、履修できる科目です。
- ⑤年次、開講期、週時間数
- 1年次～ …… 再入学及び編入学等を除き、入学時を第1年次として起算し、進級ごとに年次が上がります。
 - 開講期 …… 開講期は、前期(14週)と後期(14週)に大きく分けられ、この14週の期間をセメスターと呼びます。セメスターを前半と後半に分けた各7週をクォーターと呼び、年度内の4つのクォーターを順に第1クォーター(1Q)、第2クォーター(2Q)、第3クォーター(3Q)、第4クォーター(4Q)と呼びます。
- | | | | | | | | | | | | |
|--------|----|----|-------|----|----|--------|-----|-----|-------|----|----|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 前期：14週 | | | | | | 後期：14週 | | | | | |
| 1Q：7週 | | | 2Q：7週 | | | 3Q：7週 | | | 4Q：7週 | | |
- 週時間数 …… 2は週100分、4は週200分の授業を行います。
 - 集中講義 …… 一定期間に集中して授業を行うものです。履修申請時に周知します。
- ⑥プール科目群 …… 「アメリカ学A」など毎クォーター開講される科目の事で、各クォーター14科目が同時限に開講されます。2年次までに開講されるプールAと3年次以降に開講されるプールBがあり、1クォーターあたり、それぞれ1科目まで履修することができます。希望抽選により年度初めに当該年度分の履修科目を決定します。なお、卒業にはプールA、プールBのそれぞれから5単位以上修得しなければなりません。
- ⑦組入科目 …… 他学科が開講する専門教育科目を自学科の選択科目として履修できます。履修可能な人数は開講学科の受入れ人数枠によります。
- ⑧先行修得科目 …… 修得する順番が決まっている科目です。この例では、「基礎電気回路I」を修得後に「基礎電気回路II」が履修できるということです。
- ⑨高次レベル科目 …… 学びの深さと広さにおいて、自らの学習意欲を満足させられる科目です。各学科における分野別の特色が表れています。
- ⑩リメディアル科目 …… 高校レベルの内容を復習する科目で、単位はありません。認定試験の結果、理解度が基準に達していない場合は本科目を履修し、理解を深めます。
- 2年次末時点で合格済みであることが3年次に進級するための条件になります。
- ⑪卒業に必要な単位数 …… 本学を卒業するために必要な単位数です。■61ページ参照

TOPICS

【学修の順次性とカリキュラム・ツリー】

HITPO

大学での学びの成果を確実に身に付けるためには、基礎から順に学修を深めるようにそれぞれの科目の目的や概要を把握したうえで、関連する科目を結び付け、学んでいくことが大切です。このことを、学修の順次性といいます。

本学では、この学修の順次性を各学科のカリキュラム・ツリーで表しています。カリキュラム・ツリーでは授業科目間のつながりを矢印で示し、その向きによって、履修する順序を確認することができます。矢印の線の種類には、授業科目の関連のみを表すもの、望ましい履修順序を示したもの、必ずその順番に修得しなければならない等の意味があります。

このように、カリキュラム・ツリーは、学科の体系的なカリキュラムの全体像を一目で俯瞰できるので、履修の計画に役立ちます。ぜひ活用してください。

単位制度

1.単位

本学の教育課程は単位制度に基づいて編成されています。教育課程を構成する個々の授業科目の単位数は、科目ごとに教授方法（講義、演習、実験、実習）及び総授業時間数等に応じて定まり、教育課程表に記載されています。

2.事前・事後学習

各授業科目において、授業の時間以外に主として下表の基準で事前及び事後の学習時間が定められ、各授業科目のシラバスに記載されています。

事前・事後学習は、実質上1日ごと又は1週ごとにその時間数を学内施設や自宅で行い、それが困難な場合は、休日や学生休業中に補う必要があります。

単位修得に必要な授業時間と事前・事後学習時間の基準

単位数	教授法	授業回数	事前・事後学習
1単位	講義	1コマ×7回	200分× 7
	演習・実験・実習	1コマ×14回 2コマ×7回	50分×14
2単位	講義	1コマ×14回	200分×14
	演習・実験・実習	2コマ×14回	50分×28

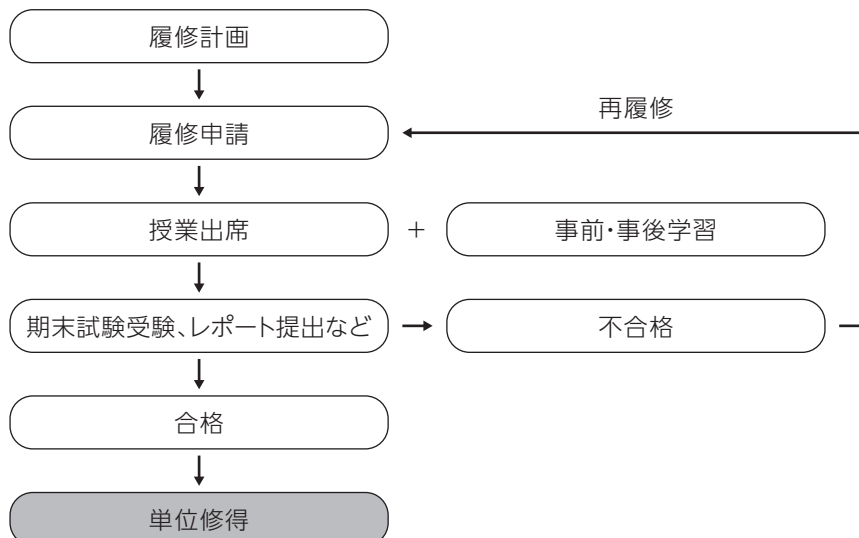
1コマ(2時限)=100分

※「講義」と「演習・実験・実習」を併用する授業科目の単位数は、それぞれの授業回数に応じた単位数を合算します。

3.単位の認定

単位の認定は、平常の履修状況や学習態度なども考慮しながら、所定の時期に、期末試験及びその他の試験や報告書（レポート）の成績などを総合して評価します。ただし、所定の手続きがなされていない場合（履修の未申請、授業料未納等）及び原則として出席時間が規定授業時間数の3分の2に満たない場合には単位が認定されないことがあります。

（単位修得までの流れ）



1. 履修計画

履修計画とは、卒業までの4年間でどのような科目を選び、どのように単位を修得していくかを決めることです。教育課程表、カリキュラム・ツリー及びシラバスを参考に、HITPOを利用して履修計画を立ててください。

2. 年間履修上限単位数

本学では、履修する科目について、事前学習・事後学習を含む授業外の十分な学修時間を確保し、学生のみなさんが授業内容を深く真に身に付けられるように、1年間に履修申請できる単位数の上限を定めています。これをCAP制(キャップせい)といい、履修計画を立てる際に注意が必要です。

ただし、自由科目はCAP制の除外科目となります。

1年間に履修申請できる単位数(自由科目は除く)

工学部、情報学部、環境学部、生命学部(生体医工学科を除く)		生命学部 生体医工学科	
基本トラック学生	発展トラック学生	基本トラック学生	発展トラック学生
40※1	48※1	52※2	

※1 半期で履修申請できる上限は24単位(発展トラック学生は32単位)です。

※2 生体医工学科は半期の履修上限はありません。

3. 履修ルール

- ・履修申請を行わない学生に対しては、授業科目の履修を許可しません。
- ・既に単位修得した授業科目の履修はできません。授業担当教員の許可を得て聴講した場合であっても、履修申請はできないため、成績評価は行えません。
- ・上級年次に開講される授業科目を履修することはできません。(下級年次に開講される授業科目は履修することができます)
- ・同一時限に開講されている授業科目を重複して履修することはできません。
- ・分割科目は、指定されたクラスで履修しなければなりません。
- ・先行修得科目は、定められた順に修得しなければ、次の科目を履修することができません。また、同時に履修することもできません。(例)「〇〇〇学Ⅰ」の修得後「〇〇〇学Ⅱ」が履修可能

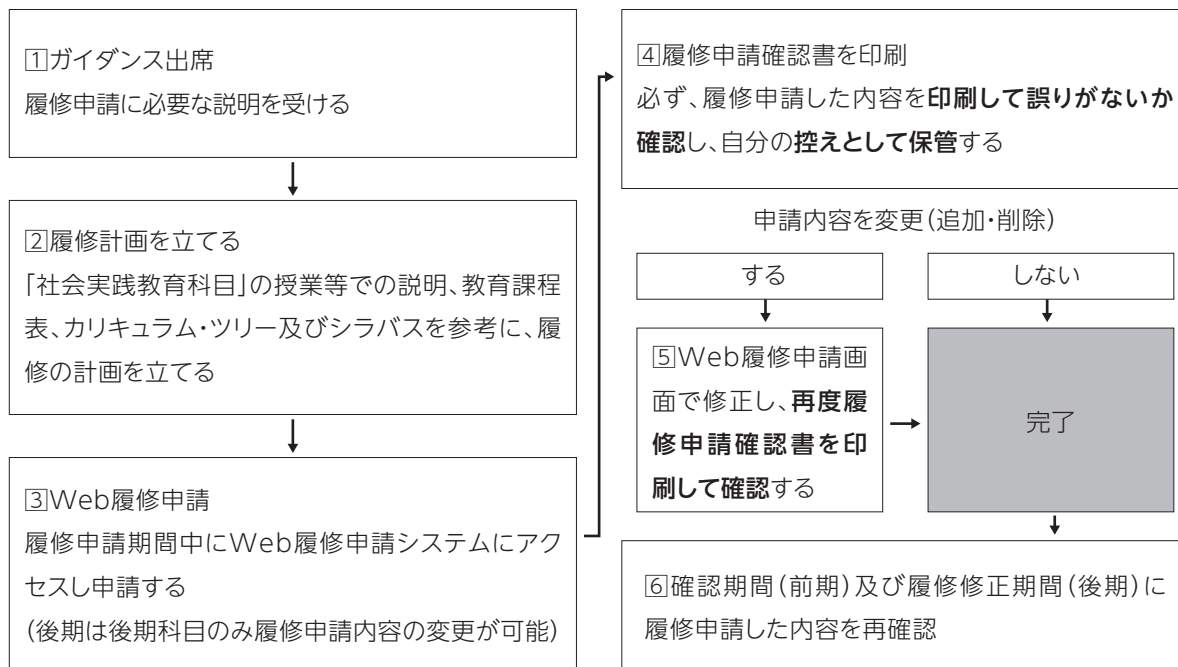
4. 履修申請

履修申請とは、履修計画に基づいて、1年間に履修する授業科目を前期の履修申請期間内(後期は履修修正期間内)にWeb履修申請システムや所定の様式を利用して申請する手続きのことです。

履修申請をしなければ、授業科目を履修し、その単位を修得することができません。仮に、授業に毎回出席して、試験等の結果が合格点(60点以上)であったとしても、履修申請していなければ、単位は認定されません。**履修申請は必ず本人が自己の責任において行ってください。**

4-1.履修申請の流れ

新入生は、4月の初めにガイダンス等にて、履修申請についての説明があります。



<履修申請を行う際の注意点>

- ・履修申請後や申請内容を変更した後は、**必ず「履修申請確認書」を印刷**して正しく申請されているか確認をし、**自分の控えとして大切に保管**してください。
- ・履修申請内容の変更(追加・削除)は、履修申請期間、確認期間、履修修正期間(※)中であれば、何度でも行うことができますが、**指定した期間を過ぎての追加・削除は受け付けできませんので注意**してください。
※履修修正期間は、後期の履修申請内容のみ変更が可能
- ・申請漏れにより、進級や卒業が出来なくなる等の**不利益をこうむることがないように、期間内にしっかり確認**を行ってください。

4-2.履修申請期間及び確認期間

- ・履修申請期間及び確認期間は、前期の初めに約1週間設けます。期間については掲示・HITPO等を必ず確認してください。
- ・履修申請期間及び確認期間に、1年間で履修する授業科目(前期、後期科目)の履修申請を行ってください。
- ・履修申請期間及び確認期間内に一度も履修申請していない場合は、チューター及び保証人等に通知します。

4-3.履修修正期間

- ・履修修正期間は、後期の初めに約1週間設けます。期間については掲示・HITPO等を必ず確認してください。
- ・履修修正期間では、後期科目のみ履修申請内容の変更ができます。
- ・履修修正期間には、必ずWeb履修申請システムにアクセスし、再度「履修申請確認書」を印刷して履修申請期間に申請した内容に間違いがないか確認してください。

4-4.抽選エントリー期間

- ・「抽選により履修者が決定する授業科目」を履修する場合に、抽選にエントリーする期間です。
抽選にエントリーしなければ、抽選対象の授業科目を履修することはできません。
- ・抽選エントリー期間は、前期の初めに設けます。期間については掲示・HITPO等を必ず確認してください。
- ・抽選にエントリーして当選した授業科目の履修取消はできません。
- ・抽選にエントリーする方法(希望順位、科目数など)については、ガイダンス等でお知らせします。

4-5.Web履修申請の手順

Web履修申請は、HITPOから「Web履修申請システム」にアクセスして行います。
Web履修申請システム内に利用マニュアルを載せていますので、確認しながら行ってください。

4-6.教学支援部(教務関係)窓口での履修申請の手順

Web履修申請の他に、教学支援部(教務関係)窓口で所定の様式による申請が必要な科目があります。
申請手続きには、授業担当教員の承認印が必要な場合があるので、早めの手続きを心掛けてください。

掲示、HITPOに載っている申請方法及び履修条件等を確認し、必ず履修申請期間内に申請書を教学支援部へ提出し、手続きを完了してください。

【窓口での申請が必要な科目】

- ・授業科目「学外研修」「ボランティア実習」「野外活動実習」「地域課題解決実習」等
- ・単位互換科目(放送大学、教育ネットワーク中国、広島修道大学) ■54ページ
- ・大学院授業科目
- ・他学科で履修可能な科目
- ・卒業見込者における特例履修で履修可能な科目 等

その他、窓口での手続きが必要な科目については、随時、掲示やガイダンス等でお知らせします。

大学院授業科目の先行履修について

卒業見込者のうち発展トラック学生又は大学院入学試験(学内推薦及び一般)の合格者は、本学の大学院で開講される授業科目(コースワーク科目及び特別演習並びに特別研究及びインターンシップ科目を除く。)を、自由科目として先行履修することができます。ただし、履修可能な単位数は8単位までです。
※学士修士接続早期修了制度における取扱いについては教学支援部で確認してください。

卒業見込者のための特別な措置について

卒業見込者等のための特別な措置として、特例履修があります。詳細は、履修申請期間内に掲示される内容を確認し、手続きを行ってください。ただし、特例履修の許可は、学長が学務委員会の議を経てその可否を決定するため、履修申請書を提出しても不許可となる場合もあります。

不明な点や不安な点があれば、早めに教学支援部窓口を訪ねてください。

単位互換制度

単位互換制度とは、他大学で科目を履修し、本学の単位として認定する制度です。令和6年4月現在、本学には「教育ネットワーク中国」「放送大学」「広島修道大学 人間環境学部」との単位互換制度があります。希望者は教学支援部窓口へ来てください。(単位互換制度に係る最新情報は、掲示等でお知らせします。)

	放送大学	教育ネットワーク中国	広島修道大学
対 象 者	全学生	全学生	環境学部の2年次以上の学生
目 的	・幅広い教養を身につける ・自分のペースで学習できる	広島工業大学には開講されていない分野の科目を履修	広島工業大学には開講されていない分野の科目を履修
履 修 申 請	専用の出願票 ※Web履修システムからは申請できません		
出 願 時 期	前期・後期それぞれ出願可能 ※ガイダンスへの出席が必要 (日程は、単位互換に関する 掲示板へ掲示)	前期に前期・後期の科目を 一括して出願(特別に指定する 期間内) ※一部、追加申請可能 (時期については別途通知)	前期・後期それぞれ出願可能 ※年間6単位が上限
出 願 先	教学支援部(教務関係)窓口		
履 修 方 法 履 修 場 所	・テレビ・ラジオによる放送授業(CS放送等) ・印刷教材による学習 ・自宅または放送大学広島学習センター	科目開設大学(教育ネットワーク中国の単位互換事業に加盟する大学・短期大学および高等専門学校)	広島修道大学 (人間環境学部)
認定可能科目 合 計 単 位 数	在学中に認定が可能な単位数の上限は30単位		
認定科目区分	リベラルアーツ教育科目		
	・選択科目 ※上限は10単位 ・自由科目	・選択科目 ・自由科目 ※認定科目区分については出願後に決定	・選択科目 ※上限は4単位 ・自由科目
	専門教育科目		
	—	・選択科目 ・自由科目 ※認定科目区分については出願後に決定	・選択科目 ※上限は4単位 ・自由科目
履修対象科目	ガイダンス時に案内	教育ネットワーク中国HP参照	掲示により案内
受 講 料 授 業 料	1単位当たり6,000円(単位認定されれば、最大10単位まで大学が助成)	不 要 (一部受講料が必要な科目あり)	不 要
注 意 点	認定科目区分によって年間履修上限単位数及びGPAへの算入対象が変わります。		

授業

1. 授業時間

コマ 時限	I		II		III		IV		V	
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	8:50 9:40	9:40 10:30	10:45 11:35	11:35 12:25	13:15 14:05	14:05 14:55	15:10 16:00	16:00 16:50	17:05 17:55	17:55 18:45

2. 学年暦

HITPO

各授業回の実施日はあらかじめ決まっており、HITPOや新入生・在学生ガイダンスで配付する学年暦で確認できます。
定められた回数の授業を確保するため、祝日等を授業日に充てるほか、異なる曜日に振替えて授業を実施する場合があります。間違って授業を欠席することのないよう、事前に学年暦を確認してください。

3. 授業時間割表

授業時間割表は、年度初めにホームページやNexus21 1階に掲示するとともに、新入生ガイダンスで配付します。
時間割は、変更となる場合があります。変更は、掲示板で周知しますので、必ず確認してください。

<履修上の留意事項>

履修に当たり、次の注意事項について心得、授業進行の妨げにならないよう、常識ある行動を強く求めます。

- ・授業中は教員の指示に従うこと。
- ・不必要な私語・会話は慎み、他の学生の履修に支障となる行動をとらないこと。
- ・授業中は許可なく教室の退室又は入室をしないこと。
- ・教室では静穏な環境を保ち、ノートと教科書、筆記用具などを準備し、授業を受ける姿勢を保つこと。
- ・授業中は許可された場合を除き、携帯電話などの通信端末は電源を切り、鞆の中にしまっておくこと。
- ・教室は清潔を保ち、特別に許可された教室を除き、教室内での飲食をしないこと。また、飲食物は鞆の中にしまっておくこと。
- ・身体的な問題で座席移動等の対応が必要な場合は、担当教員に申出ること。
- ・授業開始時間までにICカードリーダーに学生証をかざし、出席登録を行うこと。(授業開始10分前から可能)
- ・学生証を他人に預けて出席登録を依頼したり、預かって登録を行ったりしないこと。関係した者の双方は学則第37条に基づき処罰される。
- ・原則、授業回数2/3以上の出席が無い場合、単位は認定されないことがある。
- ・クラブ活動、就職試験などでやむを得ず欠席する場合は、事前に欠席届に承認印をもらって授業担当教員に提出すること。
- ・やむを得ず欠席した場合は、当該講義内容を自主的に学習しておくこと。
- ・授業中に課されたレポート・宿題等は、期日内に指定場所に提出すること。
- ・毎回、指示された事前学習と事後学習を確実にに行い、授業内容の理解、修得に努めること。

4. 休講・補講

HITPO

休講とは、担当教員又は大学の都合等で授業が実施されないことを言います。補講とは、休講あるいは正規授業時間内で授業実施が困難な場合、これを補うために行う授業です。

休講・補講情報は、休講日・補講日の2週間前からHITPOと掲示板に掲載します。(▶29ページ「学生への通知・連絡」)特に注意して、毎日見てください。なお、授業開始時間から20分経過しても、教員が教室に入室されないときは、教学支援部に連絡し、指示を受けてください。

台風・地震・大雨などの災害時の休講情報は、次ページの「自然災害時の授業等の取扱い」を参照してください。

5. 出席・欠席

HITPO

履修申請を行った授業科目には必ず全て出席しなければならないことは言うまでもありません。やむを得ず授業を欠席する場合は、「欠席届」を授業担当教員に提出しなければなりません。本学には公認欠席の制度はありません。欠席届を提出しても、出席回数が3分の2に満たない場合は、その授業科目の単位は認定されないことがあります。

なお、「欠席届」により届出を要する事由と手続きについては次のとおりですが、手続きなどで不明な点があれば、教学支援部に問い合わせてください。

「欠席届」により届出を要する事由と手続き

届出事由	手続き	様式
・課外活動	部長、顧問その他これらに準ずる教職員の承認を得て授業担当教員に提出	様式1 (短期 欠席)
・就職活動	就職委員の承認を得て授業担当教員に提出	
・負傷・疾病(2週間未満)	授業担当教員に提出	
・公共交通機関の遅延	遅延証明書もしくはこれに準ずる証明書を添えて授業担当教員に提出	
・その他	授業担当教員に提出	
・負傷・疾病(2週間以上)	医師の診断書を添えてチューター及び教学支援部に提出	様式2 (長期 欠席)
・父母(準ずる者を含む)の死亡	チューター及び教学支援部に提出	
・その他1ヶ月以上の長期欠席	//	

6.自然災害時の授業等の取扱い

台風・大雨・大雪などの影響により、本学周辺の小学校(※)のいずれかの学区において「避難指示」が発令された場合(※1)やJR西日本山陽本線の広島駅から五日市駅までの区間が運休となる場合(※2)、またはその他の事由により大学での授業実施に支障をきたす場合は、授業を休講(期末試験の中止を含む)とし、本学ホームページ上などで通知します。ただし、オンライン授業を予定している科目については、実施します。

(1) 避難指示等の発生時間と授業等の休講について

※1※2の状況	授業の取扱い
6時の時点で継続	1・2時限及び3・4時限は休講
6時から8時49分(1時限開始時刻)までの間に発生	
8時50分から10時44分(3時限開始時刻)までの間に発生	3・4時限は休講
10時45分の時点で解消	5・6時限以降は実施
10時45分の時点で継続	5・6時限以降は休講
10時45分から13時14分(5時限開始時刻)までの間に発生	
13時15分から15時9分(7時限開始時刻)までの間に発生	7・8時限以降は休講
15時10分から17時4分(9時限開始時刻)までの間に発生	9・10時限以降は休講

関係情報の入手先

中国地方の警報・注意報(気象庁)	https://www.jma.go.jp/jp/warn/212.html
広電の運行状況	https://www.hiroden.co.jp/
JRの運行状況	https://trafficinfo.westjr.co.jp/list.html
広島県防災Web	https://www.bousai.pref.hiroshima.jp/

※本学周辺の小学校は、五日市観音小学校、五日市観音西小学校、五日市中央小学校、楽々園小学校、佐方小学校です。

大学からの緊急時の休講情報の入手先について

緊急事態等の休講情報(本学)	
https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-student/disaster/info.html	

- (2) 補講の措置について…上記理由により休講した授業は、災害振替日、授業時間割の空き時間、土曜日若しくは学生休業中に補講を行います。補講の実施日などについては、改めて掲示・HITPO等により周知します。
- (3) 期末試験の扱いについて…期末試験が中止となった場合は期末試験期間中又は期間後に延期して実施します。試験の実施日や時間など詳細は、掲示・HITPO等により周知します。
- (4) 安否確認について…大規模自然災害等が発生した場合、安否確認のために、安否確認登録用フォームのURLを大学から対象学生にメールで送ります。まずは自身の安全確保を優先し、大学からメールが届いた場合は、メール内容にしたがって、フォームへの登録をお願いします。

試験

試験は、筆記試験のほか、口述試験や論文、実技、成果物、報告書(レポート)の提出等があります。

また、実験、実習、演習、製図及び体育実技等は、平常の成績をもって、これに代えることがあります。

試験の機会を不注意で逸すると、単位が認定されません。以下の注意事項をよく読んで十分理解し、試験に臨んでください。

1.試験の種類

期末試験	第1クォーター末、前期末、第3クォーター末及び後期末に全履修生を対象に行う試験。 注) 期末試験は、通常の授業と異なる日時・場所で実施する場合があるので、間違えないよう、期末試験時間割表(その都度2週間前に発表)をよく確認してください。
追試験	■58ページの表に定める欠席事由によって、期末試験が受けられなかった者に対して行う試験。医師の診断書等、欠席の事由を証明できる書類に欠席届を添付し、担当教員に申出なければならない。(担当教員が欠席事由について妥当と判断した場合に行います。)
再試験	学修状況が良好であるにもかかわらず、期末試験の成績が不合格であった者に対して、再度行う試験。(担当教員が必要と認めた場合に行います。)

期末試験以外の試験については、担当教員の指示の他、Nexus21 1階の掲示板に掲示する等の方法で周知します。

2.試験の受験資格

次の各項のいずれかに該当する者は、原則として、試験を受けられません。

- (1) 試験を受けようとする授業科目の履修申請を行っていない者
- (2) 出席回数が規定授業回数の3分の2に満たない者
- (3) 授業料、施設設備資金その他の諸納入金を、所定の期日までに完納していない者
- (4) 受験中に学生証を所持していない者
- (5) 試験開始後20分以上遅刻した者

3.試験受験上の注意

- (1) 期末試験時の試験室の指定

試験時間割表に従って、履修申請を行っているクラスで受験してください。

試験室には試験開始時間までに入室し、着席してください。試験中の一時退室はできません。再入室が認められない場合もあるので、トイレ等は事前に済ませてください。

- (2) 重複受験

期末試験で同じ時間帯に試験科目が2科目以上重なる場合は、期末試験開始日の3日前までに教学支援部に申出て所定の手続きを行ってください。

- (3) 期末試験時の座席の指定

各試験室に座席指定表が貼付されている場合は、確認のうえ指定の席に着席してください。

- (4) 学生証の提示

試験室では、学生証を必ず机の上に出してください。学生証を忘れた者は、仮学生証を教学支援部内の証明書自動発行機から発行してください。ただし、発行可能回数は年間3回までです。

- (5) 試験監督者の指示

受験中は、試験監督者の指示に従ってください。指示に従わない者は、退場を命じられたり、不正行為を行ったとみなされたりすることがあります。

(6) 不正行為

本学では、不正行為に対しては厳格に対処します。

受験中に不正行為を行った場合は、次のとおり、その行為の内容により、学則第37条の適用(懲戒処分)を受けます。

①受験中に次の不正行為を行った場合は、**当該期における不正行為を行った科目の単位を認定しないこととします。**

- ア 試験監督者の指示に従わない者
- イ 覗き、私語又は動作による連絡等を行った者
- ウ その他、上記ア、イに類似する行為を行った者

②受験中に次の不正行為を行った場合は、**当該試験期間中の全試験科目の単位を認定しないこととし、1週間以内の停学とします。**

- ア 使用許可以外の道具等を使用した者
- イ カンニングペーパー等を使用した者
- ウ 替玉受験をした者(双方)
- エ 答案を交換した者(双方)
- オ 机、体、所持品等に試験に関する書込みをした者
- カ 電子機器等による連絡を行った者(双方)
- キ 他受験者の答案を写す又は故意に写させた者
- ク その他、上記アからキに類似する行為を行った者

③再度、不正行為を行った場合は、**2か月以上の停学とします。**

注) 試験中、計算機能や翻訳機能、通信機能等がついた時計や携帯電話等の電子機器は使用してはいけません。

携帯電話等の電子機器は電源を切って、身に付けずバッグの中にしなうこと。

試験のために配付された用紙は、監督の指示がない限り全て提出し、試験室から持出してはいけません。

また、試験監督者の許可なく退室してはいけません。

追試験を願出するための欠席事由と必要な証明書類

欠席事由	条件	証明書類
1. 病気、傷害	医師が就学には耐えられないと診断した場合	医師の診断書又はそれに類する証明書 (「学校において予防すべき感染症」は治癒証明書 ■192ページ参照)
2. 忌引	二親等以内の親族の死亡	死亡を証明する書類又は会葬礼状 (死亡日明記のもの)
3. 災害	地震、火災等で被災した場合	罹災証明書
4. 交通機関の支障	通学区間における全ての交通機関が 運休又は30分以上遅延した場合	運休又は遅延証明書
5. 就職試験	採用選考を伴わない会社説明会及び インターンシップ等は含まない	企業からの通知書等
6. 単位互換科目の 試験との重複		単位互換科目受験証明書又はそれに類する 証明書(科目開設大学の発行したもの)
7. 教育実習等の 実習期間との重複	本学科目「教育実習」「臨床実習」履修者	
8. 勤務先の都合に よるもの	勤務先(アルバイト等を除く)の都合により、 やむを得ない場合	やむを得ない事由を記した勤務先の証明書 又はそれに類する証明書
9. 裁判員としての 裁判への参加		裁判員として裁判への参加を証明するもの
10. その他	欠席事由が、1から9の欠席事由に準ずると 認められる場合	欠席事由を証明する書類等

學業成績表

AA24000 工大 太郎

所 属	工学部 電子情報工学科 3年次	
(2024年04月01日)	【入学】入学	

科目コード		科目	単位	評価	修得期	
ナンバリングコード						
		授業科目				
		リメディアル科目				
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	0	P	2024	1Q
		リベラルアーツ教育科目				
		リベラルアーツ必修				
ABL	0000000H	〇〇〇〇〇	1	A	2024	1Q
ABL	0000000H	〇〇〇〇〇	1	@	2024	1Q
ABL	0000000H	〇〇〇〇〇	1	A	2024	後期
ABL	0000000H	〇〇〇〇〇	2	A	2024	前期
ABL	0000000H	〇〇〇〇〇	2	B	2024	後期
ABL	0000000H	〇〇〇〇〇	2	C	2025	前期
		リベラルアーツ選択				
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	1	A	2025	1Q
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	1	A	2026	1Q
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	1	A	2024	2Q
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	1	@	2024	3Q
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	1	@	2024	4Q
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	1	A	2025	2Q
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	1	A	2025	3Q
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	1	B	2026	2Q
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	2	A	2026	前期
ABL	0000000S	〇〇〇〇〇	2	A	2024	後期
		社会実践教育科目				
		社会実践必修				
ABJ	0000000H	〇〇〇〇〇	2	B	2024	1Q
ABJ	0000000H	〇〇〇〇〇	2	C	2024	2Q
ABJ	0000000H	〇〇〇〇〇	2	B	2024	3Q
ABJ	0000000H	〇〇〇〇〇	2	A	2024	4Q
ABJ	0000000H	〇〇〇〇〇	2	A	2025	1Q
ABJ	0000000H	〇〇〇〇〇	2	A	2025	2Q
ABJ	0000000H	〇〇〇〇〇	2	@	2025	3Q
ABJ	0000000H	〇〇〇〇〇	2	A	2025	4Q
ABJ	0000000H	〇〇〇〇〇	2	B	2026	前期
		専門教育科目				
		専門必修				
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	2	B	2024	前期
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	1	A	2024	1Q
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	1	B	2024	2Q
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	1	A	2024	2Q
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	2	A	2025	前期
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	1	B	2024	前期
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	1	B	2025	3Q
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	1	B	2025	3Q
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	1	A	2024	4Q
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	1	A	2024	4Q
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	2	A	2025	後期
ABM	0000000H	〇〇〇〇〇	2	A	2026	前期

[illegible]

(評価)@:100~90 A:89~80 B:79~70 C:69~60 D:59~0 P:認定

＜学業成績の発表＞

前期分は9月1日、後期分は3月1日にHITPOで開示します。ただし、日曜・祝日等により、変更となる場合がありますのでHITPOのお知らせ・掲示等を確認してください。

＜成績に関する質問＞

学業成績表開示後、不明な点があれば、所定の期間内に「HITPO成績質問票」(HITPOのコース管理システム内)で授業担当教員へ問合せください。

＜学業成績証明書の発行＞

就職や奨学金受領手続きなどで学業成績証明書が必要な場合は、教学支援部内の証明書自動発行機により申し込んでください。

修得した授業科目名、評価(Dを除く)、修得単位数及び通算GPAを記載して発行します。

なお、評価「@」は「S」、「P」は「認定」に置換えるものとします。

進級・卒業

1.在学期間と休学期間

在学期間とは、本学に在籍している期間から休学期間を除いた期間です。休学し、在学期間が不足すると進級できないので、休学にあたっては十分そのことに留意してください。

休学期間は、半年（前期又は後期）あるいは1年（前期及び後期）単位で計算します。このため、前期又は後期の途中から（又は途中まで）休学すると、その期は休学期間として計算します。

また、前期終了の時点で、在学期間及び卒業に必要な単位数に算入する単位数による進級の要件を満たした場合であっても、年度末まで進級は認められません。休学については、**▶188ページ**を確認してください。

詳細については、教学支援部に問合せってください。

2.卒業に必要な単位数

学則第35条に定める卒業に必要な単位数の計算については、下の図に示すとおり行います。リベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目の必修科目、選択科目それぞれに定められた単位数を下回っていると、卒業に必要な単位数を修得していないことになります。

▶71ページ以降の各学科の教育課程表で授業科目名や単位修得条件等を確認し、履修計画を立てましょう。

【学科別 卒業に必要な単位数】

学部名	学科名	リベラルアーツ教育科目		社会実践教育科目及び専門教育科目		合計
		必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	
工学部	電子情報工学科	9	15	51	49	124
	電気システム工学科			54	46	
	機械システム工学科			65	35	
	知能機械工学科			59	41	
	環境土木工学科			58	42	
	建築工学科			65	35	
情報学部	情報工学科	8	16	42	58	124
	情報コミュニケーション学科			40	60	
環境学部	建築デザイン学科	9	15	51	49	124
	地球環境学科			46	54	
生命学部	生体医工学科	9	15	104	4	132
	食品生命科学科			45	55	124

3.進級及び卒業の要件

入学後の年次については、在学期間と卒業に必要な単位の修得単位数に応じて、上の年次に進級できる制度となっています。進級及び卒業の要件は次のとおりです。

	在学期間	卒業に必要な単位数に 算入する単位数	リメディアル科目
2年次への進級	1年次末の時点で1年間以上	単位数による進級制限なし(※)	—
3年次への進級	2年次末の時点で2年間以上	64単位以上	2年次末の時点で合格済
4年次への進級	3年次末の時点で3年間以上	104単位以上	—
卒業するためには	4年次末の時点で4年間以上	卒業に必要な単位数を参照	—

※1年次末の段階で卒業に必要な単位数が30単位未満(生体医工学科は46単位未満)の者は、教員から履修指導があります。また、1年次中に3年次への進級制限が確定した場合は通知を行います。

特に留意が必要なことは、各学科に定められている、リベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目の選択科目における卒業に必要な単位数を超えて修得しても、超えた単位数は、卒業に必要な単位数には算入されないということです。

卒業するためには、教育課程表の下部に示されるプール科目等の修得要件を併せて満たす必要があります。以下に、進級制限にあたる例を挙げていますので、ご参照ください。

【進級制限にあたる例】

ある学科で、リベラルアーツ教育科目の選択科目における卒業に必要な単位数は、15単位と定められているとします(表①)。この場合、15単位以上修得(表②での26単位)しても、卒業に必要な単位数として算入されるのは15単位までとなります。結果、「卒業に必要な単位数に算入される単位数」は合計54単位となり、進級制限となります。(表③)

表①				表②				表③			
区分	卒業に必要な単位数			修得単位数				修得単位数のうち、卒業に必要な 単位数に算入される単位数			
リベラル アーツ 教育科目	必修科目	選択科目	(小計)	必修科目	選択科目	自由科目	(小計)	必修科目	選択科目	自由科目	(小計)
	9	15	24	5	26	2	33	5	15		20
社会実践 教育科目 及び専門 教育科目	必修科目	選択科目	(小計)	必修科目	選択科目	自由科目	(小計)	必修科目	選択科目	自由科目	(小計)
	51	49	100	10	24	2	36	10	24		34
合 計			124				69				54
3年次への 進級要件	・2年間以上の在学 ・要卒64単位以上の修得 ・リメディアル科目合格										

【卒業のための分野別の修得要件】

卒業に必要な単位数に算入する単位数の要件の他、プール科目については、プールAから5単位以上、プールBから5単位以上修得することが卒業の要件となります。

※学科によって、専門科目の分野別に卒業に必要な修得単位数が定められている場合があります。(各学科の教育課程表の欄外を参照)

窓
各種
手続

H
2
0
2
4
I
T
.
E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

教育課程

教育課程

リベラルアーツ教育科目 全学共通

現代社会が抱えている多くの課題を解決するにあたっては専門分野にとどまらず多分野にわたって知識が必要となります。このため、専門分野を学ぶ皆さんも異分野の教養と広い視野が必要不可欠です。実社会では、さまざまな場面で、問題点を発見して解決する能力と更なる創造を実現するための素養と感性が求められています。このため、本学のカリキュラムでは、4年間の一貫した大学教育の中で、リベラルアーツ教育科目と社会実践教育科目・専門教育科目との有機的連携を持たせるように学科科目を配分して編成しています。このリベラルアーツ教育科目は、本学の教育方針に基づいて、学部・学科を越えて本学学生の共通のリベラルアーツ教育として全学共通科目及び放送大学との単位互換科目で構成しています。全学共通科目は、総合、人文、社会、外国語の分野があり、特徴的な科目としては、同一コマで複数科目を開講するプール科目があります。

プール科目には、哲学、歴史学、言語・文学、芸術学、社会学、経済学、法学、心理学、アメリカ学、ヨーロッパ学、アジア学、広島学、スポーツ科学及び生涯スポーツについて学ぶ科目があり、それぞれ1・2年次生を対象とするプールAに属する科目、3・4年次生を対象とするプールBに属する科目の2種類があります。

これらプール科目の他、建学の精神と本学教育方針を伝える「自校教育論」、国際舞台で活躍できる能力の育成を図るための「ETC(English for Technical Communication)」「キャリア英語」「技術英語」「プレゼンテーション英語」「中国語」の授業科目があります。

特記すべき科目として、選択科目として開講される「地域課題解決実習」「海外語学研修」「野外活動実習」「ボランティア実習」「学外研修」、自由科目として開講される体験型科目「インターンシップ」等があります。自由科目は卒業に要する単位には関係ありませんが、グローバル化時代に活躍する技術者には必要不可欠な科目ですので多くの学生の履修が望まれます。

リベラルアーツ教育科目は1年次から4年次まで開講されています。カリキュラム・ツリーで示す学びの順次性に従って、社会実践教育科目及び専門教育科目とともに各自が有益となる履修計画を立てて修得してください。

【地域課題解決実習】

少人数グループに分かれ地域社会が実際に直面している課題を発見し、解決策を探るために自ら調べ考え行動することで課題解決能力を高める科目

【海外語学研修】

デラウェア大学(アメリカ)、トリニティ・ウエスタン大学(カナダ)、大連理工大学(中国)への短期語学研修を通して語学力を向上させるとともに異文化への理解を深める科目

【野外活動実習】

専門性を活かしたフィールドワークを通じて自然に配慮して科学技術を発展させるための思考力と倫理観を身につける科目

【学外研修】

最新の情報技術の基礎を理解しつつ、地元を中心に様々な企業で活躍されている方を講師に招き、実例を学ぶことによって、「ものづくり」が今後どのように変化するかを人と社会を中心に据えた観点で理解を深める科目

【ボランティア実習】

本学の教育方針に則り、思いやる利他の心をもって社会奉仕体験することで豊かな人間力や主体的に考え行動する生きる力を育む体験科目

【AI・データサイエンス入門】

AI・データサイエンスの基本的な理論や実用例を、アクティブラーニングを通じて体験することで、最新技術の基礎を修得する科目

【インターンシップ】

職業に対する意識高揚と職業観を明確に認識し、社会人として活躍するための基本的事項を体験する科目

リベラルアーツ カリキュラム・ツリー

必修

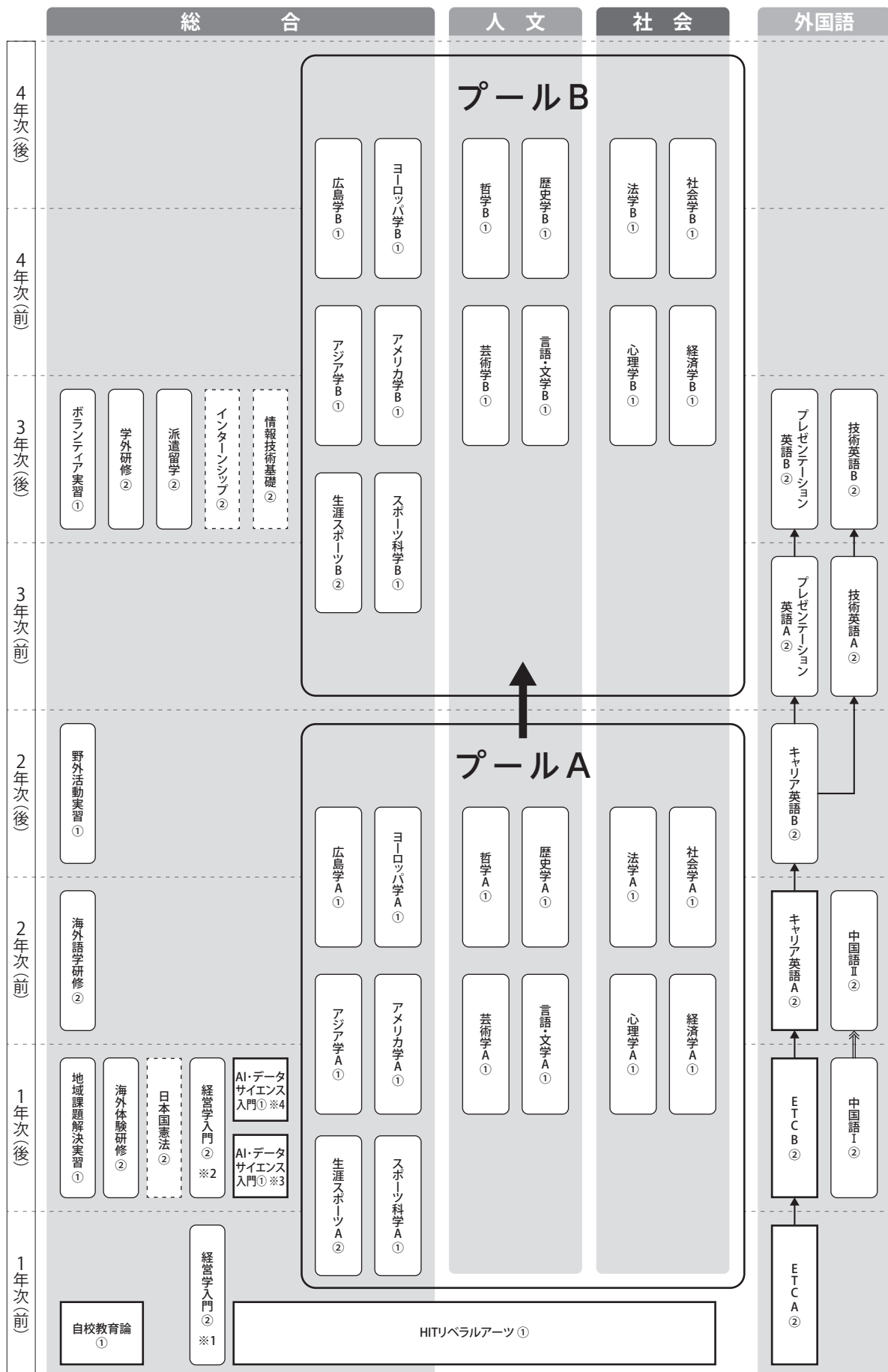
選択

自由

→ 先行修得科目〔二重線〕

→ 関連科目〔実線〕

○内の数字は単位数



※1 開講学科: 情報学部、環境学部、生命学部

※2 開講学科: 工学部

※3 開講学科: 電子、知機、環土、建工、建生、生体、食品

※4 開講学科: 電気、機械、地球

窓
各種
手続

▼ H
2
0
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

ディプロマ・ポリシー

工学部では、社会の持続的な発展を支える実践的なものづくり関連の教養と専門知識を身に付け、次世代の技術革新の担い手として、高度な専門能力と創造性を兼ね備え、強い責任感を持って自律的な行動ができる技術者を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士の学位を授与します。

I 【知識・理解】

ものづくりの基盤となる工学分野について、技術者に求められる幅広い教養を身に付け、基礎学力と専門知識を体系的に持ち、新しい問題に応用できる。

II 【思考・判断】

修得した専門分野の知識と情報技術を活用し、創造的かつ論理的な思考力と問題解決のために必要な判断力を持って、社会の要求に対応できる。

III 【技能・表現】

修得した知識をもとに、自らの考えを文章化あるいは図式化して、その情報や技能を正確に表現し、伝えることができる。

IV 【関心・意欲・態度】

グローバルな視野に立って問題解決に向け他者と協働し、職業を通じて社会に貢献・奉仕でき、技術者としての使命感と倫理観を持って責任ある行動ができる。

カリキュラム・ポリシー

工学部は、広島工業大学の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)をもとに、工学部の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえて教育課程を編成します。教育課程は、幅広い知識をもとに総合的判断力を備えた豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観とコンピテンシーを持つ技術者となることを目的とした社会実践教育科目、工学に関する諸問題に立ち向かっていくための専門分野の基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリーにより学びの順次性をもって編成します。

工学部

工学は、人々が心身共に豊かな生活を送ることができる環境づくりに必要な実践的な「ものづくり」を目指した学問です。したがって、工学部では人々の安全で快適な生活を支えるのに役立つ学問を学修することになります。今日の日本の発展は工学の貢献するところが非常に大きく、今後も社会から工学に対して大きな期待が寄せられています。

工学部は、学部ディプロマ・ポリシーを電子情報工学科、電気システム工学科、機械システム工学科、知能機械工学科、環境土木工学科、及び建築工学科の6学科に定め、教育の質を保証しています。いずれの学科も「ものづくり」とおして社会に奉仕・貢献する人材を養成し、実践する学科です。その教育カリキュラムは、以下の点に重点をおいて編成されています。

1. 専門的な科学技術の基礎力の重視

今日の科学技術の水準は高度になり、それを理解するには専門基礎力の確かな修得が必要です。そのために、専門性への意識を高める導入教育として、ゼミナール形式による対話型教育により学修の目的を明確にし、専門の基幹科目では少人数教育を行います。また、数学・物理などの工学基礎科目で十分な理解力が得られない場合は、教育学習支援センターでの学習指導や学期内でのフォローアッププログラム、学期を越えた継続教育を行って、学士力を保証しています。このようにして、確かな学修目標を持ち、教育課程の順次性と関連性に基づき基礎力を確実に身に付けることによって、高度な専門科目の理解を容易にし、応用力の育成につなげることを図っています。学生諸君は、事前事後学習に努め、基礎学力を養成し、更に発展的に学習したい場合には、学びの幅と深さを持った“高次レベル科目”にチャレンジしてください。

2. 主体的に学ぶ体験学習を重視

著しい科学技術の発展とともに、社会からの工学技術者への期待も多様化・高度化し、より大きくなっています。したがって、自ら問題を提起、解決して、更には新しい技術を創造できる技術者を養成することが必要です。そのため、情報通信機器を必携にして、自ら学び続ける力を持って主体的・能動的

に参加して講義を受ける、いわゆる「アクティブ・ラーニング（双方向授業）」や「体験学習」を専門教育科目に充実させています。このことにより、工学の専門をより身近なものにし、「ものづくり」の楽しさ、大切さを体感しながら学ぶように教育内容・方法を充実させています。

3. 多面的・総合的な知識や技術の涵養を重視

今日の成熟した社会からの要求はますます多様化・複雑化しており、従来の縦割型の細分化された学問分野の対応では解決しきれない状況になっています。その効果的な対策として、教養教育と専門教育の知識や技術を多面的にかつ総合的に、学問分野の横断的な学修ができるように教育課程表を柔軟に編成しました。予測困難な時代において、“答えのない課題”に主体性を持って最善解を導くことができる広い視野と柔軟な思考を持ち、課題に対応できる技術を身に付ける技術者教育を目指しています。

4. 人間力豊かな技術者育成を重視

「ものを作る、ものを動かす」ためには、自立した一人ひとりの力を総合的な力として機能させ、多くの人の力が集まって協働することが求められます。

すなわち、個人の力とそれを集めた集団の力がうまく調和して目的が達せられます。そのため、技術者は専門的な知識・技術力を持っていることは当然ですが、そのほかに責任感、実行力、協調性、計画性、倫理観、コミュニケーション力、表現力などの全人格的な素養が要求されます。これらの能力は短期間では得られず、社会倫理やゼミナール、体験学習科目などの正課科目の受講に加え、正課外活動・インターンシップなどにも積極的に参加し、利他の心を持って他者との関わりの中で身に付く素養です。

これを可能にするため、自分の学修やキャリア形成への取り組みを記録に残し、それを適宜振り返りながら、人間性豊かな技術者育成を目指して、ポートフォリオシステム(HITPO)を導入し、活用を教育しています。

学びの環境や成長の機会にも恵まれた年齢にある皆さん、自ら将来の技術者像を思い描き、大いなる挑戦と努力をされるよう期待しています。

ディプロマ・ポリシー

電子情報工学科では、エレクトロニクス、コンピュータシステム、情報通信及び一般産業分野で高度情報社会の持続的な発展を支える高度な専門能力と創造性を有し、自律的で、豊かな教養と倫理観を持つ次の要件を備えた者に、学士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 基礎学力と、電子デバイス、回路・通信、情報ネットワーク関連3分野の専門的な知識を有し、新規的なことを理解する力をもとにこれを応用できる。
- (2) 幅広い教養を身に付け、エレクトロニクス、コンピュータシステム、情報通信関連分野及び一般産業分野の基礎技術を用いて社会で活躍できる力を身に付けている。

II【思考・判断】

- (3) 修得した専門分野の知識と基本的な情報技術を活用し、創造的かつ論理的な思考力をもって、エレクトロニクス分野で活躍できる。
- (4) 問題解決策を論理的に立案、実践できる能力を有し、教養豊かな人材として、社会の要求に対応できる。

III【技能・表現】

- (5) エレクトロニクスに関する知識をもとに、自らの考えを文章化あるいは図式化して問題の本質を理解し、解決することができる。
- (6) 前述の問題に関する結果をチームでまとめ、情報や技能を正確に表現し、ディスカッションやレポート発表を通して、他者に伝えることができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) エレクトロニクス技術に関心を持ち、グローバルな視点で他者と協働し、社会に貢献・奉仕することができる。
- (8) エレクトロニクスをベースに、多様な分野へ意欲的に取り組んでいくことができる。また、技術者として使命感と倫理観をもって責任ある行動ができる。

カリキュラム・ポリシー

電子情報工学科は、広島工業大学及び工学部の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあっては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあっては専門基盤、電子デバイス、回路・通信、情報ネットワーク、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取り上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「社会実践A」「社会実践B」「社会実践C」「社会実践D」を1年次の各クォーターに、また「社会実践E」「社会実践F」「社会実践G」「社会実践H」を2年次の各クォーターに開設します。社会実践教育科目のなかで、電子デバイス、回路・通信及び情報ネットワークに関する知識を深めるため、いくつかのテーマについて実験を行います。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に開設します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

電子情報工学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため学科の学びの基礎となる「解析基礎」「線形代数」などの数学に関する科目と「基礎物理学」「物理学実験」などの物理学に関する科目を開設します。また、ものづくりにおける倫理観を養う「技術者倫理」を開設します。

さらに、技術者にとって重要である知的財産を適切に運用するため「知的所有権」を開設します。

【専門教育科目(電子デバイス)】

様々なシステムに用いられている電子デバイスに関して、物性とシステム設計の両面から理解できる専門知識を修得するため「基礎電磁気学」「量子物理学」「固体電子工学」「電子デバイス」などを、また、応用力を身に付けるため「高周波工学」を開設します。さらに、高次レベル科目「集積回路工学」「デバイス応用」「応用電波工学」を開設します。

【専門教育科目(回路・通信)】

様々な電子デバイスや受動素子で構成される電子・電気回路の専門知識及び論理回路で構成されるコンピュータなどのハード面に関する専門知識を修得するため「基礎電気回路」「電子回路」「制御工学」「電子計測」などを開設します。また、高次レベル科目「アナログ電子回路」を開設します。

【専門教育科目(情報ネットワーク)】

センサやインターネット等に接続される様々なデバイス、回路、コンピュータをスマートなシステムとして機能させるための情報ネットワーク技術を修得すべく「プログラミング」「情報システム設計」「情報理論」「ネットワーク工学」「画像とマルチメディア」などを開設します。また、高次レベル科目「人工知能」「符号と暗号」を開設します。

【専門教育科目(教職教科)】

高等学校教諭一種免許状(工業、情報)取得に必要な教職及び教科に関する科目を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

工学部電子情報工学科 教育課程表

別表1

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
								前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
								1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
リベラル アーツ 教育科目	総合	ABL ISN101H	自校教育論	1			1		2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

高次…高次レベル科目 先行…先行修得科目 組入…組入科目

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		ナンバリング コード			必修	選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
									前期 1Q	後期 2Q	前期 3Q	後期 4Q	前期 1Q	後期 2Q	前期 3Q	後期 4Q	前期 1Q	後期 2Q	前期 3Q	後期 4Q	前期 1Q	後期 2Q	前期 3Q	後期 4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
専門 基盤	ABM FSC104S		電気通信法規		2		2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								</

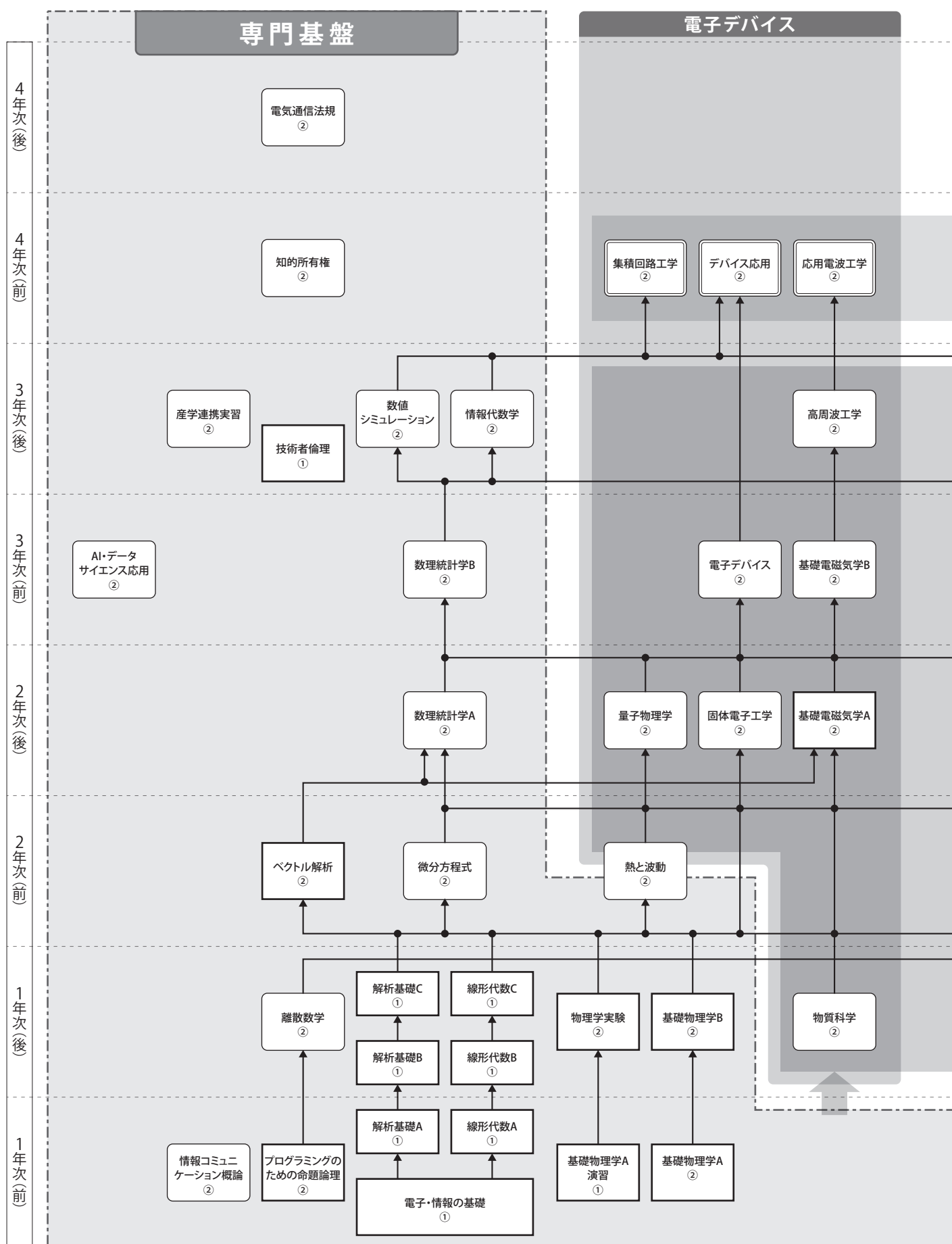
リミナル	ABM RMZ002H	数学I・A・II・B	0				4																		
------	-------------	------------	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

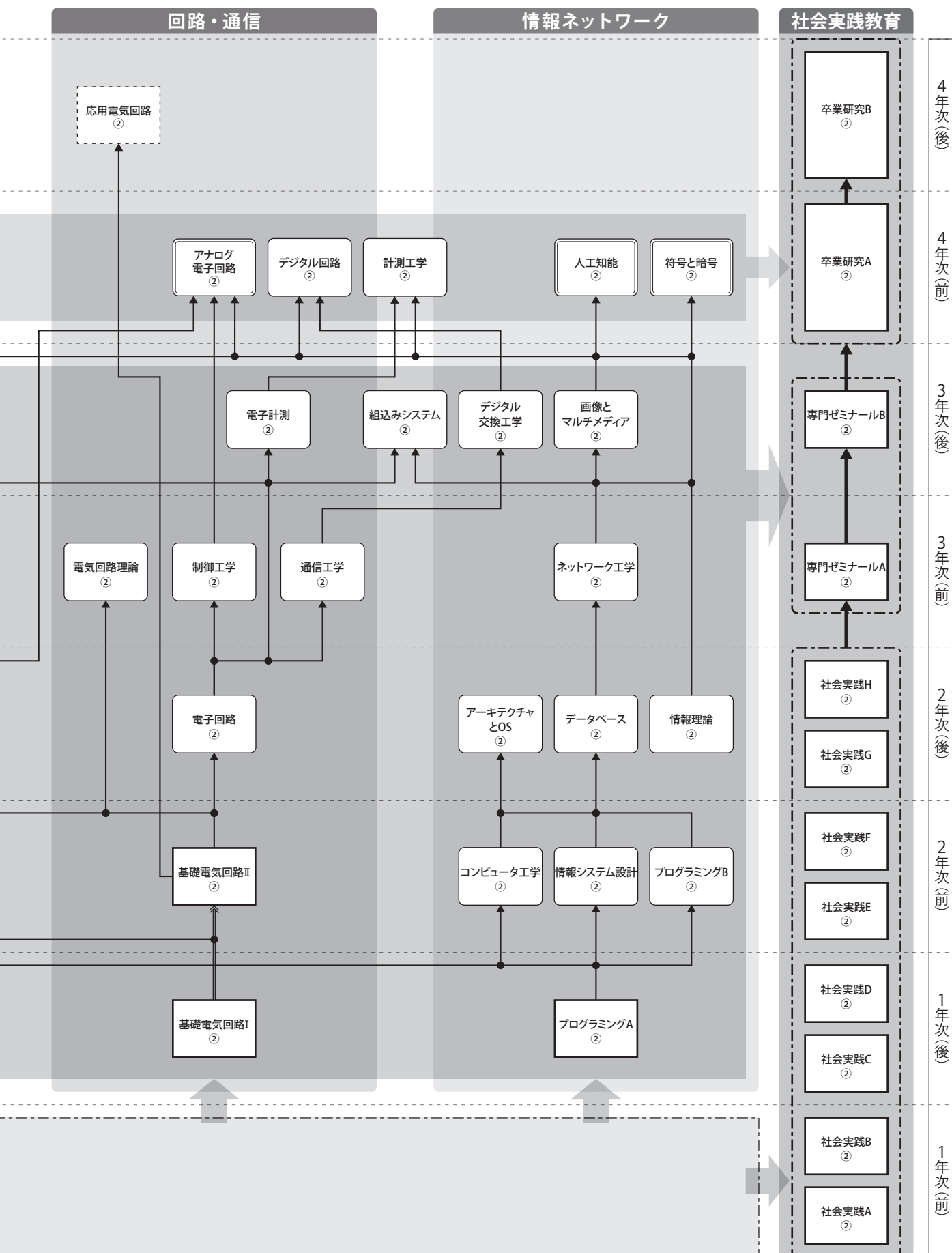
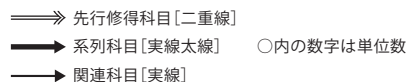
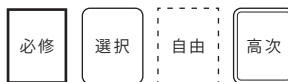
卒業に必要な単位数

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目	必修科目	必修科目	選択科目	
9	15	24	27	49		124

電子情報工学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育科目・専門)



教育科目)



リベラルアーツ教育科目のカリキュラム・ツリーは、**66**ページ参照

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

電気システム工学科

ディプロマ・ポリシー

電気システム工学科では、建学の精神を根幹とし、地球環境との調和と高度情報化社会の発展を通じて社会に奉仕できる倫理観、責任感のある技術者の育成を目的とします。特に電気システム工学に関わる技術の基幹であるエネルギーシステム、情報通信システム、コンピュータシステムを専門分野として、社会のニーズに応える知識力、思考力及び技能と、これらを社会の進歩に向けて実践する意欲を持つ次の要件を備えた者に、学士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 技術者に求められる幅広い教養、数学や物理学等の自然科学の知識及び電気システム工学に関わる技術の専門知識を身に付け、新しい問題の解決に応用できる。
- (2) エネルギーシステム、情報通信システム、コンピュータシステムの各分野(以下「各専門分野」という。)における基礎的な技術を理解して社会で実践し、社会の持続的な発展を支えるものづくりに活用できる。

II【思考・判断】

- (3) 電気システム工学に関わる技術の専門知識や自然科学の知識を活用し、社会の要求に対応するための倫理観を備えた自律的、創造的な思考ができる。
- (4) 各専門分野における問題や社会の要求に対応するため、論理的で責任ある判断ができる。

III【技能・表現】

- (5) 電気システム工学に関わる技術について自分の見解を文章や資料に表現し、メンバーと協力して、課題に対処するための討議や意見集約ができる。
- (6) 各専門分野の業務遂行に必要な解析、計測、プログラミング及び作図等の技能を修得している。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 電気システム工学に関わる技術分野を中心としてグローバルな視点から、社会の発展や工学技術の進歩・改良に倫理観や関心を持続けることができる。
- (8) 各専門分野等における知識の社会での活用や実践を通じて、社会的な貢献や諸問題の解決に取り組む意欲を有している。

カリキュラム・ポリシー

電気システム工学科は、広島工業大学及び工学部の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあっては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあっては専門基盤、エネルギーシステム、情報通信システム、コンピュータシステム、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「社会実践基礎」「電気基礎実験A(PBL)」「電気基礎実験B(PBL)」「プログラム実践基礎」を1年次の各クォーターに、また、「社会実践応用」「電気応用実験A(PBL)」「電気応用実験B(PBL)」「プログラム実践応用」

を2年次の各クォーターに開設します。「電気基礎実験A(PBL)」「電気基礎実験B(PBL)」「電気応用実験A(PBL)」「電気応用実験B(PBL)」は、教職及び各種資格の取得に必要なテーマも取上げます。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に開設します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

電気システム工学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため学科の学びの基礎となる「電気のための微積分」「電気のための線形代数」などの数学に関する科目、「基礎力学」「波動と熱の物理」などの物理学に関する科目及びものづくりにおける倫理観を養う「技術者倫理」を開設します。また、電気システム工学に関する基盤技術を修得するため、「電気ものづくり基礎実習」「電気数学」「基礎電気回路」「電気回路理論」「電子回路」「デジタル電子回路」「基礎電磁気学」「情報基礎実習」「プログラミング」などを、技術者にとって重要である知的財産を適切に運用するため「知的所有権」を開設します。さらに、エネルギーシステム、情報通信システム、コンピュータシステムに関するテーマについて実験・実習を行い、授業での知識を深めるため「電気応用実験C」「電気応用実験D」「設計製図」を開設します。

【専門教育科目(エネルギーシステム)】

エネルギーシステムの基礎知識を修得する「電気機器」「電力発生工学」、応用技術に関する「電力伝送工学」「パワーエレクトロニクス」「電気応用」、国家資格取得に対応する「エネルギー総合管理及び法規」を開設します。さらに、実践応用力を身に付けるため、電力システムに関する高次レベル科目「電力システム工学」を開設します。

【専門教育科目(情報通信システム)】

情報通信システムの基礎技術を修得する「信号処理」、情報通信システム構築に関する「通信工学」「デジタル交換工学」「情報理論」、信号伝送技術に関する「電磁波工学」「高周波工学」、国家資格取得に対応する「電気通信法規」を開設します。さらに、無線通信システム構築の実践応用力を身に付けるため、高次レベル科目「無線通信工学」を開設します。

【専門教育科目(コンピュータシステム)】

コンピュータシステム及びコンピュータ計測技術の基礎知識を修得する「コンピュータシステム」「電気電子計測」「コンピュータ計測システム」、応用技術に関する「コンピュータエンジニアリング」「情報数理」、コンピュータによる制御技術を修得する「制御工学」を開設します。さらに、コンピュータシステム構築の実践応用力を身に付けるため、高次レベル科目「集積回路設計」を開設します。

【専門教育科目(教職教科)】

高等学校教諭一種免許状(工業、情報)取得に必要な教職及び教科に関する科目を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

工学部電気システム工学科 教育課程表

別表1

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
																		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
総合	リベラル アーツ 教育科目	BBL ISN101H	自校教育論	1			1	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																</

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年					
								前期 1Q	後期 2Q	3Q	4Q	前期 1Q	後期 2Q	3Q	4Q	前期 1Q	後期 2Q	3Q	4Q	前期 1Q	後期 2Q	3Q	4Q		
専門 基礎 																									

リメディアル	BBM RMZ002H	数学I・A・II・B	0						4												
--------	-------------	------------	---	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

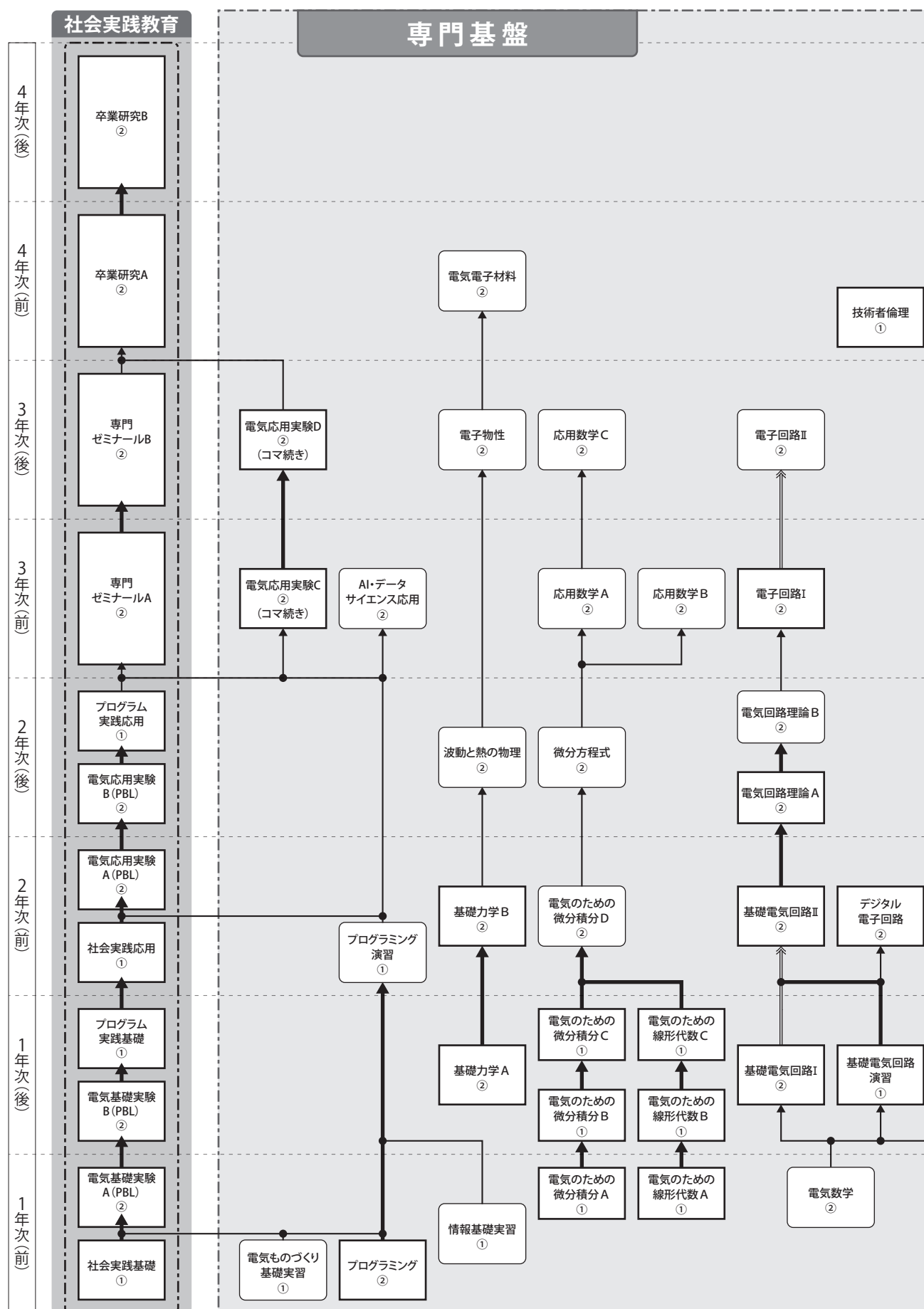
○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

○エネルギーシステム、情報通信システム、コンピュータシステムの各専門分野から各4単位以上修得のこと。

卒業に必要な単位数

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	
9	15	20		34	46	124

電気システム工学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育科目・)



専門教育科目)

必修

選択

自由

高次

→ 先行修得科目[二重線]

→ 系列科目[実線太線]

→ 関連科目[実線]

○内の数字は単位数

専門3分野の技術力

エネルギーシステム

エネルギー総合
管理及び法規
②

電気応用
②

電力システム
工学
②

電力伝送工学
②

電力発生工学
②

パワーエレクトロニクス
②

電気機器B
②

電気機器A
②

情報通信システム

電気通信法規
②

無線通信工学
②

高周波工学
②

電磁波工学
②

情報理論
②

デジタル交換工学
②

通信工学
②

信号処理
②

コンピュータシステム

集積回路設計
②

制御工学II
②

制御工学I
②

電気電子計測
②

情報数理
②

コンピュータエンジニアリング
②

コンピュータ計測システム
②

コンピュータシステム
②

4年次(後)

4年次(前)

3年次(後)

3年次(前)

2年次(後)

2年次(前)

1年次(後)

1年次(前)

設計製図
②

知的所有権
②

産学連携実習
②

基礎電磁気学
II
②

基礎電磁気学
演習B
①

基礎電磁気学
I
②

基礎電磁気学
演習A
①

電気数学演習
①

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

機械システム工学科

ディプロマ・ポリシー

機械システム工学科では、技術の変革に対して柔軟かつ果敢に立ち向かい、高い倫理観をもったものづくりに携わることにより、社会に貢献する技術者を育成し、機械技術者としての教養と、デジタルものづくり、先端材料、環境エネルギー、制御システムの各分野に関する専門知識を身に付け、環境や安全に配慮したものづくりを推進する次の要件を備えた者に、学士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 自然科学や教養に関する基礎知識を有し、機械システム工学の基盤をなす、材料の基礎、材料力学、機械力学、熱力学、流れの力学、制御工学及び機械加工に関する知識を修得し、課題の解決に活用することができる。
- (2) 機械システム技術者として、デジタルものづくりに必要な知識と技術に加え、広範なものづくりに必要な、先端材料、環境エネルギー及び制御システムに関する専門知識と技術を身に付けている。

II【思考・判断】

- (3) 機械システム工学の基礎知識とものづくりの専門知識に基づき、社会の要求に対応可能な総合的、論理的かつ柔軟な思考力を身に付けている。
- (4) 積極的に課題に取り組み、専門知識を駆使することにより、環境や安全に配慮した機械システムの改善計画を立案することができる。

III【技能・表現】

- (5) 機械システム工学の知識に基づき、自ら創造した機械システムを図面や仕様書に反映し、他の技術者やユーザーに正確に伝えることができる。
- (6) 修得した幅広い教養と知識、文書力、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を活用し、チームで目標を共有することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 社会性と人間力を身に付け、グローバルな視点で他者と協働し、目標実現への方向性を明確化し、機械技術者として社会に貢献・奉仕することができる。
- (8) ものづくりの変革に果敢にチャレンジする使命感と倫理観を有し、信頼性や安全性とともに環境に配慮して行動する意欲を有している。

カリキュラム・ポリシー

機械システム工学科は、広島工業大学及び工学部の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあつては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあつては専門基盤、デジタルものづくり、先端材料、環境エネルギー、制御システム、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに関連し社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の混成グループを編成して課題に取り組む科目「実践基礎A」「実践基礎B」「実践基礎C」「実践基礎D」を1年次の各クォーターに、また、「実践基礎E」「実践基礎F」「実践基礎G」「実践基礎H」を2年次の各クォーターに開設します。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に開設します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

機械システム工学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため「解析基礎」「微分積分学」「線形代数」などの数学に関する科目と「基礎力学」「機械系の物理学実験」などの物理学に関する科目を開設します。また、ものづくりにおける倫理観を養う「技術者倫理」を開設します。さらに、機械システム工学に関する基盤技術を修得するため「材料の基礎」「材料力学」「熱力学」「流れの力学」「機械力学」「機械加工学」「制御工学」「情報の基礎」「情報システム」及び「数値計算」などを、また、ものづくりに必要な行動力と実践力、他者と協働して課題に取組む能力を養うため「機械工学実習」を2年次に、機械システム工学の基礎科目に関する理解を深めるため「機械工学実験」を3年次に開設します。

【専門教育科目(デジタルものづくり)】

自ら創造した機械システムを正確に作図する能力及びコンピュータを活用して設計・解析する能力を養うため「製図の基礎」「設計製図」「CAD・CAM・CAE」を開設します。また、所定の機能と安全性を備えた機械を設計する知識を修得するため「機械要素の設計」を開設します。さらに、広範なものづくりに必要な生産技術に関する専門知識を修得するため「工作機械」「精密加工・計測」「生産工学」「品質管理」を開設します。

【専門教育科目(先端材料)】

機械システムの高機能化や多機能化を目指し、それを構成する材料特性及び先端材料に関する専門知識を修得するため「機械材料」「航空宇宙材料」「材料強度学」などを開設します。

【専門教育科目(環境エネルギー)】

専門基盤分野で学んだ「熱力学」及び「流れの力学」に関する基礎知識に基づき、これらを発展させ、エネルギー変換技術やグローバルな視点での環境問題に対応する専門知識を修得するため「伝熱工学」「エネルギー変換」「流体機械」「航空宇宙工学」などを開設します。

【専門教育科目(制御システム)】

電気電子システム、制御機器、情報システムの基礎と応用に関する知識と技術を修得するため「電気の基礎」「電気機械システム」「システム制御」「ロボット工学」などの電気電子・制御システムに関する科目を開設します。

【専門教育科目(教職教科)】

高等学校教諭一種免許状(工業、情報)取得に必要な教職及び教科に関する科目を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

工学部機械システム工学科 教育課程表

別表1

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
																		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
リベラル アーツ 教育科目	総合	CBL ISN101H	自校教育論	1			1	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年		2年		3年		4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
								1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
専門 教育 科目	専門 基礎 盤	CBM	FSM101H	解析基礎	2			2		4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

リミディアル	CBM	RMZ002H	数学I・A・II・B	0					4												
--------	-----	---------	------------	---	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

卒業に必要な単位数

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目		必修科目	選択科目	
9	15	24		41	35	124

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

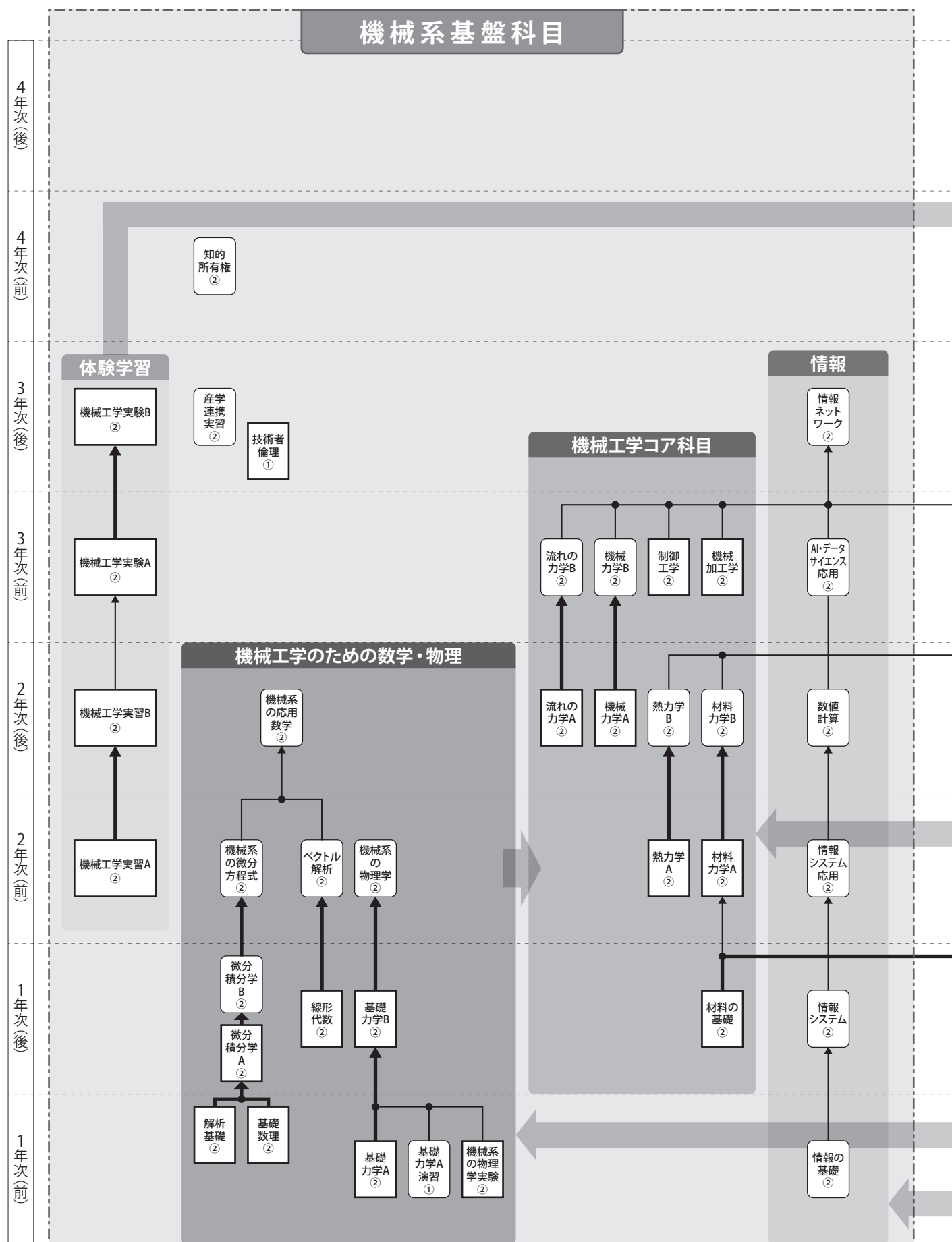
課
外
教
育
活
動

大
学
院

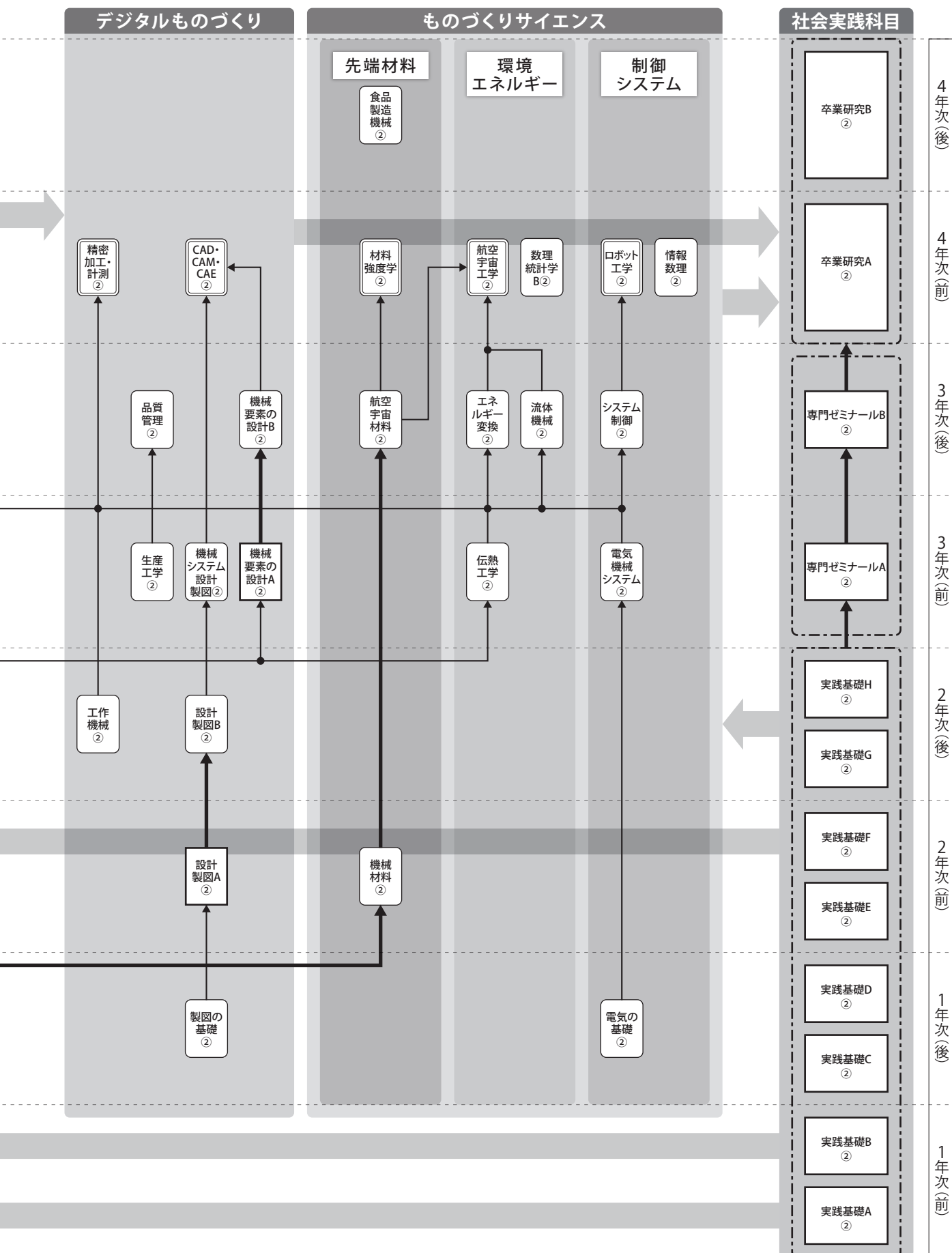
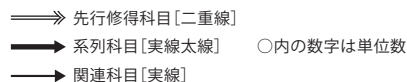
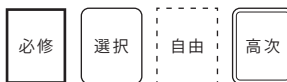
前
期

後
期

機械システム工学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育科目・



専門教育科目)



リベラルアーツ教育科目のカリキュラム・ツリーは、**66**ページ参照

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

ディプロマ・ポリシー

知能機械工学科は、機械工学に電気電子と情報を融合した基礎知識を修得した上で、それらを先進ロボット、次世代自動車、知的生産システム等の知能化された機械に発展・応用させる能力をもち、さらに新時代の機械技術者に相応しい人間性や倫理観をもってより便利で快適に暮らせる社会づくりに貢献できる、次の要件を備えた者に、学士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 先進ロボット、次世代自動車、知的生産システムの応用3分野に関連した、ものづくりの知能化技術に必要な数学、物理、機械、電気電子及び情報の知識を総合的に身に付けている。
- (2) 専門知識を多面的に理解し、人の生活に密着した機械、設計及び生産システムの知能化技術を身に付け、倫理観をもって工学的な問題解決ができる。

II【思考・判断】

- (3) 知能機械の技術者として、多角的思考により現在や未来に起こる課題の発掘ができ、その課題に対する効果的な問題解決策が企画・立案できる。
- (4) 修得した機械工学の基礎知識を活用して、論理的な思考力、判断力及び分析力をもって社会の要求に応え、その解決に向けて他者と協働することができる。

III【技能・表現】

- (5) 知能化技術に基づくものづくりに必要な知識や情報を論理的に記述、表現及び図形化ができ、それを発表・議論することができる。
- (6) 修得した知識をもとに、自分の考えや技能を相手に正確に伝えるための基礎的なプレゼンテーションとコミュニケーションができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 地球的な視野に立ち、主体的に課題を発掘し、技術者としての使命感や倫理観に基づき、積極性と挑戦する意欲をもって課題解決ができる。
- (8) 技術者として豊かな教養と人間力を身に付け、知能的なものづくりの挑戦的な課題に能動的に取組み、知識基盤社会に貢献・奉仕できる。

カリキュラム・ポリシー

知能機械工学科は、広島工業大学及び工学部の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあっては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあっては専門基盤、デジタル設計、知能化技術、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

卒業研究に先立ち、ものづくりに関連した応用を先取りするテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「社会実践A」「社会実践B」「社会実践C」「社会実践D」を1年次の各クォーターに、また、「社会実践E」「社会実践F」「社会実践G」「社会実践H」を2年次の各クォーターに開設します。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に開設します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

知能機械工学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため「微分積分学A」「ベクトル解析」などの数学に関する科目と「基礎力学A」「機械系の物理学実験」などの物理学に関する科目を開設します。また、ものづくりにおける倫理観を養う「技術者倫理」と、技術者にとって重要である知的財産を適切に運用するため「知的所有権」を開設します。さらに、機械工学のコア科目として「流れの力学」「材料力学」「熱力学」「機械力学」などを、メカトロニクスに不可欠な知識を修得するため「情報システム」「情報ネットワーク」などを開設します。また、機械工学全般に関する様々なテーマについて実験・実習を行い、授業での知識を深めるため「知能機械工学実験」「知能機械工学実習」を開設します。

【専門教育科目(デジタル設計)】

機械設計に必要な知識と技能を修得するため「基礎製図」「機械要素設計」を開設します。さらに、コンピュータを用いた効率的かつ実践的な設計手法を修得するため「コンピュータ支援設計・製図」「コンピュータ支援設計・解析」を開設します。

【専門教育科目(知能化技術)】

機械の知能化に必要な基礎知識を修得するため「電子機械システム」「知能システム制御」などを開設します。さらに、応用分野の実践的な知識を修得するため「ロボット運動制御」「自動車システム」「生産管理工学」などを開設します。

【専門教育科目(教職教科)】

高等学校教諭一種免許状(工業、情報)取得に必要な教職及び教科に関する科目を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

工学部知能機械工学科 教育課程表

別表1

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
																		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
リベラル アーツ 教育科目	総合	DBL ISN101H	自校教育論	1			1	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

高次…高次レベル科目 先行…先行修得科目 組入…組入科目

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
																				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
専門 教育 科目	専門 基 盤	DBM	FSM101H	解析基礎	2			2		4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

リバリアル DBM RMZ002H 数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 0 4

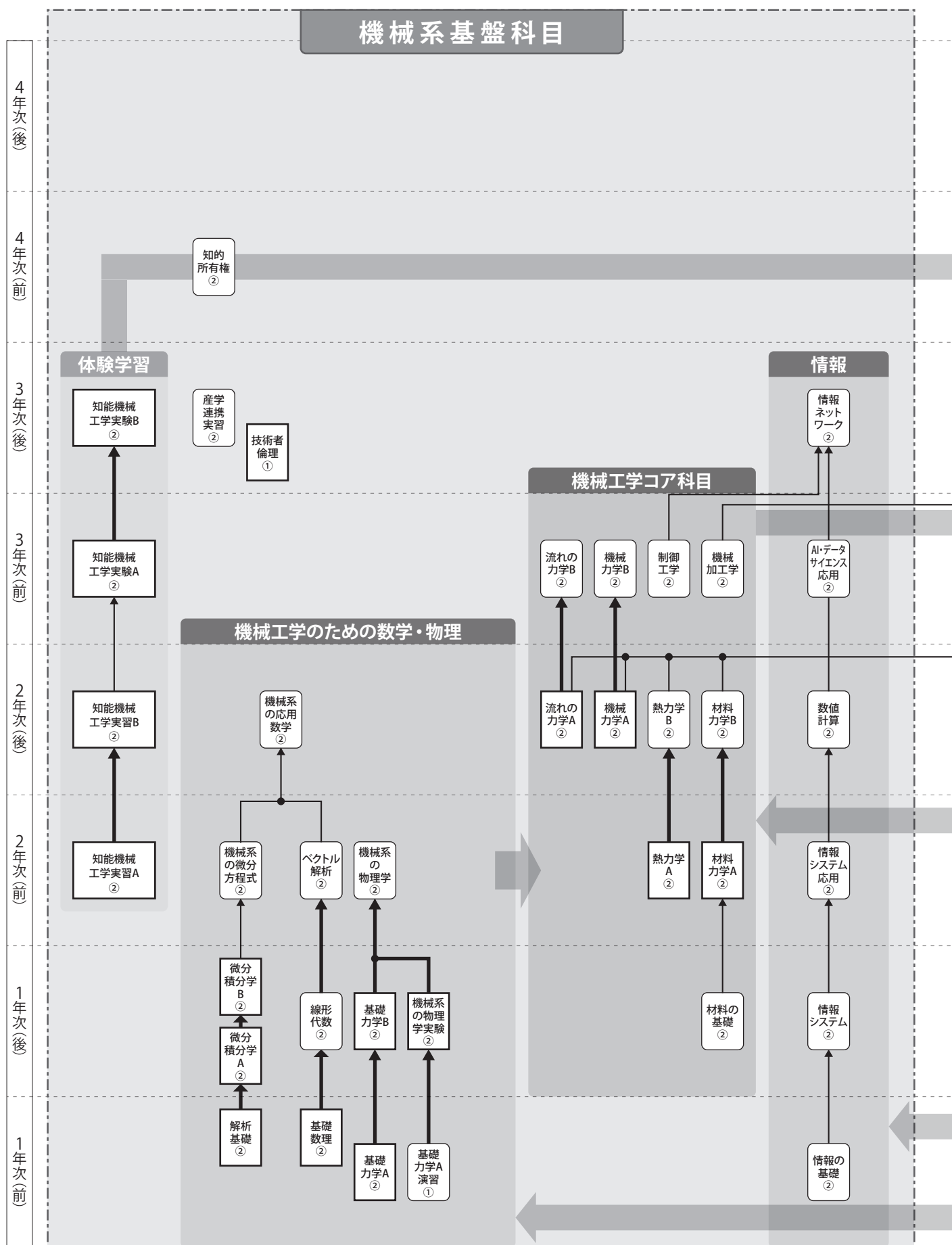
○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

○線形代数、ベクトル解析、機械系の微分方程式、機械系の応用数学の4つの選択科目から4単位以上修得のこと。

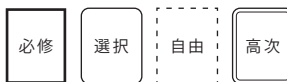
卒業に必要な単位数

リバリアル・芸術教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	
9	15	24		35	41	124

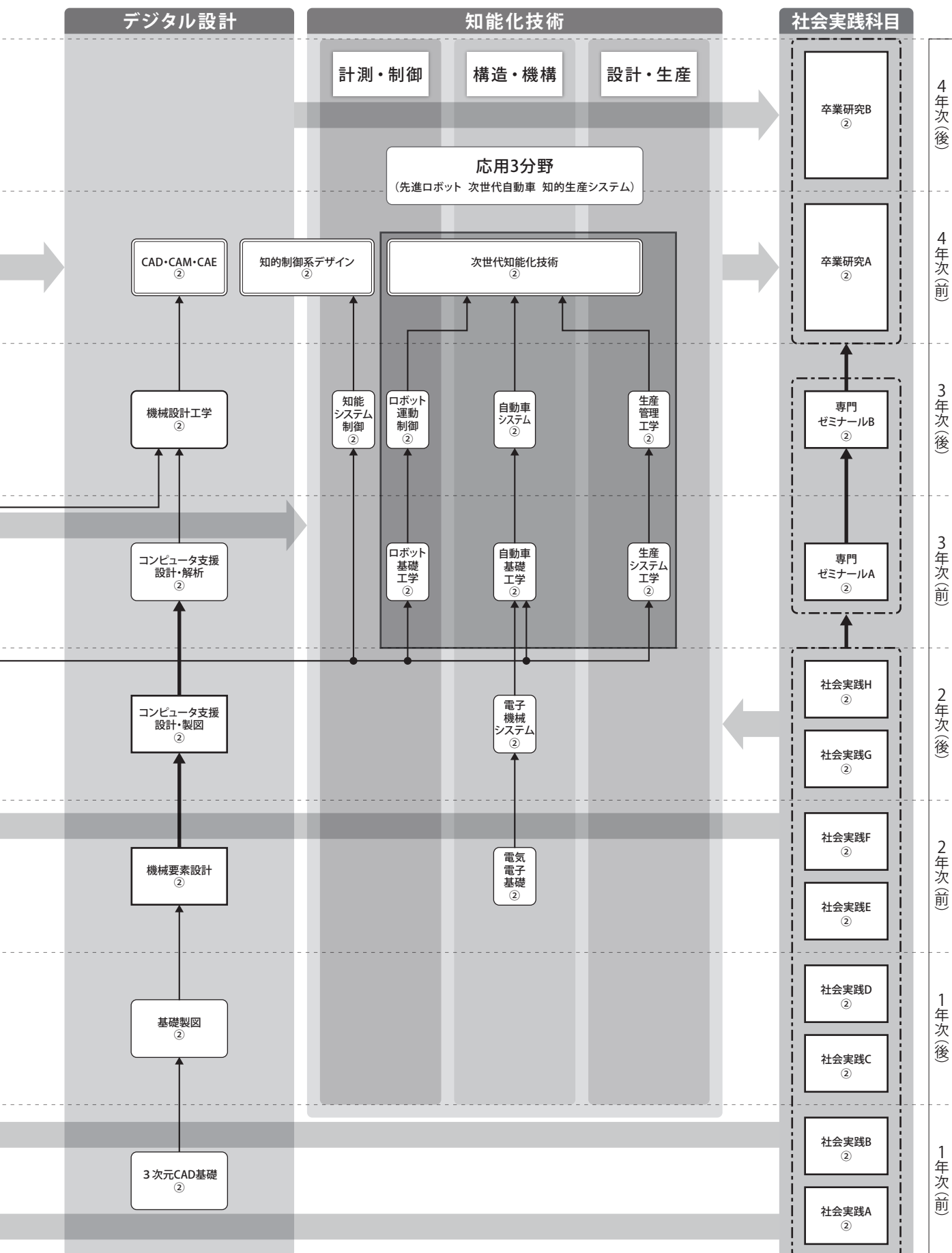
知能機械工学科 カリキュラム・ツリー（社会実践教育科目・専門



教育科目)



→ 先行修得科目[二重線]
 → 系列科目[実線太線] ○内の数字は単位数
 → 関連科目[実線]



リベラルアーツ教育科目のカリキュラム・ツリーは、**66**ページ参照

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

ディプロマ・ポリシー

環境土木工学科では、近年の大規模自然災害の増加に対する安全・安心な社会基盤施設の整備と、快適で豊かな市民生活を見据えた環境共生型社会の構築に必要な技術を併せ持つ土木技術者の育成を目的とします。環境の視点も備えた新たな土木工学の技術を展開するため、構造物の設計と施工、環境の保全と再生及び都市空間の計画と防災を専門分野とする、社会に奉仕できる技術者として、次の要件を備えた者に、学士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 技術者に求められる幅広い教養知識や数学・物理学を基礎とする自然科学を修得し、環境土木工学に係る工学の基礎的知識を理解できる。
- (2) 構造物の設計と施工、環境の保全と再生及び都市空間の計画と防災等、持続可能な社会を創出する知識を理解できる。

II【思考・判断】

- (3) 環境土木工学が社会や自然に及ぼす影響や効果及び技術者が社会に対して負っている責任を理解し、倫理観に基づいた思考・判断を行うことができる。
- (4) 安全・安心・快適に暮らせる社会基盤整備に関する専門的技術の実践について、公共性や社会貢献の視点から、論理的かつ自律的に判断することができる。

III【技能・表現】

- (5) 社会基盤と社会システムに関する課題を抽出し、専門的な知識や技術を多角的に用いて社会の要求する解決策を主体的に提案することができる。
- (6) 専門知識に基づいた論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力を備え、自分の意見を他者に伝えることができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 環境土木工学の社会に対する貢献や与える影響に関心を持ち続け、社会に奉仕する技術者として自己の持つ技術力を向上させることができる。
- (8) 環境土木技術者として与えられた制約のもとで、多様な人々とコミュニケーションを保ち、協働して安全・安心・快適な社会を築く活動を行うことができる。

カリキュラム・ポリシー

環境土木工学科は、広島工業大学及び工学部の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあっては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあっては専門基盤、構造物の設計と施工、環境の保全と再生、都市空間の計画と防災、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「基礎ゼミナールA」「情報の科学A」「総合ゼミナールA」「計測の科学A」を1年次の各クォーターに、また、

「基礎ゼミナールB」「情報の科学B」「総合ゼミナールB」「計測の科学B」を2年次の各クォーターに開設します。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に開設します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

環境土木工学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため学科の学びの基礎となる「建設基礎数学」「線形代数」などの数学に関する科目と「基礎力学」「物理学実験」などの物理学に関する科目を開設します。また、ものづくりにおける倫理観を養う「技術者倫理」を開設します。さらに、環境土木工学に関する基盤技術である測量技術の基礎理論を修得するため「測量学」「測量学実習」を、構造設計図面作製の基礎力を醸成する「設計製図」「建設CAD」などを、技術者にとって重要である知的財産を適切に運用するため「知的所有権」を開設します。また、講義での知識を深めるため、構造力学、地盤工学、水理学、コンクリート工学に関連した実験を行う「建設工学実験」を開設します。

【専門教育科目(構造物の設計と施工)】

構造・材料・地盤に関する力学理論を修得するため「構造力学」「コンクリート工学」「地盤工学」を、また、問題解決力を向上させるため「構造力学演習」「地盤工学演習」を開設します。さらに、応用技術を修得するため「構造設計学」「地盤基礎工学」「鉄筋コンクリート工学」を、加えて、土木技術者に求められる実践的応用力を身に付けるため、高次レベル科目「耐震工学」を開設します。

【専門教育科目(環境の保全と再生)】

自然環境の再生、環境計画・管理・共生及び生態系の基礎知識を修得するため「環境再生技術」「環境診断と評価」を、また、水の流れの力学的基礎知識と社会基盤への応用技術を修得するため「水理学」「水環境システム」「河川工学」を開設します。さらに、エネルギー問題や循環型社会を構築するための知識を修得するために「新エネルギー学」「資源循環型社会」を、加えて、土木技術者に求められる実践的応用力を身に付けるため、高次レベル科目「流域環境管理」を開設します。

【専門教育科目(都市空間の計画と防災)】

都市の歴史やあり方、人口減少化社会における安全・安心な人の暮らしに関する基礎的知識を修得するため「都市計画」「空間創造設計」「景観工学」「都市環境保全」を、また、良質な交通環境を創出する技術を修得するため「交通計画」「道路工学」を開設します。さらに、自然災害に対する防災・減災の知識や長寿化のための維持管理技術を修得するため「気象災害学」「都市防災工学」「維持管理工学」を、加えて、土木技術者に求められる実践的応用力を身に付けるため、高次レベル科目「空間創造実習」を開設します。

【専門教育科目(教職教科)】

高等学校教諭一種免許状(工業)取得に必要な教職及び教科に関する科目を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

工学部環境土木工学科 教育課程表

別表1

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
																				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
リベラル アーツ 教育科目	総合	EBL ISN101H	自校教育論	1			1	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

高次…高次レベル科目 先行…先行修得科目 組入…組入科目

[illegible]

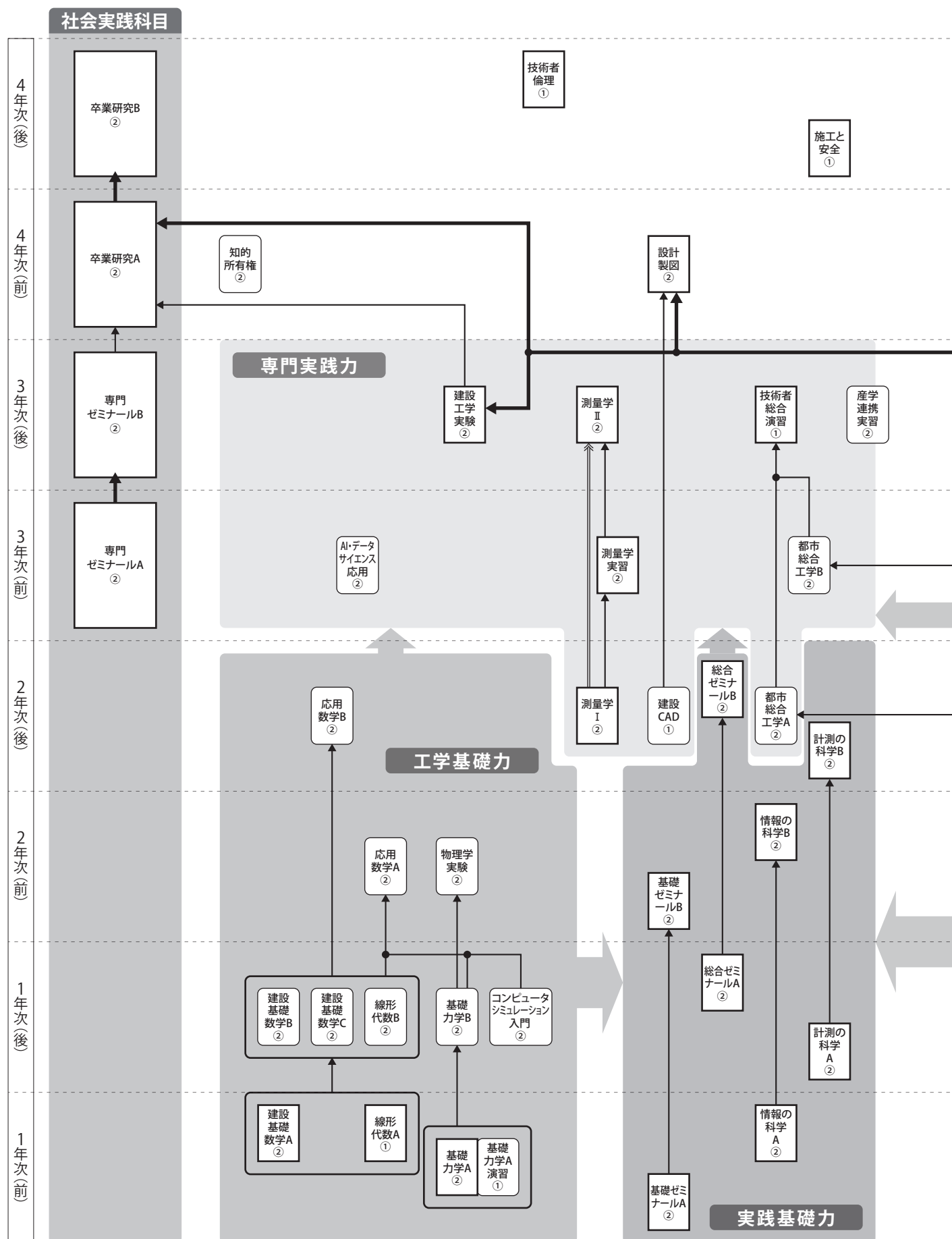
リメディアル	EBM	RMZ002H	数学I・A・II・B
--------	-----	---------	------------

○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

卒業に必要な単位数

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域	専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目	必修科目	選択科目	
9	15	24	34	42	

環境土木工学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育科目・専門)



専門実践展開力

構造物の設計と施工

環境の保全と再生

都市空間の計画と防災

専門分野展開力

専門分野基礎力

専門共通基礎力

4 年次(後)

4 年次(前)

3 年次(後)

3 年次(前)

2 年次(後)

2 年次(前)

1 年次(後)

1 年次(前)

ディプロマ・ポリシー

建築工学科では、技術革新と経験工学に基づいて高度に進化してきた我が国の建築技術を基盤として、建築に携わる技術者にとって必要な建築構造、生産・維持管理・材料、計画、環境・設備等の専門分野の知識と幅広い教養、他者と協働できる人間性を総合的に備え、いかなる状況でも責任感と倫理観をもって行動できる次の要件を備えた者に、学士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 建築を理解する上で必要な数学・物理等の基礎的知識を有し、それを建築技術に関わる専門知識に応用・展開することができる。
- (2) 建築に関する最新の技術及びその背景となる歴史・文化・風土を理解し、豊かな創造力をもって、それを活用できる。

II【思考・判断】

- (3) 建築に関する安全性、機能性、経済性、快適性に関する諸問題に対する解決能力を身に付けている。
- (4) 建築技術者として直面する様々な課題に対して、合理的な解決策を提案する行動力を身に付けている。

III【技能・表現】

- (5) 指導的立場となるにふさわしい協調性とリーダーシップを発揮できる技能を身に付けている。
- (6) 建築に関する知見と情報を具体的に図化、言語化することができ、様々な表現方法を活用して、他者に説明することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 誠実で人間性豊かな人材となる素養を有し、建築技術者として、いかなる状況においても責任感と倫理観をもって行動できる。
- (8) 社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に付け、「社会に奉仕する」技術者として成長していくことに意欲と関心を持つことができる。

カリキュラム・ポリシー

建築工学科は、広島工業大学及び工学部の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあつては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあつては専門基盤、構造、生産・維持管理・材料、計画、環境・設備、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「建築概論」「構造生産基礎」「建築測量基礎」「社会実践基礎」を1年次の各クォーターに、また、「建築情報」「構造生産応用」「建築測量応用」「社会実践応用」を2年次の各クォーターに開設します。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取り組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に開設します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取り組む科目「卒業

研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

建築工学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため学科の学びの基礎となる「建築基礎数学」「線形代数」「応用数学」などの数学に関する科目と「基礎力学」「物理学実験」などの物理学に関する科目を開設します。建築に対する興味を高めるため、初年次に「構造力学」「材料力学」「建築基礎図学」などを、建築に関する知見と情報を具体化する技術を修得するため、2年次に「建築製図法」「建築設計製図I」「建築CAD」などを、3年次には、各分野の専門知識を深める「建築設計製図II」「建築総合設計製図」「建築法規」を開設します。また、多様化するグローバル産業経済社会に適応するための素養を実践的に修得するため「産学連携実習」を開設します。4年次には、建築技術者としての総合的な実践力を高めるため「建築総合技術」を開設します。さらに、倫理観を養う「技術者倫理」、知的財産を適切に運用するため「知的所有権」を開設します。

【専門教育科目(構造)】

鉄筋コンクリート構造や鋼構造など、建築構造の根本となる構造設計及び地震災害の脅威に対し、建物・都市施設の安全確保と災害軽減策を考える耐震工学に関する知識を修得するため、2年次に「建築構造設計概論」「構造解析法」「建築木質構造学」「鉄筋コンクリート構造学」、3年次に「鋼構造学」「建築振動学」「建築塑性解析」「建築構造実験」など、4年次に高次レベル科目「耐震構造設計」を開設します。

【専門教育科目(生産・維持管理・材料)】

建築素材の特徴や力に対する抵抗性を学ぶ建築材料学、建物を支える地盤や基礎の設計・施工に必要な地盤工学、また、建物が実際にどのような工程・作業で建設・施工されていくのかを学ぶため、2年次に「建築材料学」「建築材料実験」、3年次に「建築生産」「建築維持管理」「建築生産情報」「建築積算」「地盤工学」「建築基礎構造」、4年次に高次レベル科目「建築施工管理」を開設します。

【専門教育科目(計画)】

建築の設計に必要な計画理論として生活と空間の関わりについて学ぶ建築計画について、2年次に「建築計画」「建築史」、3年次に「建築意匠・技法」、4年次に「都市計画」及び高次レベル科目「建築設計演習」を開設します。

【専門教育科目(環境・設備)】

快適で安全・安心に暮らすための室内及び都市の環境について学ぶ建築環境工学、建物の設備全般について学ぶ建築設備の分野について、2年次に「建築環境工学」「建築設備A」、3年次に「建築環境工学演習」「建築設備B」「建築設備演習」を開設します。

【専門教育科目(教職教科)】

高等学校教諭一種免許状(工業)取得に必要な教職及び教科に関する科目を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

工学部建築工学科 教育課程表

別表1

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
																				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
総合	リベラル アーツ 教育 科目	FBL ISN101H	自校教育論	1			1		2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考		
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年							
								前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期					
								1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
専門基礎	FBM	FSM101H	建設基礎数学 A	2			2		4																		
	FBM	FSM102H	建設基礎数学 B	2			2			2																	
	FBM	FSM103S	建設基礎数学 C		2		2			2																	
	FBM	FSM204S	建設基礎数学 D		2		2																				
	FBM	FSM105H	線形代数 A	1			1		2																		
	FBM	FSM106H	線形代数 B	2			2			2																	
	FBM	FSM207S	応用数学 A		2		2					2															
	FBM	FSM208S	応用数学 B		2		2						2														
	FBM	FSP101H	基礎力学A	2			2		2																		
	FBM	FSP102H	基礎力学A演習	1			1		2																		
	FBM	FSP103H	基礎力学B	2			2					2															
	FBM	FSP104S	基礎力学B演習		1		1					2															
	FBM	FSP105H	物理学実験	2			2					4															
	FBM	FSF101H	構造力学	2			2		2																		
	FBM	FSF102H	構造力学演習	1			1		2																		
	FBM	FSF103H	材料力学	2			2					2															
	FBM	FSF104H	材料力学演習	1			1					2															
	FBM	FSF111S	建築基礎図学		1		1					2															
	FBM	FSF112H	建築製図法	2			2					4															
	FBM	FSF113H	建築設計製図Ⅰ	2			2						4												※1		
	FBM	FSF214H	建築設計製図Ⅱ	2			2							4											先行※1		
	FBM	FSF215H	建築総合設計製図	2			2								4												
	FBM	FSF121S	建築CAD		2		2						4														
	FBM	FSF131H	建築法規	2			2							2													
	FBM	FSF141H	建築キャリアデザイン A	1			1								2												
	FBM	FSF242H	建築キャリアデザイン B	1			1											2									
	FBM	FSD201S	AI・データサイエンス応用	2			2								2												
専門教育科目	構造	FBM	SAS101S	建築構造設計概論		2		2				2															
		FBM	SAS102S	構造解析法Ⅰ		2		2				2													※2		
		FBM	SAS203S	構造解析法Ⅱ		2		2				2													先行※2		
		FBM	SAS104S	建築木質構造学		2		2				2															
		FBM	SAS105H	鉄筋コンクリート構造学	2			2				2															
		FBM	SAS106S	鉄筋コンクリート構造学演習		1		1							2												
		FBM	SAS107H	鋼構造学	2			2							2												
		FBM	SAS108S	鋼構造学演習		1		1								2											
		FBM	SAS209S	建築振動学		2		2							2												
		FBM	SAS210S	建築塑性解析		2		2								2											
		FBM	SAS311S	耐震構造設計		2		2														2			高次		
		FBM	SAS112H	建築構造実験	2			2								4											
		生産維持管理・材料	FBM	CAC101S	建築生産		2		2						2												
			FBM	CAC302S	建築施工管理		2		2														2			高次	
FBM	CAC103S		建築維持管理		2		2								2												
FBM	CAC104S		建築生産情報		2		2								2												
FBM	CAC105S		建築積算		2		2							2													
FBM	CAC106S		建築材料学		2		2				2																
FBM	CAC107S		地盤工学		2		2							2													
FBM	CAC108S		建築基礎構造		2		2								2												
FBM	CAC109H		建築材料実験	2			2							4													
計画	FBM		PAP101S	建築計画A		2		2				2															
	FBM	PAP102S	建築計画B		2		2					2															
	FBM	PAP103S	建築史		2		2					2															
	FBM	PAP104S	建築意匠・技法		2		2						2														
	FBM	PAP105S	都市計画		2		2												2								
	FBM	PAP306S	建築設計演習		2		2													4				高次			
環境・設備	FBM	PAE101H	建築環境工学A	2			2				2																
	FBM	PAE102S	建築環境工学B		2		2				2																
	FBM	PAE103S	建築環境工学演習	1			1						2														
	FBM	PAE104S	建築設備A		2		2					2															
	FBM	PAE105S	建築設備B		2		2						2														
	FBM	PAE106S	建築設備演習		1		1								2												
教職教科	FBT	TCK101J	職業指導Ⅰ			2	2							2											※3		
	FBT	TCK102J	職業指導Ⅱ			2	2								2									先行※3			
	FBT	TCK103J	工業概論 A			2	2							2													
	FBT	TCK104J	工業概論 B			2	2									2											
単位数及び週時間数合計					74	127	14	215	8	36	32	30	30	4	4	4	26	26	26	26	0	2	0	0			
									10	36	32	28	38	52	14	8											

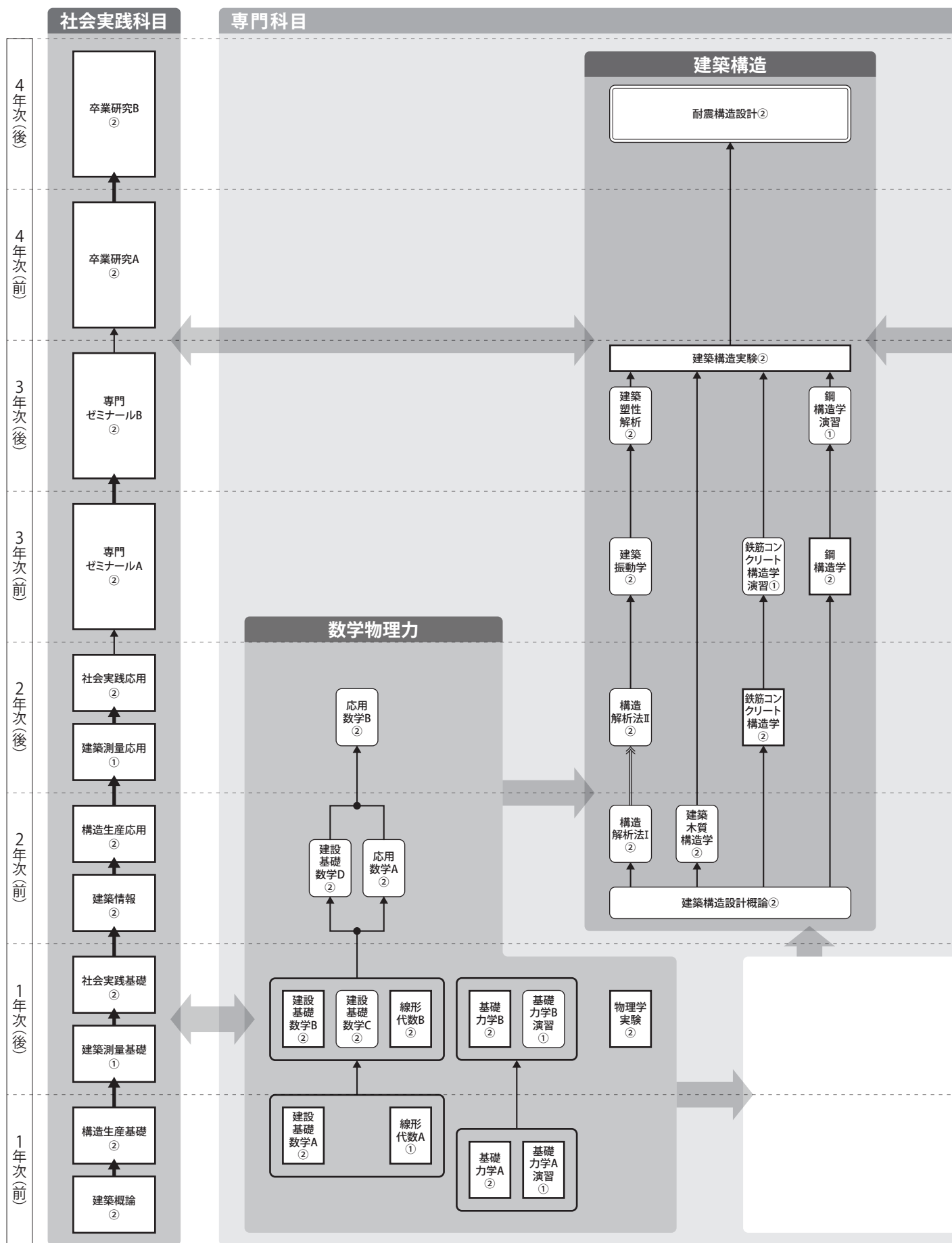
リミナル	FBM RMZ002H	数学I・A・II・B	0				4																		
------	-------------	------------	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

卒業に必要な単位数

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目		必修科目	選択科目	
9	15	22		43	35	124

建築工学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育科目・専門教育)



科目)

必修

選択

自由

高次

→ 先行修得科目[二重線]

→ 系列科目[実線太線]

→ 関連科目[実線]

○内の数字は単位数

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修学

工学部

情報学部

環境学部

生命学部

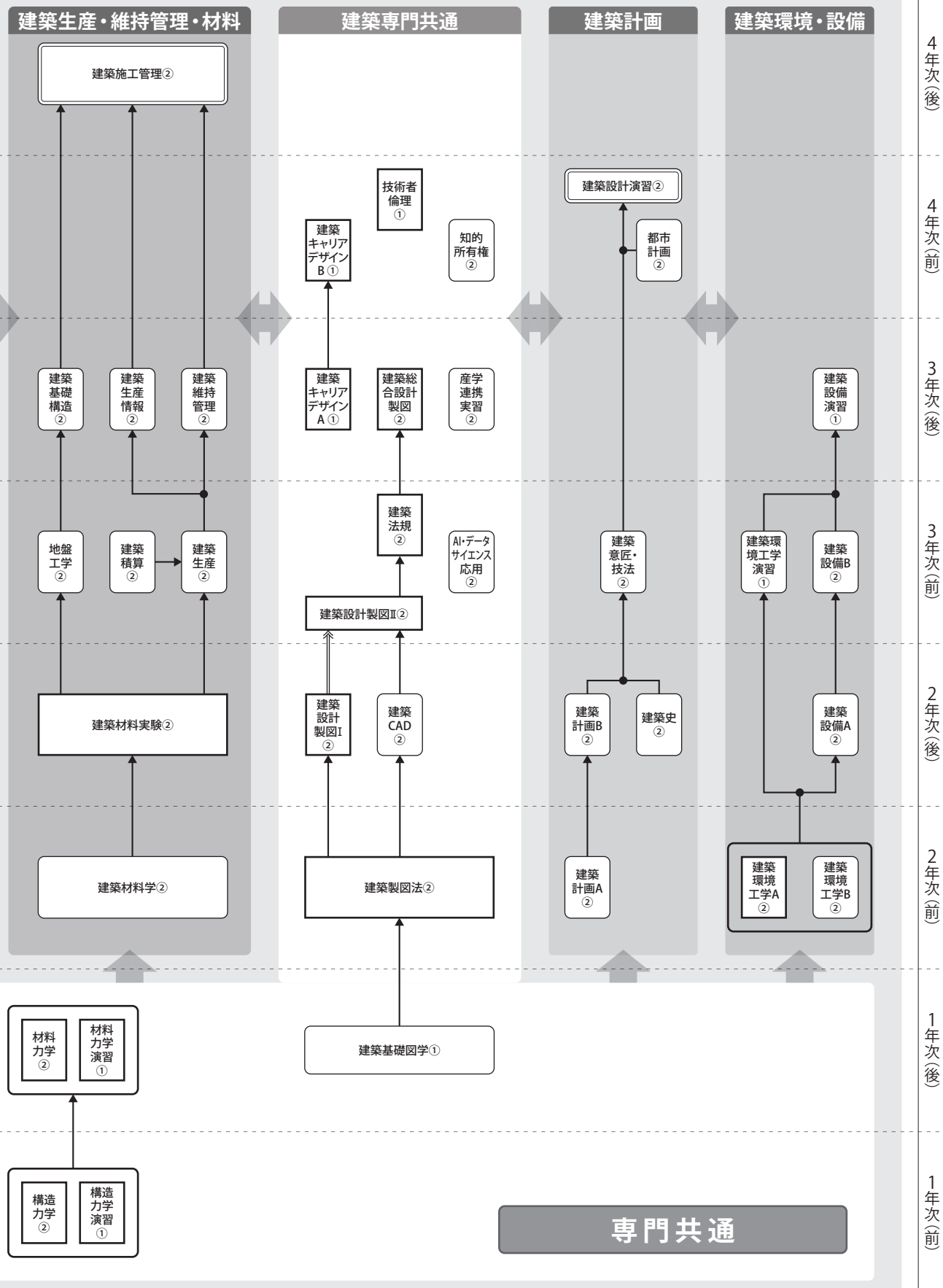
学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前期

後期



ディプロマ・ポリシー

情報学部では、社会生活及び経済活動を支える情報学の広範囲にわたる高度な知識を修得するとともに、情報学に関わる先端技術及びその実践力を身に付けることで、他者と協調しながらグローバル化した高度情報化社会の形成に貢献する人材を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士の学位を授与します。

I【知識・理解】

社会生活の基盤となる情報学の学問体系を理解し、その広範囲にわたる高度な専門知識と幅広い教養を身に付けることで、社会における課題を解決できる。

II【思考・判断】

グローバル化した高度情報化社会を高い英知と環境意識を持って論理的に思考し、他者と協調しながら、課題を解決するために判断できる。

III【技能・表現】

社会生活で取扱う膨大な情報を、高度に処理する高い技能を有するとともに、ものごとに対する自らの考えを適切かつ平易に表現できる。

IV【関心・意欲・態度】

社会に対する深い関心を持ち、修得した知識を応用して社会における課題を解決する意欲を有し、高い倫理観を持って社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

情報学部は、広島工業大学の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、情報学部の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえて教育課程を編成します。教育課程は、国際感覚と幅広い教養を備え、広い視野と豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観とコンピテンシーを持つ技術者となることを目的とした社会実践教育科目、高度情報化社会の形成に貢献する基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリーにより学びの順次性をもって編成します。

情報学部

近年の情報通信技術(ICT: Information and Communication Technology)の目覚ましい発展により、私たちの暮らしは大きく変化しています。無線インターネットが交通機関や公共施設などでも利用可能になり、さらに携帯端末は4Gから5Gへと進化し、単なる通信のみではなくさまざまなサービスが提供されるようになってきました。

最近では情報の生成、処理、伝達の仕組みがあらゆる機器に導入され、デジタル化による社会経済活動の持続的な成長(DX: Digital Transformation)を促進しています。それはモノのインターネット(IoT: Internet of Things)、あるいはすべてがつながるインターネット(loE: Internet of Everything)と呼ばれ、第4次産業革命(Industry4.0)をなしとげる基幹技術と言われています。

我が国は、情報社会(Society4.0)のさらに先の未来社会を見据えて、人間中心の社会(Society5.0)を打ち出しています。ソサエティ5.0では、インターネットに流れ込む情報によりクラウドに創り出された仮想空間を使って、社会・経済的課題を解決する手段をシミュレートし、それを元に現実社会における課題がこれまで以上に適切にかつ迅速に解決されるようになります。さらにそこでは人工知能(AI: Artificial Intelligence)が人々それぞれに対する課題を解決し、一人一人が快適で健康に活躍できるような情報を提供します。

このような社会変革の大きなうねりの中、「社会全体が元気で、安心して生活でき、新たな感動を享受できる社会」の実現に向けて、その基盤技術を修得した「高度ICT人材」を育成する必要があり、大学はその大きな役割を担っています。

1.情報関連技術の中核を担う人材の育成

情報学部は、実社会で有用な「情報学」について研究・教育を行い、他者と協働しながらグローバル化した高度情報化社会の形成に貢献できる、学識及び人間力を備えた、情報関連技術の中核を担う人材の育成を行います。

情報学部には、コンピュータを中心に拓がる情報学の学問領域を学ぶ「情報工学科」と、人間を中心

に拓がる情報学の学問領域を学ぶ「情報コミュニケーション学科」の2学科があります。両学科共に情報学の学びの領域のうち、コンピュータ工学、ソフトウェア工学、そして、人工知能を含む情報システム学の分野をカバーしています。さらにそれぞれの学科専門は次のような特徴があります。

- ①「情報工学科」は、コンピュータ工学全般を理解し、マルチメディア技術及びコンピュータネットワーク技術を有した、高度情報化社会をハード及びソフトの両面から支える人材の育成を行います。
- ②「情報コミュニケーション学科」は、情報システムの企画・設計から制作・運用、さらにアプリケーションに至るまでの必要な技術を有し、それを活用し、論理的に問題解決策を立案、実践することができる能力を有する人材の育成を行います。

2.人間力の養成

情報学部では、専門領域の学力とともに人間力の養成にも力を入れています。この人間力とは、社会を構成し、運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力で、社会に出る前にある程度身に付けておかねばならない力です。

情報学部では、これからの社会を担う人材を育成するために、この人間力を育むプログラム「FBITプログラム(Friendship Before IT)」を推進しています。このプログラムでは、自分、また、相手を知り、互いを認め合うこと、また、共同作業をととして、仲間と力を合わせることの大切さを体験的に学びます。さらに、上級学年で実施するリーダーシップを養う内容に繋がっていきます。

このようなプログラムをととして、情報学の専門的な知識及び技術とともに、豊かな人間力を身に付けることができる教育を提供しています。

3.実践的な専門的職業人へ

学生の皆さんが、充実した学生生活を送られ、基礎知識と応用力を修得し、国際感覚と「社会・環境・倫理」の素養も備えた情報関連技術の中核を担う実践的な専門的職業人として活躍されることを期待しています。

ディプロマ・ポリシー

情報工学科では、コンピュータ、インタフェース及びネットワークの三つの分野を中心に社会生活及び経済活動を支える広範で高度な情報技術の基礎知識と応用スキルを修得し、他者と協調しながら最新の情報技術に常に関心を持って、グローバル化した高度情報化社会の形成に貢献できる次の要件を備えた者に、学士(情報学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 情報工学を支える数学・物理学の基礎知識と幅広い教養を身に付け、情報工学の応用的・発展的な内容の専門科目を体系的に理解することができる。
- (2) 情報工学が社会生活の課題を解決するために果たしている役割を理解し、他者と協調しながら情報工学を応用実践するための基礎技術を身に付けている。

II【思考・判断】

- (3) 社会生活が情報技術によって高度に発展し続けていくという認識をもとに、必要とされる技術の本質を見抜いたうえで論理的に思考することができる。
- (4) 社会生活のグローバル化・多様化が進み続ける中、そこで創出される情報工学的課題解決手段の効果及びリスクを環境意識とともに判断することができる。

III【技能・表現】

- (5) 情報工学の絶え間ない進歩とそれを取り巻く社会の変化に目を向け、必要な幅広い技術情報を適切な手段・形式で収集し応用することができる。
- (6) 情報技術者として対象システムに対する相手の意図を正確に理解し、自らの考えを平易かつ適切に表現することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 自然・社会に対して好奇心をもち、見出した問題・課題に対して情報工学の観点から主体的に取組み、高い倫理観に基づいて解決に尽力することができる。
- (8) 自らが発見した問題あるいは問題解決のための活動について、そのプロセスと結果を積極的に他者へ発信し、相互に共有することができる。

カリキュラム・ポリシー

情報工学科は、広島工業大学及び情報学部教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあつては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあつては専門基盤、コンピュータ、インタフェース、ネットワーク、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「HIT基礎実践A」「HIT基礎実践B」「HIT基礎実践C」「HIT基礎実践D」を1年次の各クォーターに、また、「HIT応用実践A」「HIT応用実践B」「HIT応用実践C」「HIT応用実践D」を2年次の各クォーターに開設します。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に開設します。また、修得した知識を横断的に活用し自分自身の研究テーマに取り組むことにより、課題解決実践力を養う科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

情報学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため学科の学びの基礎となる「情報数理基礎」「信号処理数学基礎」「発展数学」などの数学に関する科目と「計測物理実験」の物理学に関する科目を開設します。また、ものづくりにおける倫理観を養う「技術者倫理」を開設します。

さらに、情報学に求められる基盤技術を修得するため、情報学的思考に基づきアイデアを具体化する「アルゴリズム」、それをソフトウェアで実現する「プログラミング」、ハードウェアで実現する「回路入門」などを1、2年次に開設します。また、情報学の基礎知識を幅広く修得するため、テクノロジー系科目「情報テクノロジー」「情報ネットワーク入門」、マネジメント系科目「情報マネジメント」「情報ストラテジ」などを開設します。加えて、データ処理に関連する科目「データ解析」「自然言語処理」などを、システム開発に関連する「ソフトウェア工学」「プロジェクトマネジメント」などを3、4年次に開設します。

【専門教育科目(コンピュータ)】

コンピュータに関する基礎知識を修得するため「コンピュータアーキテクチャ」「オペレーティングシステム」を、また、機器制御に必要な知識を修得するため「組込みシステム」「デジタル制御」を開設します。さらに、コンピュータ技術者として求められる実践応用力を身に付けるため、高次レベル科目「デジタルシステム設計」を開設します。

【専門教育科目(インタフェース)】

信号処理システムの基礎知識を修得するため「デジタル信号処理」を、センシング技術を修得するため「センシング」を、画像音声などの認識の基礎を修得するため「人工知能」「画像音声認識」を開設します。さらに、インタフェース技術者として求められる実践応用力を身に付けるため、高次レベル科目「インタフェース設計」を開設します。

【専門教育科目(ネットワーク)】

情報ネットワークシステムの基礎知識を修得するため「ネットワーク技術」「情報セキュリティ」を、システム構築に必要な基礎を修得するため「データベース」「ネットワークプログラミング」を開設します。さらに、ネットワーク技術者として求められる実践応用力を身に付けるため、高次レベル科目「ネットワークシステム設計」を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

情報学部情報工学科 教育課程表

別表2

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
																				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
リベラル アーツ 教育科目	総合	KBL ISN101H	自校教育論	1			1		2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								</

高次…高次レベル科目 先行…先行修得科目 組入…組入科目

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年		2年		3年		4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
専門 教育科目	専門 基盤	KBM	FSE102H	信号処理数学基礎	2			2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

リミナル

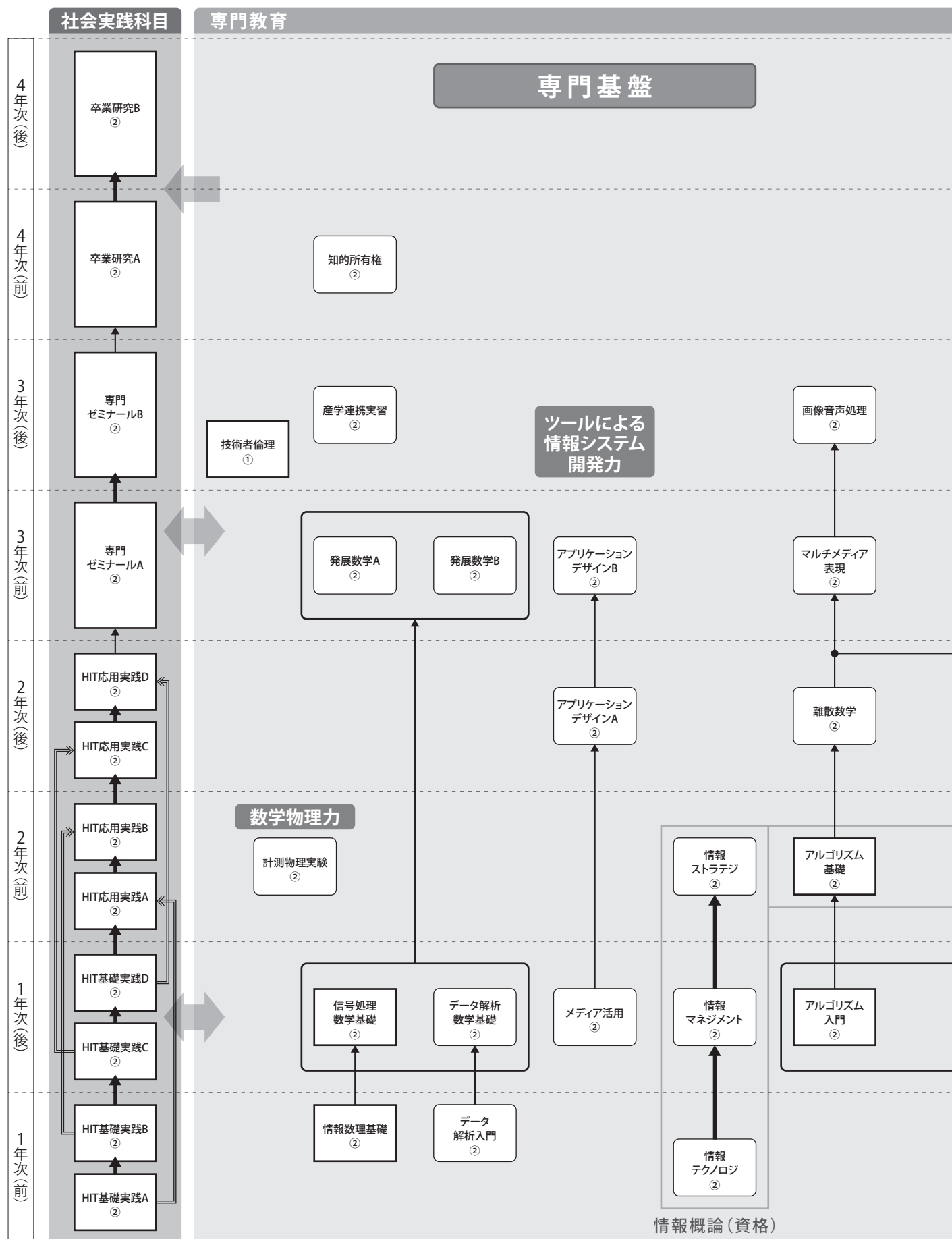
KBM	RMZ002H	数学I・A・II・B	0				4																		
-----	---------	------------	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

卒業に必要な単位数

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	
8	16	24		18	58	124

情報工学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育科目・専門教育)



科目)

必修

選択

自由

高次

→ 先行修得科目〔二重線〕

→ 系列科目〔実線太線〕

→ 関連科目〔実線〕

○内の数字は単位数

窓
各種
手続

▼ H
2 |
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

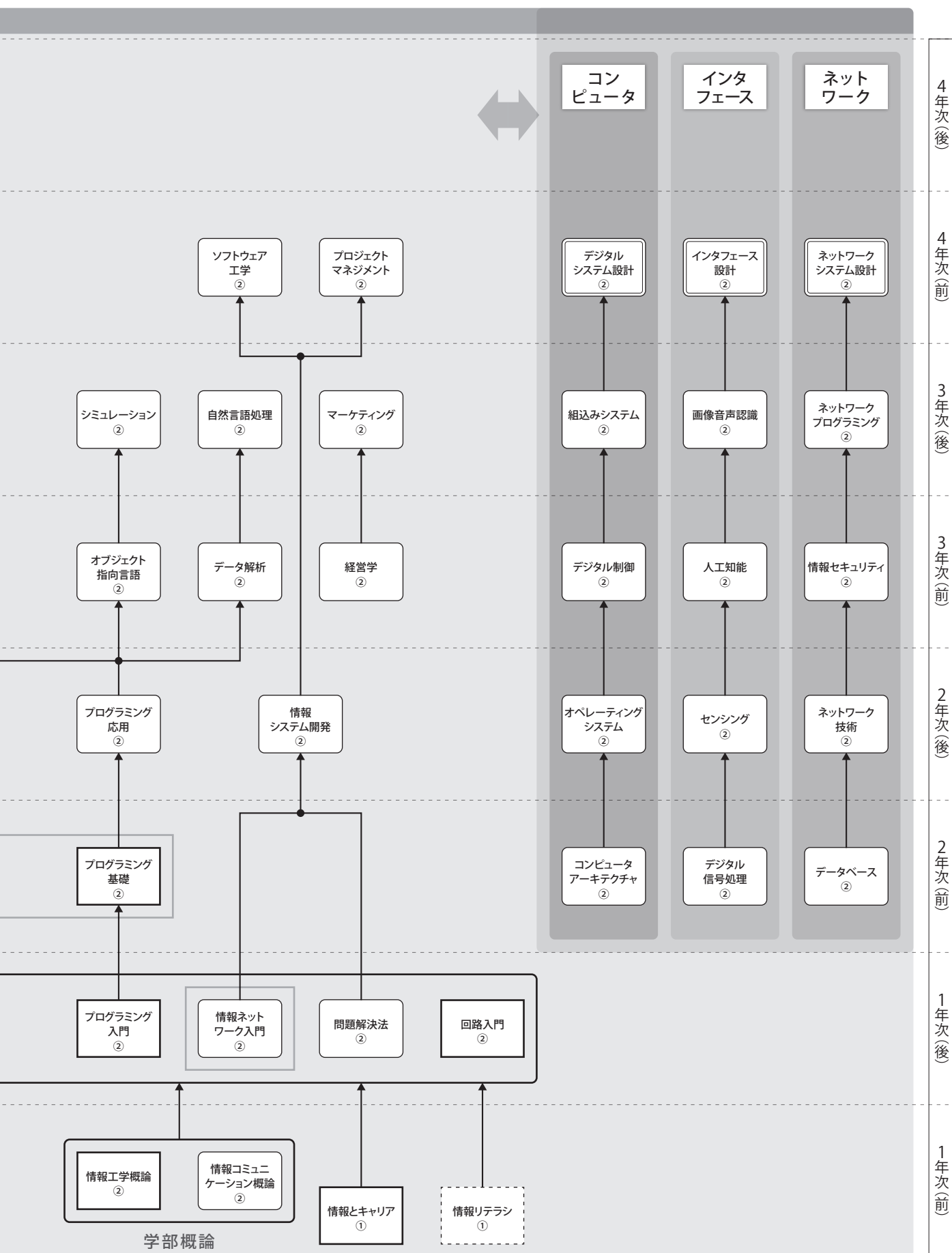
学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期



リベラルアーツ教育科目のカリキュラム・ツリーは、**66ページ**参照

ディプロマ・ポリシー

情報コミュニケーション学科では、経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア及びコミュニケーションの四つの分野を中心に社会生活や経済活動を支える広範で高度な情報技術の基礎知識と応用スキルを修得し、他者と協調しながら最新のメディア・コミュニケーション技術に常に関心を持って、グローバル化した高度情報化社会の形成に貢献できる次の要件を備えた者に、学士(情報学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 情報学を支える数学や自然科学などの基礎的な教養知識を身に付け、情報学の学問体系及び情報学を構成する各領域の基礎的な技術を理解できる。
- (2) 経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、及びコミュニケーションに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。

II【思考・判断】

- (3) グローバル化した高度情報化社会における情報システムについて、経済性、効率性、利用者の利便性及び安全性の観点から論理的に思考できる。
- (4) 高い倫理観に基づいて、情報システムが人間社会や環境に与える影響を主体的に判断し社会の要求に正当かつ的確に対応することができる。

III【技能・表現】

- (5) 社会生活で取扱う膨大なデータの中から必要な情報を的確に取得し、社会や経営に戦略的に活用するための高度な処理技能を身に付けている。
- (6) 高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 社会に対する深い関心を持ち社会が抱える諸問題を自ら発見して、修得した知識を応用することで主体的に課題を解決することができる。
- (8) 技術者としての高い使命感と倫理観をもって責任ある行動ができ、高度情報化社会に潜む諸問題を解決していくことで、社会に貢献・奉仕できる。

カリキュラム・ポリシー

情報コミュニケーション学科は、広島工業大学及び情報学部教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあっては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあっては専門基盤、経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、コミュニケーション、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「HIT基礎実践A」「HIT基礎実践B」「HIT基礎実践C」「HIT基礎実践D」を1年次の各クォーターに、また、「HIT応用実践A」「HIT応用実践B」「HIT応用実践C」「HIT応用実践D」を2年次の各クォーターに開設します。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に開設します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

情報学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため学科の学びの基礎となる「データ解析入門」「データ解析数学基礎」「発展数学」などの数学に関する科目と「計測物理実験」などの物理学に関する科目を開設します。また、ものづくりにおける倫理観を養う「技術者倫理」を開設します。

さらに、情報学に関する基盤技術を修得するため情報学的思考に基づきアイデアを具体化する「アルゴリズム」、それを実現する「プログラミング」、ビジネスに展開するための基礎となる「情報マネジメント」「問題解決法」などを1、2年次に開設します。また、情報学の基礎知識を幅広く修得するため、テクノロジー系科目「情報テクノロジー」、マネジメント系科目「情報マネジメント」、ストラテジ系科目「情報ストラテジ」を開設します。加えて、データ処理に関連する科目「データ解析」「自然言語処理」などを、システム開発に関連する「ソフトウェア工学」「プロジェクトマネジメント」などを3、4年次に開設します。

【専門教育科目(経営情報システム)】

費用対便益や顧客満足度の高い情報システムの開発及び導入を実現できる能力を養うために「インダストリアル・エンジニアリング」「オペレーションズ・リサーチ」を、また、複雑化する社会に情報システムを適用する知識を修得するために「ファイナンシャルマネジメント」「技術経営」を開設します。さらに、経営情報分野の創造的技術者に求められる実践力を身に付けるために、高次レベル科目「経営情報システムデザイン」を開設します。

【専門教育科目(データサイエンス)】

社会で起こる様々な事象を科学的・論理的に捉える能力を養うために「データベース」「データマイニング」を開設します。また、データを可視化して新たな発見を容易にするための技術を修得するために「データビジュアライゼーション」を開設します。さらに、膨大なデータの中に潜む関連性や規則性を的確に捉え新しいビジネスチャンスを創造できる技術者に求められる実践力を身に付けるため、高次レベル科目「ビジネスデータサイエンス」を開設します。

【専門教育科目(ソーシャルメディア)】

現代社会のコミュニケーション手段として欠かせないソーシャルメディアサービス(SNS)を実現するための技術と知識を修得するために「ソーシャルネットワーク科学」を開設します。また、このメディアを通して送受信されるデータを人間の思考に基づいて分析し判断するための技術を修得するために「機械学習」を開設します。そして、問題解決の新しい考え方を修得するために「ゲーミフィケーション技術」を開設します。さらに、ソーシャルメディア技術者に求められる実践力を身に付けるため、高次レベル科目「ソーシャルアプリケーション開発」を開設します。

【専門教育科目(コミュニケーション)】

現代社会でのメディア・コミュニケーションの1つであるWebを用いた表現方法を修得するために「Webデザイン」を開設します。また、効果的なメディア・コミュニケーションの能力を養うために「認知科学」「行動科学」を開設します。そして、生命と機械の融合による集合体の制御技術を修得するために「サイバネティックス」を開設します。さらに、コミュニケーション技術者に求められる実践力を身に付けるため、高次レベル科目「コミュニケーションシステムデザイン」を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

情報学部情報コミュニケーション学科 教育課程表

別表2

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
																				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
リベラル アーツ 教育科目	総合	MBL ISN101H	自校教育論	1			1		2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		</

高次…高次レベル科目 先行…先行修得科目 組入…組入科目

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
																		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
専 門 教 育 科 目	専 門 基 盤	MBM FSA117S	信号処理数学基礎		2		2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					</

リバディアル MBM RMZ001H 数学I・A 0 4

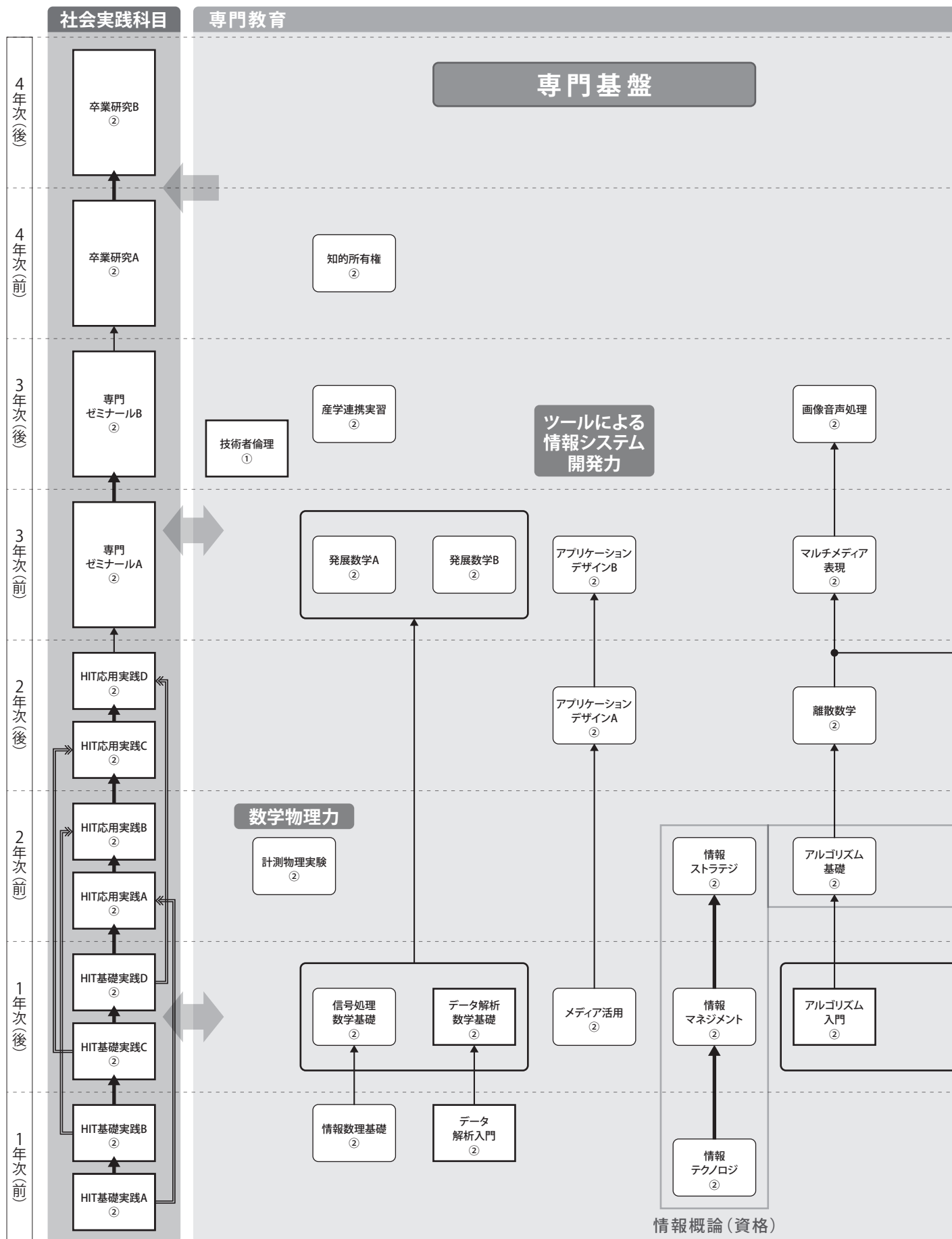
○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

○専門教育科目において、分野「経営情報システム」と「データサイエンス」の組み合わせ、あるいは分野「ソーシャルメディア」と「コミュニケーション」の組み合わせ、これら2つの組み合わせのどちらか一方の組合せから8単位以上(高次レベル科目を除く)、又、他方の組み合わせから4単位以上(高次レベル科目を除く)修得のこと。

卒業に必要な単位数

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目	必修科目	必修科目	選択科目	
8	16	24		16	60	124

情報コミュニケーション学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育)



科目・専門教育科目)

必修

選択

自由

高次

→ 先行修得科目〔二重線〕

→ 系列科目〔実線太線〕 ○内の数字は単位数

→ 関連科目〔実線〕

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

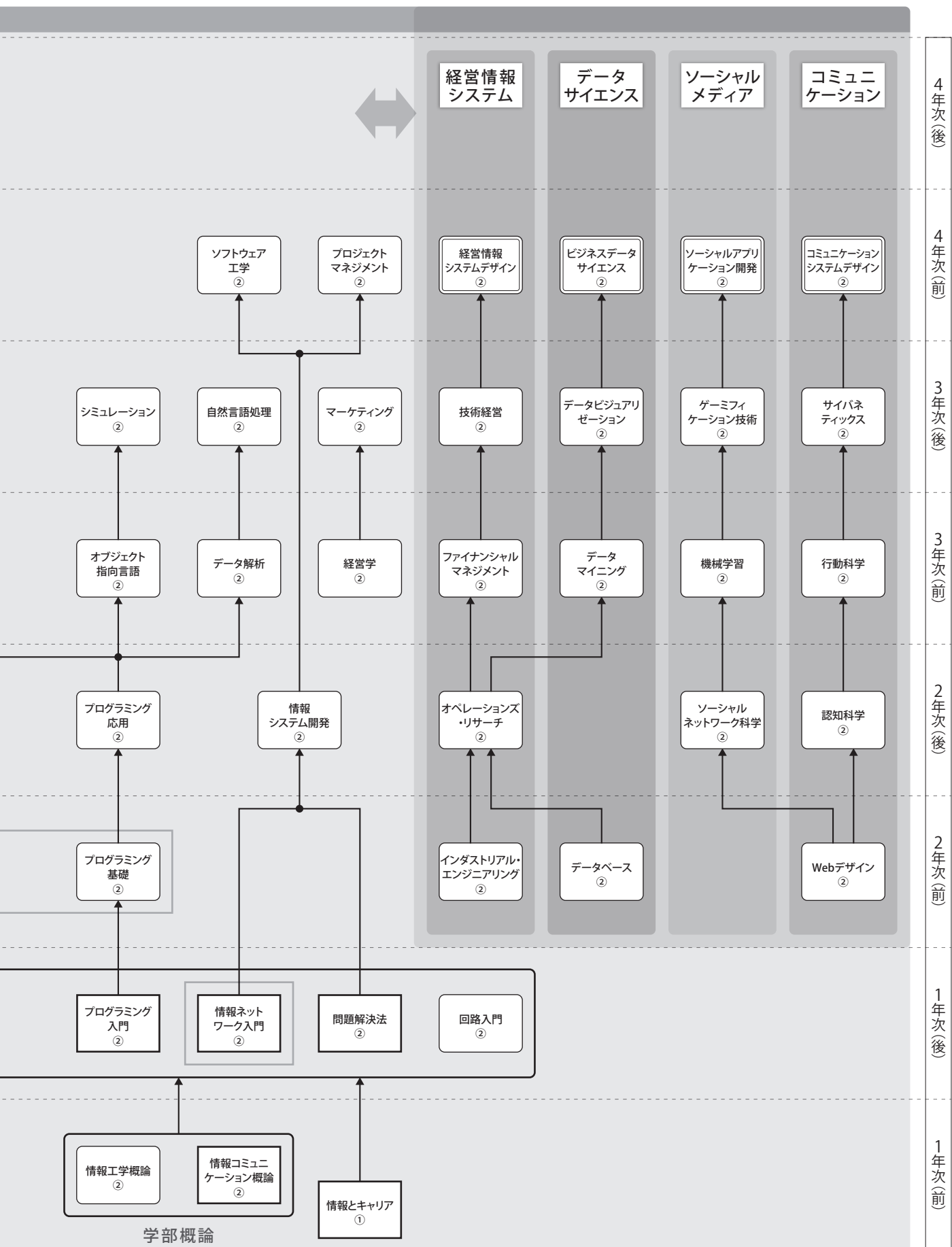
学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期



リベラルアーツ教育科目のカリキュラム・ツリーは、**66ページ**参照

ディプロマ・ポリシー

環境学部では、自然環境系、社会環境系及び人間環境系を融合した新しい領域の学修を通して幅広い教養を身に付け、グローバルな視野を持ち、良好な環境の保全並びに環境共生型社会創生を行う視点と能力を身に付けた人材を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士の学位を授与します。

I【知識・理解】

地球環境と居住環境を主題にした生活環境に関わる幅広い教養と知識を修得し、様々な環境問題の解決と環境共生型社会創生に向けた方策を理解できる。

II【思考・判断】

地球環境と居住環境との持続的共生を基本にして、創造的かつ論理的に思考でき、環境共生型・循環型社会の構築に向けて、社会の要求に対応できる。

III【技能・表現】

多様な課題に対して幅広い知識をもとに、広く用い得る技能を有し、自らの考えを文章化あるいは図式化して、正確にわかりやすく表現することができる。

IV【関心・意欲・態度】

地球環境と居住環境に関わる様々な事象と課題への関心を継承し、社会貢献への意欲を持って、技術者としての高い倫理観を有し、責任ある行動ができる。

カリキュラム・ポリシー

環境学部は、広島工業大学の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)をもとに、環境学部の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえて教育課程を編成します。教育課程は、幅広い知識と見識を持った豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観とコンピテンシーを持つ技術者となることを目的とした社会実践教育科目、環境を考慮したより良い社会をつくるための基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリーにより学びの順次性をもって編成します。

環境学部

今日の著しい技術の進歩と発展が、我々に多くの快適性と利便性をもたらしたことは、疑うことはできないでしょう。

しかし、その結果として、回復不可能とも言えるほどの自然破壊が行われてきたことを、見逃すことはできません。その後、環境への負荷は、低減されるようになってきましたが、地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯雨林の減少、動植物の絶滅、景観の破壊、精神や心の荒廃など、今や、環境問題は、国の範囲を超え地球規模で考えるべき問題です。

本学では、これまで培ってきた工学教育の上に、自然科学と社会科学、更には人文科学をも加え、人間の社会生活に密着した環境に係わる環境学部を我が国で初めて創設しました。本学部では、人間が生態系の一員として自然環境と共生し、恵み豊かな地球環境を保全・再生していく上で、自然環境系、社会環境系及び人間環境系の分野を融合した総合的視野に立ち、良好な環境の保全や形成を行う観点から物事を考察できる姿勢と能力を有した人材育成を行うことを目的としています。

「広島工業大学環境憲章」に照らしても、環境学部は必然であり、今後、大学の内・外の協力のもとに当学部の発展が期待されています。

1. 学部構成と人材育成

環境学部は、平成5年4月に発足した環境デザイン学科から始まり、平成11年4月には環境情報学科を増設し、更に平成18年4月には環境デザイン学科、地域環境学科及び地球環境学科の3学科構成となりました。平成22年4月に環境デザイン学科と地球環境学科の2学科体制への編成替えの後、平成28年4月から、環境デザイン学科を改組し、建築デザイン学科に生まれ変わり、地球環境学科との2学科構成となりました。

建築デザイン学科は、「心豊かな居住環境の実現を思考や判断の中心に置いた建築デザインに、高い倫理観と責任感を持って、意欲的に取り組む人材の養成」を、地球環境学科は、「地球環境問題に結びつく観測・分析・評価・計画のできる実践的な地球環境教育を中心に据えて、高い倫理観を持ち社会に貢献できる人材の養成」を行うことを目的としています。

2. 幅広い学びとカリキュラム構成

本学は広島修道大学との学生交流に関する協定を締結し、環境関連分野の教育研究の発展に寄与することとしました。環境学部においては自然科学系・技術系の立場から環境負荷の少ない環境共生・循環型社会を構築するための方法について学びますが、平成20年4月より広島修道大学の人間環境学部において、社会科学系の立場から一般社会や市民の環境活動に係わる授業科目を単位互換によって学ぶことができ、環境問題の解決に向けた理系・文系にまたがる技術者の養成にも配慮しています。

また、建築デザイン学科と地球環境学科との関連性も考慮した、大学院工学系研究科博士前期課程環境学専攻への進学の道も開かれています。

一方、環境学部のカリキュラムは、リベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目、及び専門教育科目という3つの大きな系列で構成されています。リベラルアーツ教育科目は、幅広い知識と見識を持った豊かな人間性を育むため、全学共通科目として配置しています。社会実践教育科目は、専門力と人間力の養成に加えて、自ら課題を発見し仲間とともに解決していく社会実践力を育むため、令和2年度から学科ごとに新たに設計した、社会を意識した実践的な内容で配置しています。そして専門教育科目は、それぞれの学科に係わる分野の最新の知識や技術が反映できるように工夫を凝らしています。

心身共に完成期にある学生の皆さんが、幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、先端分野の教育内容を修得することにより、環境共生型・循環型社会の創生に貢献できる技術者としての資質を得るように自己形成に努めてほしいと願っています。

建築デザイン学科

ディプロマ・ポリシー

建築デザイン学科では、幅広い教養とグローバルな視点に基づき、建築、インテリア・木工、デジタルデザインの各分野の学修を通じて、社会の要求に応えるための知識や技能を身に付け、心を豊かにする居住環境の実現を柱とする建築デザインに、高い倫理観と責任感をもって意欲的に取り組むことのできる次の要件を備えた者に、学士(環境学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 人々の心豊かな暮らしに対する幅広い教養と工学的知識を共に深め、この教養と知識をもって実践的な技術としての建築デザインを理解することができる。
- (2) 数学、物理及び自然科学などの基礎的な教養知識を幅広く身に付け、建築学の学問体系及び各領域の基礎・基本を理解することができる。

II【思考・判断】

- (3) 建築デザインを実践するにあたり、自然環境・都市環境との持続的共生を基本とし、理性的かつ論理的に思考し、判断することができる。
- (4) 高度に発達した技術社会のなかで、建築デザイン分野における課題の解決に向けて、高い倫理観に基づき思考し、適切な判断を行うことができる。

III【技能・表現】

- (5) 豊かな居住環境の構想を多様な手段によって表現し、それにより自分の考えを相手に明確に伝えることができる。
- (6) 自ら構想した空間を図面や仕様書などに反映でき、幅広い教養と言語力及びプレゼンテーション能力をもって、他者に伝えることができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 生活のあらゆることに関心を持ち、種々の課題に対して創造的な解決を導き出すため、自主的、継続的、計画的に行動できる。
- (8) 技術者としての高い倫理観と責任観をもって行動でき、課題解決に向けた取り組みと結果を積極的に社会へ発信できる。

カリキュラム・ポリシー

建築デザイン学科は、広島工業大学及び環境学部の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあっては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあっては専門基盤、建築計画、コンピューショナルデザイン、木工・インテリア、建築環境、建築構造・維持管理、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「デザインスタディA・B・C・D」を1年次の各クォーターに、また、「デザインスタディE・F・G・H」を2年次の各クォーターに開設します。1年次前期では「デザインワークショップ」と連携し、家具のデザインから実際の制

作までを行い、ものづくりの実践を学びます。全体を通し「住まい」をテーマの中心に置きながら、「調べる力」、「考える力」、「表現する力」、「伝える力」など、社会で求められる実践基礎力を身に付けることが目的です。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に開設します。3年次後期では、実践応用力を身に付けるため「デザインスタジオ」と連携し、その成果を具体物として表現し発表します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取り組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

環境学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため1・2年次に「建築デザイン数理基礎」「建築デザイン数理」「建築デザインとデータ解析」の数学・物理科目を開設します。卒業後、建築士資格を取得するため2～4年次に「建築法規」「建築キャリアデザインA」「建築キャリアデザインB」「建築キャリアデザインC」を開設します。3年次には学外研修による体験学習「産学連携実習」を開設します。さらに、4年次に、ものづくりにおける倫理観を養う「技術者倫理」「知的所有権」を開設します。

【専門教育科目(設計)】

設計科目は、総合専門力を実践的に養うことを目的としています。初年次に「製図技法」「住居デザイン実習A」、2年次に「建築デザイン実習A」「住居デザイン実習B」、3年次に「建築デザイン実習B」「デザインスタジオ」、4年次に「特別建築デザイン実習」を開設します。

【専門教育科目(計画・歴史・意匠)】

計画に関わる科目として、初年次に「建築計画」「住居計画」、2年次に「施設計画A」「集合住宅計画」、3年次に「施設計画B」「リノベーション」、4年次に「都市コミュニティ計画」を開設します。

歴史・意匠に関わる科目として、初年次に「現代の建築」「世界建築史」、2年次に「近代建築史」「日本建築史」、3年次に「建築デザイン論」「建築論」を開設します。

【専門教育科目(コンピューショナルデザイン)】

コンピューショナルな計画・設計に関わる科目として、初年次に「コンピューショナルデザイン」、2年次に「デジタルファブリケーション実習」、3年次に「BIM実習」を開設します。

【専門教育科目(木工・インテリア)】

木工・インテリアに関わる科目として、初年次に「インテリア計画」、2年次に「色彩・照明計画」「工房実習」、3年次に「プロダクトデザインA」「プロダクトデザインB」、4年次に「木質計画」を開設します。

【専門教育科目(建築環境)】

建築環境に関わる科目として、2年次に「環境工学A」「環境工学基礎演習」、3年次に「建築設備」「建築設備演習」「環境工学B」を開設します。

【専門教育科目(建築構造・維持管理)】

建築構造に関わる科目として、初年次に「建築一般構造」、2年次に「構造力学A」「構造力学基礎演習」「構造力学B」、3年次に「構造デザインA」「構造デザイン演習」「構造デザインB」を開設します。建築材料に関わる科目として、初年次に「建築材料学A」、2年次に「建築材料学B」、3年次に「建築材料学実験」を開設します。建築生産・維持管理に関わる科目として、2年次に「建築生産」、3年次に「建築積算」「建築積算演習」「建築施工管理」、4年次に「建築維持管理」を開設します。

【専門教育科目(教職教科)】

高等学校教諭一種免許状(工業)取得に必要な教職及び教科に関する科目を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

環境学部建築デザイン学科 教育課程表

別表3

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
																		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
リベラル アーツ 教育 科目	総合	PBL ISN101H	自校教育論	1			1	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							</

高次…高次レベル科目 先行…先行修得科目 組入…組入科目

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
									1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
専門 基盤	PBM	FSM114S	建築デザイン数理基礎		1		1	2																	
	PBM	FSM112S	建築デザイン数理		2		2		2																
	PBM	FSM223S	建築デザインとデータ解析		1		1			2															
	PBM	FSM226H	建築法規	2			2							2											
	PBM	FSC233S	キャリアデザイン		1		1							2											
	PBM	FSC232H	建築キャリアデザイン A	1			1								2										
	PBM	FSC242H	建築キャリアデザイン B	1			1											2							
	PBM	FSC243S	建築キャリアデザイン C		1		1															2			
	PBM	FSM237S	AI・データサイエンス応用		2		2								2										
建築 計画	PBM	PDD112H	住居デザイン実習 A	2			2		4																
	PBM	PDD121H	建築デザイン実習 A	2			2			4															
	PBM	PDD122H	住居デザイン実習 B	2			2				4														
	PBM	PDD131H	建築デザイン実習 B	2			2					4													
	PBM	PDD232S	デザインスタジオ		2		2								4										
	PBM	PDD341S	特別建築デザイン実習		2		2											4							高次
	PBM	PDD111S	製図技法		2		2	4																	
	PBM	PDP114H	建築計画	1			1	2																	
	PBM	PDP116H	住居計画	1			1				2														
	PBM	PDP223H	施設計画 A	1			1			2															
	PBM	PDP225H	集合住宅計画	1			1				2														
	PBM	PDP233H	施設計画 B	1			1						2												
	PBM	PDP232S	リノベーション		2		2									2									
	PBM	PDP341S	都市・コミュニティ計画		2		2												2						高次
	PBM	PDH114S	現代の建築		1		1	2																	
	PBM	PDH112H	世界建築史	2			2		2																
	PBM	PDH221S	近代建築史		2		2			2															
	PBM	PDH222S	日本建築史		2		2				2														
	PBM	PDH231S	建築デザイン論		2		2						2												
	PBM	PDH232S	建築論		2		2								2										
専門 教育 科目	PBM	CDC112S	コンピューショナルデザイン		2		2			2															
	PBM	CDC121S	デジタルファブリケーション演習		2		2				4														
	PBM	CDC131S	BIM 実習		2		2					4													
	PBM	IDI111S	デザインワークショップ		1		1	2																	
木 造 イ ン テ リ ア	PBM	IDI112S	インテリア計画		2		2			2															
	PBM	IDI221S	色彩・照明計画		2		2				2														
	PBM	IDI122S	工房実習		2		2					4													
	PBM	IDI235S	プロダクトデザイン A		1		1									2									
	PBM	IDI236S	プロダクトデザイン B		1		1										2								
	PBM	IDI241S	木質計画		2		2											2							
	PBM	EDE222H	環境工学 A	2			2				2														
	PBM	EDE122S	環境工学基礎演習		1		1				2														
建 築 環 境	PBM	EDE231H	建築設備	2			2								2										
	PBM	EDE131S	建築設備演習		1		1								2										
	PBM	EDE232S	環境工学 B		2		2									2									
	PBM	SDS114H	建築一般構造	1			1	2																	
	PBM	SDS116H	建築材料学 A	1			1		2																
建 築 構 造 ・ 維 持 管 理	PBM	SDS224H	建築材料学 B	1			1				2														
	PBM	SDS221H	構造力学 A	2			2				2														
	PBM	SDS121S	構造力学基礎演習		1		1				2														
	PBM	SDS222H	構造力学 B	2			2					2													
	PBM	SDS231H	構造デザイン A	2			2							2											
	PBM	SDS131S	構造デザイン演習		1		1							2											
	PBM	SDS132S	建築材料実験		2		2									4									
	PBM	SDS236S	構造デザイン B		1		1										2								
	PBM	SDP222H	建築生産	2			2				2														
	PBM	SDP231S	建築積算		2		2					2													
	PBM	SDP232S	建築施工管理		2		2									2									
	PBM	SDP132S	建築積算演習		1		1									2									
PBM	SDP341S	建築維持管理		2		2											2							高次	
教 職 教 科	PBT	TCK101J	職業指導Ⅰ			2	2								2										※1
	PBT	TCK102J	職業指導Ⅱ			2	2									2									先行※1
	PBT	TCK103J	工業概論 A				2	2							2										
	PBT	TCK104J	工業概論 B				2	2									2								
単位数及び週時間数合計					60	121	14	195	10	36	34	32	34	6	6	4	28	28	28	30	2	0	2	0	
									4												18		4		

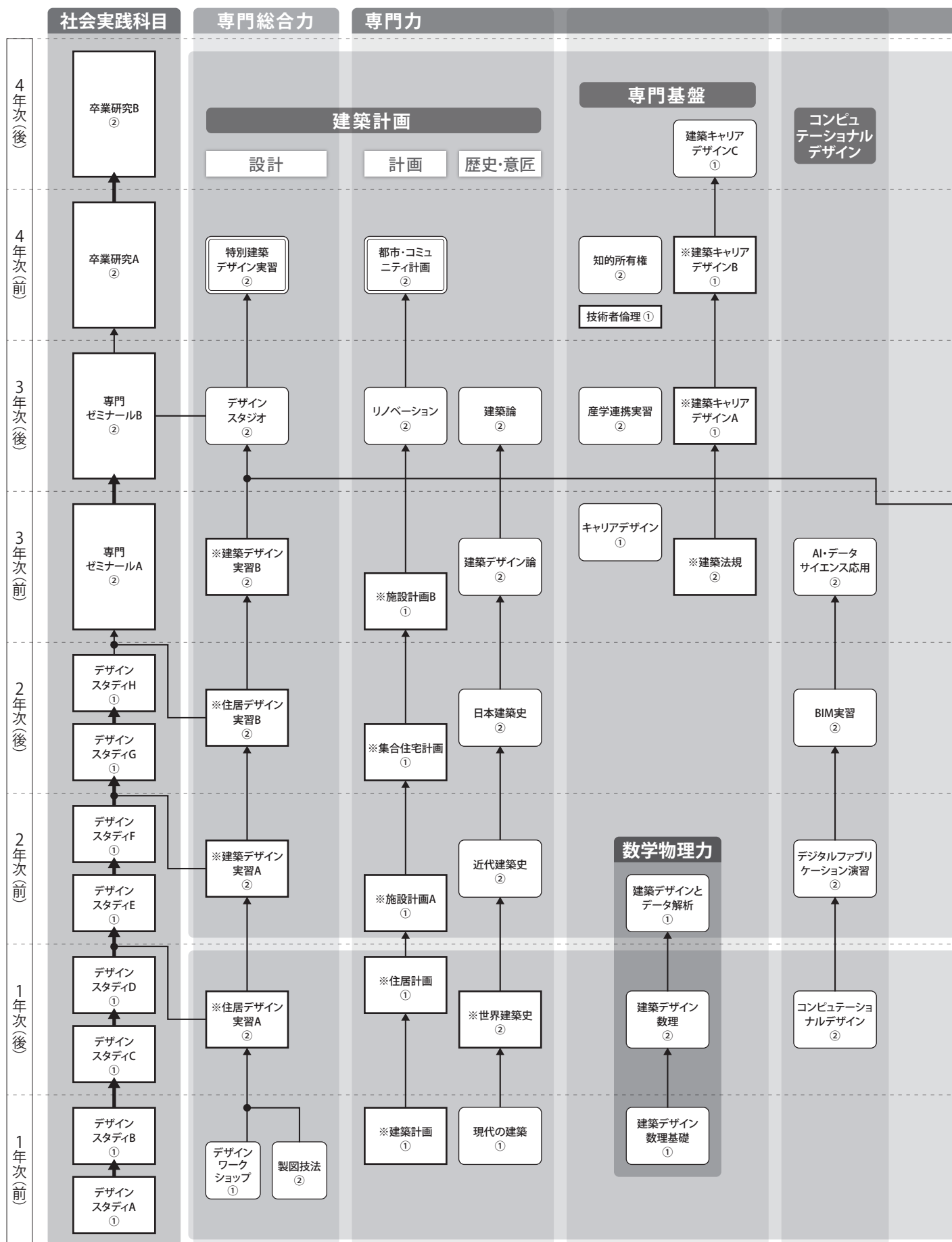
リメディアル PBM RMZ001H 数学I・A 0 4

○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

卒業に必要な単位数

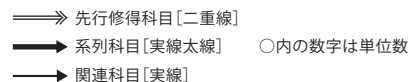
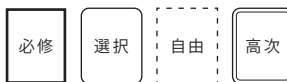
リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目		必修科目	選択科目	
9	15	16		35	49	124

建築デザイン学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育科目・専)

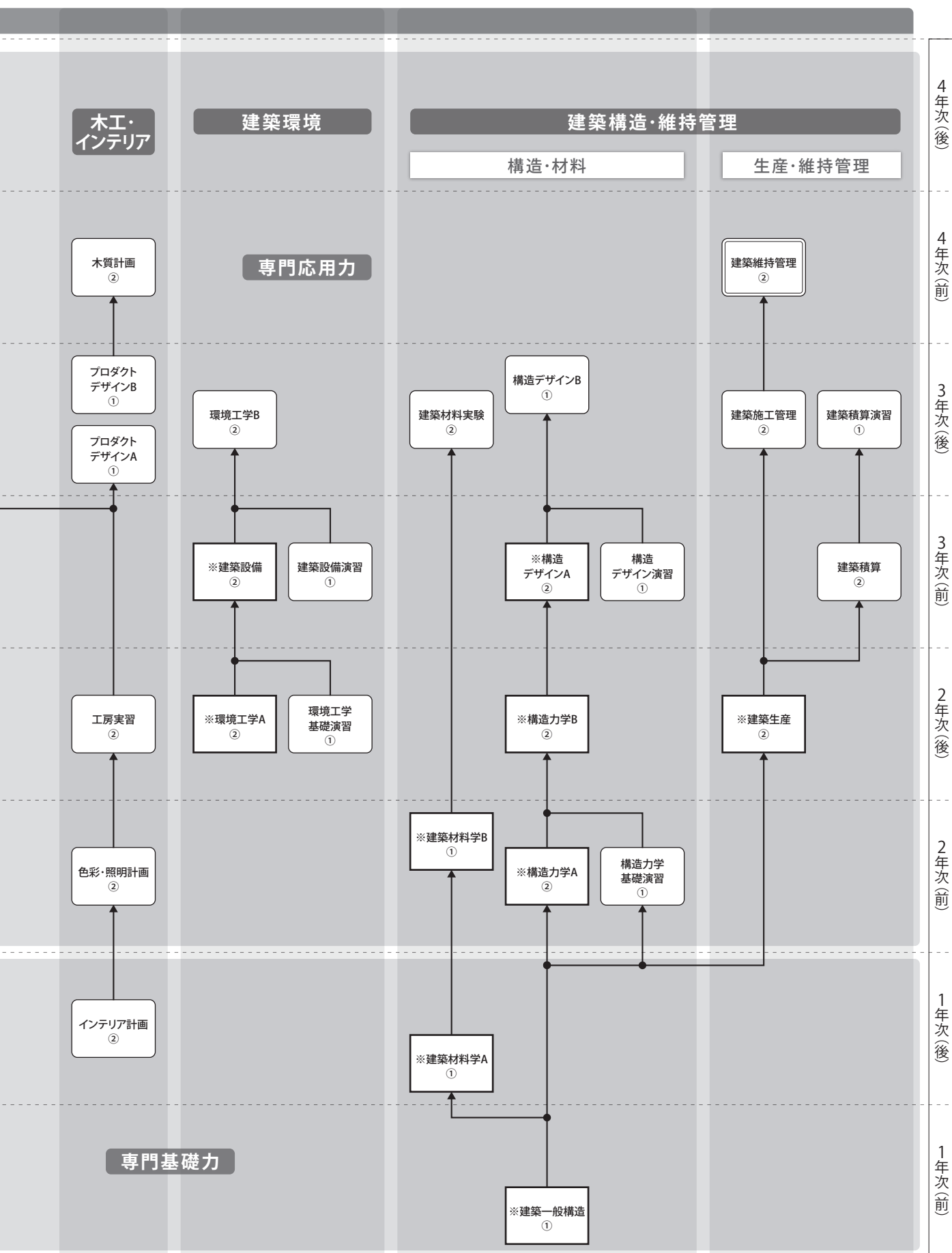


※建築士の指定科目

門教育科目)



○内の数字は単位数



リベラルアーツ教育科目のカリキュラム・ツリーは、**66ページ**参照

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

ディプロマ・ポリシー

地球環境学科では、環境共生型・循環型社会の構築が求められる時代にあつて、人類生存の根幹に関わる地球環境問題に結び付く観測、分析、評価及び計画を実践する地球環境教育を通じて、地球科学、環境共生、環境情報に関する知識を身に付け、高い倫理観をもって社会に貢献できる次の要件を備えた者に、学士（環境学）の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 技術系人材として、幅広い教養と知識や倫理観を修得し、様々な環境問題の解決策や環境共生型・循環型社会の構築に向けた方策を理解できる。
- (2) 地球環境技術者として、地球科学分野、環境共生分野、環境情報分野に関わる幅広い基礎的知識を修得し、様々な地球環境問題を科学的に理解できる。

II【思考・判断】

- (3) 技術系人材として、幅広い教養と知識や倫理観をもとに論理的かつ倫理的な思考や判断ができ、環境共生型・循環型社会の構築に貢献できる。
- (4) 地球環境技術者として、環境共生型・循環型社会の構築に向けた様々な具体策の中から、現場や現状に応じた適切な方策を評価し、選択できる。

III【技能・表現】

- (5) 技術系人材として、幅広い教養と知識や倫理観をもとに自らの考えを文章化あるいは図式化する技能を有し、他者に正確かつ分かりやすく表現できる。
- (6) 地球環境技術者として、論理的な文章作成能力や効果的なプレゼンテーション能力を備え、自らの専門分野の内容を他者に分かりやすく表現できる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 技術系人材として、幅広い教養と知識や倫理観をもとに環境に関わる様々な事象と課題への関心を継承し、社会貢献の意欲をもって倫理的な行動ができる。
- (8) 地球環境技術者として、生涯を通じて最新の地球環境問題の動向に興味・関心を持ち、これらに対する関心や意欲を他者に伝えることができる。

カリキュラム・ポリシー

地球環境学科は、広島工業大学及び環境学部の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）のもと、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあつては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあつては専門基盤、地球科学、環境共生、環境情報、教職教科の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目（実践基礎）】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「基礎ゼミナールI」「環境キャリアデザインI」「環境調査実践I」「地球環境演習I」を1年次の各クォーター

に、また、「基礎ゼミナールⅡ」「環境キャリアデザインⅡ」「環境調査実践Ⅱ」「地球環境演習Ⅱ」を2年次の各クォーターに開設します。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を3年次に、「専門分野ゼミナール」を4年次前期に開設します。また、ゼミ単位で専門分野に即した実践的内容に取り組む「フィールド実習A」「フィールド実習B」を3年次後期と4年次前期に開設します。そして、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取り組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

地球環境学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため学科の学びの基礎となる「環境基礎解析学I」「環境基礎線形代数学」「環境数理基礎」などの数学に関する科目と「環境基礎物理学A」「環境基礎物理学B」などの物理学に関する科目を開設します。また、環境技術者としての倫理観を養う「技術者倫理」を開設します。さらに、地球環境学に関する基盤情報技術を修得するため「情報処理基礎A」「情報処理基礎B」を、また、技術者にとって重要である知的財産を適切に運用するため「知的所有権」を開設します。

【専門教育科目(地球科学)】

複雑・多様な地球環境システムの仕組みを理解するため「地球科学概論」「大気水圏の科学A」「地圏の科学」「地球環境システム論」などを、また、自然災害の発生メカニズムから対策までを学ぶため「自然災害科学概論」「地圏の災害」「気象と水の災害」などを開設します。さらに、実践的な体験学習科目「地球科学実習」「環境解析演習」「自然災害対策演習」、高次レベル科目「応用地球科学論」を開設します。

【専門教育科目(環境共生)】

環境共生型・循環型社会を俯瞰的に構想するため「環境共生概論」を、また、生物・生態系を学ぶための「生物圏の科学」「生態学」「生物保護学」など、水質保全や資源リサイクルの手法を学ぶための「水質環境学」「環境分析化学」「循環資源論」などを開設します。さらに、実践的な体験学習科目「環境共生計画演習」「環境生物実験」「環境分析化学実験」、高次レベル科目「応用環境科学論」を開設します。

【専門教育科目(環境情報)】

環境に関わる情報を収集・分析する技術を概観するため「環境情報概論」を、また、リモートセンシングの技法を学ぶための「画像処理工学」「リモートセンシングA」など、空間情報システムや測量について学ぶための「空間情報処理論」「測量情報処理論」など、各種データを効率よく分析処理する技法を学ぶための「プログラミングI」「環境情報処理A」などを、実践的な演習・実習科目とともに開設します。さらに、高次レベル科目「環境情報処理B」を開設します。

【専門教育科目(教職教科)】

中学校教諭一種免許状(理科)及び高等学校教諭一種免許状(理科、情報)取得に必要な教職及び教科に関する科目を開設します。

○ 評価方法

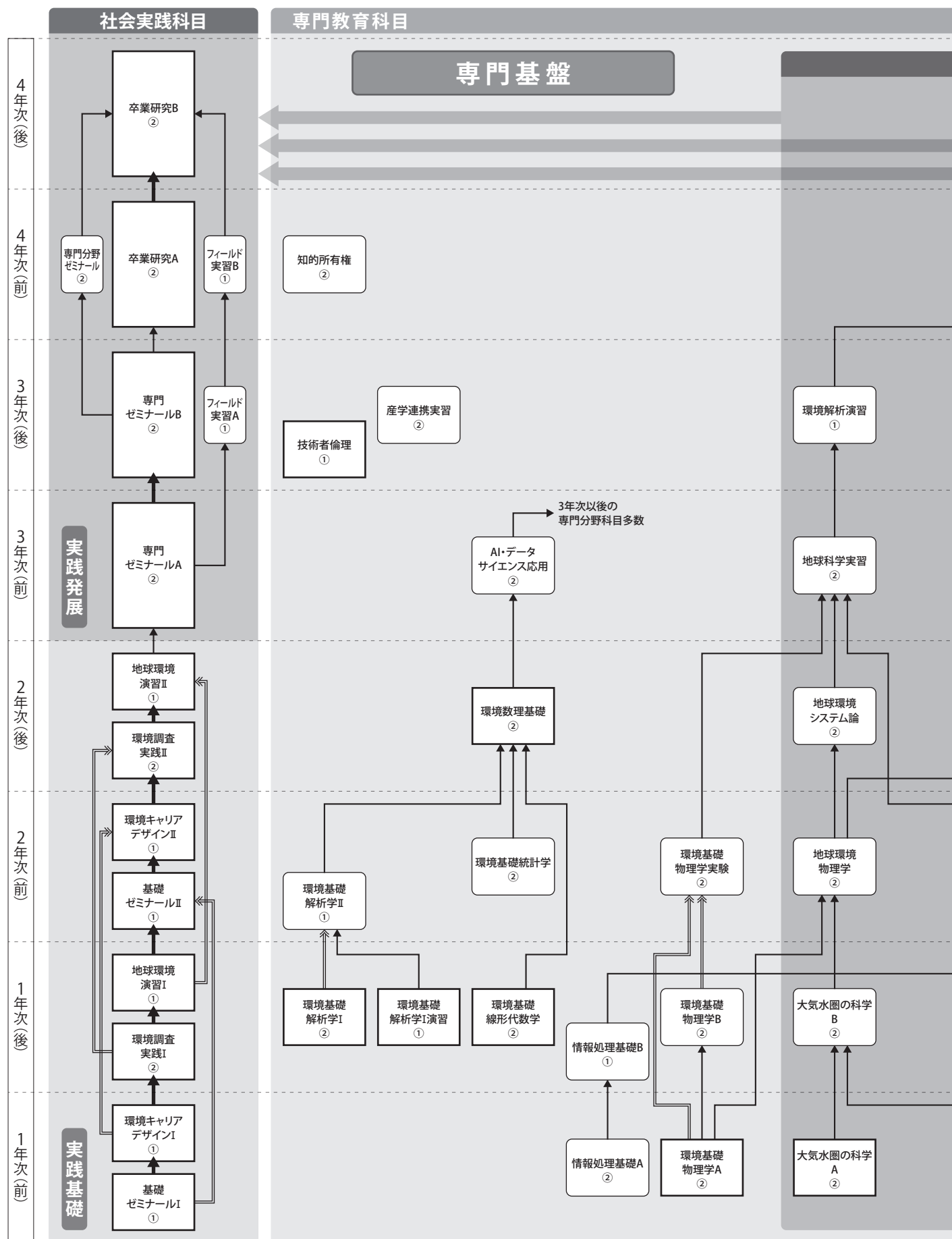
各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

環境学部地球環境学科 教育課程表

別表3

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
																		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
総合	リベラル アーツ 教育 科目	QBL ISN101H	自校教育論	1			1	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

地球環境学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育科目・専門教



育科目)

必修

選択

自由

高次

→ 先行修得科目[二重線]

→ 系列科目[実線太線]

→ 関連科目[実線]

○内の数字は単位数

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

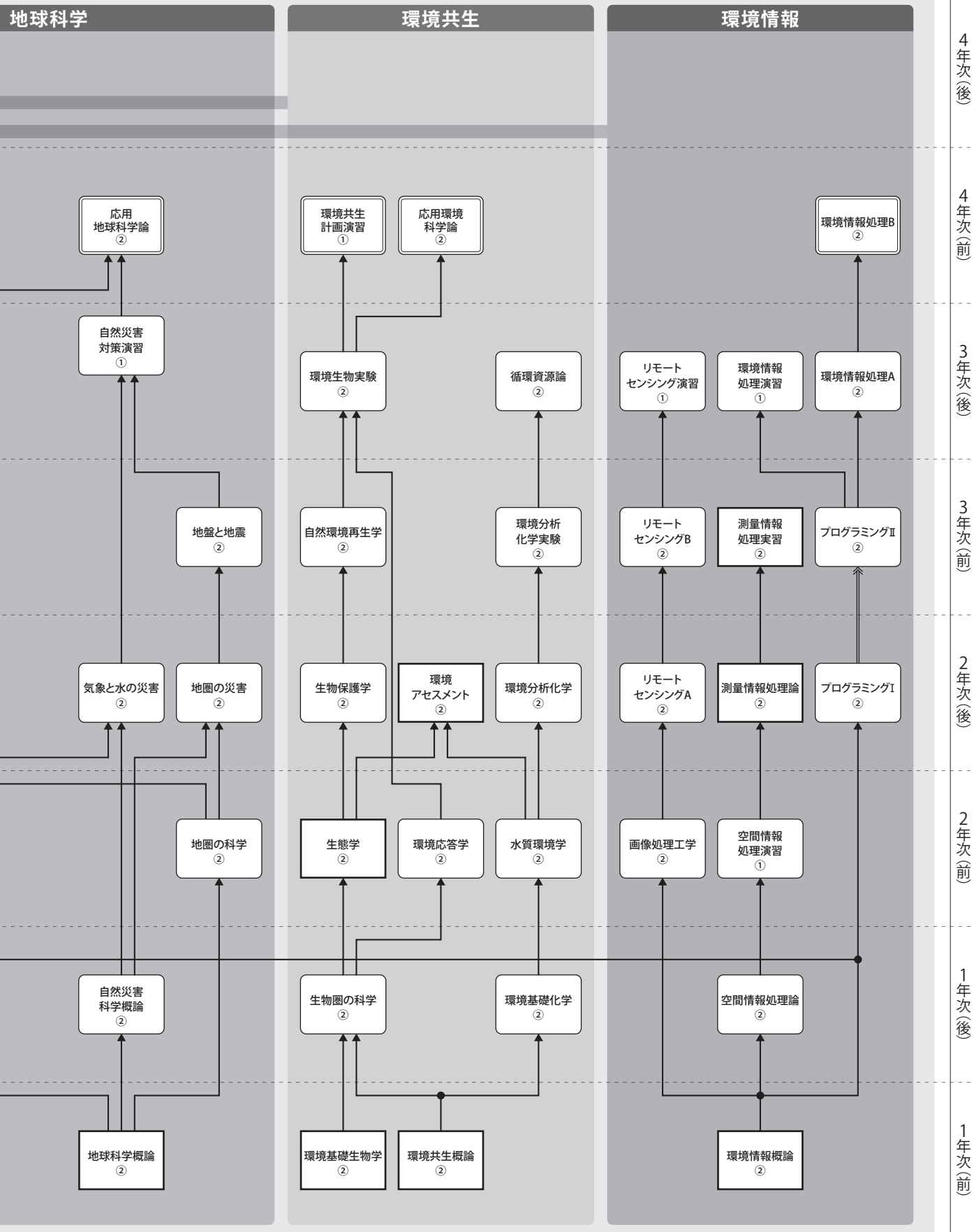
学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期



ディプロマ・ポリシー

生命学部では、工学的立場から人の生命に深くかかわる生体医工学分野と、生命科学を基盤として食品を捉える食品生命科学分野において、健康で長寿な社会形成や将来予測される地球規模の食糧不足問題への対応に貢献できる人材を養成することを目的とします。この目的を踏まえ、本学が定める卒業要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、学士の学位を授与します。

I【知識・理解】

幅広い教養とともに、基礎医学の知識や先端医療機器に関する工学的知識、又は微生物・バイオテクノロジーや食品に関わる専門的知識を身に付けている。

II【思考・判断】

医療のサービスや食品製造技術の提供者の立場から、解決すべき課題に対して総合的に思考し、適切な対応を判断する能力がある。

III【技能・表現】

生体医工学又は食品生命科学に関する課題を解決するための実践的な技能を有するとともに、自らの考えを分かりやすく表現し、伝えることができる。

IV【関心・意欲・態度】

常に生体医工学又は食品生命科学に関わる社会的課題に関心を持ち、その解決や改善に向けて積極的に奉仕・貢献する意欲を有し、併せて生命倫理と礼節に基づく素養を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

生命学部は、広島工業大学の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)をもとに、生命学部の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえて教育課程を編成します。教育課程は、広い視野で人と物との関係を思考できる豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育科目、社会を意識した実践的な内容に取り組むことにより、高い倫理観とコンピテンシーを持つ技術者となることを目的とした社会実践教育科目、健康な社会を創出するための基礎知識や技術を修得することを目的とした専門教育科目及びその他の教育科目で構成します。また、シラバスにより授業科目の詳細を明示するとともに、授業科目を必修、選択及び自由科目に区分し、カリキュラム・ツリーにより学びの順次性をもって編成します。

生命学部

わが国は、近年台風・地震を主とする大きな自然災害に毎年のように襲われています。2019年に発生し拡大した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、食と健康の根幹であるヒト同士の交流を減らさなければならぬという、未経験の社会生活様式を強いてきました。一方COVID-19などへの危機対応が期せずして「社会のデジタル化」の実践を加速していることも事実です。

現在世界の人口は76.3億人、日本の人口は1.3億人です。日本では65歳以上の老人は、2050年に日本の人口の約40%を占めると予測(2018)されています。更に2020年のノーベル平和賞に選ばれた世界食糧計画(WFP)によると、世界には慢性的な食糧不足に苦しむ人が約7億人いると報告されています。我々は、食と医療・健康の社会基盤をゆるがすさまざまな課題に直面し、現代社会の豊かな生活の反面、医療や食における「発展と効率・安全」という地球規模の課題(SDGs)を背負った未知の時代に入っているといっても過言ではありません。

生命学部は、地球規模のグローバルな課題の解決を目指し、2012年に新設されました。本学部は、進歩したバイオテクノロジーを学修し、高い価値を持つ新食品開発・IT農業を創造する食品生命学科とヘルスケアにおけるエコシステム健康機器の新規開発や国家資格臨床工学技士を目指す生体医工学科の2学科で構成されています。特にIoTにみる食・健康生活様式のデジタル化へのリテラシー(データサイエンス等)の習熟も目指しています。

生命学部は、新教育プログラムHIT.E ▶ 2024に準じ、ライフデザインを支える食・ヘルスケアの専門知識を持ち「人間中心の社会」(Society 5.0)の実現に貢献する、高い専門力、人間力そして社会実践力を身につけたエキスパート技術者を育成します。

以下に2学科の特色を紹介します。

(1) 生体医工学科

生体医工学科は、現在の高・多機能医療機器や医療情報システムが、高度医療を可能にしていることから、高度医療のコメディカルスタッフとして、臨床現場で医療機器の操作や維持管理を行い、医師と共にチーム医療を実践できる臨床工学技士を養成します。

教育の内容は、工学・医学の専門知識・技術をベースに、臨床現場における問題解決能力を兼ね備えた臨床工学技士として、また先端的な医療機器開発に携わる技術者として幅広い分野で活躍できるスキルが修得できるよう構成されています。

① 工学・医学に関する専門知識の修得

講義内容に対応した実習と並行して臨床現場や研究開発現場で直面する多くの問題を実践的に体験学習することで確実な専門知識の修得と問題解決能力を持った人材を養成します。

② 高い就業力を有す人材の養成

社会実践科目や多くの実習を通して、実習計画の立案、実習の分担と責任、実習内容の問題提起、実習報告とプレゼンテーション等を学ぶことで、実践力、問題解決能力、コミュニケーション力及び協調性等の高い就業力を持った人材を養成します。

③ 人間性と高潔な倫理観を持つ人材の養成

生命の本質を科学的に正しく理解し、専門知識や技術と共に豊かな人間性と高潔な倫理観を身につけることにより、人類の健康に貢献する人材を養成します。

(2) 食品生命科学科

食品生命科学科は、生命科学の基本的な原理に基づく微生物、植物に関する最新のバイオテクノロジーと食品製造技術に精通した幅広い知識を有するとともに、少子高齢化や食に関わる21世紀の諸課題を科学的に認識し、他者と協調しつつ、豊かな教養と高い倫理観をもって、自律的、創造的に解決することのできる人材を養成します。

教育内容は、生命科学の基礎並びに微生物、植物に関するバイオテクノロジーの知識、さらには食品技術者として高い実践力が習得できるよう構成されています。

① 生命科学を基盤としたバイオテクノロジー及び食品製造に関する専門知識の修得

生命科学を基盤として、微生物、植物バイオテクノロジーに加え、食品の製造・管理、醸造技術、機能性食品の開発、流通過程での衛生管理にも精通した幅広い知識を有する人材を養成します。

② 実践的な課題解決能力を有する人材養成

科学分野全般の基礎的知識を修得した後、バイオテクノロジー系、食品系の専門知識を修得することで、これらの知識を有機的に融合させ、直面した新たな課題に対して柔軟に対応できる実践的な課題解決能力を有する人材を養成します。

③ 高等学校の理科教員養成

自然科学現象に関する洞察力、探求心を持ち、複雑な自然科学現象を説明することのできる能力と教育者としてより高い倫理観を備えた高等学校理科教員を養成します。

ディプロマ・ポリシー

生体医工学科では、医療機器に関する工学的な専門知識とチーム医療の一員として求められる機器の操作・保守・管理技術を有し、併せて幅広い教養と思いやり、そして社会に奉仕する意欲と人間力をもって自発的に行動できる次の要件を備えた者に、学士(生体医工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 医療機器の高度化と医療技術の進化に対応するべく、論理的な思考を含めた幅広い教養と、臨床工学に必要なとされる医学の知識を身に付けている。
- (2) 高度先端医療機器の動作原理を正しく理解し、それらの機器を適切に操作・維持管理するための工学及び臨床工学の知識を身に付けている。

II【思考・判断】

- (3) 患者の立場に立った最適な治療計画が提案でき、医療事故等の防止に向けた適切な判断を行うことができる。
- (4) 工学的な知識をもとに医療機器の動作について述べることができ、医療機器の異常に対して、適切に対応できる。

III【技能・表現】

- (5) 医学に関する基礎的知識を用いて、透析・人工心肺・人工呼吸・機器管理などの業務(維持・管理)を適切に遂行できる。
- (6) 医療機器の模擬装置を構築でき、さらにその技能をもとに医療機器の原理とその基本構造をチーム医療の他職種にも分かりやすく説明できる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 医療人としての高い倫理観と身だしなみ・応接態度・礼儀を身に付け、医療に関わる他職種の業務を理解し、協力的かつ意欲的にチーム医療を行うことができる。
- (8) 将来開発される先端医療機器にも関心を示し、積極的かつグローバルに情報収集するとともに、その進歩のために自ら意欲的に技術を提案できる。

カリキュラム・ポリシー

生体医工学科は、広島工業大学及び生命学部教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあっては実践基礎と実践発展に、また、専門教育科目にあっては専門基盤、医用治療機器、生体計測機器、医療安全管理、医療情報システム、生体医工関連の各分野に分類し、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「社会実践演習A」「社会実践演習B」「社会実践演習C」「社会実践演習D」を1年次の各クォーターに、また、「社会実践演習E」「社会実践演習F」「社会実践演習G」「社会実践演習H」を2年次の各クォーターに開設します。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミA」「専門ゼミB」を3年次に開設します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

医療系技術者に必要な倫理観を養う「技術者倫理」と、技術者にとって重要である知的財産を適切に運用するため「知的所有権」を開設します。また、生体医工学科共通目的の臨床国家試験受験資格に必要な科目を開設します。

【専門教育科目(医用治療機器)】

病院内や臨床現場で用いられる種々の医用治療機器の知識を修得するため「医用治療機器学B」「医用治療機器学実習B」「医用治療技術演習」を開設し、最新医療機器の基礎知識を修得する「アクチュエータ工学」「エネルギー変換」「医用ロボット工学」「人工臓器」を開設します。

【専門教育科目(生体計測機器)】

病院内や臨床現場で用いられる種々の生体計測機器の知識を修得するため「生体計測装置学B」「生体計測装置学実習B」「生体計測技術演習」を開設し、最新計測機器の基礎知識を修得する「医用画像計測工学」「医用計測工学実習」「医用センサ工学」「医療福祉機器設計」を開設します。

【専門教育科目(医療安全管理)】

臨床工学技士として求められる医療安全管理の基礎的かつ実践的な技法などを幅広く身に付けるため「医療環境の安全管理」「医療の安全基準」「医療設備の安全管理」「医療リスクマネジメント」を開設します。

【専門教育科目(医療情報システム)】

病院内や企業で用いられる情報システムの基礎知識を修得するため「マイコンプログラミング実習」「システム設計」「情報セキュリティ」を開設し、さらに医療情報システムの基礎知識を修得する「医療情報システム工学」「デジタル信号処理」「画像処理」「人間工学」を開設します。

【専門教育科目(生体医工関連)】

病院内や臨床現場で必要となる知識は幅広いため、幅広い専門的基礎知識を修得するため「基礎栄養学」「遺伝子・細胞操作管理学」「流れの力学A」「熱力学A」「Webデザイン」を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

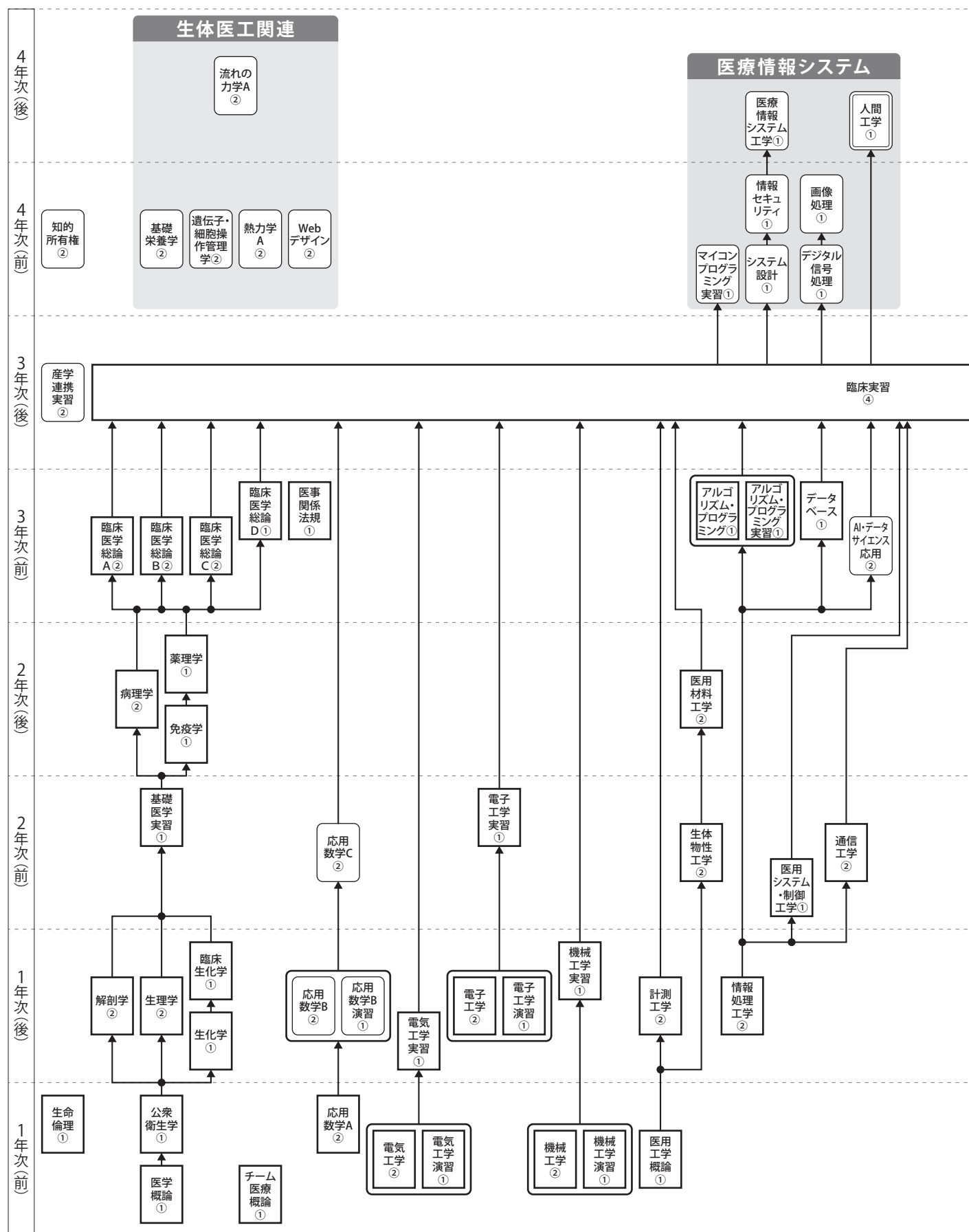
生命学部生体医工学科 教育課程表

別表4

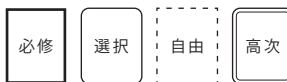
区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
								前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
								1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
リベラル アーツ 教育 科目	総合	TBL ISN101H	自校教育論	1			1	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域	専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目	必修科目	選択科目	
9	15	16	88	4	132

生体医工学科 カリキュラム・ツリー (社会実践教育科目・専門教



育科目)

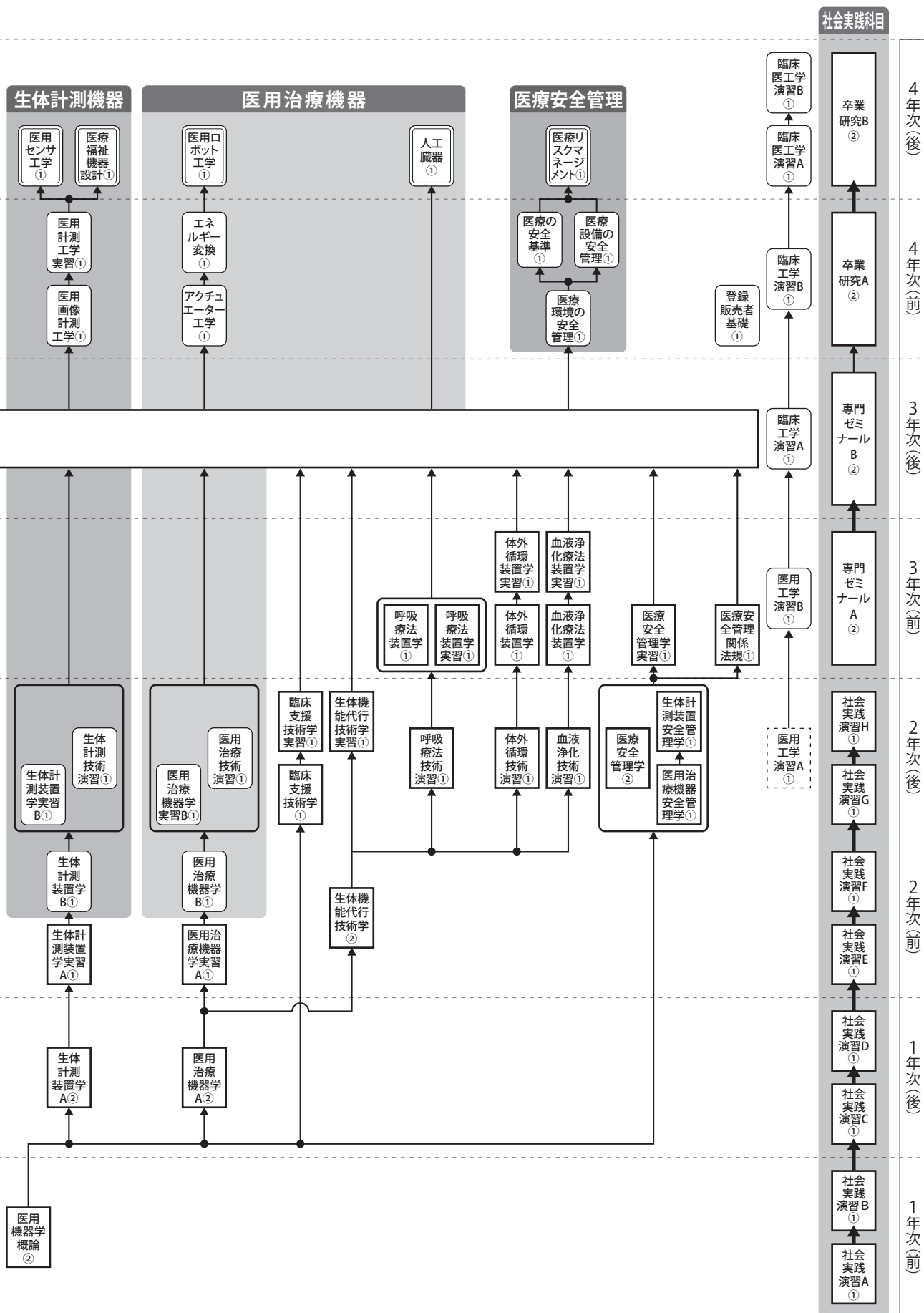


→ 先行修得科目〔二重線〕

→ 系列科目〔実線太線〕

→ 関連科目〔実線〕

○内の数字は単位数



窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修学

工学部

情報学部

環境学部

生命学部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前期

後期

ディプロマ・ポリシー

食品生命科学科では、生命科学の基本的な原理に基づく微生物、植物に関する最新のバイオテクノロジーと食品製造技術に精通した幅広い知識を有するとともに、少子高齢化や食に関わる21世紀の諸課題を科学的に認識し、他者と協調しつつ、豊かな教養と高い倫理観をもって、自律的、創造的に解決することのできる次の要件を備えた者に、学士(食品生命科学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 微生物と植物を対象とした生命科学に関する基礎的知識を理解し、生命現象を化学物質のレベルで具体的に表現することができる。
- (2) 生命科学の知識を基礎として、食品の特性、製造及び品質管理技術に関連する分野について、基礎的知識と理論を具体的に表現することができる。

II【思考・判断】

- (3) 食品摂取とヒトの健康及び食品製造と自然環境との相互関係を深く理解した技術者として、社会に対する責任を自覚し、行動できる。
- (4) 応用生物分野及び食品製造分野に関連した領域で体得した知識や理論をもとに、社会が直面する諸課題を具体的に思考し、判断することができる。

III【技能・表現】

- (5) 微生物、植物及び環境に関する基礎的知識を用いて、様々な生物による生命機能を多面的に評価するとともに、新たな食品素材の開発や環境浄化に利用できる技術を身に付けている。
- (6) 食品衛生に関する基礎的知識を用いて、食品の製造、貯蔵及び流通段階に関わる組織の衛生管理について率先して立案し、行動することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 微生物、植物及び環境に関する知識や技術を活用し、科学的判断と倫理観をもって社会に奉仕する意欲を持ち、社会の健全な発展に貢献できる。
- (8) 安心・安全な食品の製造に高い関心と強い責任感をもって積極的に従事し、社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

食品生命科学科は、広島工業大学及び生命学部在教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、教育科目をリベラルアーツ教育科目、社会実践教育科目及び専門教育科目に区分します。さらに、社会実践教育科目にあっては実践基礎と実践発展に、専門教育科目にあっては専門基盤、応用生物、食品製造、教職教科の各分野に分類して、教育課程を体系的に編成します。

【リベラルアーツ教育科目】

幅広い教養を身に付けるため、リベラルアーツ教育科目を、人類が創造した文化全般に関する「人文」、社会現象を分析し客観的法則を明らかにしようとする「社会」、グローバル時代を生き抜くコミュニケーション力を育成する「外国語」、社会の多様化を享受する教養力や豊かな人間力や主体的に考え行動する力を育成する「総合」の4分野に大別し、各年次に開設します。

【社会実践教育科目(実践基礎)】

学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマを取上げながら、1、2年次の年次混成グループで課題に取り組む科目「HIT基礎実践A」「HIT基礎実践B」「HIT基礎実践C」「HIT基礎実践D」を1年次の各クォーターに、また、「HIT応用実践A」「HIT応用実践B」「HIT応用実践C」「HIT応用実践D」を2年次の各クォーターに開設します。

【社会実践教育科目(実践発展)】

専門分野の知識を深め、その後に取組む卒業研究の準備をゼミ形式で行う科目「専門ゼミA」「専門ゼミB」を3年次に開設します。また、それまでに修得した知識を横断的に活用して研究に取組む科目「卒業研究A」「卒業研究B」を4年次に開設します。

【専門教育科目(専門基盤)】

食品生命科学を学ぶ上で必要な基礎学力を修得するため「食品生命のための数学A」などの数学科目と「基礎物理学A」「基礎生物学」「化学A」などの自然科学科目を開設します。また、倫理観を養う「生命倫理」を開設します。さらに、食品生命科学を学ぶ上で必要な生命現象の基礎知識を生物学的及び医学的に幅広く修得するため、生物医学系科目「解剖学」「生理学」「病理学」「公衆衛生学」「身体の発育発達と栄養」と自然科学系科目「基礎生物学」「基礎物理学B」「化学B」「分析化学」「生物化学I」「微生物学」「地学概論」などを開設します。また、応用生物系に求められる基盤技術を修得するため「分子細胞生物学」「植物生理学」「環境科学概論」を、食品製造系に求められる基盤技術を修得するため「応用微生物学」「発酵食品学A」を開設します。工学的素養を修得するため「データ解析」「計測制御工学」「3次元CAD基礎」を開設し、食品開発特許に関する「知的所有権」を開設します。「食品生命科学実験I」から「食品生命科学実験IV」を開設し、食品生命科学における基礎的実験手技と食品製造基盤技術を修得します。

【専門教育科目(応用生物)】

バイオテクノロジーに関する知識を修得するため「遺伝学」「細胞工学」「遺伝子・細胞操作管理学」を開設します。バイオテクノロジーに関する知識を農業分野に応用するため「農学概論」「植物育種学」「作物栽培学」を、環境分野に応用するため「生物資源利用学A」を開設します。応用生物系の技術者として求められる実践的な知識を身につけるため、高次レベル科目「植物工場論」「生物資源利用学B」を開設します。

【専門教育科目(食品製造)】

食品開発・製造の知識を修得するため「食品製造学A」「食品製造学B」「食品マーケティング」などを、工場における食品の製造・管理に関する知識を修得するため「食品工学A」「食品製造機械」「食品衛生学」「品質管理学」などを開設します。食品技術者として求められる応用実践力を身に付けるため、高次レベル科目「新食品開発」を開設します。

○ 評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

生命学部食品生命科学科 教育課程表

別表4

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
																		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
リベラル アーツ 教育 科目	総合	UBL ISN101H	自校教育論	1			1	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

高次…高次レベル科目 先行…先行修得科目 組入…組入科目

区分	分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数 ※セメスターは網掛け																備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年				2年				3年				4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
																		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
専 門 教 育 科 目	専 門 基 盤	UBM	FSK101H	食品生命のための数学 A	2			2		4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

リメディアル	UBM	RMZ001H	数学I・A	0				4													
	UBM	RMP101H	情報処理入門	0				2													

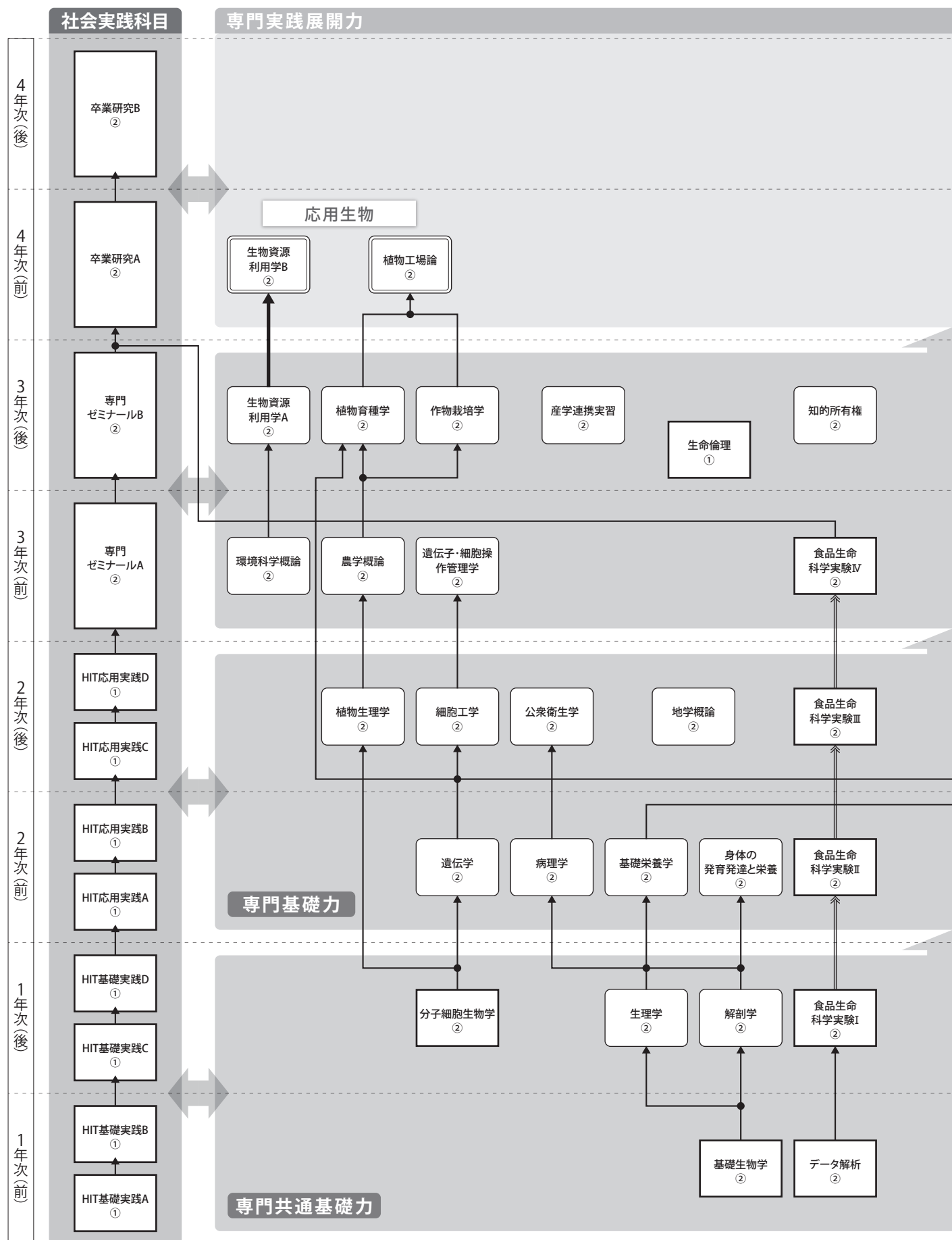
○プールA・プールBからそれぞれ5単位以上修得のこと。

○専門教育科目において、分野「応用生物」と「食品製造」の各分野から6単位以上修得のこと。

卒業に必要な単位数

リベラルアーツ教育科目領域		社会実践教育科目領域		専門教育科目領域		合計
必修科目	選択科目	必修科目	必修科目	必修科目	選択科目	
9	15	16		29	55	124

食品生命科学科 カリキュラム・ツリー（社会実践教育科目・専門）



教育科目)

必修

選択

自由

高次

→ 先行修得科目[二重線]

→ 系列科目[実線太線]

→ 関連科目[実線]

○内の数字は単位数

窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

4
年
次
(後)

4
年
次
(前)

3
年
次
(後)

3
年
次
(前)

2
年
次
(後)

2
年
次
(前)

1
年
次
(後)

1
年
次
(前)

食品製造

新食品開発
②

品質管理学
②

発酵食品学B
②

食品製造学B
②

食品製造機械
②

食品
マーケティング
②

専門展開力

AI・データ
サイエンス応用
②

3次元CAD基礎
②

食品機能学
②

発酵食品学A
②

食品製造学A
②

食品工学B
②

計測制御工学
②

生物化学Ⅲ
②

食品衛生学
②

応用微生物学
②

食品工学A
②

生物化学Ⅱ
②

分析化学
②

食品学総論
②

生物化学Ⅰ
②

化学B
②

微生物学
②

基礎物理学B
②

食品生命の
ための数学C
②

食品生命の
ための数学B
②

化学A
②

基礎物理学A
②

食品生命の
ための数学A
②

工学部各種資格一覧

1. 所定の単位を修得し、取得可能学科を卒業することによって受験可能な資格(試験科目の免除)又は取得可能な資格

区分	資格等の名称	関連学科						取得の要件
		電子情報	電気システム	機械システム	知能機械	環境土木	建築	
所定科目修得が条件	教育職員免許状							■152ページ参照
	高等学校教諭一種免許状 工業 // 情報	○	○	○	○	○	○	
	電気主任技術者(第1・2・3種)		○					■154ページ参照 (実務経験1～5年以上)
	第1級陸上特殊無線技士	○	○					■158ページ参照
	第2級海上特殊無線技士	○	○					■158ページ参照
	測量士補					○	○	■160ページ参照
	1級建築士						○	■162ページ参照(免許登録は実務経験2年以上)
	2級建築士・木造建築士						○	■162ページ参照
	土地家屋調査士					○	○	筆記試験のうち「土地及び家屋の調査及び測量」試験の免除※1
	電気工事士		○					
試験科目免除	電気通信主任技術者	○	○					
	工事担任者	○	○					
実務経験又は講習会受講の必要な資格	昇降機等検査員	○	○	○	○			実務経験2年以上を経て、講習会課程修了者は取得可能
	建築設備士	○	○	○	○		○	■165ページ参照 実務経験2年以上
	建築設備検査員	○	○	○	○		○	建築、電気、機械は2年以上の実務経験を経て、講習会課程修了者は取得可能
	1・2級建築施工管理技士	○	○	○	○	○	○	■164ページ参照 1級-実務経験3年以上、2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級建設機械施工技士	○	○	○	○	○	○	1級-実務経験3年以上、2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級電気工事施工管理技士	○	○	○	○	○	○	1級-実務経験3年以上、2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級造園施工管理技士					○	○	■164ページ参照 1級-実務経験3年以上、2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級管工事施工管理技士	○	○	○	○	○	○	1級-実務経験3年以上、2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級土木施工管理技士					○	○	■165ページ参照 1級-実務経験3年以上、2級-実務経験1年以上で受験可能
	第1・2種ボイラー・タービン主任技術者			○	○			第1種-実務経験6年以上、第2種-実務経験3年以上で取得可能
	整備管理者			○	○			実務経験6か月以上で3級受験可能、3級合格後実務経験により上級受験が可能
	自動車整備士(1・2・3級)			○	○			3級-実務経験6か月以上、その後実務経験により上級の受験が可能
	ダム管理主任技術者					○		実務経験3年以上での経験者で、講習と効果測定で取得可能
	測量士					○	○	■160ページ参照 (所定科目の修得も必要) 実務経験1年以上
	技術士・技術士補	○	○	○	○	○	○	■169ページ参照
	ガス溶接作業主任者	○	○	○	○	○	○	実務経験1年以上で受験可能
	作業環境測定士(第1・2種)	○	○	○	○	○	○	実務経験1年以上で受験可能
	労働安全コンサルタント	○	○	○	○	○	○	実務経験5年以上で受験可能
	労働衛生コンサルタント	○	○	○	○	○	○	
	特定建築物調査員						○	建築に関する実務経験2年以上を経て、講習会課程修了者は取得可能
	廃棄物処理施設技術管理者	○	○	○	○	○	○	実務経験3年以上を経て、講習会課程修了者は取得可能
	衛生工学衛生管理者	○	○	○	○	○	○	卒業後、講習会を受講し取得可能
	コンクリート技士					○	○	実務経験2年以上で受験可能
	インテリアプランナー						○	■163ページ参照 実務経験2年以上で登録可能

※1 測量士若しくは測量士補又は1級若しくは2級建築士の資格を有する者

2. 大学を卒業することによって受験可能な資格又は取得可能な資格

資格の名称	取得の要件		
技能士	電気製図	電子情報工学科、電気システム工学科	3級は在学中に受験が可能。 2級は実務経験なしで受験可能(ただし、3級を合格した者は、2級の受験可能)
	機械・プラント製図	機械システム工学科、知能機械工学科	
	テクニカルイラストレーション	電子情報工学科、電気システム工学科、 機械システム工学科、知能機械工学科、 環境土木工学科、建築工学科、建築デザイン学科	

3. 大学卒業程度の学力で受験可能な資格

国家公務員(総合職・一般職)、地方公務員(上級)、労働基準監督官、公害防止主任管理者、公害防止管理者、ガス主任技術者(甲・乙・丙種)、中小企業診断士、宅地建物取引士、旅行業務取扱管理者、エネルギー管理士

4. 大学在学中に受験可能な資格

情報処理技術者試験、陸上無線従事者(第1・2級)、実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、3級機械設計技術者

- 特・1・2級ボイラー技士 ボイラー実技講習会を受講すれば、2級受験可能、その後実務経験により上級の受験が可能
- 社会保険労務士 大学で62単位以上修得していれば受験が可能
- 消防設備士(甲種) 所定の科目を15単位以上修得していれば受験が可能
- 建築積算士補 科目修得者に付与、「建築積算士」の一次試験が免除

情報学部各種資格一覧

1. 所定の単位を修得し、取得可能学科を卒業することによって受験可能な資格(試験科目の免除)又は取得可能な資格

区分	資格等の名称	関連学科		取得の要件	※基本情報技術者試験（FE） 所定科目 【 情報工学科、 情報コミュニケーション学科													
		情報工	情報コミュニケーション															
修得が条件 所定科目	教育職員免許状 高等学校教諭一種免許状 情報	○	○	▶152ページ参照														
	基本情報技術者試験（FE）	○	○	所定科目の修得及び修了試験合格が条件で午前試験免除	<table><tr><th>授業科目名</th><th>開講年次</th></tr><tr><td>情報テクノロジー</td><td>1</td></tr><tr><td>情報マネジメント</td><td>1</td></tr><tr><td>情報ストラテジ</td><td>2</td></tr><tr><td>情報ネットワーク入門</td><td>1</td></tr><tr><td>アルゴリズム基礎</td><td>2</td></tr><tr><td>プログラミング基礎</td><td>2</td></tr></table>	授業科目名	開講年次	情報テクノロジー	1	情報マネジメント	1	情報ストラテジ	2	情報ネットワーク入門	1	アルゴリズム基礎	2	プログラミング基礎
授業科目名	開講年次																	
情報テクノロジー	1																	
情報マネジメント	1																	
情報ストラテジ	2																	
情報ネットワーク入門	1																	
アルゴリズム基礎	2																	
プログラミング基礎	2																	
必要な資格 実務経験の	技術士・技術士補	○	○	▶169ページ参照														

2. 大学在学中に受験可能な資格

- 情報処理技術者試験(システムアーキテクト、ネットワークスペシャリスト、情報セキュリティマネジメント、応用情報技術者、基本情報技術者ほか)、ITパスポート
- CG-ARTS検定(CGクリエイター、CGエンジニア、Webデザイナー、画像処理エンジニア、マルチメディア)
- ベンダー資格(マイクロソフト(OS)、オラクル(データベース)、シスコ(ネットワーク)ほか)
- 実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL

環境学部各種資格一覧

1. 関連学科を卒業することによって受験可能な資格又は取得可能な資格

区分	資格等の名称	関連学科		取得の要件
		建築デザイン	地球環境	
所定科目修得が条件	教育職員免許状 中学校教諭一種免許状 理科 ○ 高等学校教諭一種免許状 理科 ○ // 情報 ○ // 工業 ○			■152ページ参照
	商業施設士補	○		■163ページ参照 講習会
	測量士補		○	■160ページ参照
	自然再生士補		○	修得科目(単位数)によりコースを選択して申請。 一般財団法人日本緑化センター
	1級建築士	○		■162ページ参照 (免許登録は実務経験2年以上)
	2級建築士・木造建築士	○		■162ページ参照
	試験科目免除 土地家屋調査士	○	○	筆記試験のうち 「土地及び家屋の調査及び測量」試験の免除※1
実務経験又は講習会受講の必要な資格	インテリアプランナー	○		■163ページ参照 実務経験2年以上
	商業施設士	○		■163ページ参照 実務経験1年以上
	建築設備士	○		■165ページ参照 実務経験2年以上
	1・2級建築施工管理技士	○		■164ページ参照 2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級建設機械施工技士	○		1級-実務経験3年以上、 2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級造園施工管理技士	○		■164ページ参照 1級-実務経験3年以上、 2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級管工事施工管理技士	○		1級-実務経験3年以上、 2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級電気工事施工管理技士	○		1級-実務経験3年以上、 2級-実務経験1年以上で受験可能
	1・2級土木施工管理技士	○		■165ページ参照 1級-実務経験3年以上、 2級-実務経験1年以上で受験可能
	測量士		○	■160ページ参照 (所定科目の修得も必要) 実務経験1年以上
	技術士・技術士補	○	○	■169ページ参照

※1 測量士若しくは測量士補又は1級若しくは2級建築士の資格を有する者

2. 大学を卒業することによって受験可能な資格(試験科目の免除)又は取得可能な資格

	資格の名称	取得の要件
実務経験又は講習会受講の必要な資格	商業施設士	実務経験2年以上で受験可能
	労働安全コンサルタント 労働衛生コンサルタント	実務経験5年以上で受験可能
	環境プランナー	業務経験2年以上で受験可能
	再開発プランナー	実務経験3年以上で受験可能
	建築設備検査員	実務経験2年以上で受験可能
	衛生工学衛生管理者	講習会課程修了者は取得可能
	土地区画整理士	実務経験1年以上で受験可能
	作業環境測定士	実務経験1年以上で受験可能
	廃棄物処理施設技術管理者	実務経験1年以上を経て、講習会課程修了者は取得可能

3. 大学卒業(環境学部)程度の学力で受験可能な資格

国家公務員(I・II種)、地方公務員(上級)、公害防止主任管理者、公害防止管理者、ガス主任技術者(甲・乙・丙種)

4. 大学在学中に受験可能な資格

情報処理技術者試験、環境計量士、CG検定、建築積算士、建築積算士補、宅地建物取引士、土地家屋調査士、インテリアコーディネーター、商業施設士補(取得後1年以上で商業施設士を受験可能)、照明コンサルタント、カラーコーディネーター、福祉住環境コーディネーター、マンション管理士、ファシリティマネジャー、管理業務主任者、マンションリフォームマネジャー、ビオトープ管理士(2級)、公害防止管理者、毒物劇物取扱者

○特・1・2級ボイラー技士 ボイラー実技講習会を受講すれば、2級受験可能。その後実務経験により上級の受験が可能

○社会保険労務士 大学で62単位以上修得していれば受験が可能

5. 大学在学中に受験を勧める資格など

実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL

生命学部各種資格一覧

1. 関連学科を卒業することによって受験可能な資格又は取得可能な資格

区分	資格等の名称	関連学科		取得の要件
		生体医工	食品生命科	
卒業が条件	臨床工学技士	○		■166ページ参照
所定科目修得が条件	教育職員免許状 高等学校教諭一種免許状 理科		○	■152ページ参照
	食品衛生管理者		○	■167ページ参照
	食品衛生監視員		○	■167ページ参照
	甲種危険物取扱者		○	所定科目の修得により受験可能。詳細は、一般財団法人消防試験研究センターのホームページを参照してください。 (https://www.shoubo-shiken.or.jp)
実務経験や講習会受講等が必要な資格	透析技術認定士	○		臨床工学技士等が対象。詳細は、財団法人医療機器センターのホームページを参照してください。 (http://touseki.jaame.or.jp)
	体外循環技術認定士	○		臨床工学技士等が対象。詳細は、日本人工臓器学会のホームページを参照してください。 (http://www.jsao.org)
	人工心臓管理技術認定士	○		臨床工学技士等が対象。詳細は、日本臨床補助人工心臓研究会のホームページを参照してください。 (http://www.jacvas.com)
	3学会合同呼吸療法認定士	○		臨床工学技士等が対象。詳細は、財団法人医療機器センターのホームページを参照してください。 (http://www.jaame.or.jp)
	高気圧酸素治療専門技師	○		臨床工学技士等が対象。詳細は、日本高気圧環境・潜水医学会のホームページを参照してください。 (http://www.jshm.net)
	日本アフェリシス学会認定技士	○		臨床工学技士等が対象。詳細は、一般社団法人日本アフェリシス学会のホームページを参照してください。 (http://www.apheresis-jp.org)
	臨床ME専門認定士	○		臨床工学技士等が対象。詳細は、一般社団法人日本医療機器学会のホームページを参照してください。 (http://www.jsmi.gr.jp/clinical/)
	技術士・技術士補	○	○	■169ページ参照

2. 大学在学中又は大学卒業(生命学部)程度の学力で受験可能な資格

第2種ME技術実力検定試験(■168ページ参照)、第1種ME技術実力検定試験(■168ページ参照)、医療情報技師(詳細は、一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会のホームページを参照してください。

<http://www.jami.jp/jadite/new/>)

バイオ技術者(中級、上級)(■168ページ参照)

国家公務員(I・II種)、地方公務員(上級)、情報処理技術者試験

実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL

教育職員免許状

1. 免許状の種類と教科

本学で取得できる免許状の種類及び教科は以下のとおりです。

学 部	学 科	中学校教諭 一種免許状 理科	高等学校教諭 一種免許状 理科	高等学校教諭 一種免許状 情報	高等学校教諭 一種免許状 工業
工学部	電子情報工学科			○	○
	電気システム工学科			○	○
	機械システム工学科			○	○
	知能機械工学科			○	○
	環境土木工学科				○
	建築工学科				○
情報学部	情報工学科			○	
	情報コミュニケーション学科			○	
環境学部	建築デザイン学科				○
	地球環境学科	○	○	○	
生命学部	食品生命科学科		○		

2. 免許状取得資格

教育職員免許法並びに同法施行規則に定めるところにより、次のとおり基礎科目を取得し、単位を修得しなければなりません。

(1) 基礎資格

学士の学位を有すること(本学を卒業すること)

(2) 修得を要する授業科目及び単位数

中学校教諭一種免許状「理科」

- 施行規則第66条の6に定める科目 8単位(表1)
- 教科及び教科の指導法に関する科目 36単位(表2)
- 教育の基礎的理解に関する科目等 29単位(表3)

高等学校教諭一種免許状「理科」「情報」「工業」共通

- 施行規則第66条の6に定める科目 8単位(表1)
- 教科及び教科の指導法に関する科目 40単位(表2)
- 教育の基礎的理解に関する科目等 25単位(表3)

表1. 施行規則第66条の6に定める科目

規則に定める科目名	単位数	本学開講科目	単位数
日本国憲法	2単位	日本国憲法	2単位
体育	2単位	生涯スポーツA	2単位 又は
		生涯スポーツB	2単位
外国語コミュニケーション	2単位	キャリア英語A	2単位
情報機器の操作	2単位	情報技術基礎	2単位

表2. 教科及び教科の指導法に関する科目(各教科の指導法は次頁の教育課程表①を参照)

[中学校一種免許状]

教科に関する専門的事項	28単位	合計36単位
各教科の指導法	8単位	

[高等学校一種免許状]

教科に関する専門的事項	36単位	合計40単位
各教科の指導法	4単位※	

※取得する免許教科により修得すること。

教育課程表①

各教科の指導法(理科・情報・工業)

□は中学_理科、○は高校_理科、◎は高校_情報、●は高校_工業

科目コード	授業科目名	単位数				開講期及び週時間数														免許教科		
		必修	選択	自由	計	1年				2年				3年				4年				
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期			後期	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		3Q	4Q
XBTTEC232J	※1 理科教育法Ⅰ(中・高)			2	2							2								□○		
XBTTEC233J	※2 理科教育法Ⅱ(中・高)			2	2								2							□○		
XBTTEC234J	※1 理科教育法Ⅲ(中)			2	2										2					□		
XBTTEC235J	※2 理科教育法Ⅳ(中)			2	2											2				□		
XBTTEC211J	※1 工業科教育法Ⅰ			2	2							2								●		
XBTTEC212J	※2 工業科教育法Ⅱ			2	2								2							●		
XBTTEC221J	※1 情報科教育法Ⅰ			2	2							2								◎		
XBTTEC222J	※2 情報科教育法Ⅱ			2	2								2							◎		
単位数及び週時間数合計		0	0	16	16	0	0	0	0	6	6	2	2									

※1は※2の先行修得科目であり、※1の単位を修得しないと※2は履修できません。

表3. 教育の基礎的理解に関する科目等(教育課程表②を参照)

[中学校一種免許状]

教育の基礎的理解に関する科目等 ※29単位 (※内訳)・教育の基礎的理解に関する科目 10単位 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目 12単位 ・教育実践に関する科目 7単位 注:右記授業科目修得のほか、「介護等体験」の実習が必要です。	教職論 教育原理 教育心理学 教育社会学 特別活動論 特別支援教育 教育相談(カウンセリングを含む) 教育の方法及び技術 ICT活用の理論と方法	教育実習指導 道徳教育の指導法 教育実習(中・高) 教職実践演習(中・高) 生徒指導論(進路指導を含む) 総合的な学習の時間の指導法 教育相談(カウンセリングを含む) 教育の方法及び技術 ICT活用の理論と方法
--	---	--

[高等学校一種免許状]

教育の基礎的理解に関する科目等 ※25単位 (※内訳)・教育の基礎的理解に関する科目 10単位 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目 10単位 ・教育実践に関する科目 5単位 ※教育職員免許法に定める最低修得単位数は23単位以上となっていますが、本学の教育課程では、教育職員免許法施行規則第6条に定める必要な事項を満たすために13科目25単位が必要です。	教職論 教育原理 教育心理学 教育社会学 特別活動論 特別支援教育 教育相談(カウンセリングを含む) 教育の方法及び技術 ICT活用の理論と方法	教育実習指導 教育実習(高) 教職実践演習(中・高) 生徒指導論(進路指導を含む) 総合的な学習の時間の指導法 教育相談(カウンセリングを含む) 教育の方法及び技術 ICT活用の理論と方法
---	---	---

教育課程表②

教育の基礎的理解に関する科目等(理科・情報・工業)

別表5

科目コード	授業科目名	単位数				開講期及び週時間数														免許教科		
		必修	選択	自由	計	1年				2年				3年				4年				
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期			後期	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		3Q	4Q
XBTTEA101J	教職論			2	2	2													□○◎●			
XBTTEB101J	教育原理			2	2	2													□○◎●			
XBTTEB102J	教育心理学			2	2			2											□○◎●			
XBTTEB104J	特別支援教育			2	2					2									□○◎●			
XBTTEI201J	教育実習指導			1	1									1					□○◎●			
XBTTEI203J	教育実習(中・高)			4	4									4					□			
XBTTEI204J	教育実習(高)			2	2									4					○◎●			
XBTTEB103J	教育社会学			2	2					2									□○◎●			
XBTTEC104J	教育の方法及び技術			1	1					1									□○◎●			
XBTTEC105J	ICT活用の理論と方法			1	1					1									□○◎●			
XBTTEC201J	総合的な学習の時間の指導法			2	2							2							□○◎●			
XBTTEC102J	特別活動論			2	2					2									□○◎●			
XBTTEG101J	生徒指導論(進路指導を含む)			2	2					2									□○◎●			
XBTTEG102J	教育相談(カウンセリングを含む)			2	2			2											□○◎●			
XBTTET402J	教職実践演習(中・高)			2	2											2			□○◎●			
XBTTEC103J	道徳教育の指導法			2	2					2									□			
単位数及び週時間数合計								31	31	4	4	4	8	2	0	9	2					

□は中学_理科、○は高校_理科、◎は高校_情報、●は高校_工業

※1「教育実習(中・高)」の履修資格

本学で3年次にまでに開講されている教職員免許法等に定められた所定の科目「施行規則第66条の6に定める科目8単位、教科及び教科の指導法に関する科目において、中学校は26単位以上、高等学校は31単位以上(ただし、一般的包括的科目は全て)、教育の基礎的理解に関する科目等において、中学校は22単位、高等学校は20単位」の単位を修得していることが要件です。

※2「教育実習(高)」の履修資格

本学で3年次にまでに開講されている教職員免許法等に定められた所定の科目「施行規則第66条の6に定める科目8単位、教科及び教科の指導法に関する科目31単位以上(ただし、一般的包括的科目は全て)、教育の基礎的理解に関する科目等20単位」の単位を修得していることが要件です。

(注意)

- ・教育職員免許状を取得しようとする者は、1年次生4月に行う「教職課程履修ガイダンス」に必ず参加すること。
 - ・各学科の「理科」「情報」「工業」の専門的事項に関する科目については、1年次生4月に行う「教職課程履修ガイダンス」で配付する「教員免許状の手引き」を参照してください。
 - ・「教育実習」を履修しようとする者は、3年次生4月に行う「教育実習手続ガイダンス」に必ず参加し、4年次に開講される「教育実習指導」(事前指導・事後指導)を必ず履修すること。実習費は、実習校が指定し、履修者負担となります。
 - ・教職の道を目指す者は、全ての「教育の基礎的理解に関する科目等」を修得すること。
- なお、教育職員免許法附則第11項の定めるところにより、免許教科「工業」の教育職員免許状を取得する場合については、特例がありますが、平成24年度入学生以降は本学では全て必修としています。

3.免許状の申請手続き

免許状は、免許取得資格者の申請によって、授与権者である都道府県教育委員会が授与します。

なお、授与された免許状は国内どこでも通用します。

(1)一括申請

当該年度の卒業見込者の免許状授与申請は、大学から一括して行います。希望者は、教学支援部に申込んでください。申込み方法は、10月頃に掲示します。免許状は、教学支援部で交付する予定です。なお、申請に要する費用は、広島県教育委員会への申請料3,400円、学力に関する証明書料200円の合計3,600円(令和5年度額)です。

(2)個人申請

卒業後、免許状授与申請をする場合は、住所地の都道府県教育委員会に申請してください。

申請書類などの詳細については、都道府県教育委員会に照会してください。

なお、在学中、免許状取得資格を満たすことなく卒業した者で、免許状を取得したい場合は、卒業後、本学で科目等履修生として所定の授業科目を修得すれば、免許状取得資格を得ることができます。

(問合わせ先)広島県教育委員会事務局管理部教職員課企画調整係 TEL(082)513-4921

電気主任技術者(電気事業法)

工学部電気システム工学科の学生で、在学中又は卒業後、指定された科目を修得し、次の条件を満たせば、卒業後、それぞれの資格が取得できます。

- (1)電圧5万ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用の経験年数について、卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が5年以上の場合は第1種電気主任技術者免状。
- (2)電圧1万ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用の経験年数について、卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が3年以上の場合は第2種電気主任技術者免状。
- (3)電圧500ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用の経験年数について、卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が1年以上の場合は第3種電気主任技術者免状。

(問合わせ先)一般財団法人 電気技術者試験センター(本部事務局) TEL(03)3552-7691

修得が必要な授業科目

科目区分	授業科目		単位数				必要な単位数
			1年	2年	3年	4年	
1. 電気工学又は電子工学等の基礎に関するもの	第一欄	基礎電磁気学Ⅰ		2			17単位以上
		基礎電磁気学Ⅱ		2			
		基礎電気回路Ⅰ	2				
		基礎電気回路Ⅱ		2			
		電気回路理論A		2			
		電気回路理論B		2			
		電気電子計測		2			
	第二欄	電子物性			2		
		電子回路Ⅰ			2		
		電子回路Ⅱ			2		
		デジタル電子回路		2			
	小 計						22
2. 発電、変電、送電、配電及び電気材料並びに電気法規に関するもの	第一欄	電力発生工学			2		8単位以上
		電力伝送工学			2		
		エネルギー総合管理及び法規				2	
	第二欄	電気電子材料				2	
		電力システム工学				2	
		技術者倫理				1	
	小 計						11
3. 電気及び電子機器、自動制御、電気エネルギー利用並びに情報伝送及び処理に関するもの	第一欄	電気機器A		2			10単位以上
		電気機器B			2		
		パワーエレクトロニクス			2		
		制御工学Ⅰ			2		
		制御工学Ⅱ			2		
	第二欄	電気応用				2	
		コンピュータシステム		2			
	小 計						14
4. 電気工学若しくは電子工学実験又は電気工学若しくは電子工学実習に関するもの	第一欄	電気基礎実験A (PBL)	1				6単位以上
		電気基礎実験B (PBL)	1				
		電気応用実験A (PBL)		1			
		電気応用実験B (PBL)		1			
		電気応用実験C			2		
		電気応用実験D			2		
	第二欄	電気もののづくり基礎実習	1				
	小 計						9
5. 電気及び電子機器設計又は電気及び電子機器製図に関するもの	第二欄	設計製図				2	2単位以上
	小 計						2

【備考】

- 1.免許状を取得するためには、各区分ごとに定める必要な単位数を修得する必要があります。
- 2.第一欄の授業科目は必ず修得してください。
- 3.第二欄の授業科目は修得することが望ましい科目です。
- 4.科目区分5は第一欄の該当科目がないため、第二欄の設計製図を必ず修得してください。
- 5.「電気基礎実験A (PBL)」「電気基礎実験B (PBL)」「電気応用実験A (PBL)」「電気応用実験B (PBL)」は、講義・実験併用授業のため、2単位のうち実験に該当する1単位が対象となります。
- 6.関係省令:「電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令」
- 7.各地方産業保安監督部(中国地方:経済産業省 中国四国保安監督部電力安全課 TEL(082)224-5650)

電気工事士(電気工事士法)

工学部電気システム工学科の卒業生で、在学中に、〔電気理論・電気計測・電気機器・電気材料・送配電・製図・電気法規〕に関する科目を修得すれば、第2種電気工事士試験に際して、学科試験が免除されます。

(問合わせ先)一般財団法人 電気技術者試験センター(本部事務局) TEL(03)3552-7691

第2種電気工事士学科試験の免除を受けるために修得が必要な科目

全ての科目を修得すること

経産省で定める 電気工学の課程の科目区分	授業科目名	開講年次	履修区分
電気理論	基礎電磁気学I	2	必修
	基礎電磁気学II	2	必修
	基礎電気回路I	1	必修
	基礎電気回路II	2	必修
	電気回路理論A	2	必修
電気計測	電気電子計測	2	選択
電気機器	電気機器A	2	選択
	電気機器B	3	選択
電気材料	電気電子材料	4	選択
送配電	電力発生工学	3	選択
	電力伝送工学	3	選択
製図	設計製図	4	選択
電気法規	エネルギー総合管理及び法規	4	選択

※上記の全ての科目を修得することで、第1種電気工事士の免状取得の条件である実務経験が「5年以上」から「3年以上」に軽減されます。

電気通信主任技術者

この資格は、昭和60年4月、電気通信事業法の施行に伴い作られた国家資格です。電気通信主任技術者は、事業用電気通信設備の工事、維持及び運用の監督にあたります。

工学部電子情報工学科及び電気システム工学科の学生は、在学中に、試験の免除を受けるために必要な科目を修得した場合、試験科目のうち、「電気通信システム」の科目が免除されます。

1.電気通信主任技術者には、次の3種類の資格があります。

(1)第1種伝送交換主任技術者

第1種電気通信事業の伝送交換設備及びこれに附属する設備並びに特別第2種電気通信事業の電気通信設備の工事、維持及び運用の監督を行う者

(2)第2種伝送交換主任技術者

特別第2種電気通信事業の電気通信設備の工事、維持及び運用の監督を行う者

(3)線路主任技術者

第1種電気通信事業の線路設備及びこれに附属する設備の工事、維持及び運用の監督を行う者

2.受験資格

受験資格は、学歴、年令、性別、経験年数などの制限はありません。

3.電気通信主任技術者試験科目

(1)第1種伝送交換主任技術者

- ①「電気通信システム」(電気通信工学の基礎、電気通信システムの概要)
- ②「専門的能力」(伝送、無線、交換、データ通信及び通信電力のうちいずれか1分野に関する専門的能力)
- ③「伝送交換設備及び設備管理」(伝送交換設備の概要及び当該設備の設備管理)
- ④「法規」(電気通信事業法・有線電気通信法・電波法とこれに基づく命令、国際電気通信条約の概要)

(2)第2種伝送交換主任技術者

- ①「電気通信システム」(電気通信工学の基礎、電気通信システムの概要)
- ②「専門的能力」(伝送、交換、データ通信及び通信電力のうちいずれか1分野に関する専門的能力)
- ③「伝送交換設備及び設備管理」(伝送交換設備<特別第2種電気通信事業に係る者に限る>の概要及び当該設備の設備管理)
- ④「法規」(電気通信事業法・有線電気通信法とこれに基づく命令、国際電気通信条約の概要)

(3)線路主任技術者

- ①「電気通信システム」(電気通信工学の基礎、電気通信システムの概要)
- ②「専門的能力」(通信線路、通信土木及び水底線路のうちいずれか1分野に関する専門的能力)
- ③「線路設備及び設備管理」(線路設備の概要及び当該設備の設備管理)
- ④「法規」(電気通信事業法・有線電気通信法・電波法とこれに基づく命令、国際電気通信条約の概要)

(問合わせ先) 一般財団法人 日本データ通信協会中国支部 TEL(082)223-8847

日本データ通信協会電気通信国家試験センター TEL(03)5907-6556

試験の免除を受けるために修得が必要な科目

全ての科目を修得すること

【電子情報工学科】

昭和60年度郵政省告示 第241号に定められた科目	授業科目名	開講 年次	履修 区分	授業科目名	開講 年次	履修 区分
数学	社会実践B	1	必修	線形代数A	1	必修
	電子・情報の基礎	1	必修	線形代数B	1	必修
	解析基礎A	1	必修	線形代数C	1	必修
	解析基礎B	1	必修			
物理学	基礎物理学A	1	必修	基礎物理学B	1	必修
	基礎物理学A演習	1	必修	物理学実験	1	必修
電磁気学	基礎電磁気学A	2	必修	電子デバイス	3	選択
	基礎電磁気学B	3	選択			
電気回路	基礎電気回路I	1	必修	応用電気回路	4	自由
	基礎電気回路II	2	必修	集積回路工学	4	選択
電子回路	電子回路	2	選択	組込みシステム	3	選択
	アナログ電子回路	4	選択			
デジタル回路	デジタル回路	4	選択	コンピュータ工学	2	選択
情報工学	プログラミングA	1	必修	データベース	2	選択
	情報システム設計	2	選択			
電気計測	計測工学	4	選択	社会実践C	1	必修
	電子計測	3	選択	社会実践D	1	必修
伝送線路工学	応用電波工学	4	選択	電気回路理論	3	選択
	高周波工学	3	選択			
交換工学	デジタル交換工学	3	選択	情報理論	2	選択
電気通信システム	通信工学	3	選択	ネットワーク工学	3	選択

【電気システム工学科】

昭和60年度郵政省告示 第241号に定められた科目	授業科目名	開講 年次	履修 区分	授業科目名	開講 年次	履修 区分
数学	電気のための微分積分A	1	必修	電気のための線形代数A	1	必修
	電気のための微分積分B	1	必修	電気のための線形代数B	1	必修
	電気のための微分積分C	1	必修	電気のための線形代数C	1	必修
物理学	基礎力学A	1	必修	電気基礎実験A(PBL)	1	必修
	基礎力学B	2	必修			
電磁気学	基礎電磁気学I	2	必修	基礎電磁気学演習A	2	必修
	基礎電磁気学II	2	必修	基礎電磁気学演習B	2	必修
電気回路	基礎電気回路I	1	必修	基礎電気回路演習	1	必修
	基礎電気回路II	2	必修			
電子回路	電気基礎実験B(PBL)	1	必修	電子回路II	3	選択
	電子回路I	3	必修			
デジタル回路	電気基礎実験B(PBL)	1	必修	デジタル電子回路	2	必修
情報工学	プログラミング	1	必修	コンピュータシステム	2	選択
電気計測	電気基礎実験A(PBL)	1	必修	コンピュータ計測システム	3	選択
	電気電子計測	2	選択			
伝送線路工学	電磁波工学	3	選択	電気応用実験C	3	必修
	高周波工学	3	選択			
交換工学	デジタル交換工学	3	選択	電気応用実験C	3	必修
電気通信システム	通信工学	3	選択	電気応用実験C	3	必修

特殊無線技士

工学部電子情報工学科及び電気システム工学科の学生で、在学中に無線通信に関する科目を修得すれば、次の免許が取得できます。

免許の種類

(1) 第1級陸上特殊無線技士

第1級陸上特殊無線技士の操作することができる主な無線設備

- ・多重無線設備を使用した固定局等の無線設備
- ・陸上を移動する形態の無線局、VSAT(ハブ)局の無線設備(第2級)
- ・タクシー無線、トラック無線の基地局の無線設備(第3級)

(2) 第2級海上特殊無線技士

第2級海上特殊無線技士の操作することができる主な無線設備

- ・漁船や沿海を航行する内航船舶の船舶局、VHFによる小規模海岸局などの無線設備
- ・沿岸海域で操業する小型漁船やプレジャーボートの船舶局の無線電話等の無線設備(第3級)

(問合わせ先) 各都道府県の担当課、中国総合通信局無線通信部航空海上課 TEL(082) 222-3353

修得が必要な科目

【電子情報工学科】

科目名	第1級 陸上	第2級 海上	開講年次
通信工学	○	○	3
応用電波工学	○	○	4
高周波工学	○	○	3
電子計測	○	—	3
社会実践C	○	—	1
社会実践D	○	—	1
社会実践G	○	—	2
社会実践H	○	—	2
電気通信法規	○	○	4

【電気システム工学科】

科目名	第1級 陸上	第2級 海上	開講年次
通信工学	○	○	3
電磁波工学	○	○	3
高周波工学	○	○	3
電気電子計測	○	—	2
電気応用実験C	○	—	3
電気応用実験D	○	—	3
電気通信法規	○	○	4

工事担任者(電気通信事業法)

電気通信事業法第53条第1項に「利用者は端末設備又は自営電気通信設備を接続するときは、工事担任者資格者証の交付を受けている者(以下、「工事担任者」という)に、これに関わる工事を行わせ又は実地に監督させなければならない」と規定されています。「工事担任者」の資格は、上記のように電気通信事業法第53条第1項で規定された資格でアナログ又はデジタルの伝送路設備の工事を行うときに必要となる資格です。

1.工事担任者の資格の種類

工事担任者の資格には、AI種とDD種があり、それぞれ扱える工事の規模により第1種から第3種まであります。また、AI・DD総合種もあります。

2.工事担任者資格試験

試験科目は「電気通信技術の基礎」「端末設備の接続のための技術」及び「端末設備の接続に関する法規」の3科目で、少なくとも年1回以上の試験を行うことになっています。(広島では年2回程度行われています)

3.本学の認定の種類と試験免除される科目

工学部電子情報工学科及び電気システム工学科の学生は、在学中に、試験の免除を受けるために必要な科目を修得した場合、全ての試験種別のうち「電気通信技術の基礎」の科目が免除されます。

「電気通信技術の基礎」の科目免除に必要な履修科目

全ての科目を修得すること

【電子情報工学科】

昭和60年度郵政省告示第241号に定められた科目	授業科目名	開講年次	履修区分	授業科目名	開講年次	履修区分
数学	解析基礎A	1	必修	線形代数A	1	必修
	解析基礎B	1	必修	線形代数B	1	必修
	解析基礎C	1	必修			
物理学	基礎物理学A	1	必修	物理学実験	1	必修
電気回路	基礎電気回路I	1	必修	応用電気回路	4	自由
	基礎電気回路II	2	必修			
電子回路	電子回路	2	選択	組込みシステム	3	選択
	アナログ電子回路	4	選択			
デジタル回路	デジタル回路	4	選択	コンピュータ工学	2	選択
有線電気通信工学	通信工学	3	選択	電気回路理論	3	選択
データ通信工学	デジタル交換工学	3	選択	ネットワーク工学	3	選択

【電気システム工学科】

昭和60年度郵政省告示第241号に定められた科目	授業科目名	開講年次	履修区分	授業科目名	開講年次	履修区分
数学	電気のための微分積分A	1	必修	電気のための線形代数A	1	必修
	電気のための微分積分B	1	必修	電気のための線形代数B	1	必修
	電気のための微分積分C	1	必修	電気のための線形代数C	1	必修
物理学	基礎力学A	1	必修	電気基礎実験A(PBL)	1	必修
	基礎力学B	2	必修			
電気回路	基礎電気回路I	1	必修	基礎電気回路演習	1	必修
	基礎電気回路II	2	必修			
電子回路	電気基礎実験B(PBL)	1	必修	電子回路II	3	選択
	電子回路I	3	必修			
デジタル回路	電気基礎実験B(PBL)	1	必修	デジタル電子回路	2	必修
有線電気通信工学	通信工学	3	選択	高周波工学	3	選択
データ通信工学	デジタル交換工学	3	選択	電気応用実験C	3	必修

測量士・測量士補

測量の国家資格は、測量法に基づいて定められている測量士と測量士補があります。

1. 測量士

対象学科の卒業生で在学中測量に関する必要科目を修得し、測量に関し、1年以上の実務（測量そのものへの従事期間は、8時間で1日とし225日以上）の経験がある場合、その実務経歴証明書を添えて申請すれば測量士の資格が与えられます。

2. 測量士補

対象学科の在学中測量に関する必要科目を修得し、卒業した者については、申請すれば測量士補の資格が与えられます。

（問合わせ先） 国土交通省国土地理院総務課試験登録係 TEL (029) 864-4151・4265

（登録申請書） 国土交通省国土地理院ホームページからダウンロード

（申請書提出先） 国土交通省国土地理院総務課（〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番）

－ 参 考 －

〈測量法抜粋〉

[測量士及び測量士補]

第48条 技術者として基本測量又は公共測量に従事する者は、第49条の規定に従い登録された測量士又は測量士補でなければならない。

2. 測量士は、測量に関する計画を作製し又は実施する。

3. 測量士補は、測量士の作製した計画に従い測量に従事する。

[測量士及び測量士補の登録]

第49条 第50条又は第51条の規定により測量士又は測量士補となる資格を有する者は、測量士又は測量士補になろうとする場合においては、国土地理院の長に対してその資格を証する書類を添えて、測量士名簿又は測量士補名簿に登録の申請をしなければならない。

2. 測量士名簿及び測量士補名簿は、国土地理院に備える。

3. 第一項の規定により登録の申請をしようとする者は、実費を勘案して政令で定める額の手数料を納めなければならない。

[測量士となる資格]

第50条 次の各号の一に該当する者は、測量士となる資格を有する。

(1) 文部科学大臣の認定した大学（短期大学を除き、旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学を含む）において、測量に関する科目を修め、当該大学を卒業した者で、測量に関し1年以上の実務の経験を有するもの。

第2号から第5号まで省略

[測量士補となる資格]

第51条 次の各号の一に該当する者は、測量士補となる資格を有する。

(1) 文部科学大臣の認定した大学（短期大学を除き、旧大学令による大学を含む）において、測量に関する科目を修め当該大学を卒業した者。

第2号から第4号まで省略

「測量士補」の申請に必要な「測量に関する科目」一覧

【環境土木工学科】

30単位以上を修得すること

科目	単位	履修区分	科目	単位	履修区分
総合ゼミナールB	2	必修	物理学実験	2	選択
建設基礎数学A	2	必修	土木基礎工学	2	選択
線形代数A	1	必修	都市総合工学A	2	選択
基礎力学A	2	必修	都市総合工学B	2	選択
測量学I	2	必修	構造力学I演習	1	選択
測量学実習	2	必修	構造力学II	2	選択
測量学II	2	必修	構造力学II演習	1	選択
建設工学実験	2	必修	構造設計学	2	選択
技術者総合演習	1	必修	地盤工学I演習	1	選択
構造力学I	2	必修	地盤工学II	2	選択
地盤工学I	2	必修	地盤基礎工学	2	選択
水理学I	2	必修	耐震工学	2	選択
都市計画	2	必修	水理学I演習	1	選択
建設基礎数学B	2	選択	水理学II	2	選択
建設基礎数学C	2	選択	河川工学	2	選択
線形代数B	2	選択	道路工学	2	選択
応用数学A	2	選択	空間創造実習	2	選択
応用数学B	2	選択	気象災害学	1	選択
基礎力学A演習	1	選択	都市防災工学	1	選択
基礎力学B	2	選択			

【建築工学科】

30単位以上を修得すること

科目	単位	履修区分	科目	単位	履修区分
構造生産基礎	2	必修	構造力学演習	1	必修
建築測量基礎	1	必修	材料力学	2	必修
構造生産応用	2	必修	材料力学演習	1	必修
建築測量応用	1	必修	建設基礎数学C	2	選択
建設基礎数学A	2	必修	建設基礎数学D	2	選択
建設基礎数学B	2	必修	応用数学A	2	選択
線形代数A	1	必修	応用数学B	2	選択
線形代数B	2	必修	基礎力学B演習	1	選択
基礎力学A	2	必修	構造解析法I	2	選択
基礎力学A演習	1	必修	構造解析法II	2	選択
基礎力学B	2	必修	地盤工学	2	選択
物理学実験	2	必修	都市計画	2	選択
構造力学	2	必修			

【地球環境学科】

30単位以上を修得すること

科目	単位	履修区分	科目	単位	履修区分
環境基礎解析学I	2	必修	地球科学実習	2	選択
環境基礎解析学I演習	1	必修	環境解析演習	1	選択
環境基礎線形代数学	2	必修	自然災害科学概論	2	選択
環境数理基礎	2	必修	地圏の科学	2	選択
環境基礎物理学A	2	必修	地圏の災害	2	選択
地球科学概論	2	必修	気象と水の災害	2	選択
大気水圏の科学A	2	必修	地盤と地震	2	選択
環境情報概論	2	必修	自然災害対策演習	1	選択
測量情報処理論	2	必修	応用地球科学論	2	選択
測量情報処理実習	2	必修	画像処理工学	2	選択
環境基礎解析学II	1	選択	リモートセンシングA	2	選択
環境基礎統計学	2	選択	リモートセンシングB	2	選択
環境基礎物理学B	2	選択	リモートセンシング演習	1	選択
環境基礎物理学実験	2	選択	空間情報処理論	2	選択
地球環境物理学	2	選択	空間情報処理演習	1	選択
地球環境システム論	2	選択	環境情報処理B	2	選択

建築士

〔建築士とは〕

建築物の設計、建築物の工事監理、建築工事契約に関する業務、建築工事の指導監理、建築物に関する調査又は鑑定、建築に関する法令又は条例に基づく手続きの代理の業務を行うことができる資格です。建築物の構造や広さにより、1級建築士、2級建築士、木造建築士の資格が異なります。

《建築士試験の受験資格の変更について(2019.1月現在)》

2018年12月14日に交付された「建築士法の一部を改正する法律」により、一定の指定科目を修めた方は、二級建築士・木造建築士試験に加えて、卒業後すぐに一級建築士試験も受験可能となります。

※この法律は、2018年12月14日から起算して2年を越えない範囲内において政令で定める日から施行されます。詳細については、公益財団法人 建築技術教育普及センター等のwebサイトを確認してください。

(問合わせ先) 公益財団法人 建築技術教育普及センター(〒104-0031 東京都中央区京橋2-14-1)

又は同地方支部(中国四国支部 〒730-0051 広島市中区大手町2-11-15 TEL(082)245-8055)

参 考

《建築士法 平成18年12月20日法律114号 抜粋》※抜粋内容は、平成30年12月14日交付以前のものです。

第1章 総則

〔目的〕

第1条 この法律は、建築物の設計、工事監理等を行う技術者の資格を定めて、その業務の適正を図り、もって建築物の質の向上に寄与させることを目的とする。

〔定義〕

第2条 この法律で「建築士」とは、一級建築士、二級建築士及び木造建築士をいう。

2.この法律で「一級建築士」とは、国土交通大臣の免許を受け、一級建築士の名称を用いて、建築物に関し、設計、工事監理その他の業務を行う者をいう。

3.この法律で「二級建築士」とは、都道府県知事の免許を受け、二級建築士の名称を用いて、建築物に関し、設計、工事監理その他の業務を行う者をいう。

4.この法律で「木造建築士」とは、都道府県知事の免許を受け、木造建築士の名称を用いて、木造の建築物に関し、設計、工事監理その他の業務を行う者をいう。

第5項から第8項まで省略

第2章 免許等

〔建築士の免許〕

第4条 一級建築士になろうとする者は、国土交通大臣の行う一級建築士試験に合格し、国土交通大臣の免許を受けなければならない。

2.二級建築士又は木造建築士になろうとする者は、それぞれ都道府県知事の行う二級建築士試験又は木造建築士試験に合格し、その都道府県知事の免許を受けなければならない。

第3項省略

第3章 試験

〔試験の内容〕

第12条 一級建築士試験及び二級建築士試験は、設計及び工事監理に必要な知識及び技能について行う。

2.木造建築士試験は、小規模の木造の建築物に関する設計及び工事監理に必要な知識及び技能について行う。

〔試験の施行〕

第13条 一級建築士試験、二級建築士試験又は木造建築士試験は、毎年少なくとも一回、一級建築士試験にあつては国土交通大臣が、二級建築士試験及び木造建築士試験にあつては都道府県知事が行う。

[一級建築士試験の受験資格]

第14条 一級建築士試験は、次の各号のいずれかに該当する者でなければ、これを受けることができない。

- 1.学校教育法(昭和22年法律第26号)による大学(短期大学を除く)又は旧大学令(大正7年勅令第388号)による大学において、国土交通大臣の指定する建築に関する科目を修めて卒業した者で、その卒業後建築に関する実務として国土交通省令で定めるもの(以下「建築実務」という。)の経験を2年以上有する者

第2号から第4号省略

- 5.国土交通大臣が前各号に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認める者

[二級建築士試験及び木造建築士試験の受験資格]

第15条 二級建築士試験及び木造建築士試験は、次の各号のいずれかに該当する者でなければ、これを受けることができない。

- 1.学校教育法による大学若しくは高等専門学校、旧大学令による大学又は旧専門学校令による専門学校において、国土交通大臣の指定する建築に関する科目を修めて卒業した者

第2号から第3号省略

- 4.建築実務の経験を7年以上有する者

インテリアプランナー

[インテリアプランナーとは]

インテリアに関する専門的な知識を活かしてオフィス、公共施設、商業施設、住宅等幅広い分野の建築物のインテリアについて企画・設計及び工事監理を行う資格です。満20歳以上の者は受験資格があります。

次の学科を卒業し、インテリアに関する必要実務経験年数2年以上の者は、インテリアプランナーの登録資格があります。

(工学部)建築工学科 (環境学部)建築デザイン学科

(問合わせ先)公益財団法人 建築技術教育普及センター

(〒104-0031 東京都中央区京橋2-14-1)

又は同地方支部

(中国四国支部 〒730-0051 広島市中区大手町2-11-15 TEL(082)245-8055)

商業施設士・商業施設士補

[商業施設士とは]

商業施設・街づくりの構成・企画等を行う公的資格のスペシャリストです。これからの商業施設のイメージ構成、空間構成等を企画し、施設の中の販売施設や装飾、デザイン、ディスプレイ等を設計し、それらの工事監理を行う街づくりの仕事に携わる資格です。

商業施設の資格は、商業施設士と商業施設士補があります。

1.商業施設士

環境学部建築デザイン学科を卒業し、商業施設関係の実務1年間以上の者は、商業施設士の受験資格があります。

2.商業施設士補

在学中に必要な単位を取得し、申請して講習会を受講することにより取得することができます。

(問合わせ先)公益社団法人 商業施設技術者・団体連合会

(〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館)

建築施工管理技士

〔建築施工管理技士とは〕

建築一式工事の実施にあたり、その施工計画及び施工図の作成並びに当該工事の工程管理、品質管理、安全管理等工事の施工の管理を適確に行うために必要な技術を持つ資格です。

建設業法によれば、建設業者は建築工事現場における建設工事の施工の管理をつかさどる監理技術者を置かなければならないとされています。建築施工管理技士は、政令の定める試験を受けて国土交通大臣によって与えられる称号で、以下のとおり、1級と2級によって受験資格及び試験科目に違いがあります。

1.1級建築施工管理技士

受験資格……学歴、資格に応じて、指導監督の実務経験を1年以上含む一定の実務経験が必要。大学の指定学科を卒業した場合は3年以上(指定学科以外は4年6か月以上)

試験科目……〔学科試験〕建築学等、建築施工管理法、法規
〔実地試験〕建築施工管理法

2.2級建築施工管理技士

受験資格……学歴、資格に応じて、一定の実務経験が必要。大学の指定学科を卒業した場合は1年以上(指定学科以外は1年6か月以上)

試験科目……〔学科試験〕建築学等、建築施工管理法、法規
〔実地試験〕建築施工管理法

(問合わせ先) 一般財団法人 建設業振興基金試験研修本部

(〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12 虎ノ門4丁目MTビル2号館 TEL(03)5473-1581)

造園施工管理技士

〔造園施工管理技士とは〕

造園工事の実施にあたり、その施工計画及び施工図の作成並びに該当工事の工程管理、品質管理、安全管理等工事の施工の管理を適確に行うために必要な技術を持つ資格です。

建設業法によれば、特定建設業のうち1級又は2級造園施工管理技士の現場常駐が義務付けられています。造園施工管理技士は、政令の定める試験を受けて国土交通大臣によって与えられる称号で、以下のとおり、1級と2級によって受験資格及び試験科目に違いがあります。

1.1級造園施工管理技士

受験資格……学歴、資格に応じて指導監督の実務経験を有する者。大学の指定学科を卒業した場合は3年以上(指定学科以外は4年6か月以上)

試験科目……〔学科試験〕土木工学等、施工管理法
〔実地試験〕施工管理法

2.2級造園施工管理技士

受験資格……学歴、資格に応じ実務経験を有する者。大学の指定学科を卒業した場合は1年以上(指定学科以外は1年6か月以上)

試験科目……〔学科試験〕土木工学等、造園施工管理法
〔実地試験〕造園施工管理法

(問合わせ先) 一般財団法人 全国建設研修センター造園・区画整理試験部

(〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2 TEL(042)300-6866(代))

土木施工管理技士

〔土木施工管理技士とは〕

土木一式工事の実施にあたり、その施工計画の作成及び当該工事の工程管理、品質管理、安全管理等工事の施工の管理を適確に行うために必要な技術を持つ資格です。

建設業法によれば、建設業者は土木工事現場における建設工事の施工の管理をつかさどる監理技術者を置かなければならないとされています。土木施工管理技士は、政令の定める試験を受けて国土交通大臣によって与えられる称号で、監理技術者となるための資格です。以下のとおり、1級と2級によって受験資格及び試験科目に違いがあります。

1.1級土木施工管理技士

受験資格……学歴、資格に応じて、指導監督の実務経験を1年以上含む一定の実務経験が必要。大学の指定学科(土木工学、都市工学、衛生工学、交通工学及び建築学に関する学科)を卒業した場合は3年以上(指定学科以外は4年6か月以上)

試験科目……〔学科試験〕土木工学等、施工管理法、法規
〔実地試験〕施工管理法(土質試験、土木材料の強度と応用能力等)

2.2級土木施工管理技士

受験資格……学歴、資格に応じて、一定の実務経験が必要。大学の指定学科(土木工学、都市工学、衛生工学、交通工学及び建築学に関する学科)を卒業した場合は1年以上。(指定学科以外は1年6か月以上)

ただし、平成18年度からは、学校の指定学科卒業見込者又は卒業者が実務経験を積む前に学科試験のみ受験できることになりました(種別:土木のみ)

試験科目……〔学科試験〕土木工学等、施工管理法、法規
〔実地試験〕施工管理法

(問合わせ先)一般財団法人 全国建設研修センター 土木試験部
(〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2 TEL(042)300-6860)

建築設備士

〔建築設備士とは〕

建築物、その他の建築物の建築設備に係わる設計又は工事監理を行う場合の建築士に対するアドバイザーです。

正規の建築、機械、電気、またこれらと同等と認められる類似の課程を修めて卒業した後、建築設備に関して2年以上の実務の経験を有する者は、建築設備士試験の受験資格があります。

(問合わせ先)公益財団法人 建築技術教育普及センター
(〒104-0031 東京都中央区京橋2-14-1 TEL(03)5524-3105)
又は同地方支部
(中国四国支部 〒730-0051広島市中区大手町2-11-15 新大手町ビル TEL(082)245-8055)

－ 参 考 －

〈建築士法抜粋〉

〔業務に必要な表示行為〕

第20条 本文から第4項まで省略

5.建築士は、大規模の建築物その他の建築物の建築設備(建築基準法第2条第3号に規定する者をいう。以下

同じ)に係る設計又は工事監理を行う場合において、建築設備に関する知識及び技能につき国土交通大臣が定める資格を有する者の意見を聴いたときは、第1項の規定による設計図書又は前項の規定による報告書において、その旨を明らかにしなければならない。

－ 参 考 －

〈建築基準法抜粋〉

[用語の定義]

第2条 本文から第2号まで省略

3.建設設備

建築設備建築物に設ける電気、ガス給水、排水、換気、暖房、冷房、消火、排煙若しくは汚物処理の設備又は煙突、昇降機若しくは避雷針をいう。

第4号から第35号まで省略

臨床工学技士

(公益財団法人医療機器センターのホームページ <http://www.jaame.or.jp/rinsyo/rinsyo.html>より抜粋)

[臨床工学技士とは]

臨床工学技士は、厚生労働大臣の免許を受けて、臨床工学技士の名称を用いて医師の指示のもとに、血液浄化装置、人工心肺装置、人工呼吸器等の生命維持管理装置の操作(生命維持管理装置の先端部の身体への接続又は身体からの除去であって政令で定めるものを含む。)及び保守点検を行うことを業とする者で、近年の医療機器の目覚ましい進歩に伴い、医学的、工学的な知識を必要とする専門技術者として医療の重要な一翼を担う者である。

[受験資格]

- 1.大学に入学する資格のある者で、文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した臨床工学技士養成所(1)において3年以上臨床工学技士として必要な知識及び技能を修得した者
- 2.大学、高等専門学校又は厚生労働省令で定める学校、文教研修施設若しくは養成所(ア)において2年(高等専門学校にあっては5年)以上修業し、かつ、厚生労働大臣の指定する科目(A)を修めた者で、文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した臨床工学技士養成所(2)において、1年以上臨床工学技士として必要な知識及び技能を修得した者
- 3.大学、高等専門学校又は厚生労働省令で定める学校、文教研修施設若しくは養成所(イ)において1年(高等専門学校にあっては4年)以上修業し、かつ、厚生労働大臣の指定する科目(B)を修めた者で、文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した臨床工学技士養成所(3)において、2年以上臨床工学技士として必要な知識及び技能を修得した者
- 4.大学(短期大学を除く)で厚生労働大臣が指定する科目(C)を修めて卒業した者
- 5.外国の生命維持管理装置の操作及び保守点検に関する学校若しくは養成所を卒業し又は外国で臨床工学技士の免許に相当する免許を受けた者で、厚生労働大臣が前各号に掲げる者と同等の知識及び技能を有すると認定した者

生体医工学科卒業生は、受験資格を得ることができます。

※(1)(2)(3)(ア)(イ)(A)(B)(C)は上記ホームページで確認してください。

食品衛生管理者、食品衛生監視員

〔食品衛生管理者とは〕

特に高い安全性が求められる乳製品、食肉製品、添加物等の製造・加工に関する営業を行う際に、営業者がその営業施設に必ず置かなければならない資格者です。食品衛生管理者の設置は、食品衛生法第48条に規定されており、食品衛生に関する十分な知識を持った食品衛生管理者を中心とした自主管理体制により、安全な製品を製造・加工することを目的としています。

〔食品衛生監視員とは〕

食品衛生法に基づいて、食品衛生上の危害を防止するために営業施設等への立入検査や食品衛生に関する指導を行う国や地方自治体等行政機関の職員を指します。国の食品衛生監視員は、輸入食品の監視指導や総合衛生管理製造過程の承認等を主として行っています。一方、都道府県等の食品衛生監視員は、保健所などにおいて所管地域内の営業施設等への監視指導を行っています。

食品生命科学科では、次に示す所定の科目を取得すれば卒業と同時に食品衛生管理者、食品衛生監視員の両資格を取得することができます。なお、食品衛生監視員は任用資格であるため、公務員として採用されたいうえで、食品衛生の部局に配属された場合にその効力が発揮されることになります。

資格の取得に必要な授業科目

	科目	本学における科目名	単位	開講年次(期)	履修区分
A群	分析化学	分析化学	2	2(前)	選択
	有機化学	化学B	2	1(後)	選択
	無機化学	化学A	2	1(前)	必修
B群	生物化学	生物化学I	2	1(後)	必修
		生物化学II	2	2(前)	必修
		生物化学III	2	2(後)	必修
		食品生命科学実験III	2	2(後)	必修
	食品化学	食品学総論	2	2(前)	必修
		食品機能学	2	3(前)	選択
	生理学	生理学	2	1(後)	選択
	食品分析学	食品生命科学実験IV	2	3(前)	必修
C群	微生物学	微生物学	2	1(後)	必修
		食品生命科学実験I	2	1(後)	必修
	食品製造学	食品製造学A	2	3(前)	選択
		食品製造学B	2	3(後)	選択
D群	公衆衛生学	公衆衛生学	2	2(後)	選択
	食品衛生学	食品衛生学	2	2(後)	選択
		食品生命科学実験II	2	2(前)	必修
E群	植物生理学	植物生理学	2	2(後)	選択
	応用微生物学	応用微生物学	2	2(後)	選択
	病理学	病理学	2	2(前)	選択
	解剖学	解剖学	2	1(後)	選択
	遺伝学	遺伝学	2	2(前)	選択
	栄養学	基礎栄養学	2	2(前)	選択
		身体の発育発達と栄養	2	2(前)	選択
	食品工学	食品工学A	2	2(後)	選択
		食品工学B	2	3(前)	選択
	品質管理学	品質管理学	2	3(後)	選択
	医化学	分子細胞生物学	2	1(後)	必修
	蒸留酒製造学	発酵食品学A	2	3(前)	選択
	醸造調味食品製造学	発酵食品学B	2	3(後)	選択

(1) A群からD群については、各群1科目以上を履修し、合計で22単位以上履修すること。

(2) A群からE群の総合計単位数が40単位以上となるよう履修すること。

バイオ技術者(中級、上級)

バイオ技術者認定試験は、特定非営利活動法人日本バイオ技術教育学会が実施している認定試験で、日本では数少ないバイオテクノロジーに関する資格です。

中級バイオ技術者認定試験は、バイオ技術の進歩に対応して、「遺伝子組換え技術、細胞融合技術、増殖能利用技術並びに生物及び生物由来材料利用技術、そしてこれらを行うための安全管理に関する知識を持ち、適切な指導者のもとで実際にバイオテクノロジーに適応しうる資質」を有しているか否かを認定するものです。

上級バイオ技術者認定試験は、バイオ技術の進歩に対応して「生命工学技術の中で生物利用技術を中心に遺伝情報利用技術、増殖能利用技術及び安全管理技術並びにそれらに関する知識を持ち、指導的立場でそれを実際にバイオテクノロジーに応用し得る資質を高めた高度な技術者」であるのか否かを認定するものです。(詳細は、日本バイオ技術教育学会のホームページ <http://www.bio-edu.or.jp>を参照してください。)

食品生命科学科は日本バイオ技術教育学会の会員校であるため、本学科の在学学生は、中級及び上級バイオ技術者認定試験の受験資格を有します。日本バイオ技術教育学会が実施する認定試験を受験し、合格することで資格を取得することができます。ただし、受験に際しては、以下に示す制限があります。

(1) 中級バイオ技術者認定試験受験資格

食品生命科学科2年次修了者及び2年次終了見込みの者。

(2) 上級バイオ技術者認定試験受験資格

食品生命科学科3年次終了見込みの者又は卒業見込みの者、あるいは卒業者。

第2種ME技術実力検定試験

(社団法人日本生体医工学会 ME技術教育委員会のホームページ <http://www.megijutu.jp>より抜粋 詳細は、ホームページを参照してください。)

この試験は「ME機器・システムの安全管理を中心とした医用生体工学に関する知識を持ち、適切な指導のもとで、それを実際に医療に応用し得る資質」を検定するものです。

本試験は以下の方々にお勧めします。

- 1) 医師・看護師・臨床工学技士・臨床検査技師等の医療従事者
- 2) 企業における開発・製造・販売・修理等の担当者
- 3) 各種関連学校の学生(特に臨床工学技士を目指す学生諸君の実力を検定するうえで役立つものです。)

合格者は日本生体医工学会より合格証明証が交付され、「第2種ME技術者」の呼称が使用できます。

また、第1種ME技術実力検定試験の受験資格が得られます。

第1種ME技術実力検定試験

(社団法人日本生体医工学会 ME技術教育委員会のホームページ <http://www.megijutu.jp>より抜粋 詳細は、ホームページを参照してください。)

第1種ME技術実力検定試験は、ME機器・システム及び関連機器の保守・安全管理を中心に総合的に管理する専門知識・技術を有し、かつ他の医療従事者に対し、機器・システム及び関連機器に関する教育・指導ができる資質を検定することを趣旨とし、第2種ME技術実力検定試験合格者及び臨床工学技士免許所有者を受験対象者としております。

技術士・技術士補

技術士制度は、「科学技術に関する技術的専門知識と高等の応用能力及び豊富な実務経験を有し、公益を確保するため、高い技術者倫理を備えた、優れた技術者」の育成を図るための、国による資格認定制度(文部科学省所管)です。

「技術士」は、産業経済、社会生活の科学技術に関するほぼ全ての分野(21の技術部門)をカバーし、先進的な活動から身近な生活にまで関わっています。

科学技術に関する高度な知識と応用能力が認められた技術者で、科学技術の応用面に携わる技術者に与えられる権威のある称号です。

これは、「技術士法」に基づいて行われる国家試験(「技術士第二次試験」)に合格し、登録した者に与えられる称号です。国はこの称号を与えることにより、その者が科学技術に関する高度な応用能力を備えていることを認定することになります。

「技術士補」は同じく「技術士法」に基づく国家試験(「技術士第一次試験」)に合格し、登録した者に与えられる称号です。技術士補は、技術士となるのに必要な技能を修習するため、技術士を補助します。

「修習技術者」は、技術士第一次試験に合格した者及び指定された教育課程(JABEE(日本技術者教育認定機構)認定コース)を修了した者の名称です。技術士第一次試験合格者(修習技術者)は、一定期間の実務経験を経て第二次試験を受験することができます。

・技術士から国際的な技術者資格(APECエンジニアとEMF国際エンジニア)への発展について

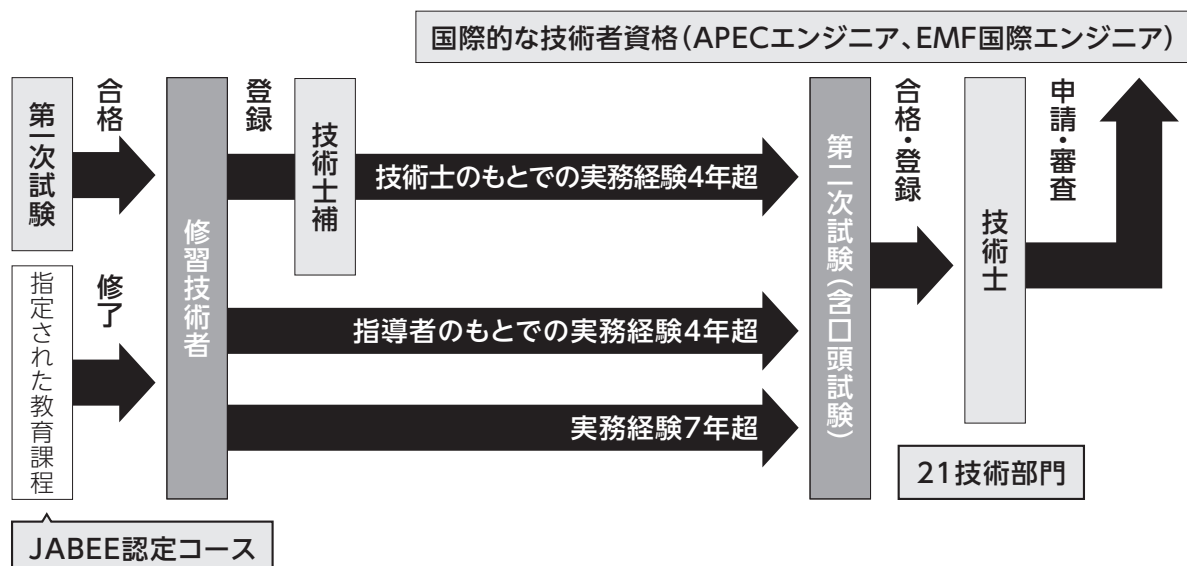
「技術士」は、国際的なエンジニアである「APECエンジニア」と「EMF国際エンジニア」への道が開けています。

APECエンジニアとは

APECエンジニア登録制度は、APECエンジニア相互承認プロジェクトに基づき、有能な技術者が国境を越えて自由に活動できるようにするための制度です。詳細は日本技術士会のホームページ(<http://www.engineer.or.jp/>)を参照してください。

EMF国際エンジニアとは

EMFとは、技術者の流動化に関するフォーラム(Engineers Mobility Forum:EMF)のことで、経験を積んだ技術者の国際的な活動を促進することを目的として、現在、世界15の国や地域(エコノミー)の民間の技術者団体間でEMF協定が合意されています。詳細は日本技術士会のホームページ(<http://www.engineer.or.jp/>)を参照してください。



施設等

HIT教育機構

本学は、令和2年度から、建学の精神「教育は愛なり」を基底に置いた新たな教育プログラム「HIT.E ▶2024」により、専門力と人間力に加え、自ら課題を発見し仲間とともに解決していく「社会実践力」を備えた「次世代の技術者」を育てています。

「HIT.E ▶2024」は、本学の教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」を人間育成の根本に据えることで、技術と人間の深い関わりを重視し、教育の質を保証することを最大の目標としています。

HIT教育機構は本学の教育効果をより一層向上させるため、「学びの創造」をキーワードとし、学部教育の発展・充実のために研究開発及び支援を行っています。

下表に示す2つのセンターにより構成されたHIT教育機構では、各センターの目標の実現や支援を行い、学生の皆さんの学ぶ喜びと教員の教える楽しさが響合う教育環境の構築に必要な提案と提言を行っています。そして、実践と点検評価（PDCAの実践）を繰り返し「HIT教育」の内容を学内外に公表し、社会とともに、期待される大学教育のありかたを考えていきます。

学生の皆さんも、本学の様々な学びの場に積極的にチャレンジして、ぜひ、社会の期待に応えられる無限の可能性を持つ人材として成長してください。

教育開発センター		教育内容と方法について継続的な研究・開発、教員の教育能力向上を目指したFD（ファカルティ・ディベロップメント）などの研究・開発、国際的感覚や職業意識の育成と向上を図る様々な制度について研究・開発を行う。
	教育開発プロジェクト	教員が行う授業改善や、そのための教材開発等を目的とする研究テーマに対して「教育開発プロジェクト」の支援を行う。
接続教育センター		専門教育を学習するために必要な基礎知識を修得してもらうため、高等学校教育と大学教育との接続教育・導入教育について研究・開発を行う。

教学、研究及び地域連携等に係る5つのセンター

様々な課題に対応していくため、学長の下に以下の5つのセンターを設置しています。

教学IRセンター

教学に関する情報の収集、管理及び分析等を行うことにより、本学の戦略的運営の意思決定、推進及び改善を支援することを目的としています。

SDGs推進センター

SDGs（持続可能な開発目標）に関する啓発及び各種関連活動を全学的視点で推進することを目的としています。

地域防災減災教育研究推進センター

地域における防災減災技術の開発及び防災減災情報の発信等の研究活動並びに防災減災に関する教育普及活動の推進を目的としています。

IoT・AI・データサイエンス教育研究推進センター

IoT・AI・データサイエンスに関する技術開発・研究活動及び本学におけるこれら技術に関する教育活動の推進を目的としています。

フードテック教育研究推進センター

フードテックに関する技術開発・研究活動の推進及びこれら技術に関する教育活動の推進を目的としています。

教育学習支援センター (Learning-Assistance Center)

本学では、高等学校での様々な履修歴を持って入学した学生の皆さんが安心して勉学に励むことができるように、適切なカリキュラムの編成と併せて、教育学習支援センターを設置して対応しています。

共通講義棟であるNexus21の1階に位置するこのセンターは「LACナビ」という愛称で親しまれており、学生がいつでも自由に出入りできるように、明るく開放的な環境づくりと親切・丁寧で分かり易い指導を心がけて運営されています。工業大学という特性から、支援対象科目は「英語、数学、物理」に限られますが、学生からの質問や相談に応えられるように、高校現場を経験した教員が常時待機しています。

毎年、多くの学生たちが利用していますが、そのうちの約7割は1年次生です。入学後にカリキュラムに沿って学習する中で、基礎となる教科を履修していなかったため理解することが難しいとか、高等学校で学びはしたがもっと深く勉強をしておけばよかったなどの思いを抱く場面に遭遇したときには、ぜひLACナビを訪ねてください。継続的に活用する中で、学力を向上させて自信をつけていった先輩たちが多くいます。

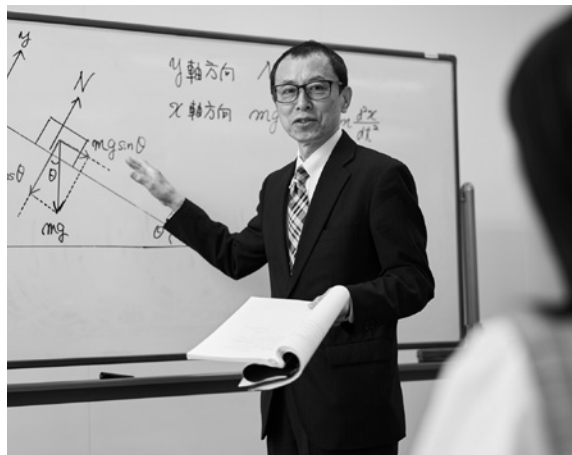
LACナビでは高等学校での学習内容まで落とし込んだ指導を行っているために、1・2年次に履修する基礎科目に関する支援が中心になりますが、基礎学力が十分でないと感じたときや更に学力の向上を図りたいときは、学年や時期を問わずLACナビをどんどん利用してください。

以下に、LACナビの概要を記載しておきます。

支援科目	英語 数学 物理
指導方法	個別指導 グループ指導
利用時間	月曜日から金曜日までの 9:00～18:00(変更になる場合は掲示します。)
指導項目	(1)基礎科目に関する正課授業理解の補助 (2)学力向上に向けた学習相談の実施 (3)その他、学生の教育学習支援(各種英語検定、SPI、公務員試験への学習支援など)
お願い	(1)試験期間中は質問者が集中する傾向があり、待ち時間が発生したり、一人あたりの対応時間が制限されたりすることがありますので、日頃から来室する習慣を身につけてください。 (2)学生休業期間中には利用時間を変更する期間があります。LACナビ入口に掲示している開所日と利用可能時間の一覧で確認してください。



教育学習支援センター入口



指導の様子(物理)

国際交流センター

留学を体験してみたい！ 異文化に触れてみたい！ と考えている皆さんを応援します。

場所は、Nexus21 3階、教学支援部内。国際交流センタースタッフが、以下のような業務をとって皆さんのお手伝いをします。

国際交流センターでは、皆さんが卒業後国際的に活躍するためには、在学中に異文化体験をすることや国際的に通用する語学力の向上を図ることが大切だと考え、主として次のようなプログラムを実施しています。

派遣留学(協定校)	語学短期研修	海外体験研修
学生交流協定を締結している大学への交換留学プログラム	「語学学習」(英語・中国語)と「異文化体験」を行う短期研修	「国際交流」と「海外体験」を中心とする体験研修
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 (アメリカ合衆国) 期間:4か月及び9か月間	デラウェア大学(アメリカ合衆国) 期間:約4週間	セブ島(フィリピン) 期間:約14日間
トリニティ・ウエスタン大学(カナダ) 期間:約4週間	トリニティ・ウエスタン大学(カナダ) 期間:約4週間	マルタ島(南ヨーロッパ) 期間:約16日間
瀋陽航空航天大学(中華人民共和国) 期間:1～3か月間	大連理工大学(中華人民共和国) 期間:約4週間	ニュージーランド 期間:約10日間
		オーストラリア 期間:約15日間

◎国際交流活動に興味のある学生の皆さんへの支援

- (1)「イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校」「トリニティ・ウエスタン大学」「瀋陽航空航天大学」からの短期留学生と皆さんとの交流活動の企画及び実施の支援
- (2)本学の留学生(短期留学生含む)と皆さんとの交流活動の企画及び実施の支援
- (3)学外で実施される国際交流事業やイベントの紹介

◎外国人留学生への支援

- (1)奨学金の申請手続きや授業料減免に関する情報提供
- (2)諸団体の企画する「留学生支援事業」に関する情報提供と申請手続き
- (3)留学生の皆さんの修学や生活に関するアドバイスやカウンセリングなど

当センターには国際交流に関する情報などもたくさんありますので、いつでもお立ち寄りください。お待ちしております。また、Webサイトもありますので、ご覧ください。

(アドレス: <https://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/international/>)



イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校の短期留学生との交流

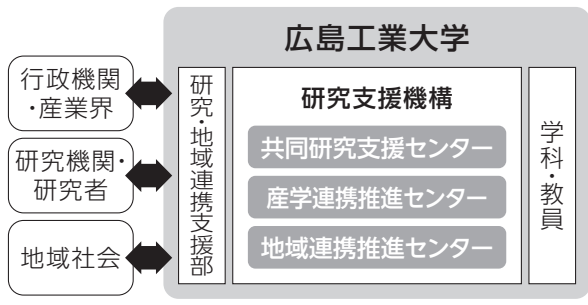


瀋陽航空航天大学の短期留学生との交流

研究支援機構

研究支援機構は、「共同研究支援センター」「産学連携推進センター」「地域連携推進センター」の3つのセンターで構成されており、産学連携、プロジェクト研究及び外部機関との共同研究の推進並びに発明等の支援を行っています。

また、研究支援機構の各種活動に関する受付窓口として、研究・地域連携支援部を設置しています。



1.共同研究支援センター

本学の教職員の研究や職務発明等を支援し、「プロジェクト研究センター」が行う研究プロジェクトを推進するとともに、本学の共同利用機器・設備を集約管理しています。

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| (1) 研究者技術シーズ集に関する事 | (2) 科学研究費助成事業に関する事 |
| (3) 研究センター、研究プロジェクトに関する事 | (4) 共同設備に関する事 |
| (5) 補助金申請に関する事 | (6) その他共同研究支援に関する事 |

2.産学連携推進センター

企業等外部機関との共同研究及び学外プロジェクトへの参画、行政機関等との連携並びに知的財産の有機的使用を促進しています。

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| (1) 公共団体の産業振興に関する事 | (2) 企業からの受託研究・共同研究に関する事 |
| (3) 競争的資金・奨学寄付金に関する事 | (4) 一般公募研究助成等に関する事 |
| (5) 企業との連携に関する事 | (6) ベンチャー支援に関する事 |
| (7) 大学連携事業に関する事 | (8) 知的財産・技術の実用化・事業化に関する事 |
| (9) その他産学連携に関する事 | |

3.地域連携推進センター

本学で行っている教育・研究を生かし、地域貢献に寄与することを目的とした活動を行っています。

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| (1) 公共団体の地域振興に関する事 | (2) 提携・連携校、工大高校との連携に関する事 |
| (3) 初中等連携に関する事 | (4) 学外連携事業に関する事 |
| (5) 公開講座に関する事 | (6) 公開シンポジウムに関する事 |
| (7) その他地域連携に関する事 | |

プロジェクト研究センター

本学の教員及び学外の研究者で組織し、以下の内容を中心に、組織を超えた横断的なプロジェクト研究を行っており、大学院生や学部生は、技術開発活動を体験する実践教育の場として、積極的に参加しています。

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| (1) 調査及び研究の実施 | (2) 調査及び研究の成果の発表 |
| (3) 特許等知的財産の創出 | (4) 研究会、講演会、講習会等の企画及び実施 |
| (5) プロジェクト研究実施における予算管理及び運営事務 | (6) 学生のプロジェクト研究への参画促進 |

<プロジェクト研究センターの一覧>

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| ・極端気象災害対策研究センター | ・建築分野における木材利用研究センター |
| ・LED照明技術教育研究センター | ・生体情報・計測研究センター |
| ・IoT技術研究センター | ・建築保全業務ロボット研究センター |
| ・植物機能開発研究センター | ・地球環境情報解析研究センター |
| ・宮島町家・まちなみ保全研究センター | ・中山間・島しょ部地域イニシアティブ研究センター |
| ・木質系建築構造・デザイン研究センター | ・機械知能化研究センター |
| ・Sigfox関連技術教育研究センター | ・データ駆動型デジタルものづくり研究センター |
| ・医薬品・医療機器評価研究センター | ・MBDイノベーション研究センター |
| ・量子物理工学研究センター | ・地域材を使用したオーダーメイド自助具研究センター |
| ・微生物の機能を活用した醸造・発酵生産研究センター | ・出芽酵母遺伝資源研究センター |
| ・クリーンエネルギー研究センター | ・エコマテリアル開発研究センター |
| ・健康増進スポーツ科学研究センター | |

図書館

図書館は、学生の皆さんの学修や研究を支える場です。積極的に利用することによって学生生活がより有意義で、価値あるものに高まります。勉強部屋として大いに利用してください。

和洋の図書約28万冊、学術雑誌約5,000種、視聴覚資料約7,800点が皆さんの利用を待っています。

開館時間

区分	授業期間	学生休業期間
平日	9:00～21:00	9:00～17:00
土曜日	9:00～16:30	9:00～12:30

※授業期間中の平日の3階は、19:00に閉めます。

※開館カレンダーに準じます。



2階第1閲覧室

休館日

- ・日曜日
- ・国民の祝日(祝日授業日を除く)
- ・学園創立記念日(2月23日)の振替休日
- ・夏季休業中の休館日(お盆休み、蔵書点検)
- ・年末・年始

(開館時間の変更、臨時休館については図書館ホームページ・掲示板などでお知らせします。)

施設案内

1階

- ・掲示板 ————— 図書館からのお知らせ等を掲示しています。
- ・自習室 ————— 128席あり、自習の場として利用することができます。
また、無線LAN等を利用して、PCやスマートフォンからネットにアクセスできます。
- ・事務室 ————— 過去の新聞、紀要の閲覧、製本機等の利用のほか、図書館利用に関わる各種の相談に応じます。
- ・印刷製本室 ————— 事務室内にあり、製本機や断裁機を設置しています。

2階

- ・カウンター ————— 図書を利用するための窓口です。貸出、返却、レファレンスサービス等を行っています。
- ・第1・第2閲覧室 ————— 和洋の教養・専門図書や辞典・便覧等の参考図書を配架しています。
また、無線LAN等を利用して、PCやスマートフォンからネットにアクセスできます。
- ・検索コーナー ————— 本学の蔵書目録(HIT-OPAC)の検索ができます。
また、自由に使えるPCが設置されています。
- ・複写コーナー ————— 学生証でコピーや印刷ができる複合機を設置しています。館内の資料を、著作権法(31条)に規定された範囲内でコピーすることができます。
- ・休憩コーナー ————— 第1閲覧室入口手前にあります。ファッション、スポーツ、娯楽などの一般雑誌や新聞各紙が置いてあり、自由に読むことができます。

3階

- ・カウンター ————— 雑誌や視聴覚資料の利用及び相互利用サービスの受付窓口です。相互利用とは他大学の図書館等と協力し、貸借や複写等の方法で当館にない資料を本学の利用者に提供するサービスです。またレファレンスサービス、会議室などの施設利用の受付も行っています。
- ・視聴覚ライブラリー ————— CD、DVD、VHS、レーザーディスク(LD)、レコード等の視聴覚資料が視聴(メディアの森)できます。学習、調査研究、娯楽、リフレッシュ等様々な目的に利用できます。
- ・検索コーナー ————— 蔵書、雑誌、CD-ROM、外部接続データベースの検索及び視聴覚資料の検索ができます。
- ・複写コーナー ————— 学生証でコピーやオンデマンド印刷ができる複合機を設置しています。館内の資料を、著作権法(31条)に規定された範囲内でコピーすることができます。
- ・第1、第2AVスタジオ — 20人までのゼミ単位あるいは小グループで、視聴覚資料を利用した学習ができます。
- ・視聴覚室 ————— 視聴覚資料を利用した講義・研究発表や講演会等の行事に使用できます。
- ・会議室 ————— 30人程度の会議や打ち合わせができます。プレゼンテーションを録画編集できる機器を備えています。

書庫

- ・1層から5層 ————— 貴重図書の一部、使用頻度の少ない図書、古くなった諸資料、過去の新聞、紀要等を収めています。手続きをしたうえで閲覧できます。
- ・20号館地階、3階 ————— 学術雑誌のバックナンバー等を収めています。手続きをしたうえで閲覧できます。

資料利用案内

- ・図書の貸出 ————— 貸出冊数及び期間

利用者	冊数	期間
学部生(1・2年次生)、科目等履修生、 単位互換履修生、外国人留学生	10冊以内	14日以内
学部生(3・4年次生)	10冊以内	30日以内
大学院生、研究生、委託生	10冊以内	90日以内

※長期の学生休業期間においては、上記の規定にかかわらず、学部生に長期貸出を行っています。この場合の期限は、その都度図書館ホームページや掲示等でお知らせします。

- ・図書の返却 ————— 玄関入口の図書返却ポストは図書館の閉館時に利用できます。開館時間中は2階のカウンターに返却してください。

※図書館の利用についての詳細は、図書館ホームページ(<https://libwww.cc.it-hiroshima.ac.jp/library/>)をご覧ください。

ICT関連施設

概要

大学では、学生の皆さんにICTに関連した施設やサービスの提供をしています。また、機器の管理や運用をはじめ、教育や研究の支援、パソコンの利用相談、講習会などを通じて快適な学生生活をバックアップします。

サービス時間

施設	利用時間	備考
ICTサポート窓口	月～金	受付時間については、ホームページや窓口にて確認してください。
学生PCヘルプデスク	月～金 8:30～17:15	
PC教室 (NX-204、205、206)	月～金 8:00～21:00	オープン利用及び学生休業中の利用時間については、PC教室時間割表で確認してください。
ユーザーズルーム (キャンパス内各所)	月～金 7:30～21:00 土 7:30～15:00	学生休業中の利用時間については、ホームページや掲示にて確認してください。
プリンタブース	月～金	利用方法については、ホームページや窓口にて確認してください。
マルチメディアブース		
工作ブース		

連絡先

教学支援部 ————— Nexus21 3階
 ICTサポート窓口 ————— Nexus21 3階
 学生PCヘルプデスク ————— Nexus21 3階(教学支援部内)
 電子メール ————— gakusei@it-hiroshima.ac.jp
 ホームページ ————— <https://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/facility/ismc.html>

HITNET

本学キャンパスにはHITNET(ヒットネット)と呼ばれる高速なコンピュータネットワークシステムが整備されており、インターネットにも接続されています。

学生の皆さんが所有しているノートPCやスマートフォンを接続して利用することもできます。

ユーザーアカウント

本学では、新入生全員にコンピュータやHITNET上の各種サービスを利用するためのユーザーアカウントを発行しています。

実際に各種サービスを利用するときにはこのユーザー名とパスワードを入力しなければいけません。

＜ユーザーアカウントの例＞

ユーザー名:aa24999(学生番号、アルファベットは小文字)

パスワード:***** (画面には表示されません)

電子メール(ほか)

HITNETのメールシステムはOffice365のメール機能を利用しています。

Office365ではメール機能のほかに、予定表やオンラインストレージを利用できます。

電子メールは、授業や就職活動にも利用します。自分のメールアドレスは忘れないようにしましょう。

＜メールアドレスの例＞

aa24999@cc.it-hiroshima.ac.jp

(学生番号)

VPN接続

基本的には、HITNETでは学外から各種サービスを利用することができません。しかし、VPNを利用することで、学外から各種サービスを利用することができます。詳細については、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-student/ismc/vpn/>



PC教室[Nexus21 2階]

本学にはPC教室が3部屋あります。

PC教室には、仮想デスクトップ端末が設置されています。

授業が行われていない時間はオープン利用として自由に利用できます。

PC教室を利用するときは出入り口のICカードリーダーに学生証をかざし、入室します。学生証はPC教室の鍵としても機能しますので常に携帯しておきましょう。なお、教室の端末利用には、ユーザーアカウントが必要です。

各種専門ソフトやフリーソフト等もインストールされ、PCを利用する作業全般に対応しています。

作成したファイルは全ユーザー個別に用意されたファイルサーバに保存することができますので、全てのコンピュータ教室のいずれのPCにログインしても同じように利用できます。

また、印刷は、オンデマンドプリンタを利用することができます。プリントは、ポイント制のため枚数に制限があります。



PC教室

ユーザーズルーム[キャンパス内各所]

キャンパス内にある、各種サービスを利用することができる仮想デスクトップ端末が設置されたオープン利用可能な施設です。

学生証を入り口のICカードリーダーにかざして入室します。

また、平日は21:00まで自習室としても利用できます。



ユーザーズルーム

オープンラボラトリ[Nexus21 3階]

講義室とは違い、学生の自学自習のための空間として利用できます。また「プリンタブース」「マルチメディアブース」「工作ブース」の三つのブースが併設されています。

(1) プリンタブース

教育・研究用に各種プリンタやスキャナなどを設置しています。利用にあたっては、申請書に必要事項を記入して、ICTサポート窓口に申し込んでください。

・大判プリンタ ・大判スキャナ ・高速カラープリンタ

(2) マルチメディアブース

ビデオ撮影したデータをコンピュータで編集することができます。

(3) 工作ブース

3Dデータを実際に造形物にできる3Dプリンタを設置しています。利用には所定の手続きが必要ですので、ICTサポート窓口で確認してください。

(4) 仮想デスクトップ端末

PC教室と同じ環境をいつでも利用することができます。



オープンラボラトリ



工作ブース

オープンスタジオ[Nexus21 3階]

防音室となっていて、照明、撮影機材を整え、マルチメディアコンテンツ作成に利用できます。

オープンスタジオに関するお問合せは、ICTセンター事務室です。

電話番号 082-921-4204

電子メール ict@it-hiroshima.ac.jp



オープンスタジオ

講習会

ICTセンター事務室では利用者のICTスキル向上を目的として各種講習会を開催しています。

情報分野における講習会の内容について希望がありましたら、遠慮なくICTセンター事務室までお知らせください。

ネットワーク・システム利用上の心得

- ◎利用者は、本学の教育方針にのっとり、品位を保ち、社会の一員としての自覚に基づいて利用しましょう。
- ◎ネットワーク・システムの利用行為に対しての全責任は利用者にあります。
- ◎ネットワーク・システムの利用に際しては、センターの指示に従ってください。
- ◎技術上又は利用上のトラブル、その他何らかのトラブルを発見した場合は、直ちに担当教員又はセンターに報告してください。
- ◎新しく本学の情報機器又は個人が所有する情報機器をネットワーク接続する場合又は機器の更新や撤去などにより切断をする場合には、センターにその旨を届けてください。
- ◎ネットワーク・システムのリソース(計算時間、通信時間など)を大量に消費し続けることにより、他の利用者の利用を妨害しないように留意してください。
- ◎事前の同意なしに、他の利用者が保有するファイルやデータを削除し、複製し、改変してはいけません。
- ◎ネットワーク・システムを混乱させ、性能を変更し、故障の原因となるような行為をしてはいけません。
- ◎第三者の著作物であるファイルやデータの引用・参照をするときは、著作権法の規定及び公正な慣行に十分に留意してください。
- ◎嫌がらせや公序良俗に反する内容の電子メール、脅迫的な電子メール、不確かな情報を内容とする電子メール、一括大量の無許可の電子メール(SPAMメール)を発信してはいけません。
- ◎求められていない電子メール、他人の迷惑となる電子メールを発信しないでください。
- ◎Webページ等を悪用して社会通念に反する情報を流さないでください。
- ◎他人の著作権、肖像権、商標権など、法令に定める権利を侵害しないように留意してください。
- ◎他人の名誉を棄損又は公然と他人を侮辱してはいけません。
- ◎他人の信条、性別、宗教、身体に対して差別的表現や行為をしないよう留意してください。
- ◎SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)での情報は、全世界に公開されています。SNSを利用する際は、社会通念に反する不適切な発言や行為をしないよう留意してください。
- ◎ネットワーク・システムの営利目的、宗教活動や政治活動への利用は禁止します。
- ◎ユーザーID、パスワードは利用者にとって重要なものです。他人への譲渡、貸与、開示を禁止します。また、自分自身の安全のためパスワードは適宜変更しましょう。
- ◎大切なファイルやデータは自分で適宜バックアップしましょう。
- ◎P2P(Peer to Peer)ファイル交換ソフトウェアの学内での利用は許可された場合を除き禁止し、利用した場合、若しくは許可されていてもコンテンツの違法な交換が明らかになった場合、利用者に対して通信制限・ネットワーク利用停止などの措置をとります。
- ◎その他コンピュータ教室等でルール・マナーを守らない場合、また違反していない場合であっても、ふさわしくないと判断し、警告・注意しても改善が見られない場合、利用者に対して通信制限・ネットワーク利用停止などの措置をとります。違法にアップロードされている音楽や動画を違法と知りながらダウンロードしてはいけません。違法行為となり刑罰の対象となりますので、留意してください。

ICTサポート窓口[Nexus21 3階]

学生スタッフが、学内のパソコンやネットワーク、ICT関連施設などの利用者の相談に応じる窓口です。PC教室の利用方法や、自分のパソコン、ネットワークなどで困ったことがあれば、気軽にご相談してください。



学生PCヘルプデスク[Nexus21 3階] (教学支援部内)

パソコンの調子が悪くなったときや物理的に破損したときなど、パソコン利用に関して困ったときに気軽に利用してください。大学推奨ノートパソコンの修理受付もこちらで行っています。

マイクロソフト包括ライセンス(EES)

(EES = Enrollment for Education Solutions)

本学ではマイクロソフト社とソフトウェアのライセンス契約を締結しています。

これにより、対象となるソフトウェアを追加費用をかけることなくインストールすることができます。

利用できるソフトウェア

(1)Microsoft Windows OS(アップグレード)

Windows 10、Windows 11

(2)Microsoft Office

Office 2021、Office 2021 for Mac、Office365

Windows版及びMac版を利用することができます。

(3)ウィルス対策ソフトウェア

Microsoft System Center Endpoint Protection

詳細は以下のホームページをご覧ください。

(<https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-student/ismc/mslicense/>)



卒業後の継続使用について

本学の学生であれば、1人1台に限り、Windows OS(アップグレード)及びOfficeソフトを専用Webストアから無償でダウンロードすることで、卒業後も継続して利用できます。

専用Webストア

(<https://it-hiroshima.onthehub.com/>)

※ 専用Webストアでの「ダウンロード期間の延長」、「物理メディアの購入」等は、別途料金が必要になります。

Apple on Campus Program

本学は、アップル社のApple on Campus Programに参加しています。Apple on Campus Programは、大学、専門学校を対象とした学生・教職員向けMac優待販売プログラムです。

このプログラムに参加することで、本学に在籍する学生と教職員は、Apple Storeの学生・教職員割引よりも、さらに安い価格で、個人用Mac製品を購入できるようになります。

詳細は以下のホームページをご覧ください。

(<https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-student/ismc/applecampus/>)



体育館

体育館は、体育に必要な施設を整備し、本学学生の健全な心身の育成のために使用するほか、本学教職員並びに鶴学園が設置する学校の生徒や教職員が使用しています。

また、上記の使用を妨げない限り、地域住民の健康の増進に寄与するために、広く学外へ開放しています。

開館時間

		平日		土曜日	
		一般学生	課外教育活動	一般学生	課外教育活動
鶴記念 体育館	アリーナ	9:00～16:50	17:00～20:00	9:00～12:10	休み
	温水プール	※1	17:00～20:00	※1	休み
	トレーニングルーム	9:00～17:00		9:00～12:10	
第2体育館	アリーナ	※1	17:00～20:00	※1	休み
第3(3号館)体育館	アリーナ	9:00～17:00	17:00～20:00	休み	

一般学生の使用は、正課の授業の使用を除く。また、土曜日の使用は、課外教育活動を妨げない範囲とします。

※1 現在は正課の授業でのみ使用しています。

休館日

日曜日、国民の祝日、学園創立記念日(2月23日)、盆休み(8月14日～16日)、年末年始(12月29日～1月3日)、その他学長・館長が必要と認めた日

使用の手続き

次に掲げる場合を除き、使用内容はスポーツに関係するものに限りします。

- (1) 授業計画に基づく授業のための使用
- (2) 本学及び学園の行事のための使用

	提出書類等	提出先	使用内容
個人	パソコン入力	体育館	使用登録用パソコンに学生番号を入力し、使用します。 ただし、第3体育館アリーナは手続きの必要はありません
団体	施設長期使用 申請書	教学支援部	本学の学生が、課外教育活動で年間を通じて使用する場合。 ただし、休館日、土曜日の午後、学生休業日は除く
	集会・行事および 施設使用願	教学支援部	本学の学生が、課外教育活動で休館日、土曜日の午後、学生休業日に使用する場合
	施設使用願	経営管理部	学外の団体が使用する場合。ただし、営利を目的とする企業や団体での使用は原則として使用できません

体育館施設の概要と使用状況

鶴記念体育館2階

○アリーナ

本学の正課の授業、本学行事、学生行事、学生課外教育活動、ゼミでの親睦スポーツ及び一般学生や教職員の体力向上と健康増進に使用されています。また、地域のスポーツに関する行事にも施設貸出を行っています。

学生課外教育活動ーバスケットボール部、バレーボール部

鶴記念体育館1階

○温水プール(水温28度)8コース25メートル(水深140～170cm(6コース)、120cm(2コース))

本学の正課の授業や、学生課外教育活動に使用されています。広島工業大学高等学校及び広島なぎさ中学校・高等学校のクラブ活動にも施設貸出を行っています。

学生課外教育活動ー水泳部

○トレーニングルーム

現在、エア式トレーニングマシンと、ウエイト式トレーニングマシン、エアロバイク、スタートラック、ダンベル、バーベルなど各種のトレーニング器具が設置されています。

本学の正課の授業や一般学生及び教職員の、体力向上と健康維持・増進のために使用されています。

また、専門のトレーナーによる「トレーニング指導」を5～7月および10～12月の毎週水曜日13:30～15:00に行っています。詳しくは掲示を見てください。

第2・第3体育館アリーナ

本学の正課の授業、本学行事、学生行事、学生課外教育活動及び一般学生や教職員の体力向上と健康増進に使用されています。第2体育館では、広島なぎさ中学校・高等学校のクラブ活動にも施設貸出を行っています。

学生課外教育活動ーバドミントン部、山岳部(第2体育館)、ハンドボール部(第3体育館)



屋内温水プール



トレーニングルーム

工作センター(6号館1階、8号館1階)

工作センターは、三つの役割を果たしています。

その第1は、学内で必要な研究・教育機材の製作をすることです。いろいろな高精度の実験装置やテストピースをできるだけ早く提供するようにしています。

2番目の役目は、学生諸君が卒業研究に必要な実験装置を自ら設計・製作できるよう、工作センターの設備を開放するとともに、加工についての技術的指導を行うことです。ものづくりは技術者の原点です。手作りの喜びを知るとは、学生諸君の将来にとって非常に役立つ体験となることと思います。

3番目に、主として機械システム工学科及び知能機械工学科を対象として機械加工・溶接等の工作実習を行っています。従来からの一般的な機械加工に加えて、CAD、CAMのソフトウェアも導入した豊富なテーマ設定となっています。

以上のような役割を果たすため、工作センターは、実習に対応できるように旋盤、フライス盤のような汎用的な切削加工用工作機械や溶接機を多数揃えるとともに、3-Dプリンター、レーザ加工機、マシニングセンター、CNC旋盤、ワイヤーカット式放電加工機をはじめ塑性加工用諸設備等様々な設備を整えています。



学生生活

学 籍

学生番号

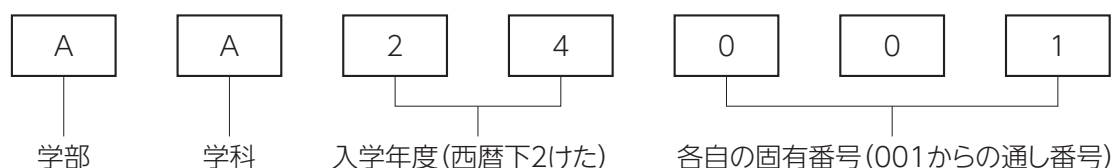
学籍には、整理上、各人固有の番号が付けられます。この番号を「学生番号」といいます。学生番号は、在学中特別な身分異動(転学科等)がない限り変わることはありません。学生番号は、試験や手続きなどいろいろな場合に必要になります。自分の学生番号は、正確に記憶しておいてください。

学生番号のしくみ

学生番号は、次のとおりの区分により、定められています。学生番号は、7けたで表示します。

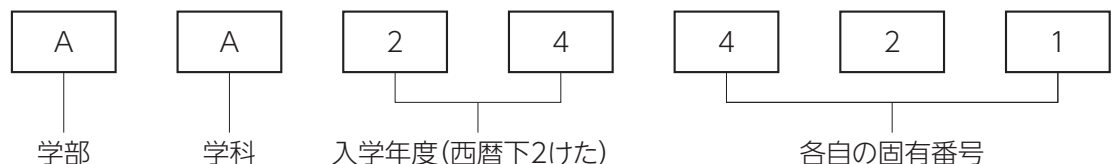
(1) 入学生

左から1けたは学部、2けたは学科、3・4けたは入学年度を示します。残りの3けたは各自の固有番号です。



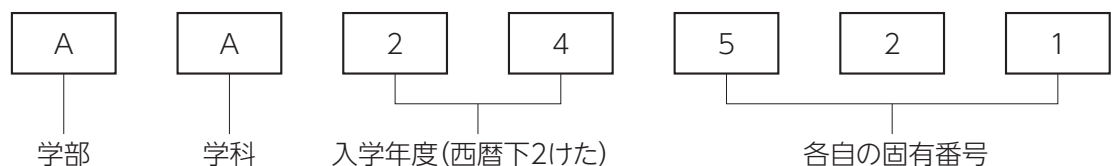
学部	学科
A : 工学部	A : 電子情報工学科 B : 電気システム工学科 C : 機械システム工学科 D : 知能機械工学科 E : 環境土木工学科 F : 建築工学科
B : 情報学部	K : 情報工学科 M : 情報コミュニケーション学科
C : 環境学部	P : 建築デザイン学科 Q : 地球環境学科
E : 生命学部	T : 生体医工学科 U : 食品生命科学科

(2) 編入学生・学士入学生



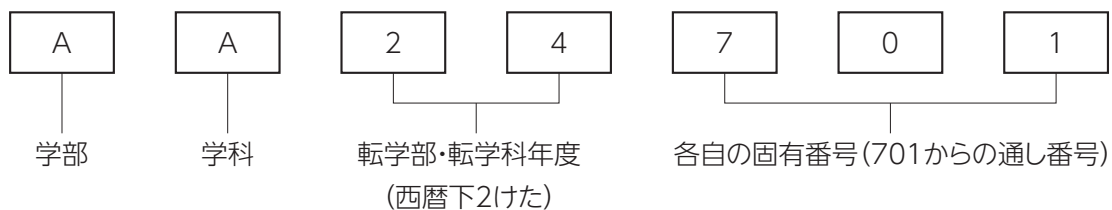
(2年次への編入学・学士入学:421からの通し番号)
(3年次への編入学・学士入学:461からの通し番号)

(3) 再入学生

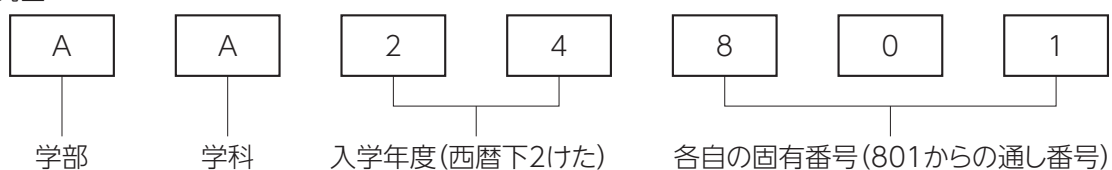


(1年次への再入学:521からの通し番号)
(2年次への再入学:541からの通し番号)
(3年次への再入学:561からの通し番号)
(4年次への再入学:581からの通し番号)

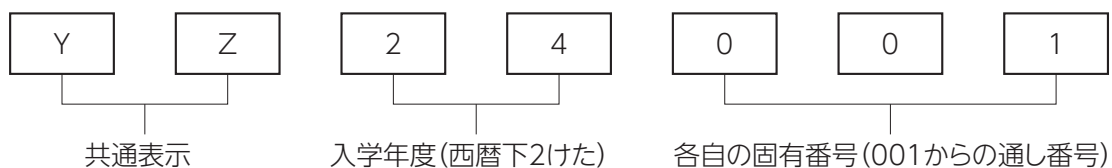
(4) 転学部・転学科生



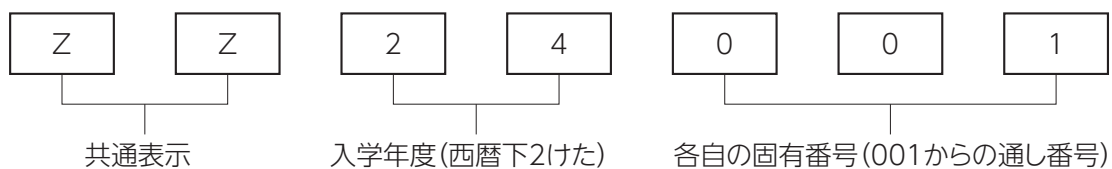
(5) 研究生



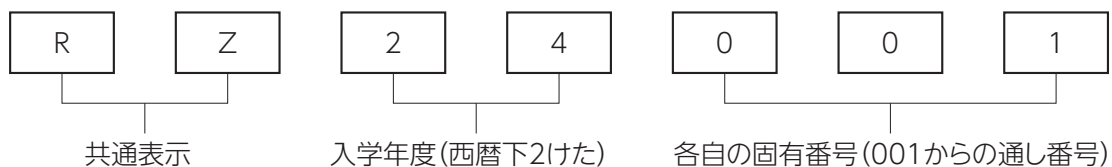
(6) 単位互換履修生



(7) 科目等履修生



(8) 短期外国人留学生



学生証

学生証の裏面シールには、必ず現住所を記入してください。これは通学定期乗車発行控にも利用します。学生証は、講義の出欠確認、試験、各種証明書の申込手続き、PC教室・ユーザーズルームを利用するとき、オンデマンドプリンタを使用するとき、図書の閲覧・貸出をするとき、通学定期、学割によって乗車、乗船するときなど、さまざまな用途に必要なものですから、常に携帯しておかなければなりません。

また、学生証には学生氏名、生年月日など個人情報が記載されています。個人情報の流出の原因となりますので紛失・盗難には十分気を付けてください。何らかの理由により紛失したときは直ちに再発行手続きを行ってください。

万が一、学生証を忘れて困ったときは、次の部署へ問合せてください。

- ・PC教室に入室できないとき…教学支援部 (Nexus21 3階)
- ・26号館の実験室などに入室できないとき…26号館2階事務室

なお、通学定期券の発行控欄に余白がなくなった場合は、教学支援部 (学生関係) (Nexus21 3階) でシールの再交付を受けてください。

※交付される学生証は、非接触ICのFelicaを内蔵し、Edyの電子マネー機能も有しています。学生証の機能にプラスして学内諸施設 (食堂、売店、自動販売機、コンビニ) で電子マネーを使用することができます。

電子マネー (Edy) について

おサイフケータイなどでもお馴染み、チャージ (入金) した金額分だけ使用することができるプリペイド方式の電子マネーです。本学の学生証には、この機能が付いています。

利用方法

Edyで支払うにはまず、事前に学生証に現金をチャージする必要があります。

学内のEdyチャージ機や学外のコンビニでチャージできます。

※Edyチャージ機の設置場所【Nexus21 3階 教学支援部 入口】

●紛失などについて

このEdy付学生証は財布と同じですので大切に扱い、紛失・盗難に十分注意してください。

学生証の再発行手数料は2,000円です。ただし、チャージされた電子マネー (Edy) は再発行できません。残金の補償、利用停止もできません。また、再発行に4日程度の期間を要します。

学生証の利用については、全て自己責任となります。十分注意して利用してください。

学生証が破損した場合や読取が不能になった場合は教学支援部に相談してください。

身上異動

本人及び保証人等の身上に、次のような異動のあった場合には、必ず教学支援部に届出てください。(届出がない場合は、大切な連絡等ができないこともあります。)

- (1) 本人及び保証人の名前変更 (戸籍個人事項証明書等を添付)
- (2) 保証人の変更
- (3) 本人及び保証人の住所、電話番号等の変更 (住所表示の変更を含む)
- (4) その他身上全般の異動

学籍異動

1. 休学

病気その他の事由により、3か月以上1年以内の期間で休学することができます。休学する場合は、在籍料を納入後、所定の願書に理由を記入し、その理由を証明する書類(診断書等)を添え、教学支援部へ提出する必要があります。(学則第23条)

- (1) 特別な理由がある場合に限り、引続き更に1年以内の休学が許可されることがあります。(学則第24条)
- (2) 休学期間は、通算して4年を超えることはできません。(学則第25条)
- (3) 休学期間は、休学した日を含む学期の全てを休学したものとして取扱い、在学期間に算入しません。(学則第26条)
- (4) 休学期間を短縮し、復学を希望する場合は教学支援部に「修学願」を提出し、学長の許可を受けてください。
(学内手続きには期日を要しますので、復学を希望する月の1か月前の提出をお願いします。)(学則第27条)
- (5) 休学期間中の在籍料及び授業料等の取扱いについては「休学に係る在籍料に関する規程」(規程集)、「休学許可及び除籍に係る授業料等納入の取扱規程」(規程集)を参照してください。
- (6) 休学すると進級できない場合がありますので、事前に教学支援部に相談してください。

2. 退学

病気その他やむを得ない理由により退学する場合は、所定の願書に理由を記入し、教学支援部へ提出する必要があります。(学則第30条)

3. 再入学

退学した者又は除籍となった者が再入学を希望する場合には、所定の手続きを経て願い出ることができます。(学則第19条)

4. 転学部・転学科

転学部又は転学科(以下「転学科」といいます)を希望する学生は、所定の書類により願い出を行い、転学科希望学科での選考により、所属学科から他の学部又は同一学部の他の学科への転学科が認められます。

転学科等を希望する学生は、担当チューターによく相談してください。(学則第29条、転学部及び転学科規程参照)

5. 除籍

次に該当する学生は、除籍になります。

- (1) 8年の在学期間(編入学、再入学、学士入学の学生は所定の在学期間)を修学しても、卒業の認定を得られない者
- (2) 授業料等諸納入金を期日までに納入せず、また、督促を受けてもなお納入しない者(学則第41条)

授業料等の納入

授業料・委託徴収金

1. 授業料等の内訳

種 別		1年次	2年次	3年次	4年次
授業料	前期	560,000円	560,000円	560,000円	560,000円
	後期	560,000円	560,000円	560,000円	560,000円
施設設備資金 (生体医工学科 の場合)	前期	110,000円 (160,000円)	130,000円 (180,000円)	130,000円 (180,000円)	130,000円 (180,000円)
	後期	110,000円 (160,000円)	130,000円 (180,000円)	130,000円 (180,000円)	130,000円 (180,000円)
諸会費 ※2		25,000円	15,000円	15,000円	15,000円
計 (生体医工学科の場合)		1,365,000円 (1,465,000円)	1,395,000円 (1,495,000円)	1,395,000円 (1,495,000円) ※1	1,395,000円 (1,495,000円)

※1 生体医工学科 … 学外における臨床実習に必要な費用(7万円程度)は、「臨床実習費」として3年次後期に別途必要となります。

※2 諸会費 … 本学関連団体から入会金や会費の徴収を委託されたものです。

〈諸会費の内訳〉

種 別	年 額	納入期
後援会入会金	5,000円	入学時のみ
後援会費	5,000円	4月
体育会入会金	1,000円	入学時のみ
体育会費	5,000円	4月
自治会入会金	1,000円	入学時のみ
自治会費	5,000円	4月
同窓会入会金	3,000円	入学時のみ
同窓会終身会費	18,000円	4年次(後期のみ)

2. 授業料等の納入方法

- ① 納入書「広島工業大学授業料等の納入について」によって指定金融機関振込により納入してください。
- ② 納入書は、4月上旬(前期分)と10月上旬(後期分)に保証人あてに郵送します。
- ③ 納入期限は、前期分4月30日まで、後期分10月31日までです。
ただし、当該期日が金融機関の休業日に当たる場合は、その前日とします。

3. 在籍料

種 別	月 額	納入時期	納入方法
在籍料	10,000円	休学申請時	休学期間分を指定金融機関に振込み

4. 注意事項(詳細は、経営管理部へ問合わせてください)

- (1) やむを得ない事情で前記期限までに納入できない場合は、「授業料等納入猶予許可願」に本人と保証人が署名押印し、猶予・分納の詳細な理由を記載して、経営管理部へ提出し、学長の許可を受けなければいけません。未納のまま放置していると、学則第41条第2号の規定により除籍になります。
- (2) 授業料の未納期間についての休学・退学は認められません。
- (3) 再入学生、編入学生の授業料は、入学許可年次の在籍生に適用される額を納入することになります。
- (4) 休学期間中の在籍料の取扱いについては、「休学に係る在籍料に関する規程」(規程集)、授業料及び施設設備資金(以下「授業料等」という)の取扱いについては、「休学許可及び除籍に係る授業料等納入の取扱規程」(規程集)(以下「納入取扱規程」という)を参照してください。
なお、参考までに取扱いの概要について、いくつかを記載します。

ア.授業料等全額納入者の場合は、教学支援部に休学願を提出した日付けをもって休学開始日とします。

休学開始日をさかのぼっての提出は、原則として許可しません。

既に納入している授業料等は、休学期間相当額を月額単位で返還します。

イ.休学申請時期と授業料等の納入状況によっては、次のとおり区分して取扱います。

・納入取扱規程第3条第4項第1号に定める当該期間内に教学支援部に休学願を提出した場合は、当該期の当初から休学を許可することができます。

許可された期間内の授業料等の取扱いは、規程に定めるとおりです。

・納入取扱規程第3条第4項第2号に定める当該期間内に教学支援部に休学願を提出した場合は、当該月の当初から休学を許可することができます。

許可された期間内の授業料の取扱いは、規程に定めるとおりです。

・納入取扱規程第3条第4項各号に定める期間を超えている場合は、教学支援部に休学願を提出した日から休学を許可します。

なお、休学願を教学支援部に提出した日が、当該願出月の当初でない場合は、翌月からの授業料等が免除されます。

・授業料等納入猶予者の休学期間中の授業料等の取扱いについては、教学支援部又は経営管理部に問合わせてください。

科目等履修生、研究生、委託生に係る諸納入金

1.科目等履修生

(金額は、令和6年度生適用額)

種 別	金 額	納 期	備 考
入学検定料	15,000円	出願と同時	本学卒業生は全額免除
入学金	25,000円	3月末日又は9月19日	本学卒業生は半額免除
履修料(1単位につき)	20,000円	//	本学卒業生は半額免除
実験実習費	履修科目によりその都度決定します	//	広島工業大学科目等履修生規程第5条第2項に該当する科目
製図・演習等	//	//	広島工業大学科目等履修生規程第5条第3項に該当する科目
※教育実習の実習費は、本学学生の納入額と同額とする。			

2.研究生

種 別	年 額	納 期
入学検定料	15,000円	出願と同時
入学金	62,500円	3月末日又は9月19日
研究料	335,000円	//
特別経費	学科長と経営管理部とで事前に検討し、その都度必要額を決定します。	

3.委託生

種 別	年 額	納 期
入学検定料	15,000円	出願と同時
入学金	62,500円	許可後10日以内
委託料	446,600円	入学日の10日以内
技術修得費 (1単位につき)	27,100円	//
※研究の委託生についての特別経費は、本表研究生の特別経費を適用します。		

健康・安全管理

健康は全ての生活の基本です。健康管理には各自が十分注意し、健康的な生活習慣を身に付けましょう。

保健室(Nexus21 1階)

保健室では、皆さんの健康保持・増進のお手伝いをしています。気軽に利用してください。

1. 定期健康診断

定期健康診断は、学校保健安全法で義務付けられています。また、自分自身の健康状態を知るうえでも重要です。病気は必ずしも自覚症状を伴うわけではありません。自覚症状がない場合でも、定期的に健康診断を受けると、思いがけない病気が発見されることがあります。本学では、全学生を対象に毎年4月～6月の間に定期健康診断を実施しますので全員必ず受診してください。(詳細は学生個人メール、掲示などでお知らせします。)

定期健康診断を受けないと、進学、就職などに必要な健康診断証明書の発行(学部4年次生、大学院2年次生〈前期課程〉、3年次生〈後期課程〉及び研究生が対象)ができません。やむを得ず、受診できない場合は、保健室に相談してください。

2. 学校医による健康相談

保健室では、休業期間中を除き、毎週1回(火曜日14:30～15:30)、学校医による健康相談を実施しています。学校医の診察結果によっては、応急処置や専門医への紹介もします。心身に不調を感じたときは遠慮なく相談してください。

また、課外活動(クラブ活動の試合、合宿等)で健康診断が必要な場合も実施します。

3. 応急処置

保健室では講義や課外教育活動中、実験や実習中などに不慮の事故や疾病が発生した場合、直ちに応急処置を行い、状態によっては専門医に移送します。

4. 休養

保健室には、休養ベッドが5床あります。体の不調などで休養をとりたいときに利用できます。

5. 身体測定

保健室には、全自動の体内脂肪計、身長体重計、血圧計、視力計、握力計が設置され、いつでも利用できます。健康管理に役立ててください。

6. 救急靴の貸出

課外教育活動による試合、合宿、ゼミ旅行などで救急靴が必要な場合には貸出をします。貸出希望日の前日までに申し込んでください。

7. 学校において予防すべき感染症による出席停止について

学校保健安全法施行規則第19条により「学校において予防すべき感染症」が定められ、下記の感染症に罹患した時の出席停止期間の基準が表のように規定されています。

◆ 感染症の診断を受けた場合は、速やかに保健室又は教学支援部に連絡をください。

(保健室 : 082-921-4239 教学支援部 : 082-921-4179)

◆ 病状が回復し登校する時は、医師による治癒証明書が必要です。保健室へ提出してください。

ただし、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザは治癒証明書は不要です。HITPOにて大学が定めた各陽性者フローを確認し、諸手続きを行ってください。

	感染症名	出席停止期間の基準(以下の基準に基づき主治医が判断する)	治癒証明書
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(病原体がMERSコロナウイルスに限る)、鳥インフルエンザ(H5N1)	治癒するまで ※「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」第六条第七項から第九項までに規定する「新型インフルエンザ等感染症」、「指定感染症」及び「新感染症」は第1種の感染症とみなす	○
	新型コロナウイルス	発症後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで	×
第二種	インフルエンザ(鳥インフルエンザを除く)	発症後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで	×
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで ※ただし、医師が感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない	○
	麻疹(はしか)	解熱した後3日を経過するまで ※ただし、医師が感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない	○
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで ※ただし、医師が感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない	○
	風しん(三日はしか)	発疹が消失するまで ※ただし、医師が感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない	○
	水痘(水ぼうそう)	全ての発疹が痂痂化するまで ※ただし、医師が感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない	○
	咽頭結膜炎(プール熱)	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消失した後2日を経過するまで ※ただし、医師が感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない	○
	結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで	○
	髄膜炎菌性髄膜炎		○
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで	○
第三種	その他の感染症 《条件によっては出席停止の措置が考えられる感染症》 溶連菌感染症、A型肝炎、B型肝炎 手足口病、感染性胃腸炎(ノロウイルス・ロタウイルスなど) ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症など	学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り学校医の判断を聞き、学長が第三種の感染症として緊急的に措置を取ることができる。	○

関係法令) 学校保健安全法施行規則第18、19条及び学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令
(令和5年文部科学省第22号令和5年5月8日施行)

参考文献) 「学校において予防すべき感染症の解説(平成30年(2018)年発行)」

健康保険被保険者証(保険証)

病気やケガで医療機関を利用する時、「健康保険被保険者証」(保険証)を病院の窓口で提示すると、医療費の一部を負担するだけで、必要な医療が受けられます。

一人暮らしをする学生の皆さんは必ず保険証を持参してください。個人カードを交付されていない場合は、「遠隔地被保険者証」の申請手続きが必要となりますので、大学が発行する「在学証明書」を添付して保護者等が加入している保険証の発行機関で手続きを行ってください。

なお、在学証明書は、三宅の森 Nexus21 3階教学支援部前の証明書自動発行機で発行することができます。

学生保険

教育活動中に、不慮の事故によって傷害を被った場合の救済措置のため、「学生教育研究災害傷害保険」に、また、法律上の損害賠償責任を負うことになった場合のため、「学研災付帯賠償責任保険」に全学生が加入しています。また、「学生教育研究災害傷害保険」の対象とならない場合は「安全会(通学中の事故は対象外)」から治療費等が支給されます。

各保険の条件にあったケガや事故の補償手続きは、教学支援部が窓口となっています。

【学生教育研究災害傷害保険】

1.保険金が支払われる場合

(1)正課中

講義、実験・実習、演習又は実技による授業を受けている間。ただし、専ら被保険者の私生活にかかる場所においてこれらに従事している間は除きます。

(2)学校行事中

入学式、卒業式、オリエンテーション、体育祭、大学祭等教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

(3) (1)、(2)、(4)以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用又は管理している学校施設内にいる間。ただし、大学が禁じた時間、若しくは場所にいる間又は大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

(4)課外教育活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動又は体育活動を行っている間。

(5)通学中、施設間移動中

通学途上又は課外活動等に参加する途中。ただし、大学が合理的な方法であると認めた場合。

注)学校施設外での課外教育活動中の負傷については、行事開催又は参加届等の届出が条件です。

(6)臨床実習中(生命学部生体医工学科のみ)

病院等で行う実習中に接触感染(空気感染等除く)による感染症予防措置を受けた場合。

2.保険金の種類と額

※詳細については「加入者のしおり」を参照

担保範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金
正課中、学校行事中	2,000万円	120～3,000万円	治療日数 1日から対象 3千円～30万円	1日につき 4,000円 (180日を限度)
通学中、学校施設等相互間の移動中、課外活動(クラブ活動)を行っている間以外で学校施設内にいる間	1,000万円	60～1,500万円	治療日数 4日以上が対象 6千円～30万円	
学校施設内外での課外活動中(クラブ活動)	1,000万円	60～1,500万円	治療日数14日以上が対象 3万円～30万円	

【安全会】

大学管理下(授業中、課外教育活動中等)における事故で、治療日数等により「学生教育研究災害傷害保険」の対象とならない場合は(通学中の交通事故は対象外)、「安全会」から治療費等が次のとおり給付されます。

1. 負傷については、見舞金として治療費(治療費・入院費及び移送費)が20万円を限度に給付されます。
2. 負傷に起因して廃疾となったときは、廃疾見舞金が最低20万円～200万円まで給付されます。
3. 死亡したときは、死亡見舞金200万円が給付されます。

また、この給付対象事故の範囲は、次のとおりです。

- (1) 大学の編成した教育課程に基づく授業を受けているときの負傷等
- (2) 大学の教育計画に基づく課外授業を受けているときの負傷等
- (3) 学生・教務センター長の承認を得て、クラブ、サークル活動を行っているときの負傷等
- (4) 休憩時間中、その他大学の指示又は承認に基づき大学のキャンパスにいるときの負傷等
- (5) その他学長が上記(1)～(4)に準ずると認めた負傷等

注) 課外教育活動中の負傷については、行事参加又は行事届が提出されていることが条件です。

【学研災付帯賠償責任保険】

この賠償保険は、国内外において、学生が正課、学校行事及びその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償金を支払限度額の範囲内で補償します。

支払限度額: 対人賠償と対物賠償を合わせて1事故につき1億円限度(免責金額0円)

本保険の対象となる事故の例として次のようなケースがあります。

	正課で化学の実験中、間違っ て薬品を混ぜ、爆発事故を起 こしてしまい、クラスメイトに 火傷を負わせてしまった。		正課でのインターンシップ活 動中、派遣先の機械を使用 し、誤って壊してしまった。
	大学祭で、焼鳥屋の模擬店を 出店したが食中毒を出してし まい、5人が入院してしまっ た。		大学に通学中、駅の階段を駆 け降りたとき、前にいた老人 を突き飛ばしてしまい、大ケ ガをさせてしまった。

【医学生教育研究賠償責任保険】生体医工学科のみ

生体医工学科は、上述の学研災付帯賠償責任保険の対象範囲となるものに加え、医療関連実習も対象となります。

注) 医療関連実習については、以下の要件を全て満たす場合に限りま。

1. 大学が正課又は学校行事として位置付ける実習であること。
2. 被保険者がその専門資格に関わる行為を業務(アルバイトその他恒常的に行うものを含む。)として行っていないこと。
3. 1.2.について保険金請求時に大学等が証明を行うこと。

飲酒について

毎年、全国の大学生の間でお酒をがぶ飲みする“イッキ飲み”による急性アルコール中毒で死亡する事故が発生しています。お酒に対する強さは人によって異なり、それは遺伝によって決まっています。お酒に弱い人はいくら訓練しても強くなりません。自分の適量を把握し、楽しいお酒となるよう心がけましょう。

※お酒に「弱い」か「強い」か、 保健室でアルコール体質検査を受けることができます

参考サイト: アルコール健康医学協会

<https://www.arukenkyo.or.jp/index.html>

アルコールと付き合っていくための情報を確認することができます。

敷地内での喫煙禁止について

平成30年7月に「健康増進法の一部を改正する法律」が施行され、望まない受動喫煙をなくすための取組がマナーからルールへと変わりました。

これに伴い、本学でも敷地内全面禁煙となっています。

また、学敷地外での喫煙(路上喫煙など)は、近隣の方々のご迷惑をおかけすることになりますので、くれぐれも慎むようにしてください。

参考サイト: たばこの健康被害 | 禁煙は愛 | 禁煙推進Webサイト

<https://www.med.or.jp/forest/kinen/#damage>

薬物乱用防止について

薬物は脳細胞や身体各部に影響を及ぼし、強い依存性があるため、一度使うとやめられなくなります。1度使用しただけで乱用にあたり、使用すると自分だけでなく、他人の生命にも危険をもたらすおそれがあります。

参考サイト: 薬物乱用防止「ダメ・ゼッタイ」ホームページ

<https://www.dapc.or.jp/index.html>

薬物別の解説など薬物乱用についての情報を確認できます。

安全な学生生活を送るために

最近、若者の消費者被害やカード等による多重責務の問題が増加しています。また、悪徳商法の手口は一段と巧妙になっています。「困ったな、どうしよう」「ちょっと変だぞ」と思ったら、契約書にサインする前に教学支援部、消費者センター、警察等に相談してください。

*クーリング・オフ制度

購入契約の申込が契約した日を含めて8日以内であれば、無条件で申込み撤回、契約解除ができます。

参考サイト: 広島県環境県民局消費生活課

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/41/>

NPO法人 消費者ネット広島

<https://www.shohinet-h.or.jp/wakamono/>

詳細と手続き方法が掲載されていますので参考にしてください。

〈広島市消費生活センター〉

住 所: 広島県広島市中区基町6-27 アクア広島センター街8階

連絡先: 082-225-3300

下宿、アルバイト

下宿

本学では、一人暮らしのための下宿の情報を提供しています。食事付の下宿、アパート、マンションなど多数の物件が登録されています。下宿に関することは、教学支援部へ相談してください。

なお、ホームページで下宿情報を掲載しています。

下宿情報

<https://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/lodge/>



アルバイト

本学は、講義のほか実験実習が多く、アルバイトは勉学上、支障となったり、健康を害するものになったりしていますので奨励はしません。しかし経済的な事情によってアルバイト収入が必要な場合又は休暇を利用してアルバイトをしたいときは教学支援部でアルバイトの紹介を行っていますので、次の手順で手続きをしてください。

なお、本学では、授業期間中は午後5時から午後10時まで以外の就業については紹介していません。ただし、学生休業中はこの限りではありません。

- 1 HITPOオンライン掲示板の「下宿・アルバイト」欄に掲載されている求人申込書の中から希望する求人先を選び、面談等の日程を決めてください。
- 2 「事故防止」等の観点から、次のような職種は制限しています。
 - ・危険を伴うもの…自動車・バイク等の運転業務、プレス加工作業、高所での屋外作業等
 - ・人体に有害なもの…有害な薬物の取扱い、高温低温での作業等
 - ・重労働・徹夜作業のもの
 - ・教育的に好ましくないもの
 - ・労働条件が不明確なもの

3 その他

求人申込書の諸条件をよく確認し、自分の生活状態を考え合わせて慎重に契約してください。

アルバイトをする以上、本学学生としての自覚を持って誠実に責任を果たすよう心がけてください。

参考サイト：厚生労働省 確かめよう労働条件

<https://www.check-roudou.mhlw.go.jp/>

マンガで学ぶ労働条件

<https://www.check-roudou.mhlw.go.jp/manga/>

奨学金

奨学金制度は、教育の機会均等の精神に基づき、日本学生支援機構をはじめ、地方公共団体、各種の団体により設けられています。これらの制度は、経済的理由により修学困難な学生に対して、奨学金を貸与又は給付することによって、学業を続ける機会を与え、有為なる人物の育成を目的としています。

奨学金関係の事務は教学支援部(学生関係)窓口で扱っています。募集をはじめ全ての連絡は、HITPOで行います。教学支援部奨学金関係の連絡を見落とすことがないように十分注意してください。問い合わせは、教学支援部(学生関係)窓口をお願いします。

日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構法に基づき、経済的理由により、修学困難な優れた学生等に対して学費が貸与される奨学金(第一種奨学金(無利子)、第二種奨学金(有利子))があり、さらに令和2年度からは高等教育修学支援制度の一環として、返還不要の給付型奨学金を進学後に出願することができます。

1. 貸与型奨学金

	第一種貸与(無利子)	第二種貸与(有利子)
奨学生の資格	人物・学業ともに特に優秀かつ健康であって、経済的理由により著しく修学に困難があると認められる者	人物・学業ともに優秀かつ健康であって、経済的理由により修学に困難があると認められる者
貸与月額	自宅(月額) 自宅外(月額) 20,000円 20,000円 30,000円 30,000円 40,000円 40,000円 54,000円 50,000円 64,000円	(月額)以下から選択する。 20,000円、30,000円、40,000円、 50,000円、60,000円、70,000円、 80,000円、90,000円、100,000円、 110,000円、120,000円 ※基本月額にかかる利率は年3%が上限 です。在学中は無利息。
募集時期	4月初旬(その他に募集があった場合、HITPO等でお知らせします) ※家庭の経済事情急変のため、奨学金の受給を希望する者は、随時相談してください。	
出願手続	志願者は、説明会(日時等はHITPOにて周知)に必ず出席し、出願要領を確認のうえ、 所定の手続きを行ってください。	
奨学生の採否	志願者の中から、奨学生選考基準に基づき、学務委員会において審査のうえ、学長が 適格者を日本学生支援機構に推薦し、その採否は日本学生支援機構が決定します。	
奨学金の振込み	原則として毎月1回、申込時に指定した銀行、信用金庫又は労働金庫の奨学生本人の 普通預金口座に振込まれます。	
その他	奨学金は日本学生支援機構規程に基づき、「継続」「停止」「廃止」等の処置が行われます。 学業成績が不振な場合は、「警告」の処置となり、学業成績向上の指導を行います。 また、指導後も引続き学業成績が向上しない場合や修学状況が奨学生として不適切 な場合、奨学金は「廃止」の処置となります。	

日本学生支援機構のホームページアドレス：<https://www.jasso.go.jp/>

2. 給付型奨学金

奨学生の資格	人物・学業ともに特に優秀であって、経済的理由により著しく修学に困難があると認められる者。家計の経済状況・学業成績・その他の要件のいずれも満たす者。												
貸与月額	<table><thead><tr><th></th><th>自宅（月額）</th><th>自宅外（月額）</th></tr></thead><tbody><tr><td>第Ⅰ区分</td><td>38,300 円</td><td>75,800 円</td></tr><tr><td>第Ⅱ区分</td><td>25,600 円</td><td>50,600 円</td></tr><tr><td>第Ⅲ区分</td><td>12,800 円</td><td>25,300 円</td></tr></tbody></table> ※世帯収入に応じた3段階の基準で支援額が自動的に決まります。 ※生活保護を受けている生計維持者と同居している人及び進学後も児童養護施設から通学する人は、別の金額となります。（詳細は日本学生支援機構ホームページをご確認ください。）		自宅（月額）	自宅外（月額）	第Ⅰ区分	38,300 円	75,800 円	第Ⅱ区分	25,600 円	50,600 円	第Ⅲ区分	12,800 円	25,300 円
	自宅（月額）	自宅外（月額）											
第Ⅰ区分	38,300 円	75,800 円											
第Ⅱ区分	25,600 円	50,600 円											
第Ⅲ区分	12,800 円	25,300 円											
募集時期	4月初旬（その他に募集がある場合、HITPO等でお知らせします。） ※家庭の経済事情急変のため、奨学金の貸与を希望する者は、随時相談してください。												
出願手続	志願者は、説明会（日時等はHITPOにて周知）に必ず出席し、出願要領を確認のうえ、所定の手続きを行ってください。												
奨学生の採否	志願者の中から、奨学生選考基準に基づき、学務委員会において審査のうえ、学長が適格者を日本学生支援機構に推薦し、その採否は日本学生支援機構が決定します。												
奨学金の振込み	原則として毎月1回、申込時に指定した銀行（ゆうちょ銀行含む）、信用金庫又は労働金庫の奨学生本人の普通預金口座に振込まれます。												
その他	高等教育修学支援制度の一環として、授業料減免制度と併せて適用されます。 学業成績、経済状況により「継続」「停止」「廃止」等の処置が行われます。 学業不振が著しい場合には、奨学金の返還等が必要となることがあります。 また、年2回、給付奨学生として適格性を有しているか判定が行われます。												

高等教育修学支援制度に係る授業料等減免

令和2年度から高等教育修学支援制度の一環として授業料等の減免を受けることができます。対象者は、原則、日本学生支援機構の給付型奨学金の採用者です。

手続き等詳しくは教学支援部（学生関係）窓口へ問合わせてください。

高等教育の修学支援制度

<https://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/scholarship/faculty/study-support/>



制度の概要・支援額

詳細は以下のホームページをご覧ください。

文部科学省:高等教育の就学支援新制度

<https://www.mext.go.jp/kyufu/>



本学独自の育英制度

[特待生奨学金]

2年次以上の学生のうち、人間力を身に付け、かつ、学業成績が特に優秀な学生に対して選考規程に基づき選考します。

1.種類及び免除額

種類	免除額
A特待生	授業料及び施設設備資金の半額
B特待生	授業料及び施設設備資金のうち20万円

2.特待生の選考について

種類	条件
A特待生	前年度末における当該年度GPAが3.5以上又は特待生GPA順位が当該学科及び年次において上位5% (小数点以下第1位を四捨五入) 以内の者
B特待生	特待生GPA順位が当該学科及び年次において上位10% (小数点以下第1位を四捨五入) 以内の者

上の条件を満たす者のうち、次の全ての条件に該当する者が特待生の対象者となります。

- ・当該年度4月1日に在学している者
(在学中に進級できなかった者※、卒業と認定されなかった者及び懲戒を受けた者は除く)
※特別な事情がある場合は、相談してください。
- ・当該年度において発展トラックに認定された者(▶38ページ参照)
- ・発展トラック算入ポイントを前年度に50ポイント以上獲得している者
- ・当該年度の学年で前年度において以下の表の選考修得単位数以上を修得した者

前年度の 年次	選考基準単位数	
	工学部、情報学部、環境学部及び 生命学部(食品生命科学科)	生命学部(生体医工学科)
1年次	35単位	46単位
2年次	35単位	35単位
3年次	30単位	30単位

3.期間

当該年度1年間

4.重複受給

特待生は鶴虎太郎奨学金、広島工業大学同窓会奨学金、成績優秀者奨学金及び入試特待生を重複して受給できません。

[成績優秀者奨学金]

1.給付額

給付額
当該年度の授業料及び施設設備資金のうち40万円

2.成績優秀者奨学金の選考について

以下の条件に全て該当する者が成績優秀者奨学金の候補者となり、チューターが面接を行い、審査し決定します。

- ・当該年度4月1日に在学している者
(当該年度4月1日に進級できなかった者、卒業が認定されなかった者及び懲戒を受けた者は除く)
- ・当該年度の学年で前年度において以下の表の選考修得単位数以上を修得した者

前年度の 年次	選考基準単位数	
	工学部、情報学部、環境学部及び 生命学部(食品生命科学科)	生命学部(生体医工学科)
1年次	35単位	46単位
2年次	35単位	35単位
3年次	30単位	30単位

- ・奨学生GPA順位が、当該学科及び年次において1位の者

3.重複受給

成績優秀者奨学金は鶴虎太郎奨学金及び広島工業大学同窓会奨学金、特待生(A特待生、B特待生、入試特待生)を重複して受給できません。

【入試特待生制度】

1年次生を対象に入学者選抜の成績に応じて学費の一部を免除または給付する制度です。

種別	給付・減免額	対象入学者選抜	選考基準	適用期間
入試特待生I	100万円免除	一般選抜(A) 共通テスト利用(A)	入試得点率 80%以上	入学後大学院を含む 5年間※
入試特待生II	50万円免除	一般選抜(A)(B) 共通テスト利用(A)(B)	入試得点率 70%以上	入学年度の1年間
入試特待生III	25万円免除	学校推薦型選抜(公募制)前期 学校推薦型選抜(公募制)後期 学校推薦型選抜(女子特別選抜)	入試得点率 60%以上	入学年度の1年間
学修奨励金	25万円給付	総合型選抜(学科課題型) 総合型選抜(自己推薦型)	各学科で入試得点率が1位で、 学科の推薦がある入学生 入試得点率 上位10人	入学年度の1年間
女性エンジニア 育成奨励金	50万円給付	学校推薦型選抜 (女子特別選抜)	学科内の入試得点率 上位3人	入学年度の1年間

※各年次末に以下のいずれかに該当する場合は、翌年度以降の資格が取り消されます。

- ①当該年度GPA3.0未満
- ②当該年度修得単位数30単位未満(自由科目を除く)
- ③当該年度進級制限者
- ④当該年度における発展トラック算入ポイントが50ポイント未満
- ⑤学生としての本文にもとる行為又は、疾病その他の事由による休学により資格を取り消した履歴がある場合。

ただし、特別な事情がある場合は、相談してください。

なお、以下に掲げる制度との重複受給はできません。

・特待生 ・成績優秀者奨学金 ・大学院特待生 ・大学院スカラシップ ・鶴虎太郎奨学会奨学金 ・同窓会奨学金

(令和3年度以降の入学生対象の制度です。)

【遠隔地学生給付奨学金】

遠隔地からの入学生を支援します。

種別	給付額	対象入学者選抜	選考基準	適用期間
遠隔地学生 給付奨学金	年額10万円	一般選抜(A)(B) 共通テスト利用(A)(B)	出身高校の所在地が九州地区 (沖縄含む)と近畿以東の入学生	入学後4年間※

※留年、休学などによる適用期間の延長はありません。(令和3年度以降入学生対象の制度です。)

【学園内推薦入学者奨学金制度】

2年次以上の学生のうち、学校推薦型選抜(指定校制[学園内推薦入学])により入学し、条件を満たした学生に対して学費の一部を給付する制度です。

給付額	対象入学者選抜	条件(すべてを満たすこと)	期間
年額20万円	学校推薦型選抜 (指定校制[学園内推薦入学])	・当該年度4月1日に在学している者 ※1 ・前年度末における通算GPA2.7以上 ・前年度修得単位数30単位以上 ※2	学部2年次から4年次の 最長3年間

※1 在学中に進級できなかった者、卒業と認定されなかった者及び学生としての本分にもとる行為があった者は除きます。ただし、特別な事情がある場合は、相談してください。

※2 自由科目を除きます。

なお、鶴虎太郎奨学会奨学金、同窓会奨学金、特待生及び成績優秀者奨学金を重複して受給できません。(令和4年度以降の入学生対象の制度です。)

公益財団法人鶴虎太郎奨学会奨学金

奨学生の資格	主として学業優秀、品行方正でありながら、経済的理由により修学が困難な者 (給付規程は 規程集 に掲載)
給付期間及び金額	給付期間:1年間(毎年度募集を更新します。) 給付金額:月額10,000円(返還の義務はありません。)
募集期間	4月初旬
出願手続	志願者は、説明会(日時等はHITPO等で周知)に出席して、出願要領等を確認のうえ、所定の手続きを行ってください。
奨学生の採否	志願者の中から、奨学生選考基準に基づき、学務委員会において審査のうえ、学長が適格者を鶴虎太郎奨学会に推薦し、その採否は奨学会が決定します。
奨学金の休止及び廃止	休止:休学や長期欠席及び学業又は素行などの状況により、停止されることがあります。 廃止:奨学生として不適格であると認められた場合は廃止されます。

広島工業大学同窓会奨学金

奨学生の資格	広島工業大学に在学し、学資の支弁が困難と認められる者 (給付規程は 規程集 に掲載)
給付期間及び金額	給付期間:1年間(毎年度募集を更新します。) 給付金額:年額120,000円(返還の義務はありません。)
募集期間	4月初旬
出願手続	志願者は、説明会(日時等はHITPO等で周知)に出席して、出願要領等を確認のうえ、所定の手続きを行ってください。
奨学生の採否	奨学生の採用は、会長が採用候補者に対して面接を行った後、同窓会役員会の選考を経て決定します。
奨学金の休止及び廃止	休止:休学又は長期欠席の場合及び学業又は素行などの状況により、休止されることがあります。 廃止:奨学生として不適格であると認められた場合は廃止されます。

地方公共団体、その他の奨学金

都道府県教育委員会及び民間育英団体の奨学制度があります。内容の詳細については、募集依頼があったときには掲示しますが、大学を通さないで募集しているものがほとんどです。直接、家族の勤務先や教育委員会、その他関係方面へ問合わせることが必要です。ただし、各自治体の奨学金は、日本学生支援機構との重複利用ができないところが多いようです。

以下の奨学金は昨年度募集依頼等があったものの一部です。今年度については募集があり次第HITPOオンライン掲示板等でお知らせします。金額・出願資格等、変更される場合がありますので、必ずオンライン掲示板で確認してください。

地方公共団体・県の外郭財団(貸与)

奨学会名	貸給	出願資格
(公財)山口県ひとづくり財団	貸与	保護者が山口県内に住所を有しており、向学心に富み有能な素質を有し、経済的な理由により修学が困難と認められる者 他
廿日市市	貸与	保護者又は本人(独立して生計を営む者に限る。)が1年以上継続して廿日市市に住所を有し、経済的理由により修学が困難であると認められる者 他

社・公益財団法人・企業等(給付・貸与)

奨学会名	貸給	出願資格
(公財)八幡記念育英奨学会	給付	広島県内の大学、大学院に在学し、学業・人物がともに優秀で、かつ、健康であって、学資の支弁が困難と認められる者 他
あしなが育英会	貸与	保護者が病気、災害(道路における交通事故を除く)、自死(自殺)などで死亡又は保護者が1級から5級の障がい認定をうけており経済的な援助を必要としている家庭の学生
(公財)交通遺児育英会	貸与	保護者等が自動車やバイクの事故など、道路における交通事故で死亡したり、重い後遺障害のために働けず、経済的に修学が困難な学生(申請時25歳まで) 他
(公財)もみじ銀行育英会	貸与	広島県内に居住し、県内の大学又は大学院に修学する者で、学業・人物がともに優秀で、健康であり、学資の支弁が困難と認められる者 他

教育ローン利息支援制度

本学の提携教育ローンを利用する場合に発生する利息(支払遅延に対する利息を除く。以下同じ。)の一部を支援金として給付する制度です。〔「広島工業大学教育ローン利息支援制度に関する取扱規程」参照〕

(1) 本制度の対象となる提携教育ローン

教育ローンの名称	取扱金融機関の名称
〈ひろぎん〉広島工業大学提携教育ローン	(株) 広島銀行
広島工業大学提携教育ローン「学費サポートプラン」	(株) オリエントコーポレーション

(2) 本制度の対象となる利息

- ・入学年度の前年度中に支払った利息
- ・在籍期間中に支払った利息

(3) 支援金の額

前年度に支払った利息の額(1回の申請あたり上限5万円) ※毎年度、申請可能
申請方法等、本制度の詳細は、本学HPで確認するか、経営管理部 TEL(082)921-3125 へ問合わせてください。

学費等減免

この制度は、本学卒業者の子女及び兄弟姉妹が同時に在学している者に対する減免制度です。

なお、入試特待生制度、遠隔地学生給付奨学金及び特待生制度との併用は可能です。

ただし、減免対象者が次のいずれかに該当する場合、減免を取消す場合があります。

- (1) 学業を怠り、学業成績等が著しく不良となったとき
- (2) 本学の諸規則に違反し学内の秩序を乱し、本学学生として本分に反する行為をしたとき
- (3) その他学長が減免の必要がないと認めたとき

(問合わせ先) 広島工業大学教学支援部 TEL(082)921-4179

1. 入学金の減免

- (1) 対象者 …… 本学卒業生の子女。ただし、以下の者は減免対象外です。
① 本学学部から大学院への入学者 ② 学园内附属校からの入学者
(① ②は既に2分の1額となっています。)
- (2) 減免額 …… 入学金の2分の1額
- (3) 申請書類 …… 学費等減免願 ・戸籍抄本
- (4) 申請期間 …… 入学後の4月末まで(入学年度のみ)

2. 授業料等の減免

- (1) 対象者 …… 兄弟姉妹がともに在学(休学を除く。)している者(上級年次者の授業料等を減免します。ただし、金額が異なる場合は高額な者を減免の対象者とします。)ただし、以下の者は減免対象外です。
① 研究生 ② 単位互換履修生 ③ 科目等履修生 ④ 短期外国人留学生
- (2) 減免額 …… 1人を除く他の者について、授業料及び施設設備資金の2分の1額
(3人が在学する場合は、2人を免除します。)
- (3) 申請書類 …… 学費等減免願 ・戸籍謄本
- (4) 申請期間 …… 4月末まで(毎年申請)

厚生施設

食堂・カフェ

食堂は学内に3か所、カフェは1か所あります。それぞれに特色を持って、学生の皆さんの食欲を満たしています。

【レストラン「LEAF GARDEN」】

Nexus21 2階にあります。ランチや麺類をはじめバランスを考慮した量り売りのグラム・デリ、ベーカリー・カフェなど豊富な日替わりメニューがあります。

また、単に食事を“摂る”場所では無く、「食」を中心に学生・教職員が集い、語らえる明るく開放感のある“知的コミュニケーションスペース”としての機能を持っています。

【アベベ食堂4号館店】

4号館1階にあります。キャンパスの中心部に位置する食堂です。定食メニューが充実している他、ボリューム満点のメニューを数多く取揃えています。

また、その時期に合わせたアイデアメニューも特徴の一つで、試験応援特別メニューや冬季限定で登場するカキフライ定食など、ラインナップは豊富です。

【アベベ食堂9号館店】

9号館1階にあります。一番山手にある食堂で見晴らしの良い場所にあります。9号館店オリジナルの人気メニューで営業しています。

【cafe YON(田頭茶舗)】

nexus for. (Nexus21 4階)にあります。抹茶、コーヒー、お団子を販売しています。

注)以下の営業・利用時間は、変更されることがあります。特に学生休業期間中は、営業・利用時間が短縮されますので掲示に注意してください。変更・休業の際は、HITPOで周知します。

施設	営業時間	利用時間	備考
レストラン 「LEAF GARDEN」	[カフェ] 平日 8:00～18:00 [レストラン] 平日 10:30～15:00	平日 8:00～18:00	祝日、土曜日、日曜日は利用できません。Edyでの支払可。
アベベ食堂4号館店	平日 10:00～15:30	平日 9:00～16:00	祝日、土曜日、日曜日は利用できません。
アベベ食堂9号館店	平日 11:00～14:00	平日 8:00～19:00	祝日、土曜日、日曜日及び学生休業期間中は利用できません。

売 店

売店は学内に3か所あります。文具用品、製図用具、電卓、パン、弁当などを販売しています。

【NaNa(セブン-イレブン工大店)】

nexus for. (Nexus21 4階)にあります。通常のセブン-イレブンと同様の品揃え、サービスを行っています。

【MARUZEN Campus Shop(丸善キャンパスショップ)】

新1号館 2階にあります。上記のほかに、日用雑貨、郵便切手類、宅配便などを取扱っています。

【CP工大店】

文房具、PC周辺機器、建築模型材料など学習関連の用品から就職活動に用いる履歴書(大学様式)まで幅広く取扱っています。

注)以下の営業・利用時間は、変更されることがあります。特に学生休業期間中は、営業・利用時間が短縮されますので掲示に注意してください。変更・休業の際は、HITPOで周知します。

施設	営業時間	備考	Edyでの支払
NaNa (セブン-イレブン工大店)	平日 8:00～19:00 土曜日 8:00～15:00	祝日、日曜日は利用できません。	○
MARUZEN Campus Shop (丸善キャンパスショップ)	平日 10:00～14:30	祝日、土曜日、日曜日は利用できません。	○
CP工大店	平日 9:00～17:00	祝日、土曜日、日曜日は利用できません。	○

学生ラウンジ

学生が休息や談話ができるよう、次のとおり学生ラウンジを設けていますので、友達同士の歓談の場として大いに利用してください。また、食堂は営業時間外、利用者が少ない時間帯はラウンジとして利用できます。

施設	利用時間	備考
Nexus21 5階 Jラウンジ	平日 7:30～21:00 土曜日 7:30～15:00	女子学生専用 飲食可
Nexus21 4階 nexus for.		飲食可
Nexus21 4階屋外 キャンパスプラザ		
Nexus21 5階～10階 ベンダーコーナー		
Nexus21 5階～10階 テラス		
Nexus21 6階～9階 学生ラウンジ		

※懇談会などで使用する場合は、教学支援部で手続きを行ってください。

コインロッカー

Nexus21 2階には、コインロッカーが設置してあります。コインロッカーではノートパソコンを充電することができます。

数に限りがありますので決められた使用ルールを守り、マナー良く利用してください。

利用料金は24時間以内は無料です。ただし24時間を超過した場合、3時間ごとに100円加算します。

三宅合宿所

クラブハウスの隣にあります。最大60人が宿泊できる施設です。学内者は1泊250円、学外者は1泊500円で宿泊することができます。個人やクラブ、ゼミなどの合宿に利用してください。

申込みする場合、教学支援部にお越しください。

その他の厚生施設

沼田校舎

TEL	(082)848-0145
-----	---------------

広島校舎

TEL	(082)249-1251
-----	---------------

八千代校舎

TEL	(0826)52-4757
-----	---------------

【キャッシュコーナー】

新1号館4階プラザに、もみじ銀行、広島信用金庫、ゆうちょ銀行及びNexus21 4階 NaNa(セブン-イレブン工大店)に現金自動預払機が設置されています。カードで現金の引出しができるとともに通帳への記帳及び現金の預入れができます。

なお、利用時間は次のとおりです。

施設	利用時間	備考
もみじ銀行	平日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00	日曜日、祝日及び大学窓口休業日は利用できません。
広島信用金庫	平日 9:00～18:00 土曜日 9:00～14:00	日曜日、祝日及び大学窓口休業日は利用できません。
ゆうちょ銀行	平日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00	日曜日、祝日及び大学窓口休業日は利用できません。
セブン銀行	平日 8:00～19:00 土曜日 8:00～15:00	NaNa(セブン-イレブン工大店内に設置) 休業日は利用できません。

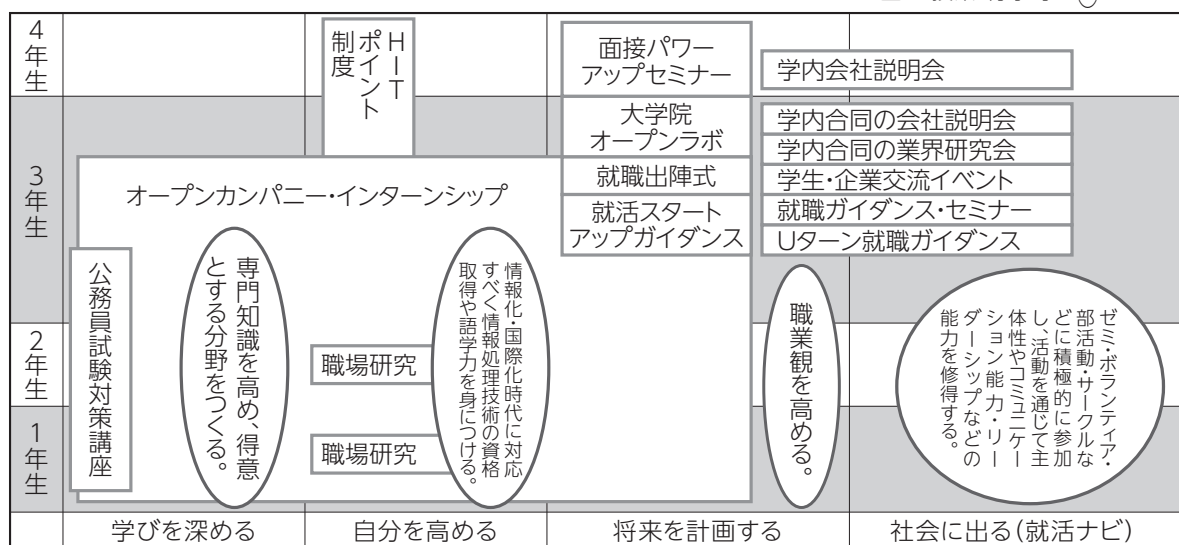
大学入学時からスタートです

入学間もない皆さんにとって、「就職」や「進学」はまだ先のことと思われるかもしれませんが、しかし、これから始まるキャンパスライフをどのように過ごすかで、皆さんの将来は大きく変わります。また、就職活動時には必ずと言っていいほど、「学生時代に力を入れたこと」を問われ、選考時に重要視されています。卒業時になって進路の選択に戸惑いや悔いを残すことのないよう、1年次生のときから就職あるいは進学を念頭において、充実したキャンパスライフを送ってください。

◎自分自身を磨こう

自分はどんな価値観を持っていて将来はどのようにになりたいのか、自分の将来を見据えた目標を立て、その目標に向かって努力することが大切です。ポートフォリオの「4つのコンテンツ」ごとのねらいと、展開しているメニューの一部を紹介します。

□…授業・行事等 ○…ねらい



◎就職に向けて産業界の動向に常日頃から強い関心を持つ

就職にあたって企業を選ぶ場合の一番重要なポイントは、その企業が皆さんが取組んでみたい仕事を行っているかどうか、また、手がけている事業は将来性があるか否かです。現在の社会・経済情勢は、国内外共に激変しています。皆さんは、これからの社会の動きの中でも、特に産業界の動きに関心を払い、ニュースに触れる習慣を身に付けてください。更に教養を高め、自分自身の進むべき道を見失わない判断力・洞察力を養われることを期待します。

◎大学院で学部で学んだ専門性をさらに深く究める

現在、AI、ビックデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会に組み込まれる社会の実現に向けた取組みが加速しています。大学院は、このような時代の変化に対応する人材を養成するところです。学部で学んだ専門性をさらに深め究めることで、より高度な専門的知識・能力を持つ研究者や高度職業人、専門技術者を育成します。

大学院では、高度な研究課題を設定し、より深化した学修・研究活動を通じて、「新規性・創造性・実用性」の観点から、個別指導を受けることができます。

また在学中に得られた研究成果を国内外の学会で発表したり、学術論文の公表を通じて世界中の研究者・技術者等と意見交換・交流することで、大きく成長した自分を実感することができます。

学生一人ひとりをきめ細かくサポートする進路指導

皆さんの進路支援にあたり、本学では、学生個々をよく知る卒業研究担当教員による個別指導に重きをおくことを基本としています。そのうえで、各学科内に進路相談の窓口となる担当教員を定め、皆さんへの情報伝達、企業との連絡・調整にあたっています。更に全学的組織として、各学科内で選出された就職委員と職員とで構成する就職委員会を設置し、学生の進路指導・支援にあたっています。

就 職

1.就職支援の基本姿勢 ～入学してからの4年間と卒業後の3年間を見守ります～

本学では、各学科の就職委員や卒業研究指導教員と連絡を密に取合い、次の3つの基本姿勢で皆さんの就職活動をサポートしています。

【内定率の向上】… 一人ひとりの「なりたい」を大切に共に考えていきます

(1) 大学統一の就職支援システム(学部・大学院)

年間を通した学科ガイダンスと学生個々との個別面談に重点を置き、よりきめ細やかな指導で、一人ひとりの満足できる就職にじっくり取り組んでいこうとするものです。

(2) キャリア・ピア・サポーター制度

就職活動を終えた4年次生や大学院2年次生が、自らの体験をもとに、下級生の相談に応じます。学生がよりスムーズに今後の就職活動を進められるよう、具体的なアドバイスをを行いサポートする制度となっており、就職活動にとって重要な冬期の数か月間、就職資料室で相談に応じています。

(3) 学内合同の業界研究会

企業の採用に向けての動きが本格化する時期に本学で行っている行事です。本学学生と企業の採用担当者が一堂に会して直接対話する場で、学生は業界・業種研究の場、自己PRの場として臨みます。参加企業は本学学生の採用に前向きな企業ばかりで、内定に結びつくケースも少なくありません。毎年300社を超える企業が参加しています。



(4) キャリアアドバイザー制度

経験豊かなキャリアアドバイザーが講師を務める各種セミナーや講座を通して、社会人基礎力の育成を図ります。また、個別面談や模擬面接を行い、直接的な就職活動の指導も行っています。

【内定企業の質の確保】… ずっと安心して働ける優良企業を紹介します

(1) 就職活動支援制度

広島県外で就職活動を行う学生への経済的負担の軽減、学生個々の大手優良企業へのチャレンジ意欲と活動範囲の拡充、更には就職実績としての質の確保につながることを目的として行っています。県外で就職試験を行う学生に、定められた期間内で1人1回、旅費等の一部を支援します。詳しくは、HITPO(コース管理システム→キャリアセンターからのお知らせ)で確認してください。

(2) 優良企業の戦略的開拓

教職員及び就職参事が、中国・四国・九州地区をはじめ関東以西における優良企業の掘起こしを行っています。ここで示す優良企業とは、地元根付いた企業、特化した技術力を有する企業、社員を大切に育成する力を有する企業です。

【早期離職率の低減】… 就職した会社に長く勤められるよう卒業後も相談に応じます

(1) 卒業生に対する相談窓口の設置

卒業生支援の一環として相談窓口を設置し、卒業後も安心して働けるようフォローしていくものです。

(2) 卒業生の就業状況調査の実施

本学では卒業後3年を経過した卒業生を対象に現在の就業状況を調査して、離職して職を求めている者へは斡旋を、また、離・退職を考えている者には相談に応じるなど離職防止に努めています。

2.キャリア教育支援の基本方針 ～君の秘められた能力を掘起こします～

【職業意識の向上】

(1) 企業・学生交流イベントの実施

学生が広く業界の情報を収集し、自身の目指す業界・企業を見出す“キッカケ”の場を提供しています。業界を代表する企業の方から社会・経済の仕組み、会社の取組み、新卒者に期待する事柄などを聴くことで、社会人としてのポリシーも学んでいます。

(2) インターンシップ、職場研究の実施

インターンシップは、主に3年次生を対象に在学中に企業や公共団体などにおいて就業体験をする制度です。実際の業務を体験することは自分の適性を見つめ、やりたいことについて深く考えることにつながります。また、2年次生についても進路についての視野を広げるため、インターンシップに参加することを推奨しています。加えて、1・2年次生を対象とする職場研究(日帰りの企業・工場見学会)も実施しています。

(3) 学科主体のキャリア教育

各学科の独自性、教育の特色を反映させた学生参加型のキャリア教育で、企業(工場)見学や各種展示会への出展発表など、学生自らが考え、判断し行動するプロセスを教育する取組みです。

【技術者資格の取得等支援】

(1) 社会的評価を得る技術者資格の取得

卒業生が専門的技術者として高く評価される資格を取得するために、在学中に助走として学べる講座を開講しています。(なお、都合により開講できない場合があります。)

・「宅地建物取引士(宅建)」試験対策講座

宅建は、特に不動産の取引にはなくてはならない資格で、不動産業界はもとより、建設業界や不動産を担保として融資を行う銀行などの金融機関にとっても不可欠な資格です。在学中の取得を目指して開講しています。

(2) その他講座「公務員試験対策講座」

公務員採用試験の教養試験対策講座として、基礎学力を養うとともに、近年の傾向に合わせた実践的な講義を行っています。

3.就職資料室及び就活ナビ等の活用

就職資料室は、求人票、Uターン就職情報、就職試験対策本など皆さんの就職活動に必要な様々な資料を揃えた資料室です。1年次から気軽に利用してください。

【就職資料室(Nexus 3階)】

希望する就職先を選択するには事前の企業研究が必要です。自由に閲覧できますので大いに利用して活動に役立ててください。

(1)企業ファイル

求人票や会社案内、卒業生リストなどを綴ったファイルで、現在、企業約7,500社、国・地方公共団体約250件の個別情報を保有しています。

(2)入社・進学試験報告書

先輩たちが就職活動を行ったときの筆記試験や面接内容、後輩へのアドバイスなどが記載された報告書です。皆さんの実際の活動に大変役立つ資料です。

(3)就職関連図書・雑誌

会社年鑑、企業ガイド、会社四季報や就職試験関係の図書及び問題集、Uターン情報冊子など活動に欠かせない参考資料です。また、就職活動に役立つDVD等は図書館で視聴できます。

(4)就職活動用パソコン

学生専用のパソコンを4台設置しています。就活ナビの利用、企業の検索、エントリーシートの作成、webテストの受験など就職活動においてパソコンを用いる場面で使用してください。

【就活ナビ(就職活動支援システム)】

本学と係わりの深い11,000社以上の企業情報、求人情報を検索・閲覧できるシステムです。求人学科、推薦応募の有無、在籍している卒業生の情報等、皆さんの就職活動に必要な情報があります。企業のホームページへもリンクしていますので直接アクセスしてより詳しい情報が収集できます。また、自身の就職活動状況を登録・管理する機能もあり、その登録情報を基に就職活動支援を受けることができます。就活ナビはインターネットに接続できる環境があればどこからでも利用可能です。



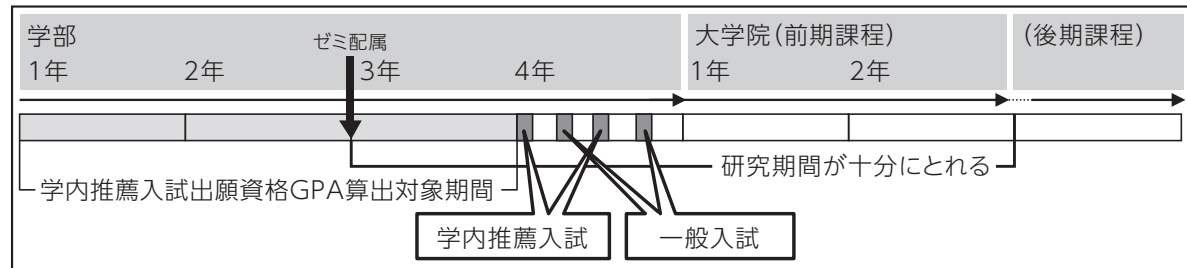
就活ナビ
ログイン

【就職相談】

就職活動を進めるうえでは、悩むこと、苦労することがたくさん待受けています。皆さんの先輩たちもそんな苦しみを闘い抜いて自分の進路を勝ち取ってきました。教学支援部には経験豊かなキャリアアドバイザーやスタッフが常駐し、相談に応じています。気軽に声をかけてください。

大学院進学

1. 本学大学院(前期課程)に進学する場合のスケジュール ～研究こそが大学・大学院の醍醐味～



2. 大学院入学試験 ～校内からの進学には2つの入試方式～

	校内推薦入試	一般入試
出願資格	・学科長の推薦 ・受験年度の前年度末までの通算GPAが2.3以上	大学卒業見込みほか
選考方法	面接試験及び出願書類により総合判定	・TOEICスコア、筆記試験(専門科目2科目)、 面接試験及び出願書類により総合判定
試験日	I期:4月、II期:11月	I期:9月、II期:2月
特 徴	出願資格に成績基準があるため、学力検査はありません	試験日が遅いので、就職や他大学の大学院と迷っても受験が可能です

(令和6年度の入学試験の概要です。最新の情報を確認してください。)

(大学院入試合格者は大学院の授業を先行履修することができます。詳細は、**■53ページ**を参照してください。)

3. 代表的な学費補助制度 ～校内推薦入試受験者に大きなメリット。学部1年次からの成績で決まる～

●大学院特待生制度(■241ページ)

校内推薦入学試験合格者は、第一種特待生として採用され、授業料及び施設設備資金の半額が免除(年額59万円)されます。

●大学院スカラシップ制度(■242ページ)

一般入学試験合格者で、入学試験の得点率が75%以上の合格者には、年額30万円が給付されます。

(令和5年度の学費補助制度です。制度は変更になる場合があります。最新の情報を確認してください。)

4. 研究内容について知る機会 ～研究にふれてみよう～

●大学院オープンラボ

各期に一度、本学の学部生を対象に研究室を公開しています。
研究の具体的な内容や、現役院生の声を聴くことができます。

●卒業研究発表会・修士論文発表会

各学科、各専攻科の研究を広く知ることができる機会です。

●大学院案内

カリキュラムや大学院担当教員の専門分野(研究)について掲載しています。
大学ホームページのデジタルパンフレットで閲覧できます。

女子学生キャリアデザインセンター(JCDセンター)

本学には、女子学生の強い味方となる「女子学生キャリアデザインセンター(略称JCDセンター)」があります。このJCDセンターは、各学科、部署の教職員で構成されており、将来技術者として活躍する女子学生の皆さんを、入学直後から卒業まで支援しています。

JCDセンターの支援内容は次のとおりです。

●キャリア形成支援

JCDセンターの多彩なプロジェクトや行事を学生自ら企画運営し、リーダーシップやコミュニケーション能力、問題解決能力を身に付けられるよう教職員がサポートします。このプロジェクトや行事の企画運営には、学部、学科、学年の垣根を超えて現在約150人の女子学生が参加しています。

JCDの活動は、学内だけに留まらず、企業との共同企画や地域社会との交流、社会貢献活動もあり、広く社会を知るきっかけに繋がるとともに、自分の成長を感じられることが大きな魅力です。

●就業支援

女子学生の皆さんが、社会に出てからも学び続ける意欲を持ち、自分らしく輝けるよう支援します。自分のこと、社会のことを知り、就職活動、仕事、家族、夢など含めて、どのような人生を歩みたいか考える機会を提供します。気軽に参加することができるセミナーや資格取得支援講座など、就職活動はもちろん、社会に出てから役立つスキルを身に付ける講座も開講し、働くことに対する意識と社会人として必要なスキルを高めるためのサポートを実施しています。

講座一例 キャリアアシスト(CA)プログラム



色彩検定講座



スーツの着こなし講座



メイクアップ講座

主な主催行事



ウェルカムセミナー



サマーセミナー



活動報告会

その他

通学定期券(通学証明書)

JRの通学定期券購入は、学生証と定期券購入申込書又は、旧通学定期乗車券を呈示することで購入できます。

「学生証裏面貼付シール」に大学へ届けている現住所、通学区間を記入してください。JR窓口で別途通学証明書の提出を求められた場合は、教学支援部窓口(学生関係)で発行手続きをおこなってください。

その他、交通機関の定期券については、各会社の窓口にある指定の定期券申込書に記入し、学生証を呈示して購入できますが、会社によって申込み方法が違いますので、教学支援部窓口(学生関係)で確認してください。

なお、アルバイトなど通学以外の目的での、通学定期券の購入はできません。

割引乗車券(学生・団体)

【学生旅客運賃割引】

学生旅客運賃割引(学割証)を利用すると、JR片道営業キロが100kmを超える区間の普通乗車券の運賃が2割引になります。(往復割引乗車券についても学生割引が適用されます。)

学割証の発行は、三宅の森 Nexus21 3階教学支援部内にある証明書自動発行機で即日発行でき、有効期間は、発行日から3か月です。

学割証の使用は、本人に限りますので、必ず学生証を携帯してください。学割証の不正使用に対しては、使用停止等の処置・追徴金を支払わなければならないだけでなく、大学全体に大きな迷惑をかけることになります。

【学生団体割引】

学生団体割引乗車券は、学生8人以上が正課及び課外活動などに教職員の引率があつて(同じ発着経路)旅行する場合に利用でき、普通乗車券の運賃が5割引になります。

利用する際は、行事届とともに旅行社又はJR窓口にある「団体旅行申込書」に必要事項を記入し、教学支援部で証明を受けてください。

拾得物、遺失物

拾得物又は遺失物は法の定めるところにより取扱っています。学内での拾得物は必ず教学支援部(学生関係)に届出てください。物を紛失したり、落したときは速やかに教学支援部窓口(学生関係)で確認してください。拾得物の届出があると教学支援部では保管又は所定の期間その落とし物を展示します。それらの中に自分が紛失した現品があれば、本人の所有物であることを確認後、所有者の手に戻します。また、拾得物の中で氏名が判名したものは、直ちに教学支援部から電話やメールで連絡をします。なお、保管期間が過ぎても落とし主が現れないときは所轄の警察署に教学支援部から届出を行います。

盗難の防止

盗難にあった場合は、直ちに教学支援部(学生関係)へ届出てください。

なお、学内での貴重品の取扱いには、十分注意をしてください。特に、体育実習及び課外教育活動中等の更衣室での盗難には気を付けましょう。

また、バイク、自転車は駐輪場に長い間置き去りにしないようにしましょう。駐輪場に止めるときは、二重ロックをするようにしましょう。

スクールバス

JR五日市駅南口から広島工業大学バス停まで運行しています(所要時間約15分)。現金での乗車はできませんので、回数券又は定期券を購入して利用してください。

※スクールバス時刻表と運行日は本学ホームページで確認してください。

自動車、二輪車の使用について

今日、自動車は私達の生活に深く関わっていますが、起こされる交通事故は、加害者、被害者の別なく、その恐ろしさ、悲惨さは口では言い表せないものです。

大学では、繰返される学生による悲惨な自動車事故を防止したい、学生駐車場収容台数に限りがある、維持費や燃料代捻出のためのアルバイトにより学業がおろそかになりやすいなどの理由により「学生の自動車等による通学に関する規程」(規程集参照)を定め、学長が許可する場合を除いて自動車通学は全面禁止、二輪車通学は登録許可制としています。

また、大学周辺は住宅街であり、道路は生活道路として狭い路地も多く、スピードを上げての通り抜けや不法駐車は地域住民への迷惑となります。

しかし、残念ながら一部学生が規則に違反し、無許可で通学に自動車を利用したり、本学周辺道路や私有地に不法駐車し、騒音や通行妨害を行い、地域住民から大学や学生全体が強い批判を受けることがしばしばあります。大学でも違反車(者)をチェックし、本人はもとより保護者にも通知し、本人と話合うとともに、厳正な処分を行っています。

学生の皆さんには、まず第一に一人ひとりの自覚と節度ある行動を強く望みます。本学の方針を理解いただき、通学には公共交通機関を利用してください。

1. 自動車通学の禁止

学長が特別に許可をする場合を除いて自動車通学は全面禁止としています。

2. 二輪車通学について

二輪車(自転車・バイク)は登録許可制です。

自転車での通学は、二輪車通学登録申込書を教学支援部に提出し、所定の手続き後、登録ステッカーを受取り、通学用自転車に貼ることで通学することができます。

バイクでの通学は、学内で開かれる交通安全講習会に出席し、必要書類を教学支援部に提出し、所定の手続き後、登録ステッカーを受取り、通学用バイクに貼ることで通学することができます。

【二輪車(自転車・バイク)通学をするときの注意事項】

- 1 必ず左側を走行すること。
- 2 原則、車道を走行すること。
- 3 通行が可能な歩道を通行する場合は、歩行者を優先し、車道寄りを徐行すること。
- 4 夜間の通行は、必ずライトを点灯すること。
- 5 交差点での信号遵守、一時停止等による安全確認をすること。
- 6 飲酒運転、傘差しによる片手運転、二人乗り、並走はしないこと。
- 7 携帯電話、スマートフォン及びヘッドホンを使用する音楽プレーヤー等は、走行中に使用しないこと。

二輪車(自転車・バイク)は、便利性及び経済性から多くの学生が利用していますが、学生の二輪車(自転車・バイク)通学による事故が続発し、修学を断念せざるを得ないような重大事故が急増しています。また、騒音、交通ルール違反に対し、地域住民からの苦情が後を絶ちません。

以上の注意事項を守り、近隣へ配慮及び交通ルールに気を付けて通学してください。

学生車両の臨時構内乗入れ

学生車両(二輪車、自動車)の、構内への乗入れや駐車は、平日はもちろん夜間、日曜祝祭日、学生休業中を問わず、原則として禁止しています。

例外として、次の三つの事由については、特に学内への臨時乗入れが認められます。希望する学生は、教学支援部に備付けの申請用紙(「学生臨時構内乗り入れ・通行許可願」)に必要事項を記入し、10日前までに教学支援部に提出してください。

(1) 卒業研究に伴う資料運搬 (2) 学生行事 (3) 傷病等による歩行困難、その他

※学内駐車はできません。

課外教育活動

課外教育活動

課外教育活動とは正規の教育課程のほかに実施される活動であり、本学では主にクラブ・サークル活動、そして、本学独自のプログラムである学生自主企画プログラム(HITチャレンジ)などのことを言います。

本学には4団体の学生団体、69団体のクラブ・サークルがあります。興味がある学生団体、クラブ・サークルがあれば、ぜひ入部してみてください。また、HITチャレンジの活動は毎年、4月～6月まで申込みを受け付けています。詳しくはホームページで確認してみてください。

【所属クラブ数】

学生団体…4団体

体育会系クラブ…42団体

文化系サークル…27団体

【クラブ活動ホームページ】

<https://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/club/>

【HITチャレンジホームページ】

<https://www.it-hiroshima.ac.jp/about/gp/hit-challenge>

学生団体(4団体)紹介

【学生自治会執行部】

学生自治会執行部は、学生がよりよい環境の中で過ごせるよう、学生自身の手による活動を行っていく組織で、全学生がその会員です。自治委員会、執行委員会をはじめ、文化局、工大祭実行委員会などを組織して、意欲的な活動を展開しています。会員相互の信頼と協力の下で円滑な運営がなされています。また執行部では、年間行事のとりまとめとして、総合機関誌「坂」を毎年1回HITPOにて掲載しています。

〈新入生歓迎会〉



〈献血〉



〈キャンパス・クリーン・キャンペーン〉

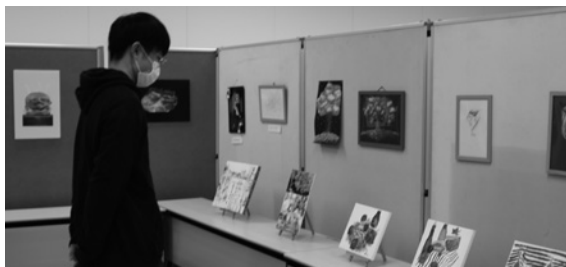


〈鏡開き〉



【学生自治会文化局】

学生自治会文化局は、学生自治会内の組織で、文化系サークルの統括や大学祭の運営が主な活動となっています。文化系サークルは多くの学生が“好きならばこそ”の技や知識を磨き合い、一層の楽しみを発見しています。

〈定期演奏会〉**〈冬の芸術展〉****【工大祭実行委員会】**

工大祭実行委員会は、11月の工大祭に向けて活動しています。多くのお客様にお越しいただけるよう、よりよい工大祭を運営するのが大きな目的です。その他にも他大学の大学祭を見学、サポートし、学外の方との交流もできます。

〈模擬店〉**〈ナイトレーザショー〉****【体育会本部】**

体育会本部は、スポーツを通じて心身の錬磨や真の仲間づくりをする会です。この目的を果たすために全学生・教職員一体となった組織運営をしています。運動部員によるクラブ活動のみにとどまらず、一般会員を対象としたレクリエーション活動・体育祭・駅伝大会など、文字通り全学的組織として活動しています。

〈あおぞら運動会〉**〈球技大会〉****〈スポーツ講演会〉****〈三宅駅伝〉**

学生自主企画プログラム(HITチャレンジ)

学生自主企画プログラム(HITチャレンジ)制度は、大学生活で「こんなことをやってみたい」「新しいことに挑戦してみたい」という思いを実現できる制度です。

学生が自主的に企画を立て、審査の結果、プログラムが採択されれば助成金が支給されます。興味のある学生は、教学支援部にご相談ください。

【対象課題】

「大学での学修や課程表外活動の成果等を公表できるもの」また、「公共性、公益性が高く社会と積極的な交流を図れるもの」などを企画してください。

【テーマ】

自由(ただし、クラブ、卒業研究等の一環で実施される内容は除く)

【メンバー構成】

代表者1人を含めた5人以上の本学学生(学部生)をもって構成してください。(この場合、他のプログラムグループの構成員となってはいけません。)なお、プロジェクトの企画、立案及び実施についての指導、助言を行うアドバイザーとして、1～2人の本学教職員を置くことができます。

【助成金】

採択された場合、経費の全額又は一部を助成します。(上限100万円)

【実施期間】

原則1年間

7月上旬 書類選考・プレゼンテーション

下旬 選考結果発表・採択(採用通知式)

4月	5月	6月	7月	...	12月	...	2月中旬	3月上旬
← 募集 →			← 選考 →	← 中間報告 実施 →			支払書類 最終提出	結果(経過)報告会

【申込方法】

「申請書」「参加者名簿」「予算案」「備品貸出希望届」(希望者のみ)を教学支援部へ提出してください。

【選考方法】

申請書類及びプレゼンテーションにより審査し、選考委員会(学長ほかで構成)が採点し選考委員長が決定します。

2023年度に採択されたプログラム

〔一般部門〕

- 小型レーシングカーの開発を通じた"モノづくり"の総合力育成／HIT Formula Project
- 海洋探査を目的とした、自律型水中ロボット(AUV)の開発／HIT-Robotics Team:Marine Gear
- 屋台文化の継承と発展による憩いの場の提案／屋台文庫
- CanSatの開発と種子島ロケットコンテスト参加／HIT Space Project

〈HIT Formula Project〉



〈HIT-Robotics Team:Marine Gear〉



〈屋台文庫〉



〈HIT Space Project〉



〔ボランティア部門〕

- ペットボトルから分別向上を!!／HIT SDGs Action Members
- 学生防災士による地域連携を踏まえた防災・減災力向上を目指した活動／広島工業大学学生防災士会
- 西条の酒造水の分析／西条水質調査隊2023

〈HIT SDGs Action Members〉



〈広島工業大学学生防災士会〉

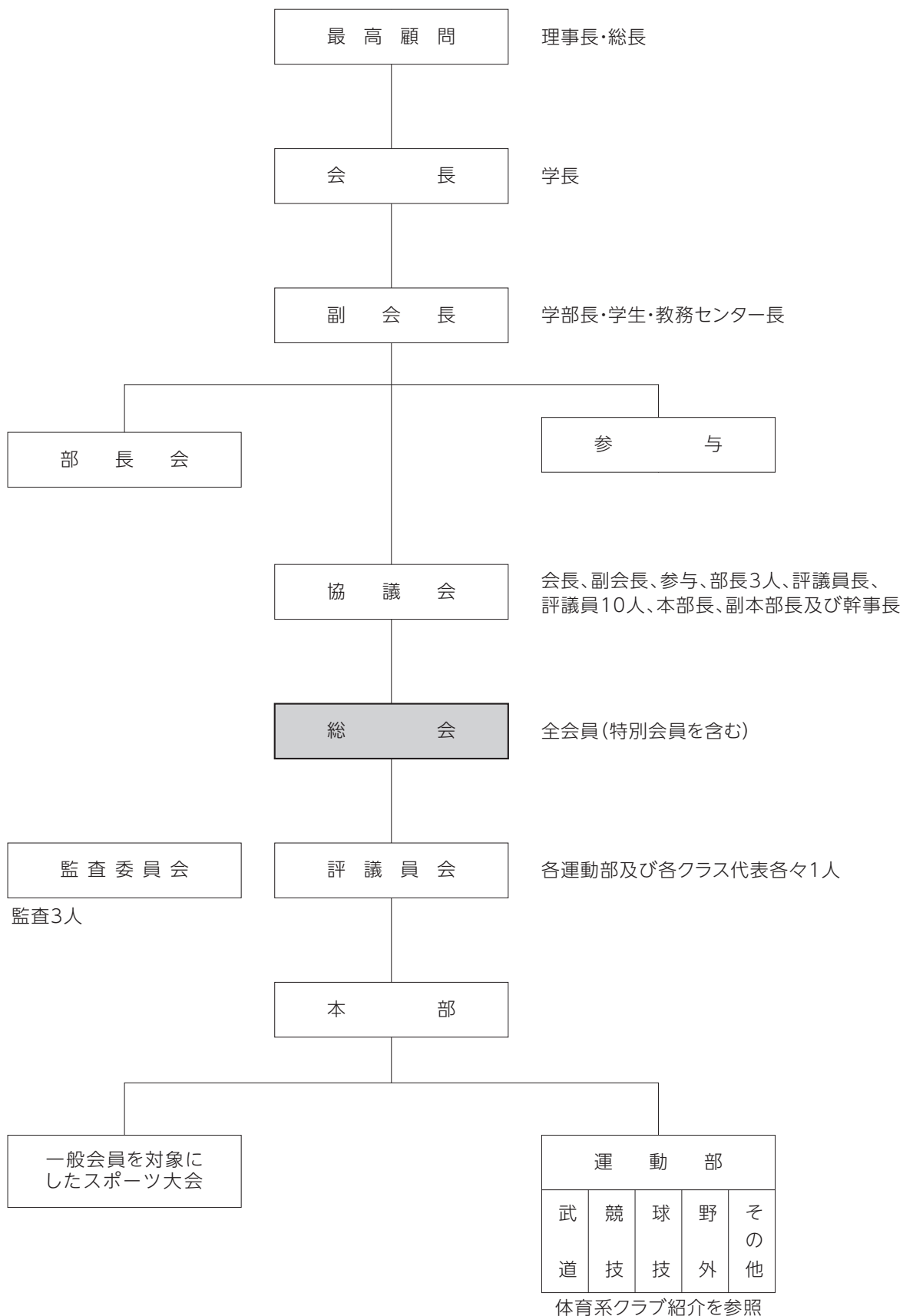


〈西条水質調査隊2023〉



体育会

広島工業大学体育会組織図



体育系クラブ紹介

活動日及び時間につきましては変更になることがありますので、予めご了承ください。

(令和6年1月現在)

団体名	(部)…部長 (副)…副部長 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
体育会本部	なし	体育会本部は、スポーツを通じて心身の錬磨や真の仲間づくりをする会です。この目的を果たすために全学生・教職員一体となった組織運営をしています。運動部員によるクラブ活動のみにとどまらず、一般会員を対象としたレクリエーション活動・体育祭・駅伝大会など、文字通り全学的組織として活動しています。活動場所はクラブハウス318で、活動時間は月・金曜日の12時40分～13時、水曜日の17時5分～18時45分です。	48	なし	クラブハウス318
				なし	

1.武 道

クラブ名	(部)…部長 (副)…副部長 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
柔道部	(部)大谷 幸三 (副)升井 義博 (監)西田 弘展 (コ)日野 和親 (コ)佐藤 隆	私たち柔道部は週3日という限られた時間の中で、「心」「技」「体」を鍛えるために、日々精進しています。練習内容は寝技、乱取りがメインですが、技の研究や体カトレーニングなども行っています。試合や昇段試験では他大学の方と交流もあり、友達の輪が広がります。初心者の方も大歓迎なので、興味のある方は見に来てください。マネージャーも募集しています。	7	なし	武道館4階401
				なし	
剣道部	(部)木船 弘一 (副)宇都宮浩司 (監)砂田 真宏 (コ)伊藤 昌嗣 (コ)折田 明彦	剣道部では、剣道を通じて礼儀、体力、精神力を身につけることを目的として、日々活動しています。また、多くの人々と接することにより、チームワーク、信頼関係といった集団生活に必要なものを養うことも目的としており、魅力ある豊かな人間性が確立できるよう、皆で頑張っています。	3	なし	武道館1階104
				なし	
弓道部	(部)中嶋麻起子	弓道部は月・金の17時半、水曜日の13時半、土曜日の10時から2時間の全体練習をしています。その他の時間は自主練とし、綺麗に引き的中率が上がるように日々取り組んでいます。高校までの堅苦しい形式ではなく楽しく活動しています。大学から始めた部員もいるので、興味がある人は見学だけでも来てください。	35	なし	弓道場
				なし	
合気道部	(部)金子 治 (監)松原 弘毅 (コ)橋本 賢一	合気とは和合の精神であり、敵を倒すのではなく敵との和を大切にすることです。我が合気道部は「己に克つ」を部訓に日々稽古に励んでいます。基本的に水金の17時～19時 武道館地下1階で活動しています。週2で外部の先生をお迎えし、本格的な合気道に触れています。また、楽しいイベントもたくさんあります。	1	なし	武道館地階002
				なし	
少林寺拳法部	(部)山西 央朗 (監)土肥 哲郎	少林寺拳法部では、月・水・金曜日の週3日17時から19時まで、武道館1階で練習を行っています。近年では、入部動機が「強くなりたい」「精神を磨きたい」「技を極めたい」「健康的になりたい」などさまざまです。そのため、個人の目的に沿った指導法を心がけています。	13	なし	武道館1階102
				なし	
空手道部	(部)安塚 周磨 (監)渡辺 洋二 (コ)西原浩太郎	我々空手道部は、礼節を重んじ、技のみならず精神の鍛錬にも努めています。誰でも楽しく学ぶことができ、強くなれます。そして、空手を通じて完成された人間を目指しています。練習日:月・木・金曜日(17時～19時) 部会:火曜日(12時30分～13時) 活動場所:武道館3F	4	なし	武道館3階304
				なし	
ボクシング部	(部)松岡 雷士 (監)内本 康雄 (コ)原田 隆士 (コ)富樫 靖広	我々ボクシング部は、6月の中国大学ボクシング新人選手権大会、11月の中国大学ボクシング選手権大会の個人、団体優勝を目指して基本を重視した練習に日々励んでいます。初心者がほとんどで、単に体力・技術の向上だけを目的とせず、ボクシングというスポーツを通じて、己に克つ精神力、忍耐力を養い、人間性の向上に努めることを目的として活動しています。練習日:月～金曜日(17時～19時)、土曜日(10時～12時)	14	なし	武道館地階010
				なし	

2.競 技

クラブ名	(部)…部長 (副)…副部長 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金 部費(月)	部室
ヨット部	(部) 濱崎 利彦 (監) 高垣 一之 (コ) 檜皮 浩二	私たちヨット部は平成26年に創部50周年を迎えた歴史あるクラブです。活動の拠点は阿品にある艇庫ですが、現在は観音マリーナで練習を行っています。大学に入学してヨットを初めて乗る人がほとんどです。海上練習は週末に行い、長期休暇には合宿を行うなどし、下級生を中心に他大学とも連携しながらがんばっています。海に興味があればぜひ一緒に活動しましょう。練習日:土日(9:00～15:00)	16	なし なし	クラブ ハウス 205 ヨット 艇庫
漕艇部	(部) 豊田 宏 (副) 谷口 哲至 (監) 坂本 幸雄 (コ) 岡崎 浩二 (コ) 小川 充司	活動内容は主に土日に太田川でボートを漕いでいます。ボートに乗れない日は筋トレや長距離を走ったりしています。普段見れない景色が見れたり、大会で良い結果を出した時の達成感はとても良いものがあります。ボートに乗ったことがない人でも気になったらいつでも体験に来てください。私たちと一緒に大学生活をより充実したものにしましょう。女子マネージャーも募集しています。	10	なし 500	クラブ ハウス 211 ボート 艇庫
スキー部	(部) 前田 俊二	私たちは現在大回転、回転2種目の競技と、フリースタイル・基礎スキーを行っています。競技スキーは基本的には個人競技ですが、部内での結束力を高めることを大切にしています。夏季のオフトレーニングは主にインラインスケート等を行っています。シーズンに入ると、大会に向けて練習合宿を行い、楽しく上達することを目標にがんばっています。スキーに興味がある人には充実した冬を過ごすことができます。初心者大歓迎です。	1	なし なし	クラブ ハウス 208
自動車部	(部) 久保川淳司	我々自動車部は、毎週月・水・金の17時から自動車部車庫で活動しています。また不定期で土、日曜日にサーキットに行き、部車で練習をします。ダートトライアル、ジムカーナ、整備等を通じて、沿道技術や知識等の向上を図り、チーム内での協調性を養っています。また、他車の手本となるよう交通ルールの厳守という面にも力を入れ、日々練習に励んでいます。活動を通し、広島工業大学の学生だけでなく、他大学、一般の方々との交流を深めています。	18	なし 1,500	自動車 部車庫
ウエイトリフティング部	(部) 川上 善嗣 (副監) 堀井 正雄 (コ) 河重 浩司 (コ) 堀井 拓馬	我々ウエイトリフティング部は、国体出場、インカレ入賞を目指し日々練習に精を出しています。ウエイトリフティングにはスナッチとクリーン&ジャークの2種類あります。大学から競技を始める学生ばかりですが、学内に全国大会経験のある監督もいて日々指導してくれますので、高い目標をもってチャレンジすることができます。ウエイトリフティングというスポーツを通じて精神的、肉体的に素晴らしく成長し、人間力の向上に努める事を目標として活動しています。筋トレ女子も募集しています。 練習日:月～金(17時～19時)	15	なし なし	クラブ ハウス 101 102
陸上競技部	(部) 村上 修二	活動日は月、火、水、金、土で、開始時間は平日は17:10、土曜日は10:00です。グリーンフィールドで活動しています。入部金はユニフォーム、ウェア代ですが、要らない方は買わなくても大丈夫です。陸上は個人競技ですが、仲間と練習を共に行う団体スポーツでもありますので、競い合いつつも楽しく部活をやっています!経験者はもちろん、走る、投げる、跳ぶことが好きな方や、マネージャーも大歓迎ですので、興味のある方は、活動時間にグリーンフィールドにぜひ、お越しください!	43	7,000 なし	鶴記念 体育館 121
アーチェリー部	(部) 川原 耕治	活動は月曜日から金曜日に学内で自由練習、規定練習は火曜日と土曜日です。また、授業の合間や昼休みでも自由に練習することができ、自主的に実力を付けていくことができます。春季休業、夏季休業期間は合宿も行い、楽しく活動しています。また、アーチェリーは多くの人が大学から始めるので、初心者の方も大歓迎です。	5	なし なし	クラブ ハウス 204
水泳部	(部) 八房 智顕	夏の大会を見据えて、週三回(月水金)17:00～19:00に鶴記念体育館一階プールで練習しています。個人の能力に合わせた練習メニューを作って練習しているので、経験者、未経験者問わず大歓迎です。マネージャーも募集しています。水泳は最も怪我の少ないスポーツでありながら、タイム種目であるため成長を感じやすい、やりがいのある競技です。是非、見学や体験に来てみてください。	16	なし なし	鶴記念 体育館 108

3.球 技

クラブ名	(部)…部長 (副)…副部長 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員 数	入部金	部室
				部費(月)	
射撃部	(部)土井 章充	我々射撃部は、諸事情により、これまで行ってきたビームライフル競技の活動を中止し、サバイバルゲーム競技を主に活動を変更しました。現在はUABの公式大会出場を目指して活動を行っています。サバイバルゲームではエアガンを使用し、撃ち合う競技です。エアガンにはエアライフルのような免許(所持許可)が必要なく、競技としても分かりやすいため初心者の方でも始めやすいと思われます。毎週月・水・金曜日の16時30分～19時に10号館4階で活動していますので興味のある方はぜひ見学にお越しください。	45	なし 500	10号館 4階
サッカー部	(部監)坂井 学	サッカーを通じて人間作り、仲間作りをしていき、全国大会出場を目指す、純競技指向のクラブです。チームの部員一丸となって練習や試合に臨んでいます。4年間続ければ自分に得られるものは必ずあります。真にやる気のある人、サッカーが好きな人のみ求めています。週間サイクル(日・試合、月・木・休み、火・15時～17時、水・金・17時～19時、土・10時～12時)※入部金には個人ユニフォーム代、協会登録料を含みます。	43	約50,000 500	鶴記念 体育館 118
バスケット ボール部	(部)栗崎真一郎 (コ)森山 裕平	私たちバスケットボール部は月、木、金、週に3日鶴記念体育館アリーナにて練習しています。平日の17時～20時が練習時間です。今年度中国地区の1部に昇格し、インカレ本戦目指して日々の練習に励んでいます。また学生が主体となり1人1人が当事者意識を持つことで、意見を出し合いながら練習等を行っています。本気でバスケをしたい人は大歓迎です。マネージャーをしたい人も男女問わず大歓迎なので、1度部活に見学に来てみてください。	30	なし なし	鶴記念 体育館 106
硬式 野球部	(部)石垣 衛 (副)松岡 泰弘 (監)堀部 秀雄 (監)木下 真一 (コ)西村 一樹	広島六大学野球連盟に所属しており、平日は、月曜日以外16:00～20:00まで練習し、土・日・休日・祝日は9:00～14:00まで練習又は試合など意欲的に活動しています。活動場所は沼田校舎野球場です。学年問わず仲が良く、勝ちにこだわって野球をしています。是非一度球場にお越しください!一緒に野球をしましょう!!	36	なし 2,000	クラブ ハウス 207
軟式 野球部	(部)嶋田 省吾 (副)重森 昇 (監)重廣 孝則 (コ)渡部 幸治	我々軟式野球部は、広島六大学軟式野球連盟に属し、全国大会、西日本大会に出場することを目標に日々練習に励んでいます。平日は、水曜日13:00～17:00、土曜日9:00～12:00まで練習場所は第2グラウンドで行っています。部員、マネージャー共に大歓迎です。野球が好きな人は是非!!	38	なし 1,000	クラブ ハウス 109
ソフト ボール部	(部)田中 武 (監)伊勢 幸広 (コ)寺地 越二	私達ソフトボール部は毎週水曜日13時30分から第3グラウンドで活動しています。練習は主にフリーバッティングやノック、紅白戦などを行っています。全体練習が終わったら各自のスキルアップとしてそれぞれが自主練習を行います。目標はリーグ戦全勝と全日本・西日本大会出場です。	46	なし なし	鶴記念 体育館 120
ラグビー 部	(副)玉里裕太郎 (総)酒井 範男 (監)大橋 裕輔 (コ)兼近 裕文 (コ)佐田 孝敏	ラグビー部の活動は主に練習、試合です。練習は週2回と少ないですが、勉強などに充てる時間とのバランスを考慮しています。試合は年に3回、大会があります。その大会に向けて、日々楽しく活動しています。日曜日にクラブチームの方々と練習しています。毎週月・木曜日には部員がグリーンフィールドに多く集まるので、ラグビー未経験の方も気軽に部室を訪ねてください。(練習時間16時45分～)	7	なし なし	鶴記念 体育館 119
バレー ボール部	(部)里 信 純	私たちバレーボール部は、人数も多く、個性あふれるメンバーで先輩後輩ともに仲良く活動を行っています。少しでも気になった方は是非一度見に来てください!!マネージャーも大歓迎です!場所は鶴記念体育館で、活動日は月・水・金の17時～20時までです。	60	2,000 500	鶴記念 体育館 107
バドミ ントン部	(部)長崎 浩爾	毎週月、水、金曜日に第2体育館にて活動しています。初心者から経験者まで幅広く在籍しており、大会に向けて楽しく活動しています。また、大会に参加すると他大学との交流も生まれ、人脈が広がります。初心者・経験者大歓迎です。ぜひ見学・体験に来てください。	55	1,500 なし	第2 体育館
ソフト テニス部	(部)下地 治彦	平日は火・木曜日に活動しており練習内容は練習試合を交代で行っています。日曜日は午前中に基礎練習を行い、午後からは自主練習ですが主に17時頃まで試合を行う形で活動しています。中国・四国・九州地区の大きな大会にも出場し、上位入賞を目標としています。その他、一般の大会や全国規模の大会の補助員などもしています。場所は、五日市駅近くの藤垂園で練習しています。気楽に見に来てください。レベルの高い選手がいるので、実力はすぐにつくと思うので、一緒に頑張ってください。	23	なし なし	クラブ ハウス 105

クラブ名	(部)…部長 (副)…副部長 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
テニス部	(部)大島 健太 (副)中畑 佳二 (コ)石原 慎二	私たちは、月・水・金16時50分～18時、土10時～15時の時間で練習に励んでいます。テニスは精神面も大きく関わるスポーツです。試合に勝つことはもちろん、1人の人間としての自立性も育まれます。1年生から4年生まで仲が良く、練習も楽しい雰囲気で行っています。4年間という貴重な大学生活をテニスを通じて、充実したものにしてみませんか。	40	なし	クラブハウス106
				なし	
卓球部	(部)福島 千晴 (監)正田 信貴	武道館地下1Fの卓球場で活動しており、月・木・金曜日は17時15分～20時、土曜日は10時～13時で練習しています。自ら課題を考え自主的に練習メニューを考えて練習しています。また、中国学生卓球連盟主催の大会に出場し、昇格、上位入賞を目指して戦っています。また、オープン戦にも出場します。	25	なし	武道館地階007
				なし	
ハンドボール部	(部)秦 淑彦 (監)桑原 勝太 (コ)大日向英生 (コ)古川 慶悟	我々ハンドボール部は毎年高い目標を持ち、日々練習を積み重ねています。ハンドボールは、身体能力の差に関係なく、初心者でも練習次第で充分上手くなります。月・火・木の17時半から3号館4階の第3体育館で活動しているので、少しでも興味のある人、マネージャー希望の人は来てみてください。	16	なし	クラブハウス206
				500	
エスキーテニス部	(部)小黒 剛成	私たちは、水曜日13時15分～15時15分、土曜日10時00～11時30分、エスキーテニス場、多目的ホールにて活動しております。エスキーテニスとは、広島発祥のスポーツで、スポンジボールを木製ラケットでテニスのように打ち合うスポーツです。活躍している部員も大学からのスタートです。他大学との交流もあります。男女問わず大歓迎です。みんなで努力して勝利を掴みませんか？	40	4,000	クラブハウス203
				なし	

4. 野 外

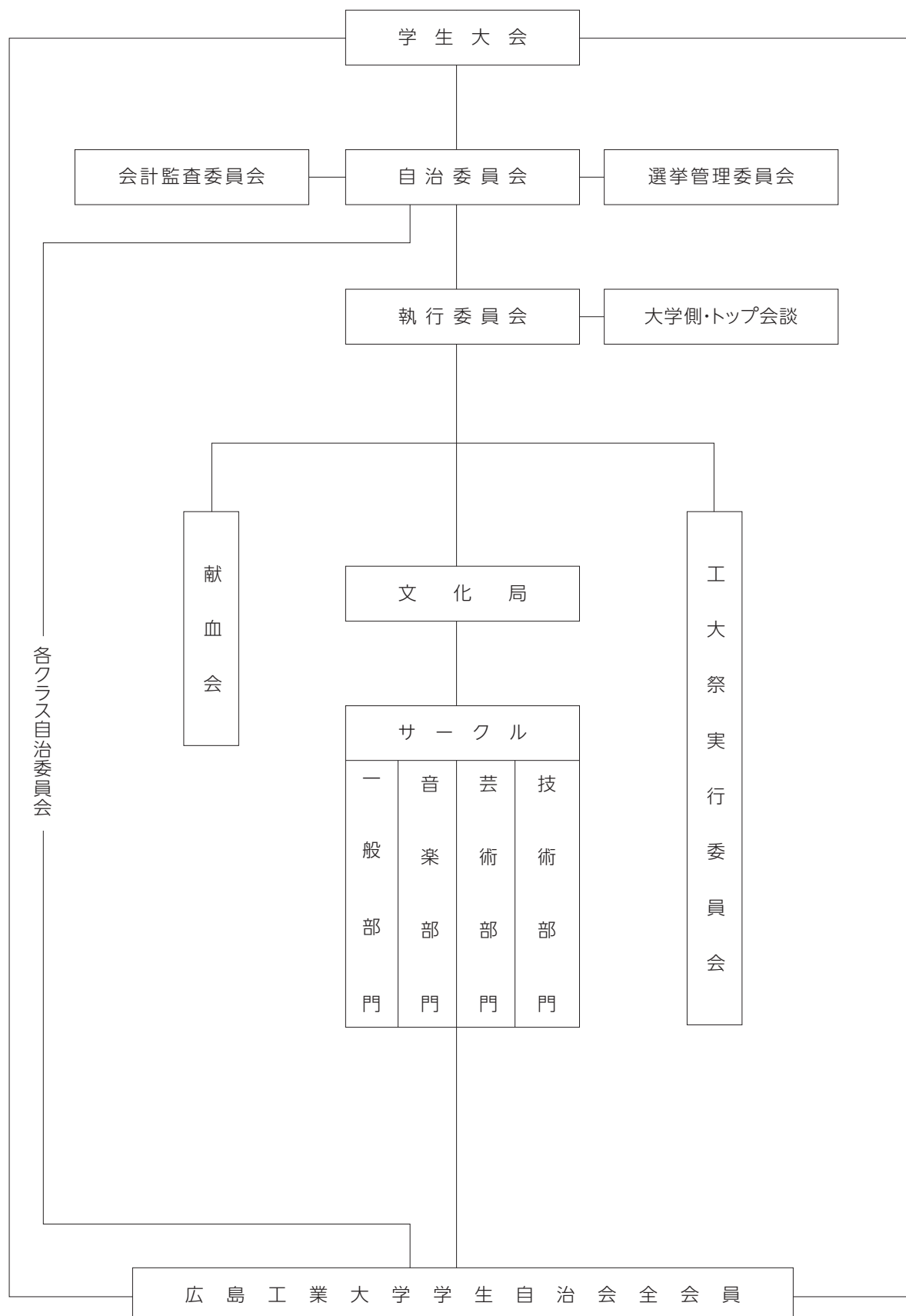
クラブ名	(部)…部長 (副)…副部長 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
ワンダーフォーゲル部	(部)池田 雅弘	新しい仲間や体験を求めているあなたへ。ワンダーフォーゲル部は、アウトドアを楽しむクラブです。私たちは登山、キャンプ、釣り、スノーボードなど、多彩なアクティビティを通じて、自然を満喫することを大切にしています。ワンダーフォーゲル部では、あなたが新しい趣味を見つけたり、自分自身を成長させたりすることができます。また、ワンダーフォーゲル部は、仲間との絆を大切にするクラブです。交流会や活動中の仲間同士のサポートを通じて、深い絆を築くことができます。ワンダーフォーゲル部に参加することで、自然とのふれあい、アクティブな大学生活、そして心に残る思い出を作ることができます。新たな出会いや発見を求めて、ワンダーフォーゲル部に参加してみませんか？	47	なし	クラブハウス111
				1,500 (年度初めに一括払いで15,000円/年)	
山岳部	(部)内藤 望 (コ)原 駿介	私たち山岳部は、毎週水曜日の部会と、月数回の登山を中心に活動しています。また、月・火・水・金曜日にはボルダリングも行っています。登る山は広島県内が中心ですが、8月の夏合宿では県外の3,000mクラスの山にも挑戦しています。登山の経験がない初めての方でも、全力でサポートしますので興味があるという方は気軽に会いに来てください。部会は毎週水曜日12時30分から場所はクラブハウスの1階にある山岳部の部室で行っています。	29	なし	クラブハウス107
				なし	
ユースホステル部	(部)大森 一也	ユースホステル部は、キャンプや登山、釣りなどの様々な野外活動を行う中で、自然に触れ、仲間たちと協力しながら人間性を養うことを目的に活動するクラブです。興味が湧いた方はぜひ入部しましょう。ミーティングは月に数回クラブハウス110。活動日は基本的に土曜日、日曜日です。	12	なし	クラブハウス110
				なし	
サイクリング部	(部)小西 智久	サイクリング部の活動は、旅をメインにしており春と夏には合宿を行っています。そのために、火曜日と金曜日の17時から工大周辺で練習し、体力づくりに励んでいます。最近ではレースに参加する人も多く、競技部のような一面も持ち合わせています。大学の行事では、工大祭への出店、球技大会、三宅駅伝、構内清掃などにも積極的に参加しています。また、他大学との合同合宿やオリエンテーションを行い交流を深めています。地元の自転車屋さんの協力もあり、自転車に関する知識も身につきます。船や電車で自転車を乗せて遠くまで旅へ行ってみませんか？	32	なし	クラブハウス107
				なし	
馬術部	(部)岡 浩平 (監)中村 繁治	毎日沼田校舎で平日16時もしくは18時から、休日は8時から馬に関わる活動をしています。主に、競技会を目指して練習したり、馬の世話をすることで人馬の仲を深めています。春にはお花見や合宿、夏にはBBQや大会、冬には餅つきなど楽しいイベントも盛りだくさんです。大学から始める人がほとんどなので、馬に興味がある方、珍しい部活に入りたい方も大歓迎！平日15時と17時にNexus前から無料パスも出るので、まずは見学に来てください。インスタ・X(旧Twitter)もやってます！	18	なし	沼田校舎馬場
				1,000 年間 10,000	

5.その他

クラブ名	(部)…部長 (副)…副部長 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
ゴルフ同好会	(部)坂本 英輔	毎週火曜日17時からクラブハウス202でミーティングをし、学外の練習場にてゴルフの練習をしています。また、希望者を募って、土日や長期休暇中にラウンドといった実践的な練習もしています。経験者はもちろん初心者も大歓迎です。興味のある方はぜひ一度部室まで見学にお越しください。	36	なし なし	クラブハウス202
基礎スキー同好会	(部)榎 弘倫 (監)榎本 暢之	僕たちは、12月と3月にある合宿をメインに活動しています。この合宿は長野県の志賀高原で行う4泊5日の合宿です。初心者でも大歓迎です。夏には、1泊2日のキャンプを行っています。そして、部員間の親睦を深めるため、月に1度飲み会をしています。他大学との交流会も計画しております。このサークルに入部し、友達を増やしてキャンパスライフを満喫しましょう。	47	なし なし	クラブハウス212
モーターサイクル同好会	(部)鈴村 文寛	モーターサイクル同好会では、バイクに関する活動を行っています。ツーリングや部室で自分達のバイクの整備などを行っています。部員を募集しておりますので、バイクに興味のある人は、毎月、第2・第4金曜日の午後12時30分から部会をしているので、是非、部室に来てください。	25	なし なし	クラブハウス104
スケート同好会	(部)今川 朱美 (コ)大岡 和人	令和5年度から活動を再開したスケート同好会です。4月～10月はインラインスケート、10月～4月はアイスホッケーをしています。活動場所はJR五日市駅近くのインライン場とアストラムライン牛田駅近くのひろしんビッグウェーブです。活動日は現在調整中です。部員大募集中です!誰でも大歓迎です!ぜひ体験に来てみてください!	4	なし なし	クラブハウス210
ボウリング愛好会	(部)細谷 健一	私たち広島工業大学ボウリング愛好会は令和元年に設立されたサークルです。私たちは月に三回の18時～20時まで(テストなどの変更はあり)活動を行っております。サークルの流れとしては練習会と記録会という形でボウリング基礎の向上を目標に取り組んでいます。指導者はJPBAインストラクターが教えていくので初めてという方でも基礎からできるので、大丈夫です!では、ボウリングのイメージは男性がしたら、強いイメージですが、はっきりいってそうではありません。女性であろうと男性であろうと出来るスポーツです。はっきり言ってしまおうと男性が女性に負けてしまうことだってあります。このように平等尚且つ気軽に出来るスポーツなので、男女問わず体験に来てみてはいかがでしょうか?なお、現在ボウリング愛好会の部室はありませんので、活動に興味のある方及び入部希望者等の方は、教学支援部(学生担当窓口)または主将のメールまでお問合せください。 (X(旧Twitter):@jy_hmz / 広島工業大学ボウリング愛好会)	13	なし 部費は月に ¥1000、 ¥1000/ 一回の練習	なし
e-sports愛好会	(部)松本 慎平	e-sports愛好会は大会に出場し結果を残すことを目標に活動しています。活動日はゲーム毎に異なり週に1度20:00～22:00にオンラインで活動をしています。活動に興味のある方はX(旧Twitter)又は教学支援部までお問い合わせください。(X(旧Twitter):https://twitter.com/HITesports21)	75	なし なし	なし
フライングディスク愛好会	(部)吉川 裕之	2022年4月から本格的に始動しました。アルティメットというマイナースポーツを主にやっています。初心者大歓迎です!部員もフリスビー触ったことない子ばかりだったので心配ご無用です。男女問わず募集しています!毎週月・金曜日の午後に第3グラウンドで活動しています。ぜひフライングディスク愛好会へ来てみてください!現在部室はありませんので、興味のある方はInstagramのDMにてご連絡ください。	19	未定 未定	なし
ダンス愛好会	(部)中島 亨輔	毎週月曜日にクラブハウス棟多目的室にて、17時半～20時まで活動しています。ジャンルは、hiphopとbreakinをメインに活動しています。初心者、経験者関係なく、大歓迎です!ので気軽に立ち寄ってください。また、気になることや、質問等はInstagramのDMで対応しますので、連絡お待ちしております!	16	なし なし	なし

学生自治会

広島工業大学学生自治会機構図



文化系サークル紹介

活動日及び時間につきましては変更になることがありますので、予めご了承ください。

1. 学生自治会直結

(令和6年1月現在)

団体名	(顧)…顧問 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
学生自治会執行部	自治会長	学生自治会は、学生がよりよい環境の中で過ごせるよう、学生自身の手による活動を行っていく組織で、全学生がその会員です。学生自治会、執行委員会をはじめ、文化局、工大祭実行委員会などを組織して、意欲的な活動を展開しています。会員相互の信頼と協力の下で円滑な運営がなされています。活動場所はクラブハウス314で、17時～18時に活動しています。	7	なし	クラブハウス314
				なし	
学生自治会文化局	文化局長	私達は、学生自治会内の組織で、文化系サークルが“好きならばこそ”技や知識を磨き合い、一層楽しみを発見して行けるように支援するため、文科系サークルの統括、演奏会・芸術展の運営をしていくのが主な活動となっています。クラブハウス3階317にて毎週月・木曜日の17:20より活動を行っていきます。	56	なし	クラブハウス317
				なし	
工大祭実行委員会	委員長	工大祭実行委員会は11月の工大祭で多くの方に楽しんでいただくために、毎週金曜日の12時40分からネクサスの教室で全体会議するなどの活動をしています。その他にもイベントや、他大学との交流もしています。たくさんの思い出を一緒に作りませんか？	170	10,000	クラブハウス316
				なし	
献血会	自治会長	本会は人間愛と相互扶助の精神に基づき、社会奉仕の実践として献血活動を推進し、輸血用血液の安定的な確保に努めて地域社会に貢献するとともに、会員の福祉の向上と健康の増進に寄与することを目的としています。 正会員 広島工業大学に在学する者 賛助会員 広島工業大学関係者	7	なし	クラブハウス314
				なし	
PA-HIT	なし	現在、部員数0のため休部中です。入部があり次第、活動を再開します。	0	なし	武道館2階201
				なし	

2. 文化局技術部門

サークル名	(顧)…顧問 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
科学部	(顧)池田 雅弘	電子工学やロボット、その他モノづくりをしたい方は一度科学部をご見学ください。科学部では部員が興味を持ったことを随時新しいテーマとして取り入れながら研究・観察したり、実際に創ったりしています。部室には3Dプリンターやレゴのロボット、旋盤などの工作機械や溶接器具、カメラや望遠鏡があるので、自分の持つイメージを実際のカタチにすることができます。レスキューロボットを用いた活動も行っています。活動を通じて、将来役立つ力を身に付けることができます。気軽に話を聞かに来てください。月、金曜の17時からクラブハウス229でお待ちしております。	29	なし	クラブハウス229
				なし	
基礎理論工学研究会	(顧)塚本 壮輔	基礎理論工学研究会は、パソコンなどを使って自分の力で作品を創り出す部活です。いろいろなグループに分かれており、それぞれの分野で日々技術を磨いています。PG関係はUnityやUnreal Engineを中心にプログラムを勉強して、ゲーム作成をしています。CG関係は、CLIPSTUDIOやSAI等のペイントソフトを活用したCGの作成を主な活動にしています。MIDI関係は、DAWやMIDIシーケンサ等の好きなソフトを使用し、多くの楽器をまとめた想像性ある音楽の創出やR3年度から歌ってみたの収録、編集、投稿を新たに始めました。現在の活動日は、月・水・金の17:00～20:00が主となり、クラブハウス3階303で活動をしています。興味のある方は是非見学しに来てください。	88	なし	クラブハウス303
				なし	
人力飛行機部	(顧)宇都宮浩司	琵琶湖で開催される『鳥人間コンテスト』(読売テレビ主催)に出場するサークルです。鳥人間コンテストとは、人力飛行機を設計から製作まで自分たちで行い、空を駆ける人類の夢を追う大会です。私たちは三回目の滑空部門出場を目指して活動中です。空を飛ぶたい、飛行機を飛ばしたい、夢を追いたい人なら技術・経験を問いません。興味のある方は、是非6号館2階の208水力ゼミナール室にお越しください。主な活動日時は月・木・金曜の17時～19時、土曜の10時～17時です。(私たちのHP: http://hitskyproject.cc.it-hiroshima.ac.jp/)	35	なし	クラブハウス201
				なし	
ロボット研究部	(顧)安 鍾賢	ロボット研究部は、ROBO-ONE等のロボット大会に出場することを目的とし、ロボット技術の研究、実験、情報の収集・発信などを行っています。活動は平日の17時からクラブハウス230室で行っています。ロボットに興味のある方は、ぜひ活動を覗いてみてください。	7	なし	6-230
				なし	

3.文化局一般部門

サークル名	(顧)…顧問 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
囲碁・将棋部	(顧)青木 真吾	私たちは日々の部活動において、熱く真剣に、楽しく勉強しています。所属している部員はほとんどが素人ですので、囲碁や将棋のルールを知らない人も一緒に勉強できるサークルです。また、オセロもあります。実力者もいるため、経験者で強くなりたいという人は、一度遊びに来てください。もちろん初心者の方も大歓迎です。私たちの目標は、将棋は、昔のような強い工大の再建、囲碁は楽しく打ちながら級位取得です。一緒に囲碁・将棋を楽しみましょう!クラブハウス213で木曜日16時30分～20時まで活動しています!!	11	なし	クラブハウス213
				なし	
茶道部	(顧)福田由美子 (監)牛尾 曜子	私たち茶道部では、年4回行っている茶会に向けて楽しくお茶の練習をしています。また他大学の茶会に呼ばれることもあります。この茶会を通していろんな人との出会いや礼儀作法を学べます。毎週水曜日の17時から練習をしています。興味を持たれた方は是非お茶室に来て下さい。	17	なし	クラブハウス305 雙鶴堂
				1,000	
天文部	(顧)王 栄光	毎週金曜日17時からクラブハウス214で活動しています。天文部は星について興味を深めるために、楽しく星を眺めることを目標としています。満月の日に集まって観測したり、県外へ星を観測しに行ったりします。気になったら、気軽に部室へ来てください。	40	なし	クラブハウス214
				なし	
広島学生赤十字奉仕団	(顧)田中 武	広島県青年赤十字奉仕団は、広島県の各大学の学生が集まり、献血推進活動や、児童養護施設、母子生活支援施設への訪問などの活動を行っています。また、こうした活動の他にも、新入団員研修会、親善スポーツ大会、「NHK海外たすけあい」支援キャンペーン、卒団式など年間を通して様々な行事を行っています。団員数がとても多く、みんな仲良く、一生懸命に頑張っています。他大学とも交流でき、活動の幅も広がります。毎月第2金曜日の19:30から日本赤十字社広島県支部で定例会を行っています。ぜひ私たちと活動してみませんか。	23	なし	クラブハウス227
				なし	
鼓遊会	(顧)嶋田 省吾	私たち鼓遊会は和太鼓の響きや迫力を伝えるために活動しています。活動は主に病院やお祭り、イベントでの演奏です。和太鼓は難しいイメージがあるかも知れませんが、実際に叩いてみると非常に楽しいものです。鼓遊会は、毎週火曜日と金曜日の17時から、5号館の5-105教室で練習しています。和太鼓に少しでも興味があれば誰でも大歓迎です。皆と一緒に盛り上げていきましょう!	3	なし	クラブハウス215
				なし	
E.S.S. E…English S…Speaking S…Society	(顧)三熊 祥文	E.S.S.は、毎週火曜日と木曜日の17時から図書館三階会議室で活動を行っています。ESSのモットーは「楽しみながら英語力を磨く」こと。主な活動内容は、英語のコンテストに出場、他大学との交流などを行っています。英語が話せるようになると、世界中の人とコミュニケーションがとれるようになり、就職や活躍の場が広がります。一緒に楽しくスキルアップしていきましょう。	10	なし	クラブハウス309
				なし	

4.文化局芸術部門

サークル名	(顧)…顧問 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
A.I.C A…Animation I…Illustration C…Comic	(顧)井上 和重	わたしたち「A.I.C」はイラスト、マンガ、小説などを対象に自由な創作活動を行っています。工大祭の展示や部内での作品制作などが主な活動内容です。普段は部室で自由に過ごしたり、それぞれが好きな創作活動を行っています。活動場所はクラブハウス2階の231です。毎週金曜日の17:30～部会を行っています。金曜日以外に活動を行っていることもあるので、興味がある方はいつでも気軽に見学に来てください!!	6	なし	クラブハウス231
				なし	
映画研究部	(顧)安部 伸治	私たち映画研究部は、映画好きそして製作したいという部員が集まり、楽しく活動しています。映画だけでなく短編、長編のドラマやMVなど様々な映像作品の製作を行っています。向上心を持って、たくさんの大会に出品しようと考えています。そして、映画を撮る以外にも部員の仲がとても良いので、色々なイベントを行っています。映画に出たい人、作りたい人、思い出を共有したい人、一度部室に来て下さい。活動日は毎週水曜、金曜で17時からクラブハウス306で部会を行っています。	20	なし	クラブハウス306
				なし	
写真部	(顧)平賀 良知 (監)青野 知和 (コ)辻 香子	私たち写真部は年に4回の展示会や撮影会、フィルム写真の現像などを行っています。展示会では他大学と合同で展示会を行い、撮影会では他の部活の大会の撮影を行うなど、活発に活動しています。また、撮った写真を部員間で互いに評価し、1人1人が良い作品を作れるよう頑張っています。部会は毎週木曜17時30分から、クラブハウス228で行っています。	70	なし	クラブハウス209 228
				なし	
美術部	(顧)山内 将行 (監)辻 香子	こんにちは!美術部です!美術部は金曜日を中心にほとんど毎日活動できるサークルです。作品例としては油絵、デジタル、アクリル、水彩、造形物まで様々です。工大祭で行われる展示会はもちろん、夏には主催者として他大学と合同で展示会を学外で行っています。また、2019年度より外部から監督を招き、月に1回デッサンの基礎などの講習会の開催や美術館へ行き絵の鑑賞会を行いました。楽しい毎日過ごしたい、そんな方は是非是非、クラブハウス棟2階232号室の美術部の扉を叩いてみてください。初心者大歓迎です!!	43	なし	クラブハウス232
				なし	

サークル名	(顧)…顧問 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
放送部	(顧)板井 志郎	私たち放送部は、楽曲制作、歌ってみた、MIXなどの分野に分かれ、音楽を楽しんで、皆自由に活動しています!工大祭などで音楽を展示したりなどもしていますので、気になる方はぜひいらしてください!活動日は毎週、月、水、金曜日で17時からクラブハウス301で行っています。	25	なし	クラブハウス301
コマ撮り研究部	(顧)神垣 太持	コマ撮り研究部は、毎週、水・金17時からクラブハウス304で活動しています。粘土などを駆使したクレイアニメーションなどの映像の制作と、それに伴う音楽制作を合わせて行い、一つの作品を完成させていきます。作品制作を通じて、一瞬一瞬(一コマ一コマ)を大事にして、忍耐強さや協調性を学んでいます。また、テレビ局や企業が主催するコンテストに応募しています。	20	なし	クラブハウス304

5.文化局音楽部門

サークル名	(顧)…顧問 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
グリークラブ	(顧)十川 千春	グリークラブは楽器を使わず声だけで音楽を奏でる【アカペラ】をやっています。ハモネプなどで聞いたことがあるのではないのでしょうか。アカペラはリード、コーラス、ベース、パーカスというパートで構成されています。音楽が好きな人は是非一緒にアカペラをやってみよう!!! 活動日時:毎週木曜日17時15分～ 活動場所:武道館地下	5	なし 100	武道館地階003
軽音楽部	(顧)中西 伸介	軽音楽部はJAZZを中心に、お洒落な曲や部員がやりたい曲を4～5人の少人数編成で演奏しています。私たちは「自由」をモットーにアドリブ(ソロ)演奏に力を入れており、その過程で音楽理論や作曲技術などを身に付けることができます。「アドリブ演奏は難しそう」と思うかもしれませんが、多くの部員や現部長が大学から音楽を始めた初心者のため、未経験者の方でも全く問題ありません。毎週月・水・金の17時から武道館地下1階で活動中です。気に入った方は気軽に見学に来てみて下さい。経験者は勿論、未経験者の方も大歓迎です。一緒に自由な演奏を楽しみましょう。	14	なし なし	武道館地階005
吹奏楽部	(顧)安塚 周磨	私たちは、定期演奏会、安田女子大学とのジョイントコンサート、学内式典演奏などで良い演奏ができるよう日々練習しています。今年も部員を多数募集しています。初めての人も大歓迎です。練習は5号館で水曜日と木曜日の17時から行っています。皆さん一緒に音楽を楽しみましょう。	33	なし 1,000	5号館304
フォークソング部	(顧)鈴木 貴	私たちフォークソング部はフォークソングといっても、いろいろなジャンルを幅広くしているので、ロックやジャズ、メタルまで何でもすることができます。定期的に広島市内のライブハウスを借りてライブをし、「広島フォークソング連盟」にも加盟しているので、広島県他大学と交流することができます。音楽をしたいという方、初心者だけでなく音楽をやりたいと思っている方、ぜひ見学に来てください!	42	なし 1,000	武道館地階001008
マンドリンクラブ	(顧)豊田 宏	マンドリンというのはイタリア生まれの大小さまざまな形を持つ弦楽器で、初心者でも弾きやすい楽器です。他にもギターやウッドベースなどで演奏します。秋に行う定期演奏会が中心となりますが、他大学と合同での中国ブロック演奏会や新人演奏会などがあり、他大学との交流も盛んです。活動日は毎週月・水・金曜日の17時から19時半です。少しでも興味があったら、武道館地下1階の部室に来てみてください。	13	なし なし	武道館地階009
ロック部	(顧)角川 幸治	ロック部の活動は、季節ごとにライブハウスをレンタルし、ライブをすることです。その他にも、他大学との合同ライブなどを企画して、幅広く交流もできます。初心者も多く、気軽に音楽を楽しめる場だと思います。毎週火曜日の12時30分に、武道館地下1階004の部室で部会をしています。音楽がしたい、仲間を増やしたい、大学生生活を楽しみたい人がいれば是非見学に来てくださると嬉しいですよ。	18	なし なし	武道館地階004

6.その他

サークル名	(顧)…顧問 (監)…監督 (コ)…コーチ	活動内容	部員数	入部金	部室
				部費(月)	
鉄道研究部	(顧)大東 延幸	鉄道研究部では鉄道模型の運転や製作を主に行っています。鉄道模型に限らず鉄道に対して興味や関心のある人は気軽に見に来て下さい。活動日は月・水・金の17時～19時、場所はクラブハウス307です。	15	なし なし	クラブハウス307
起業同好会	(顧)松本 慎平	本部活動では、部員それぞれの目標達成を達成するための活動を行なっています。現在はビジネスコンテストでの入賞とWebアプリやモバイルアプリ開発などに主に取り組んでいます。活動は週一で集まる日があり、以外はオンラインでの活動になっています。在学中に達成したい目標がある人やなにか実績を作りたい人は、是非一度見学してみてください。もし興味を持っていたら、以下のメールアドレス宛にご連絡をお願いします。Email:hit.startup.club@gmail.com	24	なし 年に2000円未満 必要がなければなし	なし
HIT Metaverse	(顧)松本 慎平	近年話題となっている「メタバース」。仮想空間上で雑談したり、ゲームをしたり…そんな世界がやってきました。私達は「Innovation with Metaverse Connection」という活動理念のもと、顔も名前も知らないメタバースでの関係からどんなものが生まれるのか探求し、バーチャルオープンキャンパスの開催や企業と連携して活動を行っています。活動は現在不定期で、主にメタバース空間で活動しています。企業への訪問があったりもします。PCがあれば誰でも大丈夫です。あなたも仮想空間で新しい体験をしてみませんか? ホームページもご覧ください: https://www.hit-meta.net	26	なし 500	なし

課外教育活動利用施設

文化系

- 【クラブハウス】各サークルの部室
- 【武道館地階】音楽系サークルの部室
- 【雙鶴堂】茶会、囲碁将棋等に使用
- 【図書館】絵画・写真の展示会に使用
- 【沼田校舎】合宿に使用
- 【広島校舎】会合、展示会に使用
- 【三宅合宿所】合宿に使用

体育系

- 【クラブハウス】各クラブの部室
- 【鶴記念体育館】バスケットボール、バレーボールの練習、試合に使用
- 【プール】水泳の練習、試合に使用
- 【第2体育館】バドミントン及びボルダリングの練習、試合に使用
- 【第3体育館】ハンドボールの練習、試合に使用
- 【藤垂園テニスコート】硬式庭球、軟式庭球の練習、試合に使用
- 【エスキーテニスコート】エスキーテニスの練習、試合に使用
- 【第2グラウンド】軟式野球の練習、試合に使用
- 【第3グラウンド】ソフトボールの練習に使用
- 【グリーンフィールドH.I.T.】ラグビー、サッカーの練習、試合、陸上競技の練習に使用
- 【武道館】ボクシング、合気道、卓球、少林寺拳法、剣道、柔道、空手の練習、試合に使用
- 【弓道場】弓道の練習、試合、合宿に使用
- 【アーチェリー場】アーチェリーの練習、試合に使用
- 【ゴルフ練習場】ゴルフ同好会の練習に使用
- 【自動車部車庫】自動車の整備に使用
- 【ヨット艇庫・合宿所】艇の保管、合宿に使用
- 【ボート艇庫・合宿所】艇の保管、合宿に使用
- 【三宅合宿所】合宿に使用
- 【沼田校舎】馬場、体育館、プール、テニスコート、野球場を利用した合宿、練習、試合に使用
- 【広島校舎】会合、展示会に使用

学内施設使用の手続き方法

1. クラブ、サークルが長期に使用をする場合

(長期とは、4月1日から翌年3月31日をいう。ただし、土曜日、日曜日、祝祭日、学生休業中を除く)

前年度2月末までに翌年度の使用を「長期使用申請書」で教学支援部に申請する。

2. クラブ、サークルが短期に使用する場合

(短期とは、土曜日、日曜日、祝祭日、学生休業中をいう)

次ページの施設管理の担当部署で利用したい施設が使用可能かどうかを確認した後、10日前までに、様式15の「集会・行事及び施設使用願」で教学支援部に申請する。

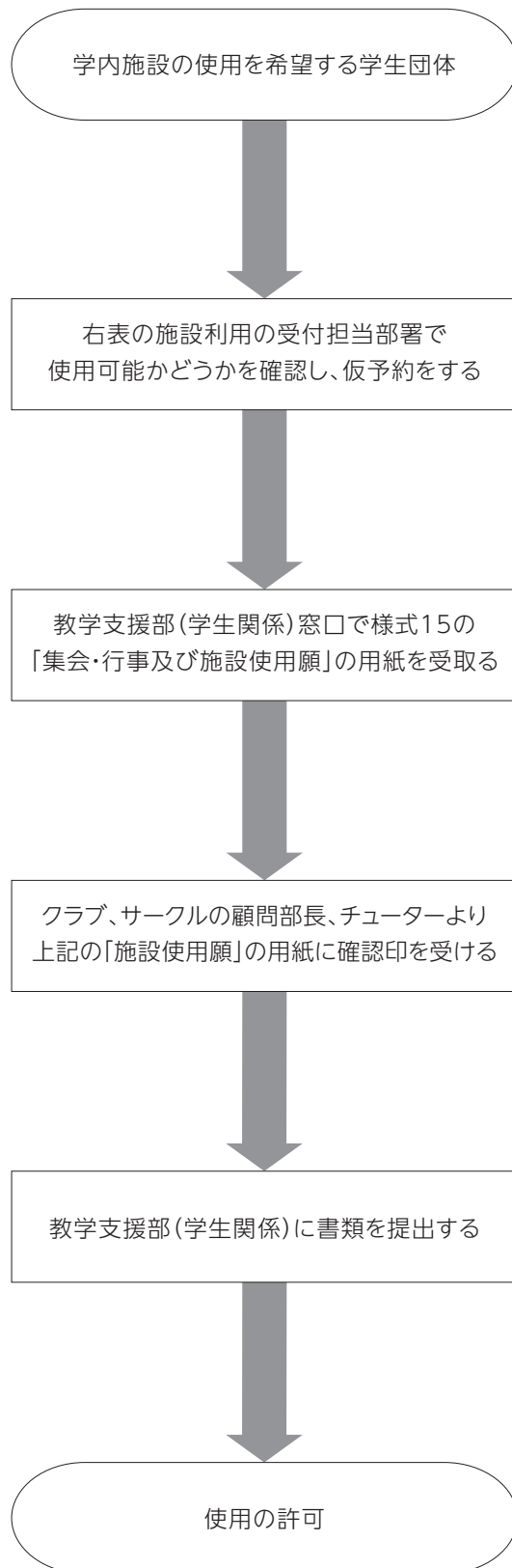
3. チューター会、ゼミ、学科会等で短期使用する場合

次ページの施設管理の担当部署で利用したい施設が使用可能かどうかを確認した後、10日前までに、様式15の「集会・行事及び施設使用願」で教学支援部に申請する。

4. 本学クラブ、サークルが加盟している団体(連盟・協会等)が短期使用する場合

練習試合や大会を行う連盟・協会等の主催者が、その短期使用を「施設使用願」で経営管理部に申請する。なお、本学クラブ、サークルがその試合等に参加するときは、参加者は様式15の「集会・行事および施設使用願」を教学支援部に提出すること。

短期の学内施設使用手続きの流れ図



利用施設	施設利用の 受付担当部署
教室	教学支援部 (Nexus21 3階)
体育施設 (グリーンフィールドH.I.T. 第2、第3グラウンド) デネブホール スカイテリア ラウンジ 雙鶴堂 武道館 ヨット艇庫合宿所 ボート艇庫合宿所 三宅合宿所	教学支援部 (Nexus21 3階)
鶴記念体育館 第2体育館 第3体育館	鶴記念体育館 2階事務室

※鶴記念体育館・第2体育館・第3体育館を利用する際、
鶴記念体育館2階事務室で確認印を受けた後、教学
支援部に書類を提出する。

大学院

広島工業大学 主な行事(大学院)

4月 April

- 春季休業
- 入学宣誓式
- 大学院ガイダンス
- 健康診断
- 新入生オリエンテーション・ゼミナール
- 前期授業開始
- 履修申請期間 [修士論文主題提出]
[博士論文主題提出]

10月 October

- 学内合同の業界研究会①

11月 November

- [博士論文(草稿)提出]
- 工大祭
- 災害振替日

5月 May

- 体育祭
- 災害振替日

12月 December

- [修士論文題目提出]
- 冬季休業
- 学内合同の業界研究会②

6月 June

1月 January

- [博士論文提出]
- 大学入学共通テストのため休講
- 災害振替日
- 後期授業終了

7月 July

- 災害振替日
- 前期授業終了

2月 February

- 学年末休業
- [博士論文公聴会]
- [修士論文提出][修士論文発表会]
- 学園創立記念日(2月23日)
- 学内合同の業界研究会③

8月 August

- 夏季休業

9月 September

- 後期授業開始
- 履修申請期間

3月 March

- 学位記授与式

※授業回数確保のため、時間割の曜日を変更又は祝日に授業を実施することがあります。
※平日及び土曜日に窓口休業があります。

研究指導教員

研究指導教員は、大学院入学後、履修申請期間開始までに決定します。原則として変更できません。

履修すべき授業科目の選択については、研究指導教員の指導を受けてください。

授業時間

コマ 時限	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
時間	8:50 }	9:40 }	10:45 }	11:35 }	13:15 }	14:05 }	15:10 }	16:00 }	17:05 }	17:55 }
	9:40	10:30	11:35	12:25	14:05	14:55	16:00	16:50	17:55	18:45

授業時間割

授業時間割は、年度初めに掲示するとともに本学公式Webサイトで閲覧できます。

休講・補講

休講・補講は、担当教員から連絡があり次第、掲示します。

なお、授業開始時間から20分経過しても、教員が講義室等に入室されないときは、教学支援部に連絡し、指示を受けてください。

履修申請

授業科目を履修し、その単位を修得するためには、履修申請が必要です。

申請 期 間：各期の初め約1週間に定める期間(詳細は掲示板・HITPO等参照)

申請手続(方法)：1.Web履修申請システムにより申請する。(HITPOからログイン)

2.履修申請確認書を印刷する。

3.履修申請確認書に研究指導教員の承認印をもらう。

4.期間内に教学支援部に提出する。

注)期間を過ぎての追加・削除はできません。

Web履修申請システムの利用マニュアルは、HITPOに掲載しています。

他専攻の授業科目の履修

博士前期課程の学生は、他専攻の授業科目(特別演習、特別研究及びインターンシップは除く)について、6科目12単位まで履修し単位を修得することができます。

ただし、修了要件に係る単位に含めることができるのは6単位までとします。

成績の評価

成績は、@、A、B、C、D、Pの評語をもって表し、@、A、B、C、Pを合格とし、Dを不合格とします。

この場合、@は90～100点、Aは80～89点、Bは70～79点、Cは60～69点、Pは「認定」とし、Dは59点以下とします。

単位の認定

単位の認定は、各期末(単位の認定期)に、授業科目に関する筆記試験又は口述試験若しくは研究報告等により、授業担当教員が行います。

なお、本学の学部4年次に先行履修し、修得した単位については、改めて修了要件と認定し、付与します。大学院授業科目の先行履修について **■53ページ**参照

論文審査及び最終試験

《博士前期課程》

1.論文審査に係る手続き

博士前期課程2年次に在学する学生(※)は、当該年度での修了及び学位授与を希望する場合、次のとおり、修士論文審査に係る書類を提出する必要があります。各手続きに必要な様式は、HITPOの「諸手続き一覧・様式集」からダウンロードできます。

(※)学士修士接続早期修了制度認定者においては、博士前期課程1年次

- (1) 修士論文主題の提出(前期履修申請期間中)
- (2) 修士論文題目の提出(12月)
- (3) 修士論文審査申請書及び修士論文等の提出(12月～2月15日)

学士修士接続早期修了制度 [■39ページ参照](#)

2.論文審査

- (1) 修士論文等の審査は、研究指導教員を主査とし、ほかに当該研究科委員会の選定する1人以上の教員が審査委員となり行います。
- (2) 審査委員が修士論文等審査に際し必要があると認めるときは、当該論文の参考文献やその他の資料の提出を求めることがあります。
- (3) 修士論文等の審査は、修士論文等の提出後、2月末までに行います。

3.最終試験

- (1) 最終試験は、提出された修士論文等を中心として、これに関連する授業科目について行います。
- (2) 審査委員が修士論文等の審査の結果、修士の学位の授与について適当でないと認めたときは、最終試験を行いません。
- (3) 最終試験は、修士論文等の提出後、2月末までに行います。

《博士後期課程》(課程による博士)

1.申請要件

博士の学位審査を申請しようとする者は、学会論文誌等にレフェリー付きの主体的論文(以下「レフェリー付き論文」という。)を博士論文提出までに1編以上、学位授与の判定までに通算2編以上発表(掲載決定を含む。以下同じ。)していることを原則とします。レフェリー付き論文は入学前に発表したものを含むものとします。

2.論文審査に係る手続き

博士後期課程3年次に在学する学生は、当該年度での修了及び学位授与を希望する場合、次のとおり、手続きを行う必要があります。手続きの詳細については、教学支援部から別途連絡します。

- (1) 博士論文主題の提出(前期履修申請期間中)
- (2) 予備審査に係る書類の提出(11月)
- (3) 博士論文説明会での説明、予備審査(12月)
- (4) 予備審査で合格した場合、本審査に係る書類の提出(1月)
- (5) 博士論文公聴会での説明、本審査及び最終試験(2月)
- (6) 学位授与の決定(3月)

3.論文審査

- (1) 博士論文の審査は、その研究指導教員を主査とし、ほかに当該研究科委員会の選定する2人以上の教員が審査委員となり行います。
- (2) 博士論文審査に際し必要があると認めるときは、当該論文の参考文献やその他資料の提出を求めるところがあります。

4.最終試験

- (1) 博士論文を中心として広く専攻分野に関連する科目について行います。
- (2) 論文審査の結果、その論文内容が著しく不良であると認めたときは、最終試験は行いません。

論文評価基準

修士論文及び博士論文については、ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の基準に従って評価します。

《修士論文(博士前期課程)》

(1) 研究テーマの妥当性

明確で適切な問題意識の下に、学術的及び社会的意義が認められる研究テーマが設定されていること。

(2) 研究方法及び情報収集の適切性

① 設定した研究テーマ及び当該研究領域に求められる研究方法を採用し、情報や資料の収集、調査及び実験、また、その結果の処理や分析が適切かつ十分に実施されていること。

② 先行研究を十分に理解、検討し、研究内容との関連及び相違を明確に提示していること。

(3) 論述・論旨の妥当性

論文の構成、論述が明確かつ論理的で、結論に至る展開に一貫性があること。

(4) 論文表現能力

論文の体裁、文章表現及び図表の使用が的確で、情報や文献の引用が適切であること。

(5) 独自性

研究内容に新規性又は独創性が認められること。

《博士論文(博士後期課程)》

(1) 研究テーマの妥当性

明確で適切な問題意識の下に、学術的及び社会的意義が認められる研究テーマが設定されていること。

(2) 研究方法及び情報収集の適切性

① 設定した研究テーマ及び当該研究領域に求められる研究方法を採用し、情報や資料の収集、調査及び実験、また、その結果の処理や分析が適切かつ十分に実施されていること。

② 先行研究を十分に理解、検討し、研究内容との関連及び相違を明確に提示していること。

(3) 論述・論旨の妥当性

論文の構成、論述が明確かつ論理的で、結論に至る展開に一貫性があること。

(4) 論文表現能力

論文の体裁、文章表現及び図表の使用が的確で、情報や文献の引用が適切であり、研究者として相応しい論文作成能力があると認められること。

(5) 独自性

研究内容に新規性又は独創性が認められること。

(6) 学術的貢献

国際的なレベルの知識と技術を有し、独立した研究者及び専門家としての豊かな学識が認められ、関連分野及び社会への貢献が期待できること。

修了・学位授与

修了要件

《博士前期課程》

当該課程に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することが必要です。

ただし、優れた成績をあげた者は、当該課程に1年以上在学し、その他前述の博士前期課程の修了要件を満たせば修了することができます。

なお、本学の学士修士接続早期修了制度における認定者も同様です。

《博士後期課程》

当該課程に3年以上在学し、所定の授業科目について20単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

ただし、優れた成績をあげた者は、博士前期課程の在学期間を含めて3年以上在学し、その他前述の博士後期課程の修了要件を満たせば修了することができます。

学位授与

次のとおり、博士前期課程を修了した者には修士の学位を、博士後期課程を修了した者には博士の学位を授与します。

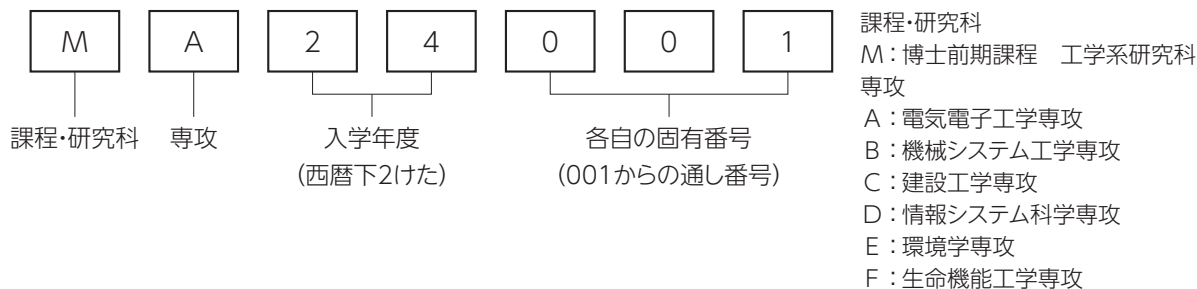
研究科	専攻	学位
工学系研究科(博士前期)	電気電子工学専攻	修士(工学)
	機械システム工学専攻	修士(工学)
	建設工学専攻	修士(工学)
	情報システム科学専攻	修士(情報学)
	環境学専攻	修士(環境学)
	生命機能工学専攻	修士(工学)
工学系研究科(博士後期)	知的機能科学専攻	博士(工学)

学籍

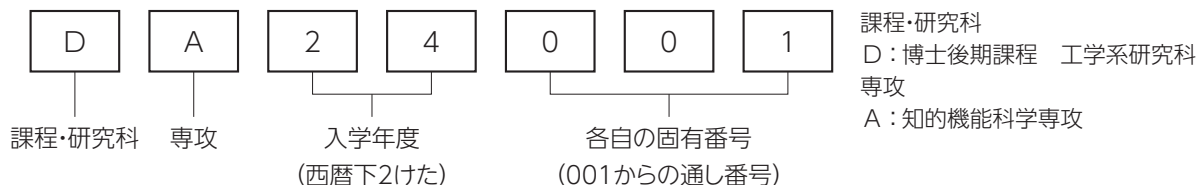
学生番号

学生番号は、入学時に決定し、各課程の修了まで変わることはありません。種々の手続き上必要となりますので、自分の学生番号は、正確に記憶しておいてください。

博士前期課程



博士後期課程



学生証

学生証の裏面シールには、必ず現住所を記入してください。これは通学定期乗車発行控にも利用します。学生証は、講義の出欠確認、試験、各種証明書の申込手続き、PC教室・ユーザーズルームを利用するとき、オンデマンドプリンタを使用するとき、図書の閲覧・貸出をするとき、通学定期、学割によって乗車、乗船するときなど、さまざまな用途に必要なものですから、常に携帯しておかなければなりません。

また、学生証には学生氏名、生年月日など個人情報が記載されています。個人情報の流出の原因となりますので紛失・盗難には十分気を付けてください。何らかの理由により紛失したときは直ちに再発行手続きを行ってください。

万が一、学生証を忘れて困ったときは、次の部署へ問合わせてください。

- ・PC教室に入室できないとき…教学支援部(Nexus21 3階)
- ・26号館の実験室などに入室できないとき…26号館2階事務室

なお、通学定期券の発行控欄に余白がなくなった場合は、教学支援部(Nexus21 3階)でシールの再交付を受けてください。

※交付される学生証は、非接触ICのFelicaを内蔵し、Edyの電子マネー機能も有しています。この機能により学内諸施設(食堂、売店、自動販売機)の他、コンビニ等で電子マネーを使用することができます。

身上異動

本人及び保証人等の身上に、次のような異動のあった場合には、必ず教学支援部に届出てください。(届出がない場合は、大切な連絡等が届かないことがあります。)

- (1) 本人及び保証人の名前変更(戸籍個人事項証明書等を添付)
- (2) 保証人の変更
- (3) 本人及び保証人の現住所、電話番号等の変更(住所表示の変更を含む)
- (4) その他身上全般の異動

学籍異動

1. 休学

病気その他の事由により、引続き3か月以上1年以内の期間で休学することができます。休学しようとする者は、在籍料を納入後、所定の願書に理由を記入し、その理由を証明する書類(診断書等)を添え、教学支援部を経て学長に願い出なければいけません。

- (1) 休学期間は、通算して2年を超えることはできません。(学則第20条第3項)
- (2) 休学期間は、休学した日を含む学期の全てを休学したものとして取扱い、在学期間に算入しません。(学則第20条第4項)
- (3) 休学期間内を短縮し、復学を希望する場合は教学支援部に「修学願」を提出し、学長の許可を受けてください。(学内手続きには期日を要しますので、復学を希望する月の1か月前の提出をお願いします。)(学則第20条第5項)
- (4) 休学期間中の在籍料及び授業料等の取扱いについては「休学に係る在籍料に関する規程」(規程集)、「休学許可及び除籍に係る授業料等納入の取扱規程」(規程集)を参照してください。

2. 退学

病気その他やむを得ない理由により退学しようとするときは、所定の願書に理由を記入し、教学支援部を経て、学長に願い出なければいけません。(学則第22条)

3. 除籍

次に該当する者は、除籍となります。(学則第31条、学部学則第41条)

- (1) 4年の在学期間を修学しても、修了の認定を得られない者(博士前期課程)
- (2) 6年の在学期間を修学しても、修了の認定を得られない者(博士後期課程)
- (3) 諸納入金の納入の義務を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

授業料等の納入 奨学金 特待生

授業料等の納入

1. 授業料等

種類	年額	1回分納入額	納入時期(年2回)	納入方法
授業料	1,010,000円	505,000円	4月(前期分) 10月(後期分)	①所定の納入書「授業料等振込通知書」により、指定金融機関に振込んでください。 ②納入書は、前期分は4月上旬、後期分は10月上旬に保証人宛に郵送します。 ③納入期限は、前期分4月30日まで、後期分10月31日までです。ただし、当該期日が金融機関の休業日に当たる場合は、その前日とします。
施設設備資金	170,000円	85,000円		
合計	1,180,000円	590,000円		

2. 在籍料

種別	月額	納入時期	納入方法
在籍料	10,000円	休学申請時	休学期間分を指定金融機関に振込み

奨学金

大学院奨学金には次の2種類があります。募集時期は4月初旬です。(その他に募集があった場合には、HITPOでお知らせします。)奨学金を希望する者は、教学支援部に申出てください。

(1) 日本学生支援機構大学院奨学金

- ・第一種(無利子) 博士前期課程…貸与月額 50,000円、88,000円のいずれか希望する貸与月額を選択する。
博士後期課程…貸与月額 80,000円、122,000円のいずれか希望する貸与月額を選択する。
- ・第二種(有利子) 博士前期課程・博士後期課程…貸与月額 50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円の中から希望する貸与月額を選択する。

(2) 広島工業大学大学院奨学金

- ・第1種(無利子)…貸与月額 70,000円
- ・第2種(無利子)…貸与月額 50,000円

注1) 月額は令和5年度額です。

注2) (1)及び(2)の重複貸与はできません。

注3) 高校又は大学在学中、日本学生支援機構奨学金の貸与を受けた者の中で、大学院在学中の返還猶予を希望する者は、スカラネット・パーソナルから「在学猶予願」を提出してください。

本学独自の育英制度

[特待生]

(1) 目的

大学院での科学及び技術並びに環境及び情報に関する高度な研究者及び技術者の育成を図り、学力及び人物共に特に優秀な学生の大学院研究科における修学を助成することを目的とします。

(2) 種類と採用枠

種別	第一種	第二種	
対象者	新入生	在学学生	
	博士前期課程	博士前期課程	博士後期課程
採用枠	選考基準を満たす者全員	各専攻各年次1名以内	各年次2名以内
選考時期	学内推薦入試時	各学年の進級時	

※大学院博士後期課程の学生は在学生の3～5年次生として扱います。

(3) 免除金額

第一種特待生・第二種特待生とも、授業料及び施設設備資金の半額を免除します。

(4) 選考等

① 第一種特待生

ア 選考基準

学内推薦入学試験合格者

イ 有資格期間

2年間を原則とします。

② 第二種特待生

ア 選考対象

研究科に入学後の学業成績及び研究意欲並びに人物及び研究状況等を参考にし、成績優秀な者を選考します。

イ 有資格期間

1年間

[大学院スカラシップ]

(1) 目 的

大学院博士前期課程入学生のうち入学時の成績が優秀な者に対して、授業料の一部を給付します。

(2) 給付額

年額30万円

(3) 選考等

一般入学試験合格者で、入学試験の得点率が75%以上の者

(4) 期間

入学年度から2年間を原則とします。

(5) その他

・第一種特待生との重複は不可とします。

・1年次にスカラシップを給付された者が、2年次で第二種特待生になることは可。ただし、スカラシップ給付はなくなります。

広島工業大学大学院教育課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、各専攻が定めた教育課程を履修し、高度な学力と研究・開発能力を備え、専攻分野における広い技術的視野を身に付け、博士前期課程の修了要件を満たすと同時に、次の要件を備えた者に、修士の学位を授与します。

博士後期課程では、専攻が定めた教育課程を履修し、研究指導領域に関する高度な知識と幅広い視点から新領域を開拓しうる能力を持ち、博士後期課程の修了要件を満たすと同時に、次の要件を備えた者に、博士の学位を授与します。

I【知識・理解】

教育研究分野の知識を有し、課題の本質を理解して幅広い視点から課題を解決するための素養を有している。

II【思考・判断】

自ら課題を発見するとともに課題の本質を見極め、創造的に思考する能力を持ち、その思考に基づいて課題解決方法を判断しながら研究を遂行することができる。

III【技能・表現】

研究成果を公表するための文章表現能力及びプレゼンテーション能力があり、研究成果を学会等で広く社会に発信することができる能力を有している。

IV【関心・意欲・態度】

社会からの要請に関心を持ち、技術者又は研究者としての高い倫理観を持ち、社会に対して責任ある行動をとることができる。

カリキュラム・ポリシー

大学院工学系研究科は、広島工業大学の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)をもとに、工学系研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえて教育課程を編成します。また、授業科目を必修及び選択科目に区分し、カリキュラム・ツリーにより系統性をもって編成します。

博士前期課程は、高度な専門性を要する職業等に必要な学識を養成する専門科目、基礎的素養を応用し課題に対処する能力を養成する特別演習・特別研究科目及び幅広い視野を養成することを目的とした関連科目で編成します。

博士後期課程は、高度な専門性を要する職業又は研究等に必要な学識を養成する複数の研究指導領域の専門科目並びに専門的素養を応用し研究を遂行する能力、新しい領域を開拓し実現し得る能力及び国際的に活躍することができる能力を養成する特別研究科目で編成します。

ナンバリング

1.ナンバリングについて

本学では、全ての授業科目に学科の学問分野や領域、授業科目のレベル等を表すコード(ナンバリングコード)を付与しています。

このナンバリングコードを目安にして、専攻のカリキュラム・ツリーやシラバスにある授業科目の目的や内容を併せて把握することができます。

2.科目コード、ナンバリングコードの構造について

本学で開講されている全ての授業科目には、10けたの科目コードが付与されています。

この科目コードのうち、最初の3けたは、授業科目の所属研究科・専攻、カリキュラム年度及び教育課程の区分を表わしています。次の7けたがナンバリングコードであり、その構造は次のようになっています。

大学院

コード名	分野コード	領域コード	レベルコード	固有番号コード	要修了
コードけた数	2けた	1けた	1けた	2けた	1けた
内容の説明	〇〇:各専攻の 専門領域	L:講義 C:コースワーク A:特別演習、 特別研究	5:博士前期課程 6:博士後期課程	01 02 03 04 ⋮ 98 99	H:必修 M:選択必修 S:選択 J:自由

工学系研究科(博士前期課程) 電気電子工学専攻

ディプロマ・ポリシー

電気電子工学専攻では、高度専門技術者及び研究者の技術基盤である「電子物性」「回路」「エネルギー」「情報通信」の四つの教育研究分野に関する高度な知識と幅広い視点を持ち、博士前期課程の修了要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、修士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 電気電子工学に関する幅広い知識と深い専門性を有し、発展的に深化する電気電子工学の専門科目を体系的かつ統合的に理解することができる。
- (2) 社会の課題を俯瞰的かつ多面的に捉え、課題を発見して解決できる知識と、電気電子工学の技術を理解し応用できる専門能力と創造性を有している。

II【思考・判断】

- (3) 修得した専門知識を活用して、課題の本質を見極め、創造的かつ論理的に探究、思考する力をもって、適切な課題解決方法を判断することができる。
- (4) 社会の持続的発展への思考に基づいて、問題解決への効果的な方法を多角的に判断し、社会の要求に対応すべく適切に行動することができる。

III【技能・表現】

- (5) コースワークなどを通じて、電気電子工学に関する情報を適切に収集するとともに応用できる汎用技能を有し、独創的に展開した成果をまとめ、評価して表現することができる。
- (6) 自らの考えを的確に伝達し、相手の意図を読み解くことができるコミュニケーション能力を有し、研究成果を学会発表等で表現することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 社会との連携を通して、社会に広く関心を持ち、電気電子工学の担い手への意欲と、グローバルな視点で他者と協働できる素養を有している。
- (8) 多様な分野に関心を持ち、意欲的な課題への取組みと、技術者、研究者として高い使命感と倫理観をもって、社会に対し責任ある行動を取ることができる。

カリキュラム・ポリシー

電気電子工学専攻は、広島工業大学及び工学系研究科の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、授業科目を専門教育科目、特別演習・特別研究科目及び関連科目に区分し、さらに、専門教育科目にあつては電子物性、回路、エネルギー、情報通信の四つの教育研究分野に分類して、教育課程を体系的に編成します。

【教育研究分野(電子物性)】

電子物性分野の高度な専門知識を修得するため「固体物性」「光電子物性」を、半導体製造プロセスの高度な専門知識を修得するため「半導体プロセス工学」を、電子デバイスの高度な専門知識を修得するため「半導体デバイス」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「電子材料・プロセス・デバイス開発」を開設します。

【教育研究分野(回路)】

回路分野の高度な専門知識を修得するため「電子回路工学」「電気回路工学」を、半導体集積回路の高度な専門知識を修得するため「集積回路工学」を、信号処理を実現する回路の高度な専門知識を修得するため「信号処理回路」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「集積回路システム開発」を開設します。

【教育研究分野(エネルギー)】

エネルギー分野の高度な専門知識を修得するため「電子計測工学」「システム制御」を、エネルギー応用の高度な専門知識を修得するため「パワーエレクトロニクス応用」「電力システム応用」「電気機器応用」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「エネルギーシステム開発」を開設します。

【教育研究分野(情報通信)】

情報通信分野の高度な専門知識を修得するため「通信理論」を、情報通信のシステム化の高度な専門知識を修得するため「通信システム」「情報システム」を、視覚としての情報処理分野の高度な専門知識を修得するため「視覚情報工学」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「画像処理システム開発」を開設します。

【関連科目】

グローバル化時代を担う人材として必要な言語能力を修得するため「外国語演習Ⅰ」「外国語演習Ⅱ」を開設します。また、専門分野の基礎となる知識を修得するため「応用数理」「応用物理学」「環境共生」を開設します。

○評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

電気電子工学専攻 教育課程表

区 分	教育研究分野	科 目 コ ー ド		授 業 科 目	単 位 数				開講期及び週時間数				備 考
		ナンバリング コード	必修		選 択	自 由	計	1年次		2年次			
								前期	後期	前期	後期		
専 門 教 育 科 目	電 子 物 性	2CS	EPL501S	固体物性特論		2		2	2				
		2CS	EPL502S	光物理工学特論		2		2		2			
		2CS	EPL503S	半導体プロセス工学特論		2		2		2			
		2CS	EPL504S	半導体デバイス特論		2		2	2				
		2CS	EPC505S	プロセス・デバイス・集積回路開発		3		3	4				コースワーク
	回 路	2CS	ECL501S	信号処理回路特論		2		2	2				
		2CS	ECL502S	電子回路工学特論		2		2	2				
		2CS	ECL503S	電気回路工学特論		2		2		2			
		2CS	ECL504S	集積回路工学特論		2		2		2			
	エ ネ ル ギ ー	2CS	EEL501S	電子計測工学特論		2		2	2				
		2CS	EEL502S	システム制御特論		2		2		2			
		2CS	EEL503S	パワーエレクトロニクス応用		2		2	2				
		2CS	EEL504S	電力システム応用		2		2		2			
		2CS	EEL505S	電気機器応用		2		2	2				
	情 報 通 信	2CS	ICL501S	通信工学特論		2		2	2				
		2CS	ICL502S	通信システム特論		2		2		2			
		2CS	ICL503S	情報システム特論		2		2	2				
		2CS	ICL504S	視覚情報工学特論		2		2		2			
		2CS	ICC505S	画像処理システム開発		3		3	4				コースワーク
特 別 研 究 科 目 ・	2CR	RLA501H	電気電子工学特別演習I	3			3	6					
	2CR	RLA502H	電気電子工学特別演習II	3			3		6				
	2CR	RLA503H	電気電子工学特別研究I	3			3			9			
	2CR	RLA504H	電気電子工学特別研究II	3			3				9		
科 共 目 通	2CC	CSL501J	英語演習			2	2	2					
	2CC	CSL502J	AI・データサイエンス発展			2	2		2				
単位数及び週時間数合計					12	40	4	56	34	24	9	9	

(備考) 1. 必修として指定される科目の計12単位及びコースワークとして指定される専門教育科目1科目3単位を含め合計30単位以上を修得すること。(自由科目を除く)

2. 他専攻の授業科目の履修及び単位の取扱いについては、別に定める。

電気電子工学専攻 カリキュラム・ツリー

必修

選択

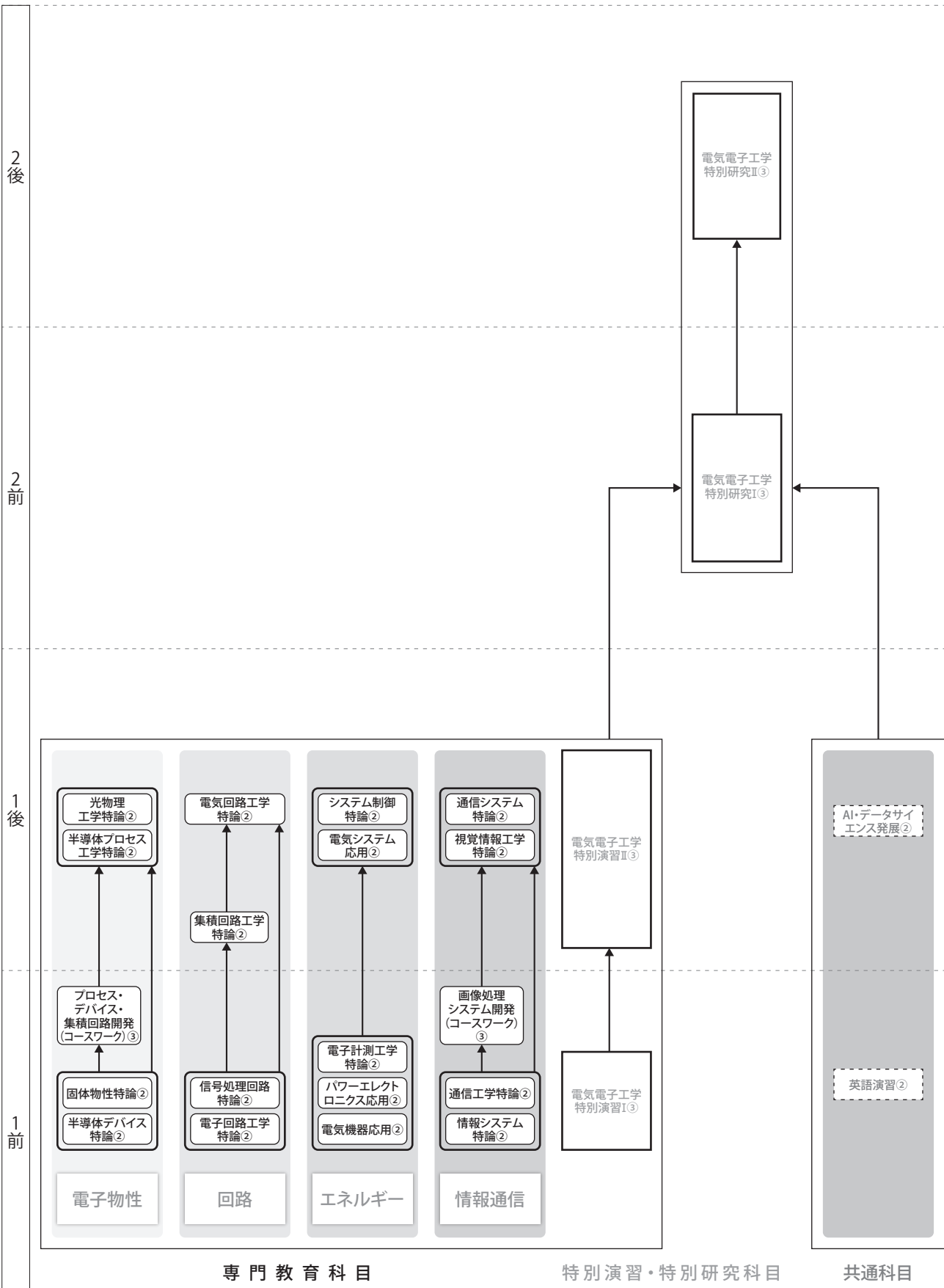
自由

○内の数字は単位数

専門教育科目

特別演習・特別研究科目

共通科目



窓
各種
手続
続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

工学系研究科(博士前期課程) 機械システム工学専攻

ディプロマ・ポリシー

機械システム工学専攻では、機械工学の基礎となる「構造機能」「生産・加工」「エネルギー機能」「システム化機能」の四つの教育研究分野に関する高度な知識と幅広い視点を持ち、博士前期課程の修了要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、修士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1)「構造機能」「生産・加工」「エネルギー機能」「システム化機能」に関する幅広い知識と専門性を有し、発展的に深化する専門科目を体系的に理解することができる。
- (2)社会の課題を俯瞰的かつ多面的に捉え、その課題解決に向けて、機械システム工学に関する知識・技術を活用する専門能力と創造性を有している。

II【思考・判断】

- (3)修得した専門知識を活用して、課題の本質を見極め、創造的かつ論理的に思考する力をもって、独自の課題解決方法を見つけることができる。
- (4)社会が持続的に発展することを念頭に置き、問題解決への効果的な方法を多角的に判断し、社会の要求に対応すべく行動することができる。

III【技能・表現】

- (5)コースワークなどを通じて、高機能かつ多機能なものづくりを実現する設計プロセスと解析プロセスを修得し、展開したものづくりの成果を評価することができる。
- (6)自らの考えを的確に伝達し、相手の意図を読み解くことができるコミュニケーション能力を有し、研究成果を学会発表等で表現することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7)社会との連携を通して社会に広く関心を持ち、高機能かつ多機能なものづくりの実現に向けて、グローバルな視点で他者と協働できる素養を有している。
- (8)技術者、研究者として高い使命感と倫理観を有し、信頼性及び安全性とともに地球環境に配慮したものづくりに取り組むことができる。

カリキュラム・ポリシー

機械システム工学専攻は、広島工業大学及び工学系研究科の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、授業科目を専門教育科目、特別演習・特別研究科目及び関連科目に区分し、さらに、専門教育科目にあつては構造機能、生産・加工、エネルギー機能、システム化機能の四つの教育研究分野に分類して、教育課程を体系的に編成します。

【教育研究分野(構造機能)】

材料科学の高度な専門知識を修得するため「機械材料学」を、材料強度学の高度な専門知識を修得するため「材料力学」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「ものづくり論」を開設します。

【教育研究分野(生産・加工)】

生産・加工プロセスの最適化に関する高度な専門知識を修得するため「生産システム」「品質管理工学」を開設します。さらにコースワーク型の科目として「加工論」を開設します。

【教育研究分野(エネルギー機能)】

流体・熱エネルギーの有効利用に関する高度な専門知識を修得するため「流体と機械」「熱工学」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「エネルギー工学」を開設します。

【教育研究分野(システム化機能)】

機械の知的システム化に関する高度な専門知識を修得するため「ロボット工学」「機械知能化」「センサー工学」「画像情報処理論」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「システム制御」を開設します。

【関連科目】

グローバル化時代を担う人材として必要な言語能力を修得するため「外国語演習Ⅰ」「外国語演習Ⅱ」を開設します。また、専門分野の基礎となる知識を修得するため「応用数理」「応用物理学」「環境共生」を開設します。

○評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

機械システム工学専攻 教育課程表

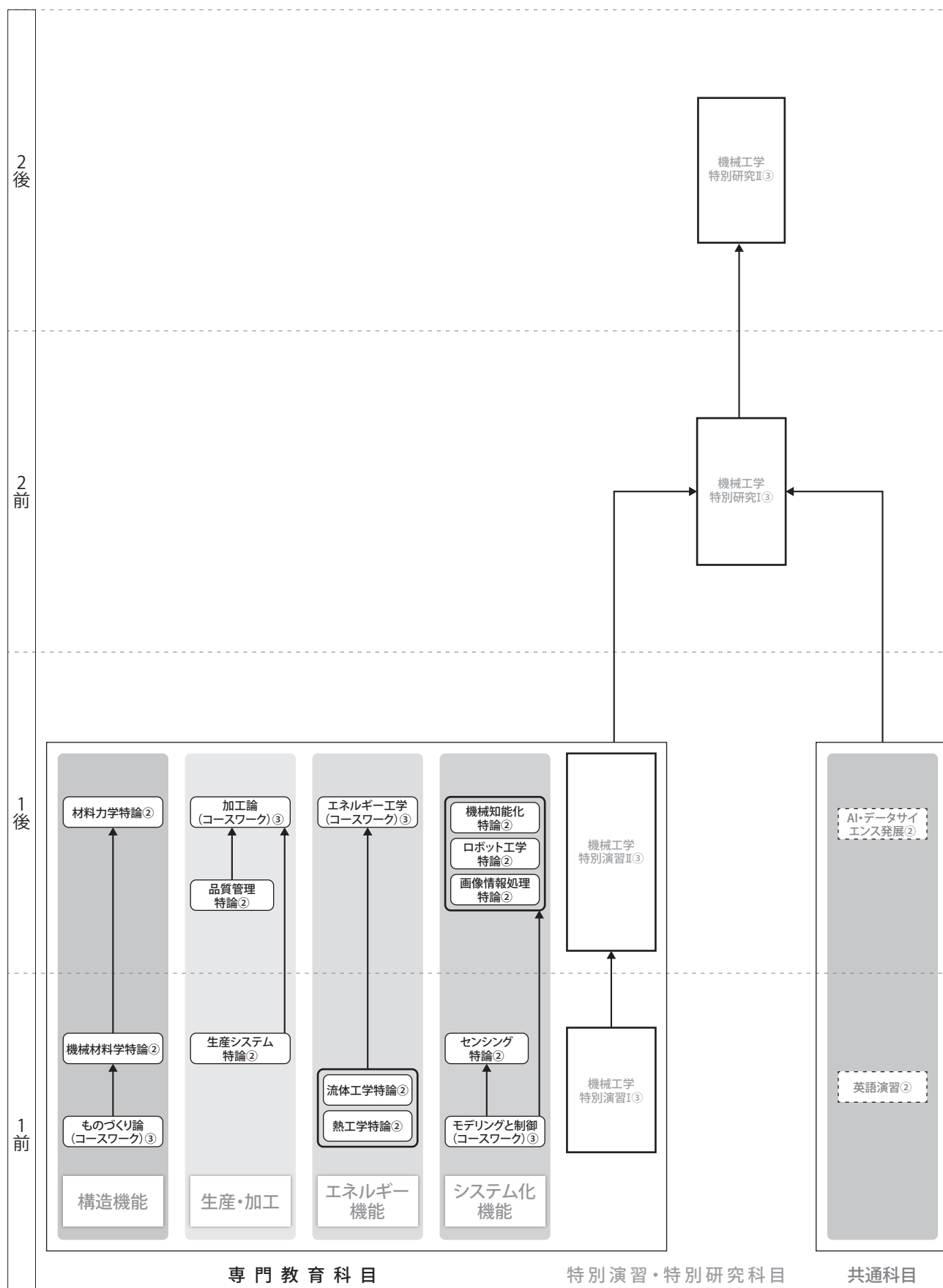
区 分	教育 研究 分野	科 目 コー ド		授 業 科 目	単 位 数				開講期及び週時間数				備 考
			ナンバリング コード		必修	選 択	自 由	計	1年次		2年次		
									前期	後期	前期	後期	
専 門 教 育 科 目	構造 機能	3CS	SFL501S	機械材料学特論		2		2	2				
		3CS	SFL502S	材料力学特論		2		2		2			
		3CS	SFC503S	ものづくり論		3		3	4				コースワーク
	生産・ 加工	3CS	PPL501S	生産システム特論		2		2	2				
		3CS	PPL502S	品質管理特論		2		2		2			
		3CS	PPC503S	加工論		3		3		4			コースワーク
	エネ ルギ 機能	3CS	EFL501S	流体工学特論		2		2	2				
		3CS	EFL502S	熱工学特論		2		2	2				
		3CS	EFC503S	エネルギー工学		3		3		4			コースワーク
	シス テム 化 機能	3CS	SYL501S	ロボット工学特論		2		2		2			
		3CS	SYL502S	機械知能化特論		2		2		2			
		3CS	SYL503S	センシング特論		2		2	2				
		3CS	SYL504S	画像情報処理特論		2		2		2			
		3CS	SYC505S	モデリングと制御		3		3	4				コースワーク
	特 別 研 究 科 目・ 特 別 演 習	3CR	MEA501H	機械工学特別演習Ⅰ	3			3	6				
3CR		MEA502H	機械工学特別演習Ⅱ	3			3		6				
3CR		MEA503H	機械工学特別研究Ⅰ	3			3			9			
3CR		MEA504H	機械工学特別研究Ⅱ	3			3				9		
科 共 通 目	3CC	CSL501J	英語演習			2	2	2					
	3CC	CSL502J	AI・データサイエンス発展			2	2		2				
単位数及び週時間数合計					12	32	4	48	26	26	9	9	

(備考) 1. 必修として指定される科目の計12単位及びコースワークとして指定される専門教育科目1科目3単位を含め合計30単位以上を修得すること。(自由科目を除く)

2. 他専攻の授業科目の履修及び単位の取扱いについては、別に定める。

機械システム工学専攻 カリキュラム・ツリー

必修 選択 自由 ○内の数字は単位数
 専門教育科目 特別演習・特別研究科目 共通科目



窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学

生

生

活

課

外

教

育

活

動

大

学

院

前

後

期

工学系研究科(博士前期課程) 建設工学専攻

ディプロマ・ポリシー

建設工学専攻では、高度専門技術者及び研究者の技術基盤である「建築構造」「社会基盤」「計画・環境」三つの教育研究分野に関する高度な知識と幅広い視点を持ち、博士前期課程の修了要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、修士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 建設工学に関する幅広い知識と深い専門性を有し、発展的に深化する建設工学の専門科目を体系的かつ統合的に理解することができる。
- (2) 社会の課題を俯瞰的かつ多面的に捉え、課題を発見して解決できる知識と、建設工学の技術を理解し応用できる専門能力と創造性を有している。

II【思考・判断】

- (3) 修得した専門知識を活用して、課題の本質を見極め、創造的かつ論理的に探究、思考する力をもって、適切な課題解決方法を判断することができる。
- (4) 社会の持続的発展への思考に基づいて、問題解決への効果的な方法を多角的に判断し、社会の要求に対応すべく適切に行動することができる。

III【技能・表現】

- (5) コースワーク、インターンシップなどを通じて、情報を適切に収集し応用できる課題解決への汎用技能を有し、独創的に展開した成果をまとめ、評価し、表現することができる。
- (6) 自らの考えを的確に伝達し、相手の意図を読み解くことができるコミュニケーション能力を有し、研究成果を学会発表等で表現することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 社会に広く関心を持ち、建設工学の技術者としての意欲と、グローバルな視点で他者と協働できる素養を有している。
- (8) 多様な分野に関心を持ち、意欲的な課題への取組みと、技術者、研究者として高い使命感と倫理観をもって、社会に対し責任ある行動を取ることができる。

カリキュラム・ポリシー

建設工学専攻は、広島工業大学及び工学系研究科の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、授業科目を専門教育科目、特別演習・特別研究科目、インターンシップ科目及び関連科目に区分し、さらに、専門教育科目にあつては建築構造、社会基盤、計画・環境の三つの教育研究分野に分類して、教育課程を体系的に編成します。

【教育研究分野(建築構造)】

建築構造物の設計及び施工に関する高度な専門知識を修得するため「鋼構造学」「鉄筋コンクリート構造学」「構造解析学」「鉄筋コンクリート構造設計法演習」「鋼構造設計法演習」を、建築構造物の基礎に関する高度な専門知識を修得するため「基礎構造学」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として総合的な知識の修得を目指した「総合建築工学」を開設します。

【教育研究分野(社会基盤)】

社会基盤施設としての鋼構造物並びにコンクリート構造物等の設計及び施工に関する高度な専門知識を修得するため「構造信頼性工学」「コンクリート工学」を、地盤の耐震性能に関する高度な専門知識を修得するため「地盤工学」を、構造物の維持管理の専門的な応用技術を修得するため「鋼構造診断学」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として全般的な知識の修得を目的とした「社会基盤工学」を開設します。

【教育研究分野(計画・環境)】

建築・土木工学を併せた都市・社会環境・住環境・生活基盤施設の計画に関する高度な専門知識を修得するため「都市交通計画学」「シビック・デザイン」「建築計画学」を、安全・防災及び環境保全に必要な高度な専門知識を修得するため「防災工学」「生態水理学」を、住環境設備に関する専門的な応用技術を修得するために「設備設計工学Ⅰ・Ⅱ」「設備設計法演習Ⅰ・Ⅱ」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「計画環境システム」を開設します。

【インターンシップ科目】

将来のキャリア・プランに関連した実践的な技術経験及び自らの適性を確認するため、建設関連業務において一定期間の就業体験を実施する科目として「インターンシップⅠ～Ⅳ」を開設します。

【関連科目】

グローバル化時代を担う人材として必要な言語能力を修得するため「外国語演習Ⅰ」「外国語演習Ⅱ」を開設します。また、専門分野の基礎となる知識を修得するため「応用数理」「応用物理学」「環境共生」を開設します。

○評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

建設工学専攻 教育課程表

区 分	教育研究分野	科 目 コ ー ド		授 業 科 目	単 位 数				開講期及び週時間数				備 考
			ナンバリング コード		必修	選 択	自 由	計	1年次		2年次		
									前期	後期	前期	後期	
専 門 教 育 科 目	建 築 構 造	4CS	AEL501S	鋼構造学特論		2		2	2				
		4CS	AEL502S	鉄筋コンクリート構造学特論		2		2	2				
		4CS	AEL503S	建築基礎構造学特論		2		2	2				
		4CS	AEL504S	構造解析学特論		2		2	2				
		4CS	AEL505S	建築耐震工学		2		2	2				
		4CS	AEL506S	構造デザイン		2		2	4				
		4CS	AEL507S	マテリアルデザイン		2		2	2				
		4CS	AEC508S	総合建築工学		3		3	4				コースワーク
	社 会 基 盤	4CS	CEL501S	応用構造力学		2		2	2				
		4CS	CEL502S	機能材料工学		2		2	2				
		4CS	CEL503S	メンテナンス工学		2		2	2				
		4CS	CEL504S	応用水理学		2		2	2				
		4CS	CEL505S	環境資源エネルギー工学		2		2	2				
		4CS	CEL506S	応用地盤工学		2		2	2				
		4CS	CEC507S	社会基盤工学		3		3	4				コースワーク
	計 画 ・ 環 境	4CS	PEL501S	モビリティデザイン		2		2	2				
		4CS	PEL502S	シビックデザイン		2		2	2				
		4CS	PEL503S	建築計画学		2		2	2				
		4CS	PEL504S	建築保存再生論		2		2	2				
		4CS	PEL505S	設備設計工学特論		2		2	2				
		4CS	PEL506S	設備設計法演習		2		2	4				
特 別 研 究 科 目 ・ 演 習	4CR	CAA501H	建設工学特別演習Ⅰ	3			3	6					
	4CR	CAA502H	建設工学特別演習Ⅱ	3			3	6					
	4CR	CAA503H	建設工学特別研究Ⅰ	3			3			9			
	4CR	CAA504H	建設工学特別研究Ⅱ	3			3				9		
シ ッ ン プ ラ タ 科 目	4CS	ISL501J	インターンシップⅠ			4	4	8					
	4CS	ISL502J	インターンシップⅡ			4	4	8					
	4CS	ISL503J	インターンシップⅢ			4	4			8			
	4CS	ISL504J	インターンシップⅣ			4	4				8		
科 共 通	4CC	CSL501J	英語演習			2	2	2					
	4CC	CSL502J	AI・データサイエンス発展			2	2	2					
単位数及び週時間数合計					12	44	20	76	42	40	17	17	

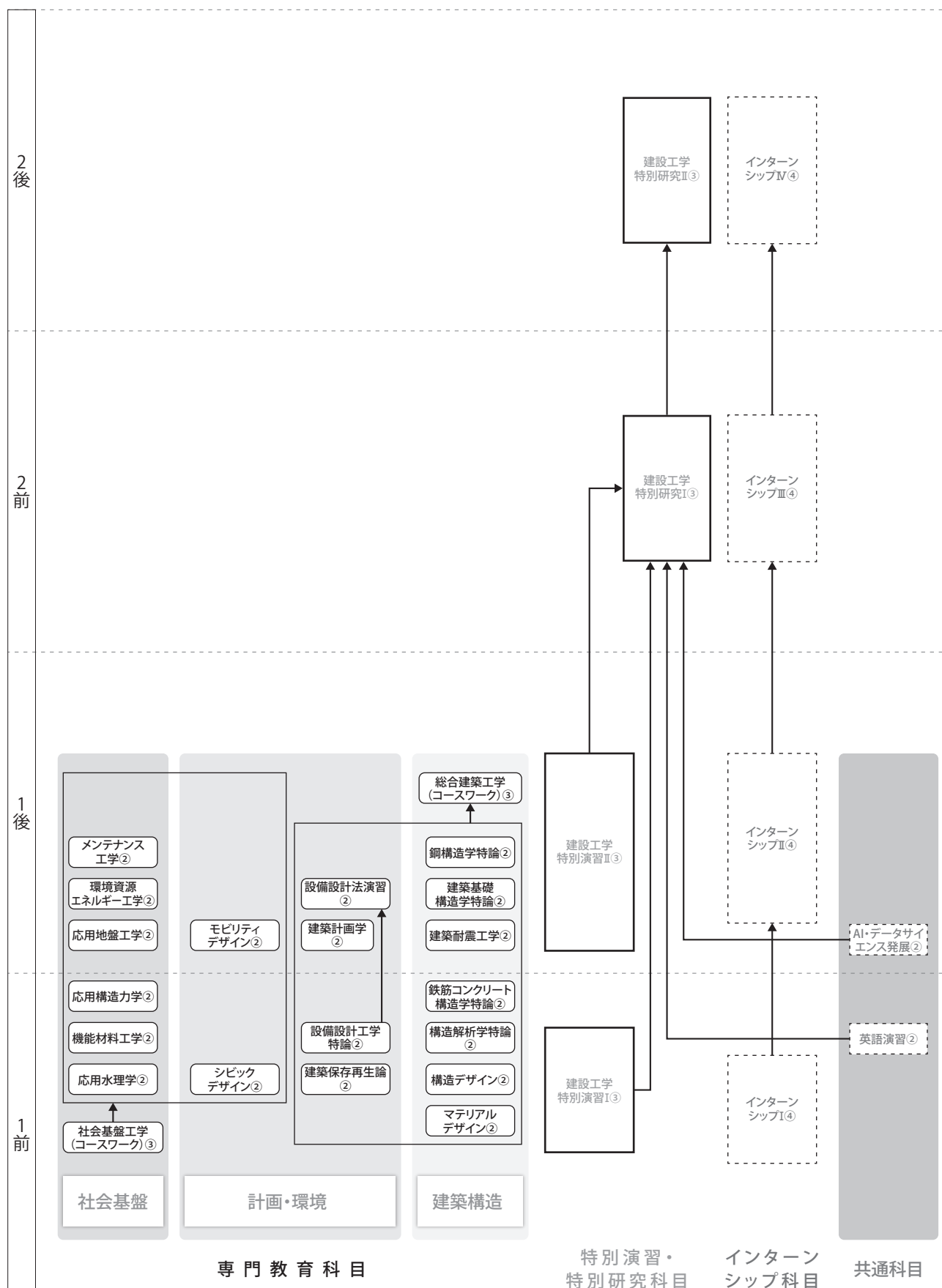
- (備考) 1. 必修として指定される科目の計12単位及びコースワークとして指定される専門教育科目1科目3単位を含め合計30単位以上を修得すること。(自由科目を除く)
2. 他専攻の授業科目の履修及び単位の取扱いについては、別に定める。

建設工学専攻 カリキュラム・ツリー

必修 選択 自由

○内の数字は単位数

専門教育科目 特別演習・特別研究科目 インターンシップ科目 共通科目



窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学

生

生

活

課

外

教

育

活

動

大

学

院

前

後

工学系研究科(博士前期課程) 情報システム科学専攻

ディプロマ・ポリシー

情報システム科学専攻では、高度専門技術者及び研究者の技術基盤である「コンピュータ」「ネットワーク」「アプリケーション開発」「マネジメント」の四つの教育研究分野に関する高度な知識と幅広い視点を持ち、博士前期課程の修了要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、修士(情報学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 情報システム科学に関する幅広い知識と深い専門性を有し、発展的に深化する情報システム科学の専門科目を体系的かつ統合的に理解することができる。
- (2) 社会の課題を俯瞰的かつ多面的に捉え、課題を発見して解決できる知識と、情報システム科学の技術を理解し応用できる専門能力と創造性を有している。

II【思考・判断】

- (3) 修得した専門知識を活用して、課題の本質を見極め、創造的かつ論理的に探究、思考する力をもって、適切な課題解決方法を判断することができる。
- (4) 社会の持続的発展への思考に基づいて、問題解決への効果的な方法を多角的に判断し、社会の要求に対応すべく適切に行動することができる。

III【技能・表現】

- (5) コースワークなどを通じて、情報を適切に収集し応用できる課題解決への汎用技能を有し、独創的に展開した成果をまとめ、評価し、表現することができる。
- (6) 自らの考えを的確に伝達し、相手の意図を読み解くことができるコミュニケーション能力を有し、研究成果を学会発表等で表現することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 社会との連携を通して、社会に広く関心を持ち、情報システム科学の担い手への意欲と、グローバルな視点で他者と協働できる素養を有している。
- (8) 多様な分野に関心を持ち、意欲的な課題への取組みと、技術者、研究者として高い使命感と倫理観をもって、社会に対し責任ある行動を取ることができる。

カリキュラム・ポリシー

情報システム科学専攻は、広島工業大学及び工学系研究科の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、授業科目を専門教育科目、特別演習・特別研究科目及び関連科目に区分し、さらに、専門教育科目にあつてはコンピュータ、ネットワーク、アプリケーション開発、マネジメントの四つの教育研究分野に分類して、教育課程を体系的に編成します。

【教育研究分野(コンピュータ)】

情報科学の高度な専門知識を修得するため「情報数理」「アルゴリズム論」を、コンピュータシステム基盤の高度な専門知識を修得するため「プラットフォーム」を、コンピュータの究極的な技術目標を理解するため「人工知能」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「デジタルシステム設計実践」を開設します。

【教育研究分野(ネットワーク)】

ネットワーク工学の高度な専門知識を修得するため「コンピュータネットワーク」を、ネットワークシステム端末の高度な専門知識を修得するため「信号処理論」「センサー工学」を、ネットワークシステムの専門的な応用技術を修得するため「分散コンピューティング」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「組み込みシステム開発実践」を開設します。

【教育研究分野(アプリケーション開発)】

アプリケーション開発の高度な専門知識を修得するため「認知科学」「マルチメディア情報学」を、情報分析に必要な高度な専門知識を修得するため「画像情報処理論」「データベース論」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「データマイニング実践」を開設します。

【教育研究分野(マネジメント)】

市場や顧客の要求を満たす情報システム開発技術の高度な専門知識を修得するため「セキュリティ」「情報システム管理」を、技術と経営をつなげる高度な専門知識を修得するための「MOT」「IE・OR」を開設します。さらに、コースワーク科目として「Webサービスシステム開発実践」を開設します。

【関連科目】

グローバル化時代を担う人材として必要な言語能力を修得するため「外国語演習Ⅰ」「外国語演習Ⅱ」を開設します。また、専門分野の基礎となる知識を修得するため「応用数理」「応用物理学」「環境共生」を開設します。

○評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

情報システム科学専攻 教育課程表

区 分	教育 研究 分野	科 目 コー ド		授 業 科 目	単 位 数				開講期及び週時間数				備 考
			ナンバリング コード		必 修	選 択	自 由	計	1年次		2年次		
									前期	後期	前期	後期	
専 門 教 育 科 目	コン ピ ユ ー タ	5CS	CFL501S	コンピュータ工学特論		2		2	2				
		5CS	CFL502S	信号処理特論		2		2	2				
		5CS	CFL503S	画像情報処理特論		2		2		2			
		5CS	CFL504S	情報数理特論		2		2		2			
	ネ ッ ト ワ ー ク	5CS	NWL501S	コンピュータネットワーク特論		2		2	2				
		5CS	NWL502S	センシング特論		2		2	2				
		5CS	NWL503S	データ処理特論		2		2		2			
		5CS	NWC504S	IoTシステム開発実践		3		3		4			コースワーク
	ア プ リ ケ ー シ ョ ン	5CS	ADL501S	人間情報システム特論		2		2	2				
		5CS	ADL502S	人工知能特論		2		2	2				
		5CS	ADL503S	認知科学特論		2		2		2			
		5CS	ADL504S	シミュレーション特論		2		2		2			
	マ ネ ジ メ ン ト	5CS	MGL501S	オペレーションズ・リサーチ特論		2		2	2				
		5CS	MGL502S	データ科学特論		2		2		2			
		5CS	MGL503S	経営システム科学特論		2		2		2			
		5CS	MGC504S	データマイニング実践		3		3	4				コースワーク
特 別 研 究 科 目	5CR	ITA501H	情報特別演習Ⅰ	3			3	6					
	5CR	ITA502H	情報特別演習Ⅱ	3			3		6				
	5CR	ITA503H	情報特別研究Ⅰ	3			3			9			
	5CR	ITA504H	情報特別研究Ⅱ	3			3				9		
科 共 目 通	5CC	CSL501J	英語演習			2	2	2					
	5CC	CSL502J	AI・データサイエンス発展			2	2		2				
単位数及び週時間数合計					12	34	4	50	26	26	9	9	

- (備考) 1. 必修として指定される科目の計12単位及びコースワークとして指定される専門教育科目1科目3単位を含め合計30単位以上を修得すること。(自由科目を除く)
2. 他専攻の授業科目の履修及び単位の取扱いについては、別に定める。

情報システム科学専攻 カリキュラム・ツリー

必修

選択

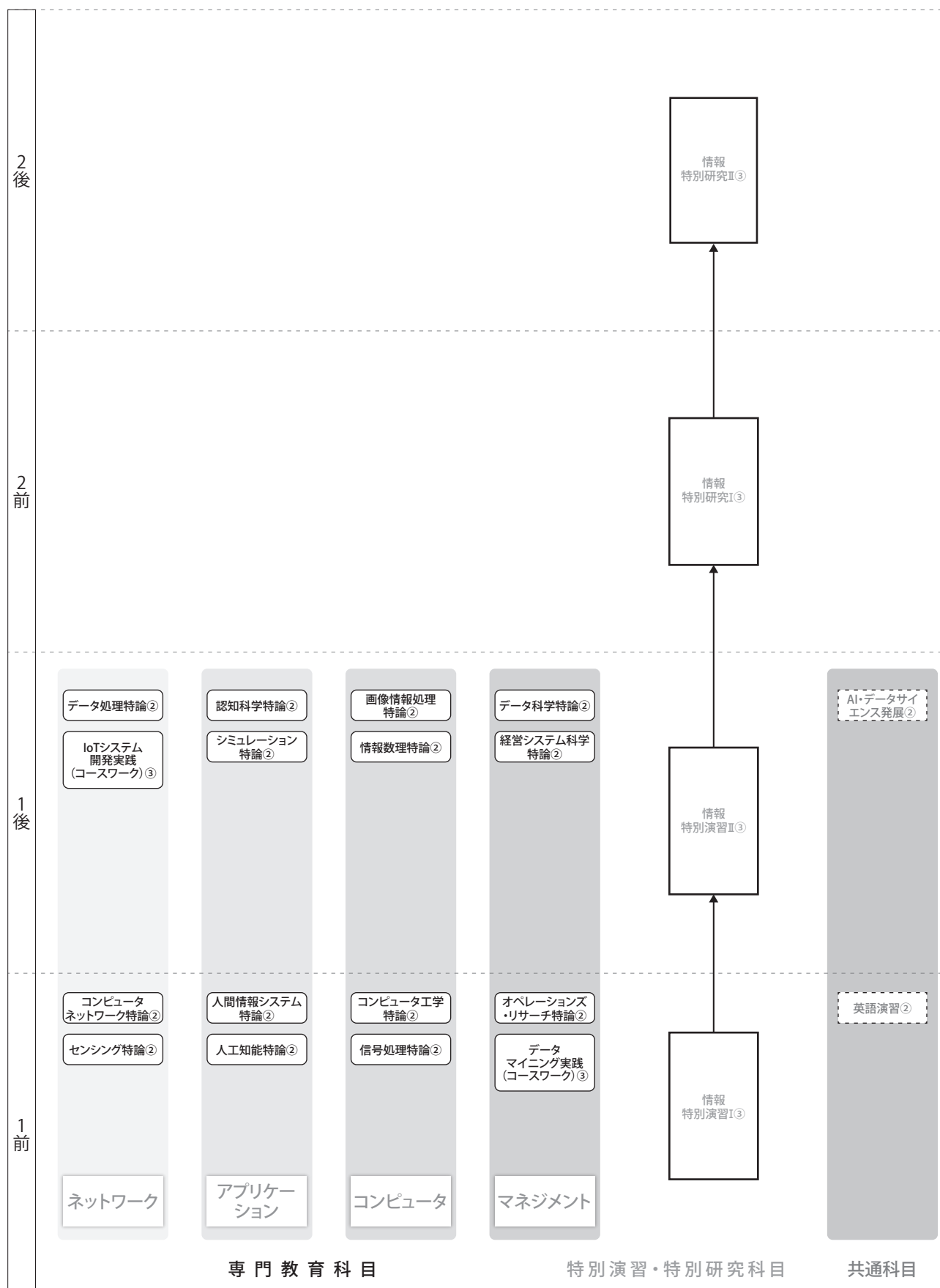
自由

○内の数字は単位数

専門教育科目

特別演習・特別研究科目

共通科目



窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学

生

生

活

課

外

教

育

活

動

大
学
院

前
期

後
期

工学系研究科(博士前期課程) 環境学専攻

ディプロマ・ポリシー

環境学専攻では、高度専門技術者及び研究者の学術基盤である「居住環境」「環境構想」「自然環境」「環境情報」の四つの教育研究分野に関する高度な知識と幅広い視点を持ち、博士前期課程の修了要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、修士(環境学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 四つの教育研究分野で包括される環境学に関する幅広い知識と深い専門性を有し、発展的に深化する環境学の専門科目を体系的かつ統合的に理解することができる。
- (2) 様々な環境問題を俯瞰的かつ多面的に捉え、課題を発見して解決できる知識と、環境学に関わる専門的な知識・技術を理解し応用できる専門能力と創造性を有している。

II【思考・判断】

- (3) 修得した専門知識を活用して、課題の本質を見極め、創造的かつ論理的に探究、思考する力をもって、適切な課題解決方法を判断することができる。
- (4) 環境共生型・循環型社会を創生する思考に基づいて、問題解決への効果的な方法を多角的に判断し、持続可能な発展に対応すべく適切に行動することができる。

III【技能・表現】

- (5) コースワークなどを通じて、情報を適切に収集し応用できる課題解決への汎用技能を有し、独創的に展開した成果をまとめ、評価し、表現することができる。
- (6) 自らの考えを的確に伝達し、相手の意図を読み解くことができるコミュニケーション能力を有し、研究成果の学会発表等、広く社会還元のために発信し、表現することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 社会との連携を通して、社会に広く関心を持ち、環境共生型・循環型社会構築への意欲と、グローバルな視点で他者と協働できる素養を有している。
- (8) 多様な分野に関心を持ち、意欲的な課題への取組みと、技術者、研究者として高い使命感と倫理観をもって、社会に対し責任ある行動を取ることができる。

カリキュラム・ポリシー

環境学専攻は、広島工業大学及び工学系研究科の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、授業科目を専門教育科目、特別演習・特別研究科目及び関連科目に区分し、さらに、専門教育科目にあつては居住環境、環境構想、自然環境、環境情報の四つの教育研究分野に分類して、教育課程を体系的に編成します。

【教育研究分野(居住環境)】

豊かな住空間の形成にかかわる高度な専門知識を修得するため「居住環境設計」「居住環境計画」を、ライフサイクルの視野に立った自然環境との共生に関する高度な専門知識を修得するため「居住環境技術」「居住環境管理」を開設します。さらに、コースワーク科目として「居住環境システム」を開設します。

【教育研究分野(環境構想)】

豊かな生活圏の形成及び安心・安全な社会基盤の構築にかかわる高度な専門知識を修得するため「建築構造」「都市計画」を、建築と環境の共生について高度な専門知識を修得するため「環境構想論」「環境構想史」を開設します。さらに、コースワーク科目として「環境構想システム」を開設します。

【教育研究分野(自然環境)】

地球科学に関する高度な専門知識を修得するため「地球圏環境科学」「大気水圏環境科学」を、生物・生態系に関する高度な専門知識を修得するため「生物圏環境科学」「環境応答科学」を開設します。さらに、コースワーク科目として「自然環境システム」を開設します。

【教育研究分野(環境情報)】

環境情報に関する高度な専門知識を修得するため「空間情報システム」「環境情報処理」「地球環境観測」を、環境に対する人為的影響及び環境保全に関して高度な専門知識を修得するため「環境影響制御」を開設します。さらに、コースワーク科目として「環境情報システム」を開設します。

【関連科目】

グローバル化時代を担う人材として必要な言語能力を修得するため「外国語演習Ⅰ」「外国語演習Ⅱ」を開設します。また、専門分野の基礎となる知識を修得するため「応用数理」「応用物理学」「環境共生」を開設します。

○評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

環境学専攻 教育課程表

区分	教育研究分野	科目コード		授業科目	単位数				開講期及び週時間数				備考
		ナンバリングコード	必修		選択	自由	計	1年次		2年次			
								前期	後期	前期	後期		
専門教育科目	居住環境	6CS	REL501S	建築設計特論		2		2	2				
		6CS	REL502S	環境構想特論		2		2	2				
		6CS	REL503S	都市計画特論		2		2	2				
		6CS	REL504S	居住計画特論		2		2	2				
		6CS	REL505S	建築構造特論		2		2	2				
		6CS	REL506S	建築環境特論		2		2	2				
		6CS	REL507S	建築経済特論		2		2	2				
		6CS	REL508S	建築史学特論		2		2	2				
		6CS	REC509S	居住環境システム		3		3	4			コースワーク	
	自然環境	6CS	NEL501S	応用自然災害科学		2		2	2				
		6CS	NEL502S	大気水圏科学特論		2		2	2				
		6CS	NEL503S	生態系管理学		2		2	2				
		6CS	NEL504S	環境応答科学特論		2		2	2				
		6CS	NEL505S	資源循環学特論		2		2	2				
		6CS	NEL506S	空間情報処理特論		2		2	2				
		6CS	NEL507S	環境情報処理特論		2		2	2				
		6CS	NEL508S	リモートセンシング特論		2		2	2				
		6CS	NEC509S	自然環境システム		3		3	4			コースワーク	
特別研究科目・演習	6CR	ESA501H	環境学特別演習Ⅰ	3			3	6					
	6CR	ESA502H	環境学特別演習Ⅱ	3			3	6					
	6CR	ESA503H	環境学特別研究Ⅰ	3			3			9			
	6CR	ESA504H	環境学特別研究Ⅱ	3			3			9			
シインプラタ科目	6CS	ISL501J	インターンシップⅠ			6	6	12					
	6CS	ISL502J	インターンシップⅡ			6	6	12					
	6CS	ISL503J	インターンシップⅢ			6	6			12			
	6CS	ISL504J	インターンシップⅣ			6	6			12			
科目共通	6CC	CSL501J	英語演習			2	2	2					
	6CC	CSL502J	AI・データサイエンス発展			2	2	2					
単位数及び週時間数合計					12	38	28	78	40	40	21	21	

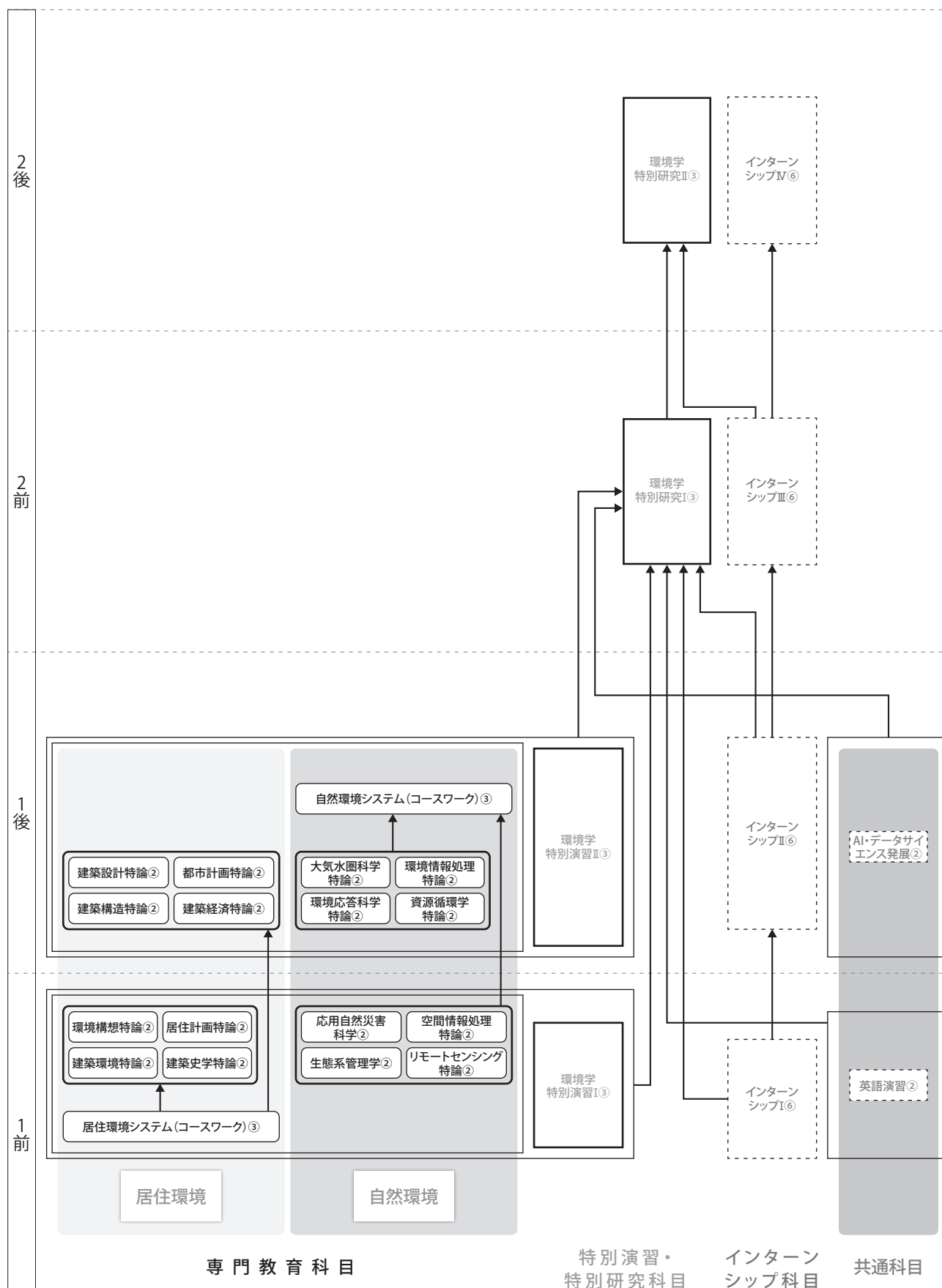
- (備考) 1. 必修として指定される科目の計12単位及びコースワークとして指定される専門教育科目1科目3単位を含め合計30単位以上を修得すること。(自由科目を除く)
2. 他専攻の授業科目の履修及び単位の取扱いについては、別に定める。

環境学専攻 カリキュラム・ツリー

必修 選択 自由

○内の数字は単位数

専門教育科目 特別演習・特別研究科目 インターンシップ科目 共通科目



窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

工学系研究科(博士前期課程) 生命機能工学専攻

ディプロマ・ポリシー

生命機能工学専攻では、高度専門技術者及び研究者の技術基盤である「基礎生命システム科学」「生命工学」「食品加工学」「生体医工学」の四つの教育研究分野に関する高度な知識と幅広い視点を持ち、博士前期課程の修了要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、修士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

- (1) 生命機能工学に関する幅広い知識と深い専門性を有し、「基礎生命システム科学」「生命工学」「食品加工学」「生体医工学」に関する専門科目を体系的かつ総合的に理解できる。
- (2) 生命工学、新食品開発及び医療工学の技術進歩に伴う21世紀の諸課題を俯瞰的かつ多角的に捉え、課題を発見して解決できる知識と、生命機能工学の技術を理解し応用できる専門能力と創造性を有している。

II【思考・判断】

- (3) 修得した専門知識と技術を活用して、課題の本質を見極め、論理的に探求、判断する能力を有している。
- (4) 生命機能工学に関する深い知識に基づいて、問題解決への多様性のある思考と多角的な判断を、社会の要求に対応して適切に行うことができる。

III【技能・表現】

- (5) コースワークなどを通じて、社会的課題を解決できる幅広い技術を修得し、解決策をわかりやすく表現できる技能を有している。
- (6) 自らの考えを的確に伝達し、相手の意図を理解できるコミュニケーション能力を有し、研究成果の学会発表等、広く社会還元のために発信し、表現することができる。

IV【関心・意欲・態度】

- (7) 社会との連携を通して、生命・環境・生活に広く関心を持ち、生命機能工学の担い手としての意欲と他者と協働できる素養を有している。
- (8) 多様な分野に関心を持ち、意欲的な課題探究への意欲と、専門技術者としての使命感と倫理観をもって、社会に対し責任ある行動を取ることができる。

カリキュラム・ポリシー

生命機能工学専攻は、広島工業大学及び工学系研究科の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、授業科目を専門教育科目、特別演習・特別研究科目及び関連科目に区分し、さらに、専門教育科目にあつては基礎生命システム科学、生命工学、食品加工学、生体医工学の四つの教育研究分野に分類して、教育課程を体系的に編成します。

【教育研究分野(基礎生命システム科学)】

生命機能の多様性と構造生物学的な形態解析の高度な知識を修得するため「形態機能解析学」「代謝システム科学」を、神経情報・病態解析の高度な知識を修得するため「病態システム解析学」「神経情報学」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「神経病態解析学」を開設します。

【教育研究分野(生命工学)】

分子機能の高度な専門知識を修得するため「分子機能工学」を、動物・植物・微生物機能の高度な専門知識を修得するため「動物機能工学」「植物機能工学」「微生物機能工学」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「分子生命工学」を開設します。

【教育研究分野(食品加工学)】

食品機能の高度な専門知識を修得するため「応用食品機能学」を、食品微生物の高度な専門知識を修得するため「応用食品微生物学」を、食品製造の高度な専門知識を修得するため「食品製造工学」を、食品加工機械の高度な専門知識を修得するため「食品加工機械学」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「食品開発学」を開設します。

【教育研究分野(生体医工学)】

生体機能工学の高度な専門知識を修得するため「生体計測工学」を、生体情報学の高度な専門知識を修得するため「生体情報学」を、生体機能学の専門的な応用知識を修得するため「生体機能工学」を開設します。さらに、コースワーク型の科目として「生体システム工学」を開設します。

【関連科目】

グローバル化時代を担う人材として必要な言語能力を修得するため「外国語演習Ⅰ」「外国語演習Ⅱ」を開設します。また、専門分野の基礎となる知識を修得するため「応用数理」「応用物理学」「環境共生」を開設します。

○評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

生命機能工学専攻 教育課程表

区 分	教育研究分野	科 目 コー ド		授 業 科 目	単 位 数				開講期及び週時間数				備 考
		ナンバリング コード	必修		選 択	自 由	計	1年次		2年次			
								前期	後期	前期	後期		
専 門 教 育 科 目	システム科学基礎生命	7CS	BLL501S	形態機能解析学特論		2		2	2				
		7CS	BLL502S	代謝システム科学特論		2		2	2				
		7CS	BLL503S	病態システム解析学特論		2		2		2			
		7CS	BLL504S	神経システム情報学特論		2		2		2			
		7CS	BLC505S	神経病態解析学		3		3		4			コースワーク
	生命工学	7CS	LEL501S	分子機能工学特論		2		2	2				
		7CS	LEL502S	動物機能工学特論		2		2	2				
		7CS	LEL503S	植物機能工学特論		2		2	2				
		7CS	LEL504S	微生物機能工学特論		2		2		2			
		7CS	LEC505S	分子生命工学		3		3		4			コースワーク
	食品加工工学	7CS	FPL501S	応用食品機能学		2		2	2				
		7CS	FPL502S	応用食品微生物学		2		2	2				
		7CS	FPL503S	食品製造工学特論		2		2		2			
		7CS	FPL504S	食品加工機械学特論		2		2		2			
		7CS	FPC505S	食品開発学		3		3		4			コースワーク
	生体医工学	7CS	MEL501S	生体計測工学特論		2		2	2				
		7CS	MEL502S	生体情報学		2		2	2				
		7CS	MEL503S	生体機能工学特論		2		2		2			
		7CS	MEC504S	生体システム工学		3		3		4			コースワーク
	特別研究科目・特別演習	7CR	BEA501H	生命機能工学特別演習Ⅰ	3			3	6				
7CR		BEA502H	生命機能工学特別演習Ⅱ	3			3		6				
7CR		BEA503H	生命機能工学特別研究Ⅰ	3			3			9			
7CR		BEA504H	生命機能工学特別研究Ⅱ	3			3				9		
科目共通	7CC	CSL501J	英語演習			2	2	2					
	7CC	CSL502J	AI・データサイエンス発展			2	2		2				
単位数及び週時間数合計					12	42	4	58	26	36	9	9	

- (備考) 1. 必修として指定される科目の計12単位及びコースワークとして指定される専門教育科目1科目3単位を含め合計30単位以上を修得すること。(自由科目を除く)
2. 他専攻の授業科目の履修及び単位の取扱いについては、別に定める。

生命機能工学専攻 カリキュラム・ツリー

必修

選択

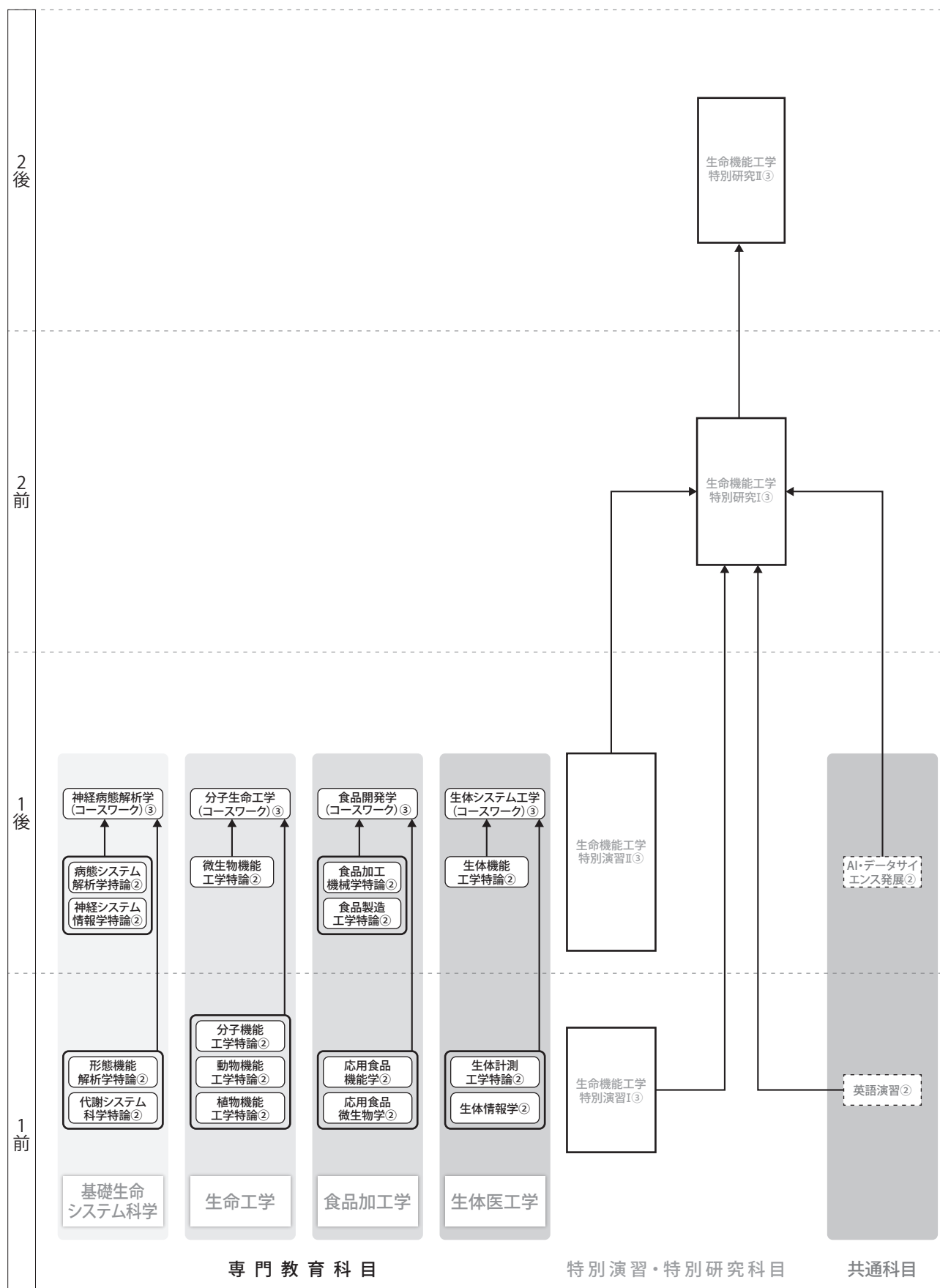
自由

○内の数字は単位数

専門教育科目

特別演習・特別研究科目

共通科目



窓
各種
手続

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

工学系研究科(博士後期課程) 知的機能科学専攻

ディプロマ・ポリシー

知的機能科学専攻では、研究指導領域に関する高度な知識と幅広い視点から新領域を開拓しうる能力を持ち、博士後期課程の修了要件を満たすとともに、次の要件を備えた者に、博士(工学)の学位を授与します。

I【知識・理解】

研究指導領域の高度な知識を有し、課題の本質を理解して幅広い視点から課題を解決するための卓越した自立的課題解決能力を有している。

II【思考・判断】

専門知識を活用して、課題の本質を見極め、創造的に思考する優れた能力を持ち、適切な課題解決方法を判断できる優れた研究推進能力を有している。

III【技能・表現】

研究成果を公表するための論理的な文章表現能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力があり、研究成果を学会等で広く社会に発信することができる高度な研究成果公開能力を有している。

IV【関心・意欲・態度】

社会からの要請に関心を持つとともに、新領域の開拓にも意欲を示し、技術者又は研究者としての高い倫理観を持ち、社会に対して責任ある行動をとることができる十分な社会貢献能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

知的機能科学専攻は、広島工業大学及び工学系研究科の教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を育成するために、授業科目を専門教育科目及び特別研究科目に区分し、さらに、専門教育科目にあつては物質・材料、構造機能、知能情報、環境・社会基盤、生体・食品の五つの研究指導領域に分類して、教育課程を体系的に編成します。

【研究指導領域(物質・材料)】

物質・材料領域の高度な専門知識を修得するため、新構造材料及び複合系新機能材料の創出並びに知的デバイスの技術に関する科目を開設します。

【研究指導領域(構造機能)】

構造機能領域の高度な専門知識を修得するため、センサー機能内蔵・外界応答機能内蔵型構造体などの技術に関する科目を開設します。

【研究指導領域(知能情報)】

知能情報領域の高度な専門知識を修得するため、先端的な信号処理と認識及び情報の知的な生成・制御などの技術に関する科目を開設します。

【研究指導領域(環境・社会基盤)】

環境・社会基盤領域の高度な専門知識を修得するため、社会基盤の保全・調和と環境機能システムについての技術に関する科目を開設します。

【研究指導領域(生体・食品)】

生体・食品領域の高度な専門知識を修得するため、生体機能の医工学的応用と新食品開発等における技術に関する科目を開設します。

○評価方法

各科目は、シラバスに示す到達目標に対する達成度について、その評価基準、評価方法に基づいて評価します。また、各科目とディプロマ・ポリシーとの関係に関しては、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したカリキュラム・チェックリストにより、複数教員による評価を実施します。

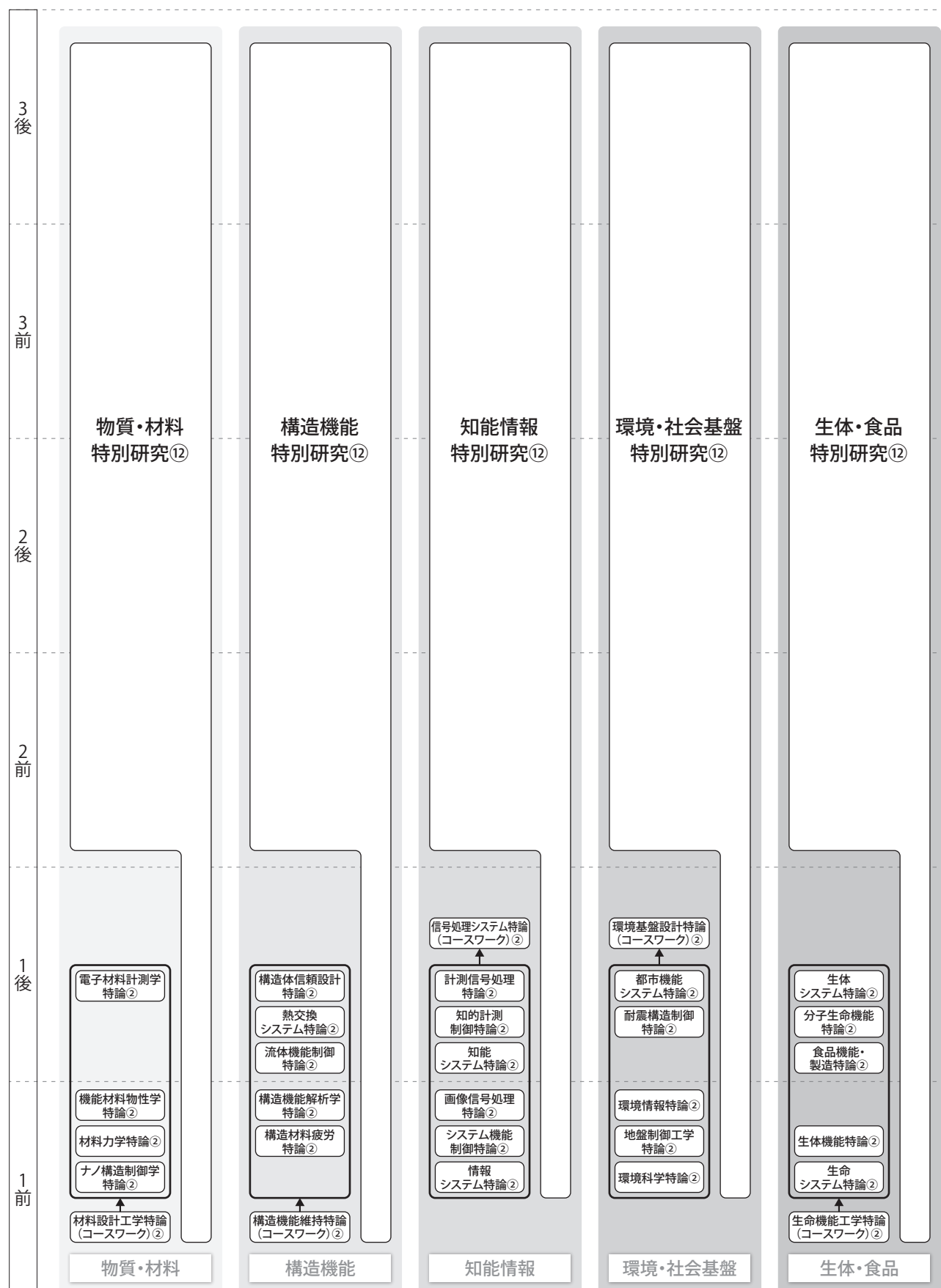
知的機能科学専攻 教育課程表

区 分	研究指導領域	科目コード		授業科目	単位数				週時間数						備考
		ナンバリング コード	必修		選択	自由	計	1年次		2年次		3年次			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門教育科目	物質・材料	1BS PML601S	機能材料物性学特論		2		2	2							
		1BS PML602S	材料力学特論		2		2	2							
		1BS PML603S	ナノ構造制御学特論		2		2	2							
		1BS PML604S	電子材料計測学特論		2		2		2						
		1BS PMC605S	材料設計工学特論		2		2	3						コースワーク	
	構造機能	1BS OFL601S	構造体信頼設計特論		2		2		2						
		1BS OFL602S	構造機能解析学特論		2		2	2							
		1BS OFL603S	構造材料疲労特論		2		2	2							
		1BS OFL604S	熱交換システム特論		2		2		2						
		1BS OFL605S	流体機能制御特論		2		2		2						
	知能情報	1BS OFC606S	構造機能維持特論		2		2	3						コースワーク	
		1BS IIL601S	計測信号処理特論		2		2		2						
		1BS IIL602S	画像信号処理特論		2		2	2							
		1BS IIL603S	知的計測制御特論		2		2		2						
		1BS IIL604S	システム機能制御特論		2		2	2							
		1BS IIL605S	知能システム特論		2		2		2						
		1BS IIL606S	情報システム特論		2		2	2							
		1BS IIC607S	信号処理システム特論		2		2		3					コースワーク	
	環境・社会基盤	1BS ESL601S	環境情報特論		2		2	2							
		1BS ESL602S	都市機能システム特論		2		2		2						
		1BS ESL603S	地盤制御工学特論		2		2	2							
		1BS ESL604S	耐震構造制御特論		2		2		2						
		1BS ESL605S	環境科学特論		2		2	2							
		1BS ESC606S	環境基盤設計特論		2		2		3					コースワーク	
	生体・食品	1BS BFL601S	生体機能特論		2		2	2							
		1BS BFL602S	生体システム特論		2		2		2						
		1BS BFL603S	生命システム特論		2		2	2							
		1BS BFL604S	分子生命機能特論		2		2		2						
		1BS BFL605S	食品機能・製造特論		2		2		2						
		1BS BFC606S	生命機能工学特論		2		2	3						コースワーク	
特別研究科目	1BR PMA690M	物質・材料特別研究	12			12	6	6	6	6	6	6			
	1BR OFA690M	構造機能特別研究	12			12	6	6	6	6	6	6			
	1BR IIA690M	知能情報特別研究	12			12	6	6	6	6	6	6			
	1BR ESA690M	環境・社会基盤特別研究	12			12	6	6	6	6	6	6			
	1BR BFA690M	生体・食品特別研究	12			12	6	6	6	6	6	6			
単位数及び週時間数合計				60	60	0	120	65	60	30	30	30	30		

(備考)原則として、主研究指導領域の特別研究科目を1科目12単位、主研究指導領域の専門教育科目から2科目4単位及び主研究指導領域以外の二つの研究指導領域の専門教育科目から各1科目4単位を含め合計20単位以上を修得すること。

知的機能科学専攻 カリキュラム・ツリー

○内の数字は単位数



窓
各種
手続
・

▼ H
2 I
0 T
2
4 E

修
学

工
学
部

情
報
学
部

環
境
学
部

生
命
学
部

学
生
生
活

課
外
教
育
活
動

大
学
院

前
期

後
期

学校法人 **鶴学園**

〒731-5193 広島市佐伯区三宅二丁目1-1
TEL(082)921-3121 FAX(082)921-8934

広島工業大学
(メインキャンパス)

〒731-5193 広島市佐伯区三宅二丁目1-1
TEL(082)921-3121 FAX(082)921-8934

沼田校舎

〒731-3163 広島市安佐南区伴北6-4104-2
TEL(082)848-0145 FAX(082)848-0167

広島校舎

〒730-0811 広島市中区中島町5-7
TEL(082)249-1251 FAX(082)249-2066

八千代校舎

〒731-0301 安芸高田市八千代町土師大迫11144-1
TEL(0826)52-4757 FAX(050)3156-7532

三宅合宿所

〒731-5143 広島市佐伯区三宅一丁目6-59
TEL(082)921-4449

ヨット艇庫

〒738-0042 廿日市市地御前五丁目22-22
TEL(0829)36-2722

ボート艇庫

〒733-0823 広島市西区庚午南一丁目36-1
TEL(082)271-9769

弓道場

〒731-5146 広島市佐伯区屋代三丁目15-35
TEL(082)922-3797

自動車部車庫

〒731-5143 広島市佐伯区三宅一丁目4-1
TEL(082)922-8938

CAMPUS GUIDE 2024

学生便覧

広島工業大学

工学部、情報学部、環境学部、生命学部、大学院

発行 広島工業大学教学支援部
広島市佐伯区三宅二丁目1-1
TEL(082)921-4178、4179

広島工業大学歌

歌詞 広島工業大学選定
作曲 井上 佳



緑なる 緑なる三宅
深きわれの御倉を開き
倫哲愛を誇る 我等が学府
見よや行くて 精気の学士
研学の道 寄りてぞ極む
ああ広島工業大学
のどかなり のどかなり瀬戸
青風そよぐ朱廊の宮島
諸人の幸栄念じ
真理にいとむ
見よや行くて 至純の学士
貢献の道 寄りてぞ極む
ああ広島工業大学
はてしなき はてしなき宇宙
人の世の夢の学理を拓き
たたかん神秘のとびら 使命や重し
見よや行くて 至誠の学士
峻険の道 寄りてぞ極む
ああ広島工業大学

広島工業大学応援歌

歌詞 恩知 紀子
作曲 伴谷 晃二



我等の広島工大
(一) 正気 飢す 三宅の屋根に
若人 われら 力の限り
羽搏け 勝利の太空へ
フライ フライ フライ
フライ フライ フライ
見せばや 工大 スピリット
勝て 勝て 勝て われらの広島工大
(二) 滾る 血潮に 鳥居も染まり
チーム一丸 さあ まつしぐら
投げよ 撃て 漕げよ 火と燃えて
ファイト ファイト ファイト
ファイト ファイト ファイト
揮わん 工大 スピリット
勝て 勝て 勝て われらの 広島工大
(三) 光る 水面に キャンパス映えて
はためく 旗旗ぞ 栄光かし
駆けよ 地平の 果てまでも
ダッシュ ダッシュ ダッシュ
ダッシュ ダッシュ ダッシュ
頭わせ 工大 スピリット
勝て 勝て 勝て われらの 広島工大